

# 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	ガッコウホコジノゴトウイエイ 学校法人 五島育英会									
フリガナ大学の名称	トウキョウトシガク 東京都市大学 (Tokyo City University)									
大学本部の位置	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号									
大学の目的	本大学は、学校教育法に基づき、豊かな教養を授け、深く専門の学術を教授研究し、もって文化の向上に寄与するとともに、人類福祉の増進に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	デザイン・データ科学部 (Faculty of Design and Data Science)	年	人	年次人	人		年月第年次			
	デザイン・データ科学科 (Department of Design and Data Science)	4	100	—	400	学士(学術) (Bachelor of Arts and Sciences)	令和5年4月第1年次	神奈川県横浜市都筑区牛久保西三丁目3番1号		
	計		100	—	400					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科〔定員増〕（100）（令和4年3月認可申請） 令和5年4月名称変更予定 人間科学部 児童学科→人間科学科									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
		計		10 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (15)
	既設分	理工学部	機械工学科	6 (6)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	95 (95)
			機械システム工学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	94 (94)
			電気電子通信工学科	10 (10)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	92 (92)
			医用工学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	87 (87)
			応用化学科	4 (4)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	87 (87)
			原子力安全工学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	82 (82)
			自然科学科	6 (6)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	89 (89)
		建築都市デザイン学部	建築学科	8 (8)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	126 (126)
		都市工学科	6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	95 (95)	

教員組織の概要	既設分	情報工学部	情報科学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	1 (1)	80 (80)	令和4年4月名称変更届出
			知能情報工学科	6 (6)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	81 (81)	
		環境学部	環境創生学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	128 (128)	
			環境経営システム学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	129 (129)	
		メディア情報学部	社会メディア学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	123 (123)	
			情報システム学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	120 (120)	
		都市生活学部	都市生活学科	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	95 (95)	
		人間科学部	人間科学科	6 (6)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	81 (81)	
		共通教育部		13 (13)	14 (14)	10 (10)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	0 (0)	
		ものづくり支援センター		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		総合研究所		3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		国際センター		1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		教育開発機構		5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
			計	136 (136)	101 (101)	43 (43)	0 (0)	280 (280)	1 (1)	- (-)	
			合計	146 (146)	106 (106)	44 (44)	0 (0)	296 (296)	1 (1)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		133 (133)	73 (73)	206 (206)						
	技 術 職 員		35 (35)	0 (0)	35 (35)						
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	3 (3)	8 (8)						
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計		173 (173)	76 (76)	249 (249)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	81,393.26 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	81,393.26 m <sup>2</sup>						
	運 動 場 用 地	31,023.80 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	31,023.80 m <sup>2</sup>						
	小 計	112,417.06 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	112,417.06 m <sup>2</sup>						
	そ の 他	106,484.21 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	106,484.21 m <sup>2</sup>						
合 計	218,901.27 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	218,901.27 m <sup>2</sup>							
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計							
	99,550.48 m <sup>2</sup> (97,234.98 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (0.00 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (0.00 m <sup>2</sup> )	99,550.48 m <sup>2</sup> (97,234.98 m <sup>2</sup> )							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	83 室	66 室	221 室	14 室 (補助職員6人)	4 室 (補助職員0人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数							
		デザイン・データ科学部		16 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	デザイン・ データ科学部	371,542 [68,528] (368,140 [67,754])	19,289 [16,534] (19,289 [16,534])	17,463 [15,897] (17,463 [15,897])	2,042 (1,862)	38,240 (38,240)	9 (9)				
	計	371,542 [68,528] (368,140 [67,754])	19,289 [16,534] (19,289 [16,534])	17,463 [15,897] (17,463 [15,897])	2,042 (1,862)	38,240 (38,240)	9 (9)				

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		6,781.14 m <sup>2</sup>		876 席		270,444 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,867.93 m <sup>2</sup>		バスケットコート 2面 フットサルコート 1面		トレーニングルーム 2面 テニスコート 6面				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 費 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む。）を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		5,700千円	5,700千円	5,700千円	5,700千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,490千円	1,290千円	1,290千円	1,290千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、補助金、資産運用収入及びその他の収入							
大 学 の 名 称		東京都市大学								
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
理工学部										
機械工学科		4	120	—	480	学士(工学)	0.97	昭和24年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
機械システム工学科		4	110	—	440	学士(工学)	1.01	平成9年度		
電気電子通信工学科		4	150	—	600	学士(工学)	1.01	昭和24年度		
医用工学科		4	60	—	240	学士(工学)	1.05	平成19年度		
応用化学科		4	75	—	300	学士(工学)	1.05	平成9年度		
原子力安全工学科		4	45	—	180	学士(工学)	1.06	平成20年度		
自然科学科		4	60	—	180	学士(理学)	1.07	令和2年度		
建築学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和32年度		令和2年度より学生募集停止
都市工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和32年度		令和2年度より学生募集停止
建築都市デザイン学部							1.04			
建築学科		4	120	—	360	学士(工学)	1.06	令和2年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
都市工学科		4	100	—	300	学士(工学)	1.03	令和2年度		
情報工学部							1.02			
情報科学科		4	100	—	400	学士(工学)	1.03	平成19年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
知能情報工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1.01	平成19年度		平成31年度より学生募集停止
情報通信工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成19年度		令和2年度より学生募集停止
自然科学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成21年度		
環境学部							1.03			
環境創生学科		4	90	—	360	学士(環境学)	1.02	平成25年度	神奈川県横浜市都筑区牛久保西三丁目3番1号	
環境経営システム学科		4	90	—	320	学士(環境学)	1.03	平成25年度		令和3年度入学定員増(20人)
メディア情報学部							1.08			
社会メディア学科		4	90	—	360	学士(社会情報学)	1.03	平成25年度	神奈川県横浜市都筑区牛久保西三丁目3番1号	
情報システム学科		4	100	—	380	学士(情報学)	1.12	平成25年度		令和3年度入学定員増(10人)
都市生活学部							1.04			
都市生活学科		4	160	—	640	学士(都市生活学)	1.04	平成21年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
人間科学部							1.04			
児童学科		4	100	—	400	学士(児童学)	1.04	平成21年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
大学院総合理工学研究科										
機械専攻 (博士前期課程)		2	60	—	120	修士(工学)	1.08	昭和41年度	東京都世田谷区玉堤一丁目28番1号	
電気・化学専攻 (博士前期課程)		2	66	—	132	修士(工学)	1.37	平成21年度		
共同原子力専攻 (博士前期課程)		2	15	—	30	修士(工学)	1.16	平成22年度		
自然科学専攻 (博士前期課程)		2	15	—	30	修士(理学)	0.53	令和2年度		
建築・都市専攻 (博士前期課程)		2	54	—	108	修士(工学)	1.02	昭和41年度		
情報専攻 (博士前期課程)		2	66	—	132	修士(工学)	1.22	平成21年度		
機械専攻 (博士後期課程)		3	8	—	24	博士(工学)	0.24	昭和43年度		
電気・化学専攻 (博士後期課程)		3	8	—	24	博士(工学)	0.62	平成21年度		

既設大学の状況	共同原子力専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士(工学)	0.25	平成22年度	環境情報学専攻 神奈川県横浜市 都筑区牛久保西 三丁目3番1号  都市生活学専攻 東京都 世田谷区玉堤 一丁目28番1号	平成30年度より学生募集停止  平成30年度より学生募集停止  平成30年度より学生募集停止
	自然科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学) 博士(理学)	0.83	令和2年度		
	建築・都市専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.45	昭和43年度		
	情報専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.41	平成21年度		
	生体医工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成21年度		
	都市工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	昭和56年度		
	システム情報工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成18年度		
	大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(環境情報学)	1.42	平成13年度		
	都市生活学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士(都市生活学)	1.74	平成25年度		
	環境情報学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(環境情報学)	3.16	平成17年度		
都市生活学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(都市生活学)	2.25	令和3年度			
附属施設の概要	<p>総合研究所 目的 特色ある研究の推進・支援 住所 東京都世田谷区 等々力八丁目15番1号 設置 平成16年4月 規模 土地 3,659.00㎡ 建物 4,212.89㎡</p> <p>原子力研究所 目的 原子力の研究 住所 神奈川県川崎市麻生区 王禅寺971番地 設置 昭和35年4月 規模 土地 84,234.00㎡ 建物 2,715.77㎡</p>					<p>情報基盤センター(横浜キャンパス) 目的 情報施設設備の管理運営 住所 神奈川県横浜市都筑区 牛久保西三丁目3番1号 設置 平成9年4月 規模 建物 4,881.60㎡</p>				

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 五島育英会 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>東京都市大学</b>				<b>東京都市大学</b>				
理工学部				理工学部				
機械工学科	120	—	480	機械工学科	120	—	480	
機械システム工学科	110	—	440	機械システム工学科	110	—	440	
電気電子通信工学科	150	—	600	電気電子通信工学科	150	—	600	
医用工学科	60	—	240	医用工学科	60	—	240	
応用化学科	75	—	300	応用化学科	75	—	300	
原子力安全工学科	45	—	180	原子力安全工学科	45	—	180	
自然科学科	60	—	240	自然科学科	60	—	240	
建築都市デザイン学部				建築都市デザイン学部				
建築学科	120	—	480	建築学科	120	—	480	
都市工学科	100	—	400	都市工学科	100	—	400	
情報工学部				情報工学部				
情報科学科	100	—	400	情報科学科	100	—	400	
知能情報工学科	80	—	320	知能情報工学科	80	—	320	
環境学部				環境学部				
環境創生学科	90	—	360	環境創生学科	90	—	360	
環境経営システム学科	90	—	360	環境経営システム学科	90	—	360	
メディア情報学部				メディア情報学部				
社会メディア学科	90	—	360	社会メディア学科	90	—	360	
情報システム学科	100	—	400	情報システム学科	100	—	400	
都市生活学部				都市生活学部				
都市生活学科	160	—	640	都市生活学科	160	—	640	
人間科学部				人間科学部				
児童学科	100	—	400	人間科学科	100	—	400	名称変更
計	1,650	—	6,600	計	1,750	—	7,000	
<b>東京都市大学大学院</b>				<b>東京都市大学大学院</b>				
総合理工学研究科				総合理工学研究科				
機械専攻(M)	60	—	120	機械専攻(M)	60	—	120	
電気・化学専攻(M)	66	—	132	電気・化学専攻(M)	66	—	132	
共同原子力専攻(M)	15	—	30	共同原子力専攻(M)	15	—	30	
自然科学専攻(M)	15	—	30	自然科学専攻(M)	15	—	30	
建築・都市専攻(M)	54	—	108	建築・都市専攻(M)	54	—	108	
情報専攻(M)	66	—	132	情報専攻(M)	66	—	132	
機械専攻(D)	8	—	24	機械専攻(D)	8	—	24	
電気・化学専攻(D)	8	—	24	電気・化学専攻(D)	8	—	24	
共同原子力専攻(D)	4	—	12	共同原子力専攻(D)	4	—	12	
自然科学専攻(D)	2	—	6	自然科学専攻(D)	2	—	6	
建築・都市専攻(D)	8	—	24	建築・都市専攻(D)	8	—	24	
情報専攻(D)	8	—	24	情報専攻(D)	8	—	24	
環境情報学研究科				環境情報学研究科				
環境情報学専攻(M)	20	—	40	環境情報学専攻(M)	20	—	40	
都市生活学専攻(M)	6	—	12	都市生活学専攻(M)	6	—	12	
環境情報学専攻(D)	2	—	6	環境情報学専攻(D)	2	—	6	
都市生活学専攻(D)	2	—	6	都市生活学専攻(D)	2	—	6	
計	344	—	730	計	344	—	730	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
環境学部 環境経営システム学科	学士 (環境学)	工学関係、 経済学関係	環境学部			環境学部 環境経営システム学科	学士 (環境学)	工学関係、 経済学関係	環境学部		
			環境経営システム学科	10	7				環境経営システム学科	10	7
			デザイン・データ科学部						新規採用	1	0
			デザイン・データ科学科	1	0						
			計	11	7				計	11	7
メディア情報学部 社会メディア学科	学士 (社会情報学)	社会学・ 社会福祉学 関係	メディア情報学部	10	7	メディア情報学部 社会メディア学科	学士 (社会情報学)	社会学・ 社会福祉学 関係	メディア情報学部	10	7
			社会メディア学科						社会メディア学科		
			デザイン・データ科学部						新規採用	1	0
			デザイン・データ科学科	1	0						
			計	11	7				計	11	7
メディア情報学部 情報システム学科	学士 (情報学)	工学関係	メディア情報学部	8	6	メディア情報学部 情報システム学科	学士 (情報学)	工学関係	メディア情報学部	8	6
			情報システム学科						情報システム学科		
			デザイン・データ科学部						新規採用	2	2
			デザイン・データ科学科	2	2						
			計	10	8				計	10	8
都市生活学部 都市生活学科	学士 (都市生活学)	工学関係、 経済学関係、 家政関係	都市生活学部	19	9	都市生活学部 都市生活学科	学士 (都市生活学)	工学関係、 経済学関係、 家政関係	都市生活学部	19	9
			都市生活学科						都市生活学科		
			計	19	9				計	19	9
/					デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科	学士 (学術)	工学関係	環境学部			
								環境経営システム学科	1	0	
								メディア情報学部			
								社会メディア学科	1	0	
								メディア情報学部			
								情報システム学科	2	2	
								総合研究所	1	1	
								共通教育部			
								外国語共通教育センター	2	0	
教育開発機構数理・ データサイエンス教育センター	4	4									
新規採用	5	3									
計	16	10									

## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は学科の分野	手続きの区分
平成9年4月	環境情報学部環境情報学科 設置	工学関係, 経済学関係	設置認可(学部)
平成11年4月	環境情報学部環境情報学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
平成13年4月	環境情報学部環境情報学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
平成14年4月	環境情報学部情報メディア学科 設置	工学関係, 社会学・社会福祉学関係	設置認可(学科)
	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
	環境情報学部環境情報学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
平成18年4月	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
	環境情報学部環境情報学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
	環境情報学部情報メディア学科のカリキュラム変更	工学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成21年4月	都市生活学部都市生活学科 設置	工学関係, 経済学関係, 家政関係	設置認可(学部)
	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
	環境情報学部環境情報学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
	環境情報学部情報メディア学科のカリキュラム変更	工学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成22年4月	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成23年4月	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学則変更
平成24年4月	環境情報学部のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成25年4月	環境情報学部環境情報学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)
	環境情報学部情報メディア学科の学生募集停止	—	
	環境学部環境マネジメント学科 設置	工学関係, 経済学関係	設置届出(学部)
	メディア情報学部情報システム学科 設置	工学関係	設置届出(学部)
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学則変更
平成26年4月	環境学部環境マネジメント学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学則変更
平成27年4月	環境学部環境マネジメント学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学則変更
平成28年4月	環境学部環境マネジメント学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学則変更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学則変更

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 き の 区 分
平成29年4月	環境学部環境マネジメント学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学 則 変 更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
平成30年4月	環境学部環境マネジメント学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学 則 変 更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学 則 変 更
平成31年4月	環境学部 環境マネジメント学科 → 環境経営システム学科	工学関係, 経済学関係	名称変更(学科)
	環境学部環境経営システム学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学 則 変 更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学 則 変 更
令和2年4月	環境学部環境経営システム学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学 則 変 更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学 則 変 更
令和3年4月	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
令和4年4月	環境学部環境経営システム学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係	学 則 変 更
	メディア情報学部情報システム学科のカリキュラム変更	工学関係	学 則 変 更
	都市生活学部都市生活学科のカリキュラム変更	工学関係, 経済学関係, 家政関係	学 則 変 更
令和5年4月	デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科 設置	工学関係	設置届出(学部)

教育課程等の概要														
(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	人文学系	倫理学(1)	1前	2		○								兼1
	倫理学(2)	1後	2		○								兼1	
	倫理学(a)	1後	1		○								兼1	
	倫理学(b)	1後	1		○								兼1	
	視覚芸術史(1)	1前	2		○								兼1	
	視覚芸術史(2)	1後	2		○								兼1	
	デザイン概論(1)	2前	2		○								兼1 ※演習	
	デザイン概論(2)	2後	2		○								兼1 ※演習	
	日本史(1)	1前	2		○								兼1	
	日本史(2)	1後	2		○								兼1	
西洋史(1)	1前	2		○								兼1		
西洋史(2)	1後	2		○								兼1		
社会科学系	社会学入門(a)	1前		1		○							兼1	
	社会学入門(b)	1前		1		○							兼1	
	日本経済論(a)	3前		1		○							兼1	
	日本経済論(b)	3前		1		○							兼1	
	西洋経済史	1前・後		2		○							兼1	
	日本の政治(a)	2前		1		○							兼1	
	日本の政治(b)	2前		1		○							兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○							兼1	
	法学	1前		2		○							兼1	
	民法	1後		2		○							兼1	
人間科学系	心理学入門	1前		2		○							兼1	
	社会とジェンダー(a)	1後		1		○							兼1	
	社会とジェンダー(b)	1後		1		○							兼1	
	日本文化の伝承(a)	1後		1		○							兼1	
	日本文化の伝承(b)	1後		1		○							兼1	
	スポーツ・健康論	1前・後		2		○							兼1	
情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)	1前・後		1			○		1					
	データサイエンスリテラシー(2)	1前・後		1			○		1					
	環境問題と社会	1前		2		○							兼1	
	情報編集入門	1後		2			○			1				
グローバル教養系	Japan Studies	2前・後		2		○							兼1	
	Global Studies(1)	2前・後		2		○				1				
	Global Studies(2)	2前・後		2		○				1				
	Global Studies(3)	2前・後		2		○							兼1	
	Global Studies(4)	2前・後		2		○							兼1	
	Intercultural Understanding(1)	2前・後		2		○				1				
	Intercultural Understanding(2)	2前・後		2		○				1				
その他	教養特別講義	1前・後		2		○			1					
	ボランティア(1)	1・2・3・4		1				○		1				
	ボランティア(2)	1・2・3・4		1				○		1				
	インターンシップ(1)	1・2・3・4		1				○		1				
	インターンシップ(2)	1・2・3・4		1				○		1				

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	英語科目	English I-A	1前	1				○							兼4
		English I-B	1前	1				○							兼4
		English II-A	1前・後	1				○		1					兼3
		English II-B	1前・後	1				○		1					兼3
		English III-A	1前・後	1				○		1					兼3
		English III-B	1前・後	1				○		1					兼3
		Reading Comprehension	1後・2前		2			○							兼1
		Debate & Discussion	1後・2前		2			○							兼1
		Presentation Strategies	1後・2前		2			○							兼1
		English Test Preparation	1後・2前		2			○		1					
		Writing Strategies	1後・2前		2			○							兼1
		Academic Reading	1後・2前		2			○		1					
		Academic Discussion	1後・2前		2			○		1					
		Academic Presentation	1後・2前		2			○		1					
	English Test Preparation for Academic Purposes	1後・2前		2			○		1						
	Academic Research & Writing	1後・2前		2			○		1						
専門基礎科目	データ科学	データサイエンス概論	1前	2				○		1					
		コンピュータ基礎演習	1前	2				○			1				
		プログラミング基礎演習	1後	2				○		1					
		データサイエンス数学	1前	2				○		1					
		統計学基礎	2前	2				○		1					
		統計データ解析演習	2後	2				○		1					
		情報学理論	1前	2				○			1				
		アルゴリズムとデータ構造	1後	2				○			1				
		機械学習論	2前	2				○				1			
		データマイニング	2後	2				○			1				
		データベース	2後	2				○		1					
		データ社会論	1後	2				○		1					
		量的ユーザー調査	1後	2				○		1					
		質的ユーザー調査	1後	2				○		1					
	経営分析論	2前	2				○		1						
	業務プロセス分析	2前	2				○			1					
デザイン	ユーザーエクスペリエンス	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	1前	2				○		2	1				オムニバス
		デザインプレゼンテーション	2前	2				○			1				
		デザインプロトタイピング(1)	2前	2				○		1					
		ウェブプログラミング	2後	2				○		1					
		情報デザイン	2後	2				○			1				
デザイン	ソーシャルシステム	デザインリサーチ	3前	2				○		1	1				共同
		ソーシャルシステムデザイン入門	1後	2				○		3	1				オムニバス, 共同
		金融・市場システム論	2後	2				○		1					
		サービスイノベーション	2前	2				○		1					
		経営戦略概論	2前	2				○		1					
		総合的品質管理	2後	2				○			1				
		オペレーションマネジメント	2後	2				○			1				
	プロジェクトマネジメント	3前	2				○			1					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
その他	SD PBL(1)	1前	1				○		4	2					共同
	SD PBL(2)	2前	1				○			1					
	SD PBL(3)	3後	1				○			1					
	小計 (32科目)	—	11	50	0		—		10	3	1	0	0	0	
専門 応用 科目	データ科学 プログラミング応用演習	2前		2			○		1						
	機械学習演習	2後		2			○		1						
	ビッグデータ解析演習	3前		2			○		1						
	ベイズ統計学	3前		2		○		1							
	ニューラルネットワーク	3前		2		○		1							
	画像・音声処理	3後		2		○				1					
	自然言語処理	3後		2		○			1						
	ウェブデータ処理	3後		2		○		1							
	企業経営分析ケーススタディ	3前		2		○		1							
	デザイン デザイナー エクス ペリエン ス	デザインプロトタイピング(2)	3前		2		○		1						
ブランドコンセプトデザイン	3後		2		○		1								
インタフェースデザイン	3前		2		○		1								
感性デザイン演習	3前		2			○			1						
デザインプロダクション演習	3後		2			○		1							
インタラクティブデザイン演習	3後		2			○		1							
デザ イン シヤ ル シ ス テ ム	ビヘイビアル・ファイナンス	3前		2		○		1							
	リスク&クライシスマネジメント	3後		2		○		1							
	未来創造デザインプロジェクト	3後		2			○	1							
	サービスシステムデザイン演習	3前		2			○	1							
	サプライチェーンデザイン演習	3後		2			○		1						
	ビジネスシステムデザイン演習	3後		2			○	1							
その他	特別講義	1前・後		2		○			1						
	海外インターンシップ	2・3・4		2					1						
	COOPプログラム	4前		4					1						
	キャップストーンプロジェクト	4後・前	4				○	10	3	1				共同	
小計 (25科目)	—	4	50	0		—	10	4	1	0	0	0			
合計 (117科目)			—	21	190	0	—	10	5	1	0	0	0	兼19	
学位又は称号		学士 (学術)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養科目12単位以上 (うち選択必修 (Japan Studies, Global Studies (1)-(4), Intercultural Understanding (1) (2)) から6単位以上を含む), 外国語科目14単位以上 (うち必修6単位, 選択必修 (Academic Reading, Academic Discussion, Academic Presentation, English Test Preparation for Academic Purposes, Academic Research & Writing) から4単位以上を含む), 専門基礎科目50単位以上 (うち必修11単位, 選択必修 (プログラミング基礎演習, データサイエンス数学, 統計学基礎, 統計データ解析演習, 情報学理論, アルゴリズムとデータ構造, 機械学習論, データマイニング, データベース, データ社会論, 量的ユーザー調査, 質的ユーザー調査) から20単位以上を含む), 専門応用科目40単位以上 (うち必修4単位, 選択必修 (感性デザイン演習, デザインプロダクション演習, インタラクティブデザイン演習, サービスシステムデザイン演習, サプライチェーンデザイン演習, ビジネスシステムデザイン演習) から2単位以上を含む) を修得し, 合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 20単位 (半期))							1 学年の学期区分		2 学期						
							1 学期の授業期間		1 4 週						
							1 時限の授業時間		1 0 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(環境学部 環境経営システム学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	英語 (スキル)	Communication Skills(1)	1前	1				○							兼6
		Communication Skills(2)	1後	1				○							兼6
		Reading and Writing(1a)	1前	0.5				○							兼5
		Reading and Writing(1b)	1前	0.5				○							兼5
		Reading and Writing(2a)	1後	0.5				○							兼5
		Reading and Writing(2b)	1後	0.5				○							兼5
		Basic English Training(a)	2前・後		1			○							兼1
		Basic English Training(b)	2前・後		1			○							兼1
		Grammar(1a)	2前・後		1			○							兼1
		Grammar(1b)	2前・後		1			○							兼1
		Grammar(2a)	2前・後		1			○							兼1
		Grammar(2b)	2前・後		1			○							兼1
		Test Taking Skills(1a)	2前・後		1			○							兼1
		Test Taking Skills(1b)	2前・後		1			○							兼1
		Test Taking Skills(2a)	2前・後		1			○							兼2
		Test Taking Skills(2b)	2前・後		1			○							兼2
		Test Taking Skills(3a)	2前・後		1			○							兼2
		Test Taking Skills(3b)	2前・後		1			○							兼2
		Critical Reading(1a)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Reading(1b)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Reading(2a)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Reading(2b)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Reading(3a)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Reading(3b)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Listening(1a)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Listening(1b)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Listening(2a)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Listening(2b)	2前・後		1			○							兼1
		Critical Listening(3a)	2前・後		1			○							兼2
		Critical Listening(3b)	2前・後		1			○							兼2
		Communication Strategies(1a)	2前・後		1			○							兼1
		Communication Strategies(1b)	2前・後		1			○							兼1
		Communication Strategies(2a)	2前・後		1			○							兼1
	Communication Strategies(2b)	2前・後		1			○							兼1	
	Communication Strategies(3a)	2前・後		1			○							兼1	
	Communication Strategies(3b)	2前・後		1			○							兼1	
	Academic English(1a)	2前・後		1			○							兼2	
	Academic English(1b)	2前・後		1			○							兼2	
	Academic English(2a)	2前・後		1			○							兼1	
	Academic English(2b)	2前・後		1			○							兼1	
	Academic English(3a)	2前・後		1			○							兼1	
	Academic English(3b)	2前・後		1			○							兼1	
英語 科目 (教養)		Literature in English(1a)	2前・後		1		○								兼1
		Literature in English(1b)	2前・後		1		○								兼1
		Literature in English(2a)	2前・後		1		○								兼2
		Literature in English(2b)	2前・後		1		○								兼2
		Global Culture(1a)	2前・後		1		○								兼1
		Global Culture(1b)	2前・後		1		○								兼1
		Global Culture(2a)	2前・後		1		○								兼1
		Global Culture(2b)	2前・後		1		○								兼1
	Language Sciences(1a)	2前・後		1		○								兼1	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(環境学部 環境経営システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	Language Sciences (1b)	2前・後		1		○									兼1
	Language Sciences (2a)	2前・後		1		○									兼1
	Language Sciences (2b)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society (1a)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society (1b)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society (2a)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society (2b)	2前・後		1		○									兼1
共通	海外・特別選抜セミナー	1前・後		2			○								兼1
	外国語特別講義 (a)	2前・後		1		○									兼1
	外国語特別講義 (b)	2前・後		1		○									兼1
英語以外の 外国語科目	ドイツ語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語 (2b)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語 (2b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語 (2b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語 (2b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語 (2b)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語 (1a)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語 (1b)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語 (2a)	2前・後		1			○								兼1
アラビア語 (2b)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語 (1a)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語 (1b)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語 (2a)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語 (2b)	2前・後		1			○								兼1	
日本語表現 (a)	2前・後		1			○								兼1	
日本語表現 (b)	2前・後		1			○								兼1	
体育科目	基礎体育 (1a)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育 (1b)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育 (2a)	1後		0.5				○							兼4
	基礎体育 (2b)	1後		0.5				○							兼4
	応用体育 (1)	2前・後		1				○							兼6
	応用体育 (2)	2前・後		1				○							兼5
教養科目 人文学系	哲学 (1)	1前		2		○									兼1
	哲学 (2)	1後		2		○									兼1
	倫理学 (1)	1前		2		○									兼1
	倫理学 (2)	1後		2		○									兼1
	倫理学 (a)	1後		1		○									兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(環境学部 環境経営システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	倫理学(b)	1後		1		○									兼1
	文化人類学	1後		2		○									兼1 集中
	視覚芸術史(1)	1前		2		○									兼1
	視覚芸術史(2)	1後		2		○									兼1
	デザイン概論(1)	2前		2		○									兼1 ※演習
	デザイン概論(2)	2後		2		○									兼1 ※演習
	日本文学	2前		2		○									兼1
	日本史(1)	1前		2		○									兼1
	日本史(2)	1後		2		○									兼1
	西洋史(1)	1前		2		○									兼1
	西洋史(2)	1後		2		○									兼1
	民俗学(a)	1後		1		○									兼1
	民俗学(b)	1後		1		○									兼1
	宗教学	1前		2		○									兼1
社会科学系	社会学(1a)	1前		1		○									兼1
	社会学(1b)	1前		1		○									兼1
	社会学(2a)	1後		1		○									兼1
	社会学(2b)	1後		1		○									兼1
	社会学入門(a)	1前		1		○									兼1
	社会学入門(b)	1前		1		○									兼1
	経済学(1a)	1前		1		○									兼1
	経済学(1b)	1前		1		○									兼1
	経済学(2a)	1後		1		○									兼1
	経済学(2b)	1後		1		○									兼1
	日本経済論(a)	3前		1		○									兼1
	日本経済論(b)	3前		1		○									兼1
	西洋経済史	1前・後		2		○									兼1
	政治学(1a)	1前		1		○									兼1
	政治学(1b)	1前		1		○									兼1
	政治学(2a)	1後		1		○									兼1
	政治学(2b)	1後		1		○									兼1
	日本の政治(a)	2前		1		○									兼1
	日本の政治(b)	2前		1		○									兼1
	国際関係論(1a)	1前		1		○									兼1
	国際関係論(1b)	1前		1		○									兼1
	国際関係論(2a)	1後		1		○									兼1
国際関係論(2b)	1後		1		○									兼1	
日本国憲法	1前・後		2		○									兼1	
法学	1前		2		○									兼1	
民法	1後		2		○									兼1	
人文地理学(a)	1前		1		○									兼1	
人文地理学(b)	1前		1		○									兼1	
現代中国論	1後		2		○									兼1	
人間科学系	教育学(1a)	1前		1		○									兼2
	教育学(1b)	1前		1		○									兼2
	教育学(2a)	1後		1		○									兼2
	教育学(2b)	1後		1		○									兼2
	心理学(1a)	1前		1		○									兼1
	心理学(1b)	1前		1		○									兼1
	心理学(2a)	1後		1		○									兼1
	心理学(2b)	1後		1		○									兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(環境学部 環境経営システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
自然・ 情報科学系	心理学入門	1前		2		○									兼1
	社会とジェンダー(a)	1後		1		○									兼1
	社会とジェンダー(b)	1後		1		○									兼1
	国際化と異文化理解(a)	3後		1		○									兼1
	国際化と異文化理解(b)	3後		1		○									兼1
	日本文化の伝承(a)	1後		1		○									兼2
	日本文化の伝承(b)	1後		1		○									兼2
	スポーツ・健康論	1前・後		2		○									兼1
	データサイエンスリテラシー(1)	1前・後		1			○								兼1
	データサイエンスリテラシー(2)	1前・後		1			○								兼1
	論理学(1a)	1前		1		○									兼1
	論理学(1b)	1前		1		○									兼1
	論理学(2a)	1後		1		○									兼1
	論理学(2b)	1後		1		○									兼1
現代の物理(a)	1前		1		○									兼1	
現代の物理(b)	1前		1		○									兼1	
現代の化学	1前		2		○									兼1	
現代の地学	1前		2		○									兼1	
情報社会入門	1前		2		○									兼1	
情報演習基礎(a)	1前		1			○								兼1	
情報演習基礎(b)	1前		1			○								兼1	
情報通信入門	1前		2		○									兼1 ※演習	
科学技術と社会	2後		2		○				1						
生活とメディア	2前		2		○									兼1	
そ の 他	ボランティア(1)	1前		1				○		1					
	ボランティア(2)	1後		1				○		1					
	教養ゼミナール(1)	1前・後		2			○								兼8
	教養ゼミナール(2)	1前・後		2			○								兼7
	教養特別講義(1)	1前・後		2		○									兼2
	教養特別講義(2)	1前・後		2		○									兼1
	キャリアデザイン基礎	1後		2		○									兼1
	海外フィールド演習	1後		2			○								兼4 集中
	特別講義(1)	1後		2		○									兼9 オムニバス
	特別講義(2)	2前		2		○									兼6 オムニバス
	インターンシップ(1)	1後		1				○		1					集中
インターンシップ(2)	2前		1				○		1					集中	
PBL科目	SD PBL(1)	1前	1				○		2	1					オムニバス
	SD PBL(2)	2後	2				○		3						オムニバス
	SD PBL(3)	3後	1				○			2					オムニバス
専 門 基 礎 科 目	環境マネジメントシステム	1前		2		○									兼1 ※演習
	環境基礎	1前		2		○			1						兼3 オムニバス
	マクロ経済学	1前		2		○									兼1
	数学入門	1前		2		○			1						
	統計学基礎	1前	2			○				1					
	環境倫理	1後	2			○			1						
	ミクロ経済学	1後	2			○				1					
	マネジメント入門	1後	2			○			1						

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(環境学部 環境経営システム学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	社会調査	2前		2		○			1						※演習
	公共経済学	2前		2		○				1					
	グローバルCLILプログラム	2前		3			○		1						兼1 共同
	NPOとソーシャルビジネス	3前		2		○									兼1
	基礎生物学	1前		2		○									兼1
	都市環境学概論	1前		2		○									兼1 ※演習
	環境数理学入門	1後		2		○									兼1
	生態学概論	1後		2		○									兼1
	環境化学	2前		2		○									兼1
	画像処理技法	2前		2		○									兼1 ※演習
	環境計量学	2後		2		○									兼1
	環境アセスメント概論	2後		2		○									兼1 ※演習
	環境都市関連法(1)	2後		2		○									兼1
	地理情報システム	2後		2		○									兼1 ※演習
	環境都市関連法(2)	3前		2		○									兼1
	都市気候論	3前		2		○									兼1
	基礎プログラミング演習(a)	1後		1			○								兼1
	基礎プログラミング演習(b)	1後		1			○								兼1
	情報セキュリティ	2前		2		○									兼1 ※演習
	キャリアデザイン(a)	2後		1		○									兼1
	キャリアデザイン(b)	2後		1		○									兼1
	小計 (29科目)	—	6	49	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0	兼20
専門科目	環境経営システム学入門	1前	2			○			7	3					オムニバス
学科基盤科目	温暖化の科学	1前		2		○									兼1
	持続可能な消費	1後		2		○			1						
	アカウンティングシステム	1後		2		○									兼1 ※演習
	環境統計学	1後		2		○									兼1
	エコマテリアル	1後		2		○			1						
	オペレーションズリサーチ	2後		2		○				1					
	財務会計	2前		2		○									兼1
	マネジメント数学	2前		2		○			1						
	環境教育	2前		2		○			1						
	エネルギーと社会	2前		2		○									兼1
	環境法概論	2前		2		○				1					
	アルゴリズムとデータ構造	2前		2		○				1					
	経営管理基礎	2前		2		○			1						
	食料問題と環境	2後		2		○			1						
	プロジェクトマネジメント	2後		2		○			1						※演習
(環境経営分野)	ライフサイクルアセスメント	2前		2		○			1						
	持続可能なサプライチェーンマネジメント	2後		2		○			1						
	エコデザイン	2後		2		○			1						
	グリーン物流	2後		2		○				1					
	環境マーケティング	3前		2		○									兼1
	CSRの理論と実践	3前		2		○			1						※演習
	企業経営とサステナビリティ	3前		2		○									兼1
	環境監査	3前		2		○									兼1
	ビジネスモデル	3前		2		○			1						

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(環境学部 環境経営システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
(学科専門科目 環境政策分野)	環境社会学	2前		2		○			1						兼1 兼1 兼1
	開発協力と環境	2後		2		○									
	環境経済学	2後		2		○									
	環境ガバナンス論	2後		2		○			1						
	国際経済と環境	3前		2		○									
	合意形成論	3前		2		○			1						
	国際環境法	3前		2		○				1					
	土地利用と法	3前		2		○				1					
事例研究(1)	3前・後	2				○		7	3						
事例研究(2)	3後・4前	2				○		7	3						
卒業研究(1)	4前・後	3				○		7	3						
卒業研究(2)	4後・前	3				○		7	3						
小計 (37科目)		—	12	64	0	—	—	7	3	0	0	0	0	兼11	
合計 (258科目)		—	26	331	0	—	—	7	3	0	0	0	0	兼130	
学位又は称号		学士 (環境学)			学位又は学科の分野			工学関係, 経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
外国語科目8単位以上 (必修4単位を含む)、体育科目1単位以上 (選択必修1単位を含む)、教養科目10単位以上、PBL科目4単位 (必修4単位)、 専門基礎科目30単位以上 (必修6単位を含む)、専門科目60単位以上 (必修12単位を含む) を修得し、合計124単位 (数理・データサイエンスプログラム4単位 (データサイエンスに係る選択必修1単位を含む) ) 以上を修得すること。  (履修科目の登録の上限: 20単位 (半期) )							1 学年の学期区分			2 学期					
							1 学期の授業期間			1 4 週					
							1 時限の授業時間			1 0 0 分					

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
基礎 科目	英語 (スキル)	Communication Skills(1)	1前	1				○								兼6
		Communication Skills(2)	1後	1				○								兼6
		Reading and Writing(1a)	1前	0.5				○								兼5
		Reading and Writing(1b)	1前	0.5				○								兼5
		Reading and Writing(2a)	1後	0.5				○								兼5
		Reading and Writing(2b)	1後	0.5				○								兼5
		Basic English Training(a)	2前・後		1			○								兼1
		Basic English Training(b)	2前・後		1			○								兼1
		Grammar(1a)	2前・後		1			○								兼1
		Grammar(1b)	2前・後		1			○								兼1
		Grammar(2a)	2前・後		1			○								兼1
		Grammar(2b)	2前・後		1			○								兼1
		Test Taking Skills(1a)	2前・後		1			○								兼1
		Test Taking Skills(1b)	2前・後		1			○								兼1
		Test Taking Skills(2a)	2前・後		1			○								兼2
		Test Taking Skills(2b)	2前・後		1			○								兼2
		Test Taking Skills(3a)	2前・後		1			○								兼2
		Test Taking Skills(3b)	2前・後		1			○								兼2
		Critical Reading(1a)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Reading(1b)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Reading(2a)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Reading(2b)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Reading(3a)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Reading(3b)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Listening(1a)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Listening(1b)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Listening(2a)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Listening(2b)	2前・後		1			○								兼1
		Critical Listening(3a)	2前・後		1			○								兼2
		Critical Listening(3b)	2前・後		1			○								兼2
	Communication Strategies(1a)	2前・後		1			○								兼1	
	Communication Strategies(1b)	2前・後		1			○								兼1	
	Communication Strategies(2a)	2前・後		1			○								兼1	
	Communication Strategies(2b)	2前・後		1			○								兼1	
	Communication Strategies(3a)	2前・後		1			○								兼1	
	Communication Strategies(3b)	2前・後		1			○								兼1	
	Academic English(1a)	2前・後		1			○								兼2	
	Academic English(1b)	2前・後		1			○								兼2	
	Academic English(2a)	2前・後		1			○								兼1	
	Academic English(2b)	2前・後		1			○								兼1	
	Academic English(3a)	2前・後		1			○								兼1	
	Academic English(3b)	2前・後		1			○								兼1	
英語 科目 (教養)		Literature in English(1a)	2前・後		1		○									兼1
		Literature in English(1b)	2前・後		1		○									兼1
		Literature in English(2a)	2前・後		1		○									兼2
		Literature in English(2b)	2前・後		1		○									兼2
		Global Culture(1a)	2前・後		1		○									兼1
		Global Culture(1b)	2前・後		1		○									兼1
		Global Culture(2a)	2前・後		1		○									兼1
		Global Culture(2b)	2前・後		1		○									兼1
		Language Sciences(1a)	2前・後		1		○									兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	Language Sciences(1b)	2前・後		1		○									兼1
	Language Sciences(2a)	2前・後		1		○									兼1
	Language Sciences(2b)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society(1a)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society(1b)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society(2a)	2前・後		1		○									兼1
	Global Society(2b)	2前・後		1		○									兼1
共通	海外・特別選抜セミナー	1前・後		2			○								兼1
	外国語特別講義(a)	2前・後		1		○									兼1
	外国語特別講義(b)	2前・後		1		○									兼1
英語 以外 の 外国 語 科 目	ドイツ語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	ドイツ語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(1b)	2前・後		1			○								兼1
アラビア語(2a)	2前・後		1			○								兼1	
アラビア語(2b)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語(1a)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語(1b)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語(2a)	2前・後		1			○								兼1	
韓国語(2b)	2前・後		1			○								兼1	
日本語表現(a)	2前・後		1			○								兼1	
日本語表現(b)	2前・後		1			○								兼1	
体 育 科 目	基礎体育(1a)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育(1b)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育(2a)	1後		0.5				○							兼4
	基礎体育(2b)	1後		0.5				○							兼4
	応用体育(1)	2前・後		1				○							兼6
	応用体育(2)	2前・後		1				○							兼5
教 養 科 目	人文学系 哲学(1)	1前		2		○									兼1
	哲学(2)	1後		2		○									兼1
	倫理学(1)	1前		2		○									兼1
	倫理学(2)	1後		2		○									兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	倫理学(a)	1後		1		○									兼1
	倫理学(b)	1後		1		○									兼1
	文化人類学	1後		2		○									兼1 集中
	視覚芸術史(1)	1前		2		○									兼1
	視覚芸術史(2)	1後		2		○									兼1
	デザイン概論(1)	2前		2		○									兼1 ※演習
	デザイン概論(2)	2後		2		○									兼1 ※演習
	日本文学	2前		2		○									兼1
	日本史(1)	1前		2		○									兼1
	日本史(2)	1後		2		○									兼1
	西洋史(1)	1前		2		○									兼1
	西洋史(2)	1後		2		○									兼1
	民俗学(a)	1後		1		○									兼1
	民俗学(b)	1後		1		○									兼1
	宗教学	1前		2		○									兼1
社会 科学 系	社会学(1a)	1前		1		○									兼1
	社会学(1b)	1前		1		○									兼1
	社会学(2a)	1後		1		○									兼1
	社会学(2b)	1後		1		○									兼1
	社会学入門(a)	1前		1		○									兼1
	社会学入門(b)	1前		1		○									兼1
	経済学(1a)	1前		1		○									兼1
	経済学(1b)	1前		1		○									兼1
	経済学(2a)	1後		1		○									兼1
	経済学(2b)	1後		1		○									兼1
	日本経済論(a)	3前		1		○									兼1
	日本経済論(b)	3前		1		○									兼1
	西洋経済史	1前・後		2		○									兼1
	政治学(1a)	1前		1		○									兼1
	政治学(1b)	1前		1		○									兼1
	政治学(2a)	1後		1		○									兼1
	政治学(2b)	1後		1		○									兼1
	日本の政治(a)	2前		1		○									兼1
	日本の政治(b)	2前		1		○									兼1
	国際関係論(1a)	1前		1		○									兼1
	国際関係論(1b)	1前		1		○									兼1
	国際関係論(2a)	1後		1		○									兼1
	国際関係論(2b)	1後		1		○									兼1
日本国憲法	1前・後		2		○										兼1
法学	1前		2		○										兼1
民法	1後		2		○										兼1
人文地理学(a)	1前		1		○										兼1
人文地理学(b)	1前		1		○										兼1
現代中国論	1後		2		○										兼1
人間 科学 系	教育学(1a)	1前		1		○									兼2
	教育学(1b)	1前		1		○									兼2
	教育学(2a)	1後		1		○									兼2
	教育学(2b)	1後		1		○									兼2
	心理学(1a)	1前		1		○									兼1
	心理学(1b)	1前		1		○									兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	心理学(2a)	1後		1		○									兼1
	心理学(2b)	1後		1		○									兼1
	心理学入門	1前		2		○									兼1
	社会とジェンダー(a)	1後		1		○									兼1
	社会とジェンダー(b)	1後		1		○									兼1
	国際化と異文化理解(a)	3後		1		○									兼1
	国際化と異文化理解(b)	3後		1		○									兼1
	日本文化の伝承(a)	1後		1		○									兼2
	日本文化の伝承(b)	1後		1		○									兼2
	スポーツ・健康論	1前・後		2		○									兼1
自然・ 情報 科学系	データサイエンスリテラシー(1)	1前・後		1				○							兼1
	データサイエンスリテラシー(2)	1前・後		1				○							兼1
	論理学(1a)	1前		1		○									兼1
	論理学(1b)	1前		1		○									兼1
	論理学(2a)	1後		1		○									兼1
	論理学(2b)	1後		1		○									兼1
	環境問題と社会	1前		2		○									兼1
	現代の物理(a)	1前		1		○									兼1
	現代の物理(b)	1前		1		○									兼1
	現代の化学	1前		2		○									兼1
	現代の地学	1前		2		○									兼1
	情報編集入門	1後		2				○							兼2
	生活とメディア	2前		2		○									兼1
	そ の 他	ボランティア(1)	1前		1				○		1				
ボランティア(2)		1後		1				○		1					
教養ゼミナール(1)		1前・後		2				○							兼8
教養ゼミナール(2)		1前・後		2				○		2					兼5
教養特別講義(1)		1前・後		2		○									兼2
教養特別講義(2)		1前・後		2		○									兼1
キャリアデザイン基礎		1後		2		○									兼1
海外フィールド演習		1後		2				○							兼4 集中
特別講義(1)		1後		2		○									兼9 オムニバス
特別講義(2)		2前		2		○									兼6 オムニバス
インターンシップ(1)		1後		1				○		1					集中
インターンシップ(2)	2前		1				○		1					集中	
PBL科目	SD PBL(1)	1前	1					○		7	2	1			オムニバス
	SD PBL(2)	2後	1					○		2					オムニバス
	SD PBL(3)	3後	1					○		7	2	1			オムニバス
専 門 基 礎 科 目	情報リテラシー演習	1前		2				○							兼1
	ICTアセスメント概論	1前	2			○					1				※演習
	情報と社会	1前		2		○									オムニバス
	教養数学(a)	1前	1			○									兼3
	教養数学(b)	1前	1			○									兼2
	統計学基礎	1前		2		○									兼1
	情報環境論	1後		2		○									兼1
	線形代数学(1a)	1後	1			○									兼1
線形代数学(1b)	1後	1			○									兼1	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	微分積分学(1a)	1後	1			○									兼1
	微分積分学(1b)	1後	1			○									兼1
	情報と法	2前		2		○									兼1
	情報と職業	2前		2		○									兼1
	メディアと表現	2前		2		○									兼1
	線形代数学(2a)	2前	1			○									兼1
	線形代数学(2b)	2前	1			○									兼1
	微分積分学(2a)	2前		1		○									兼1
	微分積分学(2b)	2前		1		○									兼1
	確率統計(a)	2前		1		○									兼1
	確率統計(b)	2前		1		○									兼1
	情報セキュリティ	2前		2		○			1						※演習
	データベース	2後		2		○									兼1
	サイエンス・スタディーズ	2後		2		○									兼1
	キャリアデザイン	2後		2		○									兼1
	情報の倫理	3前		2		○									兼1
	アカウントシステム	3後		2		○									兼1 ※演習
	小計 (26科目)	—	10	30	0	—			1	0	1	0	0		兼17
専門科目	学科基盤科目														
	プログラミング基礎演習A	1前	2				○		1		1				
	アルゴリズムとプログラミング	1前	2				○		1						
	プログラミング基礎演習B	1後	2				○		2						
	ソフトウェア開発技法	1後	2				○				1				
	プログラミング演習A	2前		2			○			1					
	プログラミング演習B	2前		2			○		1						
	システム開発演習A	2後		2			○		1						
	システム開発演習B	2後		2			○		1						
	オブジェクト指向方法論	2後		2			○			1					
	情報数学	1前	2				○		1						※演習
	コンピュータシステム	1後	2				○		1						
	コンピュータネットワーク	1後		2			○			1					
	オペレーティングシステム	1後		2			○				1				
	コンピュータグラフィックス	1後		2			○		1						
	情報理論	2前		2			○			1					
	デジタル信号処理	2前		2			○			1					
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2後		2			○		1						
	人工知能とデータマイニング	2後	2				○		1						
	LAN環境演習	3前	2				○		1	1					
	データ分析法	3前		2			○								兼1
	サーバシステム構築	2後	2				○		2						
	サーバ運用技術	2後	1				○		2						
	マルチメディア情報処理	3前		2			○		1						※演習
	マルチメディア記述法	3前		2			○		1						
	ビジュアルイゼーション	3前		2			○		1						
	コンピュータシミュレーション	3前		2			○		1						
	Webプログラミング	3後		2			○			1					
	電子商取引論	2後		2			○		1						※演習
	企業統治と情報管理	3前		2			○		1						※演習
	組織とマネジメント	3前		2			○		1						※演習
	システムソリューション	3後		2			○		1						※演習
	ネットワークセキュリティ	3後		2			○		1						※演習

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(メディア情報学部 情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	事例研究	3後・4前	2				○		7	2	1			
	卒業研究(1)	4前・後	3				○		7	2	1			
	卒業研究(2)	4後・前	3				○		7	2	1			
	小計(35科目)	—	27	44	0	—	—	—	7	2	1	0	0	兼1
合計(250科目)		—	44	288	0	—	—	—	7	2	1	0	0	兼120
学位又は称号	学士(情報学)	学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
外国語科目8単位以上(必修4単位を含む)、体育科目1単位以上(選択必修1単位を含む)、教養科目10単位以上、PBL科目3単位(必修3単位)、専門基礎科目30単位以上(必修10単位を含む)、専門科目60単位以上(必修27単位、選択必修2単位を含む)を修得し、合計124単位以上を修得すること。  (履修科目の登録の上限:20単位(半期))							1学年の学期区分				2学期			
							1学期の授業期間				14週			
							1時限の授業時間				100分			

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	人文学系	哲学(1)		2		○									兼1	集中 ※演習 ※演習
	哲学(2)	1後		2		○									兼1	
	倫理学(1)	1前		2		○									兼1	
	倫理学(2)	1後		2		○									兼1	
	倫理学(a)	1後		1		○									兼1	
	倫理学(b)	1後		1		○									兼1	
	文化人類学	1後		2		○									兼1	
	視覚芸術史(1)	1前		2		○									兼1	
	視覚芸術史(2)	1後		2		○									兼1	
	デザイン概論(1)	2前		2		○									兼1	
	デザイン概論(2)	2後		2		○									兼1	
	日本文学	2前		2		○									兼1	
	日本史(1)	1前		2		○									兼1	
	日本史(2)	1後		2		○									兼1	
	西洋史(1)	1前		2		○									兼1	
	西洋史(2)	1後		2		○									兼1	
	民俗学(a)	1後		1		○									兼1	
民俗学(b)	1後		1		○									兼1		
宗教学	1前		2		○									兼1		
社会科学系	社会学(1a)	1前		1		○									兼1	
	社会学(1b)	1前		1		○									兼1	
	社会学(2a)	1後		1		○									兼1	
	社会学(2b)	1後		1		○									兼1	
	社会学入門(a)	1前		1		○									兼1	
	社会学入門(b)	1前		1		○									兼1	
	経済学(1a)	1前		1		○									兼1	
	経済学(1b)	1前		1		○									兼1	
	経済学(2a)	1後		1		○									兼1	
	経済学(2b)	1後		1		○									兼1	
	日本経済論(a)	3前		1		○									兼1	
	日本経済論(b)	3前		1		○									兼1	
	政治学(1a)	1前		1		○									兼1	
	政治学(1b)	1前		1		○									兼1	
	政治学(2a)	1後		1		○									兼1	
	政治学(2b)	1後		1		○									兼1	
	日本の政治(a)	2前		1		○									兼2	
	日本の政治(b)	2前		1		○									兼2	
	国際関係論(1a)	1前		1		○									兼1	
	国際関係論(1b)	1前		1		○									兼1	
	国際関係論(2a)	1後		1		○									兼1	
	国際関係論(2b)	1後		1		○									兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1	
民法	1後		2		○									兼1		
法学	1前		2		○									兼1		
西洋経済史	1前・後		2		○									兼1		
人文地理学(a)	1前		1		○									兼1		
人文地理学(b)	1前		1		○									兼1		
現代中国論	1後		2		○									兼1		
人間科学系	教育学(1a)	1前		1		○									兼2	
	教育学(1b)	1前		1		○									兼2	
	教育学(2a)	1後		1		○									兼2	
	教育学(2b)	1後		1		○									兼2	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	スポーツ・健康論	1前・後		2		○									兼5	
	心理学(1a)	1前		1		○									兼1	
	心理学(1b)	1前		1		○									兼1	
	心理学(2a)	1後		1		○									兼1	
	心理学(2b)	1後		1		○									兼1	
	心理学入門	1前		2		○									兼1	
	社会とジェンダー(a)	1後		1		○									兼1	
	社会とジェンダー(b)	1後		1		○									兼1	
	国際化と異文化理解(a)	3後		1		○									兼1	
	国際化と異文化理解(b)	3後		1		○									兼1	
	日本文化の伝承(a)	1後		1		○									兼2	
	日本文化の伝承(b)	1後		1		○									兼2	
	自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)	1前・後		1			○								兼1
		データサイエンスリテラシー(2)	1前・後		1			○								兼1
文系のための数理基礎		1前・後		2		○									兼1	
論理学(1a)		1前		1		○									兼1	
論理学(1b)		1前		1		○									兼1	
論理学(2a)		1後		1		○									兼1	
論理学(2b)		1後		1		○									兼1	
生活とメディア		2前		2		○									兼1	
現代の物理(a)		1前		1		○									兼1	
現代の物理(b)		1前		1		○									兼1	
現代の化学		1前		2		○									兼1	
現代の地学		1前		2		○									兼1	
科学技術と社会		2後		2		○									兼1	
その他		ボランティア(1)	1・2・3・4		1				○		1					
	ボランティア(2)	1・2・3・4		1				○		1						
	教養ゼミナール(1)	1前・後		2				○							兼11	
	教養ゼミナール(2)	1前・後		2				○							兼4	
	教養特別講義(1)	1前・後		2			○								兼2	
	教養特別講義(2)	1前・後		2			○								兼1	
外国語科目	英語科目(スキル)															
	Communication Skills(1)	1前		1				○							兼10	
	Communication Skills(2)	1後		1				○							兼10	
	Reading and Writing(1a)	1前		0.5				○							兼10	
	Reading and Writing(1b)	1前		0.5				○							兼10	
	Reading and Writing(2a)	1後		0.5				○							兼10	
	Reading and Writing(2b)	1後		0.5				○							兼10	
	Basic English Training(a)	2前・後		1				○							兼2	
	Basic English Training(b)	2前・後		1				○							兼2	
	Grammar(1a)	2前・後		1				○							兼2	
	Grammar(1b)	2前・後		1				○							兼2	
	Grammar(2a)	2前・後		1				○							兼2	
	Grammar(2b)	2前・後		1				○							兼2	
	Test Taking Skills(1a)	2前・後		1				○							兼2	
	Test Taking Skills(1b)	2前・後		1				○							兼2	
	Test Taking Skills(2a)	2前・後		1				○							兼3	
	Test Taking Skills(2b)	2前・後		1				○							兼3	
	Test Taking Skills(3a)	2前・後		1				○							兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Test Taking Skills(3b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(1a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(1b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(2a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(2b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(3a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Reading(3b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(1a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(1b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(2a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(2b)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(3a)	2前・後		1			○								兼2
	Critical Listening(3b)	2前・後		1			○								兼2
	Communication Strategies(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Communication Strategies(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Communication Strategies(2a)	2前・後		1			○								兼1
	Communication Strategies(2b)	2前・後		1			○								兼1
	Communication Strategies(3a)	2前・後		1			○								兼1
	Communication Strategies(3b)	2前・後		1			○								兼1
	Academic English(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Academic English(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Academic English(2a)	2前・後		1			○								兼3
	Academic English(2b)	2前・後		1			○								兼3
	Academic English(3a)	2前・後		1			○								兼1
	Academic English(3b)	2前・後		1			○								兼1
英語科目 (教養)	Literature in English(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Literature in English(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Literature in English(2a)	2前・後		1			○								兼2
	Literature in English(2b)	2前・後		1			○								兼2
	Global Culture(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Global Culture(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Global Culture(2a)	2前・後		1			○								兼1
	Global Culture(2b)	2前・後		1			○								兼1
	Language Sciences(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Language Sciences(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Language Sciences(2a)	2前・後		1			○								兼1
	Language Sciences(2b)	2前・後		1			○								兼1
	Global Society(1a)	2前・後		1			○								兼1
	Global Society(1b)	2前・後		1			○								兼1
	Global Society(2a)	2前・後		1			○								兼1
Global Society(2b)	2前・後		1			○								兼1	
共通	海外・特別選抜セミナー	1前・後		2			○								兼1
	外国語特別講義(a)	2前・後		1			○								兼1
	外国語特別講義(b)	2前・後		1			○								兼1
英語以外の 外国語科目	ドイツ語(1a)	2前・後		1			○								兼3
	ドイツ語(1b)	2前・後		1			○								兼3
	ドイツ語(2a)	2前・後		1			○								兼3
	ドイツ語(2b)	2前・後		1			○								兼3
	フランス語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	フランス語(2a)	2前・後		1			○								兼1

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	フランス語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	スペイン語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	イタリア語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	中国語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(1a)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(1b)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(2a)	2前・後		1			○								兼1
	アラビア語(2b)	2前・後		1			○								兼1
	韓国語(1a)	2前・後		1			○								兼2
	韓国語(1b)	2前・後		1			○								兼2
	韓国語(2a)	2前・後		1			○								兼2
	韓国語(2b)	2前・後		1			○								兼2
日本語表現(a)	2前・後		1			○								兼1	
日本語表現(b)	2前・後		1			○								兼1	
体育科目	基礎体育(1a)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育(1b)	1前		0.5				○							兼4
	基礎体育(2a)	1後		0.5				○							兼5
	基礎体育(2b)	1後		0.5				○							兼5
	応用体育(1)	2前・後		1				○							兼12
応用体育(2)	2前・後		1				○							兼12	
PBL科目	SD PBL(1)	1通	1				○			2					オムニバス
	SD PBL(2)	2後	1				○		1	1					オムニバス
	SD PBL(3)	3後	1				○		2	2					オムニバス
専門基礎科目	マーケティング概論	1前	2				○			1					
	経営学概論	1前	2				○			1					
	都市の経済学	1後	2				○			2					オムニバス
	世界の都市	1後	2				○			2					オムニバス
	都市計画(1)	1前		2			○		1	1					オムニバス
	世界の住まい	1前		2			○								兼1
	都市の文化・芸術	2前		2			○								兼1
	民法と商法	3前		2			○								兼1
	会計学概論	2後		2			○		1						
	統計と分析	3前		2			○			1					
	国際都市経営概論(1)	1後		2			○		1						
	国際都市経営概論(2)	2前		2			○		2						オムニバス
演習領域	コンピュータ演習	1前	2				○			2					兼3
	グラフィックデザイン演習	1前	2				○			1					兼3
	まちの観察	2前	2				○			1					
	Facilitation & Communication	2後		2			○			2					兼1
	空間デザイン演習(1)	1前	3				○			1					兼4
	空間デザイン演習(2)	1後	2				○		2	1					兼3
	空間デザイン演習(3)	1後	2				○		2	1					兼3
	空間デザイン演習(4)	2前	2				○		1						
	都市デジタルシミュレーション(1)	1後	2				○			3					兼2
	都市デジタルシミュレーション(2)	2後	2				○		1	3					兼1

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	都市デジタルシミュレーション(3)	2後		2				○		1	3				兼1	オムニバス オムニバス オムニバス
	マーケティングリサーチ演習(1)	1後	2					○			6					
	マーケティングリサーチ演習(2)	2後		2				○		1	2					
	マーケティングリサーチ演習(3)	2後		2				○			3					
	小計(26科目)	—	21	32	0			—		8	11				兼17	
専門科目	都市の社会学	1後		2				○			1					オムニバス オムニバス
	経営戦略論	3前		2				○			1					
	経営財務	3前		2				○		1						
	Urban Area Marketing	2後		2				○			2					
	Urban Tourism	3後		2				○		1	1					
	広告コミュニケーション	3後		2				○							兼1	
	ブランド戦略	3後		2				○			1					
	集客学	2後		2				○		1						
都市のマネジメント	プロジェクトマネジメント	3前		2				○			1					兼1
	住宅と不動産	2前		2				○		1						
	都市空間の演出	2後		2				○			1					
	Urban Development & Management	2後		2				○		1						
	都市ビジネス	2後		2				○		1						
	エリアマネジメント	2後		2				○		1						
	コミュニティマネジメント	2前		2				○			1					
都市のデザイン	都市デザイン	1後		2				○		1						兼1 兼1 兼1
	建築空間論	3前		2				○			1					
	Urban Landscape	3前		2				○		2						
	Urban Environment Design	3前		2				○			2					
	インテリアデザインと実務	2前		2				○		1						
	建築史	2前		2				○							兼1	
	住宅計画	3後		2				○							兼1	
	リノベーションとコンバージョン	3前		2				○							兼1	
都市のしくみ	都市政策	1後		2				○		1					兼1 オムニバス	
	Urban Mobility	3後		2				○			2					
	ユニバーサルデザイン	2後		2				○			1					
	住まいの構法・生産・流通	2後		2				○			1					
	まちの防災	2前		2				○			1					
	住まいと環境	2後		2				○			1					
	都市計画(2)	3前		2				○		1						
建築士対応科目	建築法規	2前		2				○			1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	建築材料	2前		2				○			1					
	建築構造	3後		2				○								
	構造力学(1)及び演習	3前		3				○								※演習
	構造力学(2)及び演習	3後		3				○								※演習
	鉄筋コンクリート構造 環境と設備	3後 3前		2 2				○ ○								
総合領域1	キャリアデザイン(1)	3前	1					○			1					
	キャリアデザイン(2)	3前	1					○			1					
	プロジェクト演習(1)	3前	2						○	8	10					
	プロジェクト演習(2)	3後	2						○	8	11					
総合領域2	海外研修(1)	1・2・3・4		2						1					集中	
	海外研修(2)	1・2・3・4		1						1					集中	
	インターンシップ(1)	1・2・3・4		1						1					集中	
	インターンシップ(2)	1・2・3・4		1						1					集中	
	卒業研究(1)	4前・後	3						○	8	10					
	卒業研究(2)	4後・前	3						○	8	10					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(都市生活学部 都市生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	まちづくり演習(1)	1・2・3・4		2				○		1						集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中
	まちづくり演習(2)	1・2・3・4		1				○		1						
	まちづくり演習(3)	1・2・3・4		1				○		1						
	国際ワークショップ(1)	1・2・3・4		2					○	1						
	国際ワークショップ(2)	1・2・3・4		1					○	1						
	国際ワークショップ(3)	1・2・3・4		1					○	1						
	特別講義(1)	1・2・3・4		2			○				2					
	特別講義(2)	1・2・3・4		2			○				2					
	特別講義(3)	1・2・3・4		2			○			1						
	Special Lecture(4)	1・2・3・4		2			○			1						
	Special Lecture(5)	1・2・3・4		2			○			1						
	小計 (58科目)	—	12	99	0			—		8	11	0	0	0	兼10	
	合計 (267科目)	—	40	335	0			—		8	11	0	0	0	兼123	
学位又は称号		学士(都市生活学)		学位又は学科の分野			工学関係, 経済学関係, 家政関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教養科目10単位以上、外国語科目8単位以上（必修4単位を含む）、体育科目1単位以上（選択必修1単位を含む）、PBL科目3単位（必修3単位）、専門基礎科目37単位以上（必修21単位を含む）、専門科目53単位以上（必修12単位を含む）を修得するとともに各コースのいずれかの要件を充たし、合計124単位以上（数理・データサイエンスプログラム4単位（データサイエンスに係る選択必修1単位を含む））を修得すること。  ①都市生活創造コース 専門基礎科目（コース選択必修から16単位(演習領域8単位含む)）、専門科目（コース選択必修から10単位） ②国際都市経営コース 専門基礎科目（コース選択必修から16単位(演習領域4単位含む)）、専門科目（コース指定科目から6単位選択必修、コース選択必修から10単位） （履修科目の登録の上限：20単位（半期））							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		14週							
							1時限の授業時間		100分							

授 業 科 目 の 概 要			
(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 人文学系	倫理学(1)	講義形式で行う。倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。本講義では、倫理学の基礎となる、私と他者の問題、そして両者を架橋する言語の問題を中心に講義する。私の不思議、世界の不思議、言語の不思議を知ること、他者の何を理解でき、何を理解できないかを考えること、そして、この講義で述べられたことは本当に正しいのかを批判的に検討できるようになることが目標である。	
	倫理学(2)	バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立することが多い。生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、日常生活の中に置き直し、自らの問いとして考え直してみよう。医学と医療の違いを理解し、生命医学倫理の諸問題に対して自分の意見をはっきりと述べられるようになること、また、自分とは異なる見解に対しても正しく理解できるようになることが目標である。	
	倫理学(a)	古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、我々が生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてそうした問題が問われるようになってきている。この時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、環境倫理学を扱う。	
	倫理学(b)	古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、我々が生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてそうした問題が問われるようになってきている。この時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、情報倫理学を扱う。	
	視覚芸術史(1)	本授業は、講義形式で行う。芸術は、五感で経験されるものだが、ここでは視覚で認識される「視覚芸術」を対象として、その歴史について講じる。視覚芸術とは、絵画と彫刻のみならず、建築やデザインもその範疇に含まれる。近現代の視覚芸術の作品を理解していくことで、受講者が芸術に興味を持てるように進めていきたい。また、生きる上で芸術は必要なのか、あるいは、「芸術とは何か」という問いに向き合う姿勢を本講義で培うことも一つの目標としたい。	
	視覚芸術史(2)	本授業は、講義形式で行う。講義の前半は、視覚芸術の中の特に近代絵画と彫刻を中心としてその歴史を講じる。17世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義(モダニズム)」がはじまり、それによって18世紀の産業革命が起こったのだが、芸術の分野がそれを自覚するのは19世紀の半ばといわれている。絵画におけるモダニズムの始まりである印象主義より講じていく。講義の後半は、近代建築とデザインを中心としてその歴史を講じる。さまざまな建築やデザインの誕生の背景を理解することで、受講者が今日の建築やデザインの問題を身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。	
	デザイン概論(1)	本授業は、演習を取り入れながら講義形式で行う。「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導くよう本講義を行いたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くなりすぎないよう「もの」に即して考察していく。特に「椅子」に注目し、その歴史的背景などを講じる。演習課題として、実際の椅子を実測し、さらにオリジナルの椅子をデザインし、その模型を製作する。私たちの生活の中でデザインが果たす多様な役割についても受講者とともに考えていきたい。本講義を履修するに当たり視覚芸術史(1)・(2)を履修済みのこと。	講義20時間 演習10時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デザイン概論(2)	本授業は、演習を取り入れながら講義形式で行う。本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。江戸時代までに日本は独自の「工芸」を発展させてきた。これは、芸術というよりは、むしろデザインの領域として考えられる対象なのである。そこで演習課題の一つとして、日本の伝統的な工芸品である屏風の模型を製作する。また、デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)・(2)を履修済みのこと。	講義20時間 演習10時間
	日本史(1)	授業は講義形式で行う。日本の歴史について、古代から江戸時代中期までの前近代社会を中心に概説する。各時代ごとに、トピックを取り上げていく手法を取る。全体を通じた視点として、(1)前近代日本の「国家」構造と東アジア世界の関係、(2)紛争解決方法の変遷を設定する。以上を通じて、(1)歴史学の議論が複数の史料によって重層的に構築されたものであること、(2)歴史的事実はひとつでも、視点を変えることで歴史学の議論が多様たりえること、各時代の特徴と時代的な推移を多面的に考える素養を身につけることを目標とする。	
	日本史(2)	授業は講義形式で行う。日本の近現代史について、江戸時代後期の幕末維新期から平成初期までを対象に概説する。明治～昭和初期においては近代日本国家の歴史と戦争、戦後史では日本と冷戦下の国際政治の関係を中心に講じる。特に戦前期については、政治家や軍人だけでなく、民衆やメディアと政治・戦争の関係を見ていく。以上を通じて、(1)近代国家としての日本が戦争の歴史と密接に関わることを理解し、(2)評価の多様な日本近代史について、最低限の知識を身につけ、自分なりの見解を歴史学的手法に基づいて考え、提示できる力を養うことを目標とする。	
	西洋史(1)	授業は講義形式で行う。古代ローマから中世末期にいたるまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』の中のポピュラーな話(「長靴をはいた猫」や「ハーメルンの笛吹き男」)を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解くことも試みる。以上のように、古代ローマから中世末期にいたるまでのヨーロッパ前近代社会の変化を多面的に学ぶことを目標とする。	
	西洋史(2)	授業は講義形式で行う。ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化(中世的都市から大都会への発展)を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物(コーヒー、茶、砂糖)やレジャー(産業革命に伴う鉄道旅行の誕生)など日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解くことにする。以上のように、ルネサンス以降の近世・近代ヨーロッパ社会の変化を多面的に学ぶことを目標とする。	
社会科学系	社会学入門(a)	社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのかを思考していく。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。本講義では、時間、記憶、都市空間(渋谷を例に)をキーワードにして、授業を展開する。	
	社会学入門(b)	社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのかを思考していく。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。本講義では、メディア論、ジェンダー、カルチュラルスタディーズをキーワードにして、授業を展開する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本経済論(a)	この科目は、日本経済について大学卒業者にふさわしい知識を身に付けるためのものである。日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。そして戦前戦後の日本経済史(戦前の財閥、高度経済成長、石油危機、バブルとその崩壊など)、財政政策(財政赤字と再建)、金融政策(日銀の役割)、地方経済の活性化問題(東日本大震災と復興、シャッター通り)をテーマに講義する。おのずと講義の中心は戦後の日本経済になることに留意されたい。	
	日本経済論(b)	この科目は、日本経済について大学卒業者にふさわしい知識を身に付けるためのものである。日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。	
	西洋経済史	授業は講義形式で行う。「大航海時代」を出発点にして、「コロンブスの交換」、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、オランダの隆盛原因、英蘭の東インド会社、産業革命の実態と社会的影響力、世界システム論、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。これらを通じて、世界交易を支配した覇権国家としてのオランダ、イギリス、アメリカ合衆国の盛衰を経済面から考察してみる。経済を軸にした「世界の一体化」の過程を理解することを目標とする。	
	日本の政治(a)	本授業は日本政治における選挙制度や政治・行政の役割といった、政治学における基本的な知識を学ぶ。この科目は社会科学的な思考を学ぶことを目標とし、本授業を通じて政治現象に対する見解を持てるようになることを目的とする。本講義では、戦後日本の政治史(終戦、55年体制、高度経済成長、低成長、バブル、地方創成の必要、以上の段階での政治的推移)、選挙制度(大選挙区、中選挙区、小選挙区)と有権者の行動、並びに選挙制度改革を取り上げる。	
	日本の政治(b)	本授業は日本政治における選挙制度や政治・行政の役割といった、政治学における基本的な知識を学ぶ。社会科学的な思考を学び、本授業を通じて政治現象に対する見解を持てるようになることを目的とする。本講義が扱うのは政党、国会の役割、官僚制、地方政治の有り様、利益団体、マスメディアと政治の各項目である。	
	日本国憲法	授業は講義形式で行う。憲法は、日常生活で意識される機会多くはないが、国家の基本法であり非常に重要である。本講義では、国家の基本法である憲法の全体像を学ぶことを目標とする。憲法についてより深く理解するために、まず、法と歴史について概観する。そのうえで、憲法とは何か、その意義および成り立ち、憲法の基本原理、国家の統治機構の枠組み(司法権、行政権、立法権)、人権(精神的自由権、経済的自由権、社会権等)について、条文および判例を中心に学習する。必要に応じて、基本的な法律用語の意味についても説明する。	
	法学	授業は講義形式で行う。本講義では、法学についての基礎的なことから概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール(総則、物権、債権総論、契約)について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけることが目標である。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	民法	授業は講義形式で行う。本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけることが目標である。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。	
人間科学系	心理学入門	講義形式の授業である。ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみならず見方、もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみならず見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。	
	社会とジェンダー(a)	基本的には講義形式の授業である。ジェンダーとは社会的に作られた性差のことを意味する。私たちの社会には多くの種類の「性差」があり、今や、ジェンダーという概念は社会について考える際の最も重要なキーワードの一つになっている。この授業では、ジェンダー概念や男女平等について学び、また現代社会のジェンダーに関する様々な課題を考えていく。この科目を履修する学生は、性差別について気付き、公正や平等といった価値を追求することが求められる。具体的には、国連と日本の男女平等に向けての動き、女性差別撤廃条約、男性差別、性の多様性などを取り上げる。	
	社会とジェンダー(b)	基本的には講義形式の授業である。ジェンダーとは社会的に作られた性差のことを意味する。私たちの社会には多くの種類の「性差」があり、今や、ジェンダーという概念は社会について考える際の最も重要なキーワードの一つになっている。この授業では、ジェンダー概念や男女平等について学び、また現代社会のジェンダーに関する様々な課題を考えていく。この科目を履修する学生は、性差別について気付き、公正や平等といった価値を追求することが求められる。具体的には、ジェンダーの発達心理学、男女間のDV、少子化対策、メディアなどを取り上げる。	
	日本文化の伝承(a)	授業は講義形式で行う。中世(院政期～戦国期)を中心に、前近代日本の文化を講ずる。文化を学ぶことで中世社会の特質を考え、様々な文化が現代日本社会にどのような影響を及ぼしたのか、あるいは歴史を経る中でどう変化したのかを考えていく。中世というと武士が主役というイメージが強いが、文化の牽引役は公家や僧侶であり、また民衆も担い手のひとつである。教科書の中心である政治史では、見落としてしまう日本史の基層を学んでいく。	
	日本文化の伝承(b)	授業は講義形式で行う。中世(院政期～戦国期)を中心に、前近代日本の文化と社会習俗を講ずる。文化という言葉からは、絵画や文学・茶道が連想されるだろう。しかし社会習俗も対象とすることで、中世社会の特質をより掘り下げて考えることが可能となる。様々な習俗が現代日本社会にどのような影響を及ぼしたのか、または歴史を経る中でどういった変化したのかを考えていく。文化や社会習俗は、少し時代をさかのぼるだけで常識がまったく異なる事が少なくない。「当たり前を疑う」ことは歴史学に留まらず学問の基礎であり、柔軟な思考力・発想力を身につけることを目標とする。	
	スポーツ・健康論	授業は、講義形式で行う。人間が生活する上で必要不可欠である「健康」がスポーツとどのように関連しているかについて、様々な角度から考え、理解する事を目的とする。特に、近年の学生の体力低下が著しい中、スポーツの重要性、現代社会と生活習慣病の関連、そして、スポーツの実践が実際に心身にどのような効果をもたらすかなどを扱う。また、睡眠、栄養、喫煙、飲酒、ストレスなど生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について深く解説する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)	IoT機器やSNSなどを通じて得られるデータが溢れる中、それらのデータから如何に情報・知識を引き出し、行動するかが分野を問わず、普段の生活にも非常に重要になってきている。本科目では、データサイエンスに関する素養として、課題解決におけるデータ活用のポイントを理解することを目標とする。身近なデータサイエンスの応用事例を学習し、さらにグループワークで事例調査やデータ分析技術の体験を行うことで、データサイエンスでは何が実現でき、どのような役に立つかを理解する。	
	データサイエンスリテラシー(2)	データサイエンスリテラシー(1)では、様々な分野での応用を知ることで課題解決におけるデータ活用のポイントを理解したが、本科目では、実際にデータを利用することで、その理解をさらに深めることを目標とする。まず、簡単なサンプルデータや分析ツールを使って、データ分析の基礎を習得する。また、グループワークを通じて、自ら設定した調査課題について必要なデータの収集、分析、可視化を行い、調査課題に関するダッシュボードを作成することにより、課題解決のプロセスを体験・習得する。	
	環境問題と社会	地球環境問題と社会との関係性への理解を深めるために、経営活動や生産活動と環境負荷の相関関係や、環境マネジメントの重要性について環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001に基づいて基礎的な知識を習得する。SDGs (Sustainable Development Goals) に関する知識も習得しながら、地球に住む人(ユーザー)が生活し、そのために労働などの活動する社会システムの発展の重要性と、持続的に環境が維持されることの重要性の両立に向けた課題などを、事例を用いながら具体的に理解し、そ課題に取り組める知識を習得する、	
	情報編集入門	今日、スマホやタブレット、PCなどデジタルツールの普及と発展により、誰でも簡単にテキスト、写真、動画などの情報発信ができるようになった。このような情報発信の量的増加の次に求められるのは情報の質的向上である。人々の感性に訴えるようなメッセージを発信し、共感を得るためにはツールを使って単に情報を発信するだけで無く、自分が伝えたい情報が相手に効果的に受け取られるように編集するスキルが重要になる。この授業では情報の読み取り方のトレーニングを導入とし、その発信のための編集のスキル獲得へつなげることを目的とする。	
グローバル教養系	Japan Studies	国際感覚を身につけ、国際社会で活躍するためには、まずは自国のことを知る必要がある。本科目では、日本の歴史、文化、社会など様々な面について学び、グローバルな視野で日本を見つめなおすと共に、自分自身の行動や考え方を振り返り、国際社会の中の日本において今後自分がどのように貢献できるかを考えていく。文献講読や授業内でのディスカッションを通し、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につける。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
	Global Studies(1)	人文学の視点から、世界情勢や各国の社会的背景への知識・理解を深めると共に、我々が直面している諸問題について多様な視点から分析する。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、想像力をもって問題解決への糸口を探り、国際社会において今後自分がどのように貢献できるかを考えていく。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
	Global Studies(2)	社会科学の視点から、世界情勢や各国の社会的背景への知識・理解を深めると共に、我々が直面している諸問題について多様な視点から分析する。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、想像力をもって問題解決への糸口を探り、国際社会において今後自分がどのように貢献できるかを考えていく。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授 業 科 目 の 名 称	講 義 等 の 内 容	備 考
	Global Studies(3)	自然科学の視点から、世界情勢や各国の社会的背景への知識・理解を深めると共に、我々が直面している諸問題について多様な視点から分析する。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、想像力をもって問題解決への糸口を探り、国際社会において今後自分がどのように貢献できるかを考えていく。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
	Global Studies(4)	人文学、社会科学、自然科学の各分野を横断的に扱い、世界情勢や各国の社会的背景への知識・理解を深めると共に、我々が直面している諸問題について多様な視点から分析する。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、想像力をもって問題解決への糸口を探り、国際社会において今後自分がどのように貢献できるかを考えていく。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
	Intercultural Understanding(1)	グローバル社会で活躍する人材に不可欠な異文化理解を深め、多文化共生について多角的に考える。本科目では特に各国の根幹を成す歴史や思想に目を向け、現在の社会が形成された経緯についての知識・理解を深める。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、差異による対立や軋轢といった問題を解決するためにどのような貢献ができるかを考えていく。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
	Intercultural Understanding(2)	グローバル社会で活躍する人材に不可欠な異文化理解を深め、多文化共生について多角的に考える。本科目では特に各国の文化的・社会的事情に目を向け、国家や民族といったレベルだけでなく、個人レベルも生まれている諸問題を理解し、考えを深めていく。様々な文献講読、授業内でのディスカッションを通し、情報を収集、分析する能力、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につけ、差異による対立や軋轢といった問題を解決するためにどのような貢献ができるかを考える。授業は少人数制で行われ、英語で進められる。	
その他	教養特別講義	グローバル化した社会で必要とされる人材には、狭い専門領域の知識を使いこなす専門力だけでなく、確かな基礎学力の上に、国際的で多角的な視野と他者を尊重する姿勢を持ち、主体的に判断して現実問題に柔軟に対処できる総合力が求められる。そこで、物事を深く理解するための多面的な視野の習得や個人の主体的な判断力の育成、国際的な視野を含めたバランス感覚の獲得、専門教育に対応できる基礎的能力の育成、現代社会を生きるうえで不可欠なコミュニケーション能力の育成などを目的として、担当教員がそれぞれの専門性を活かしたテーマを設定して、学生の幅広い知的好奇心に応えるための講義をこの科目では実施する。	
	ボランティア(1)	学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって、災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動、すなわち国内におけるボランティア活動で得られた体験や知見を活動報告書などの所定の書式にまとめ、定められた手続きを行った上で、その成果が顕著であると認められた者に対して、その活動時間数に応じた単位を認定する。ただし、政治や宗教に関わるボランティア活動は含めない。	
	ボランティア(2)	学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって、災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動、すなわち国内におけるボランティア活動で得られた体験や知見を活動報告書などの所定の書式にまとめ、定められた手続きを行った上で、その成果が顕著であると認められた者に対して、その活動時間数に応じた単位を認定する。ただし、政治や宗教に関わるボランティア活動は含めない。また、この科目はボランティア(1)の単位を認定された者のみ履修可能である。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インターンシップ(1)	学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが、インターンシップによって、それらの違いを学生時代に体得できる。また、就職を希望する企業が、どのような仕事をしているかを事前に知ることができる。本実習は、実社会での労働体験を通じて、学生の今後の学習および進路について考える機会を提供することを目的とする。実習は原則として長期休暇の期間に行う。評価は、実習先のインターンシップ修了証明書および本人の実習報告書等により科目担当者が行う。	
	インターンシップ(2)	学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが、インターンシップによって、それらの違いを学生時代に体得できる。また、就職を希望する企業が、どのような仕事をしているかを事前に知ることができる。本実習は、実社会での労働体験を通じて、学生の今後の学習および進路について考える機会を提供することを目的とする。実習は原則として長期休暇の期間に行う。評価は、実習先のインターンシップ修了証明書および本人の実習報告書等により科目担当者が行う。インターンシップ(2)はインターンシップ(1)を単位認定された者だけが受講でき、インターンシップ(1)と同内容の実習はインターンシップ(2)の単位としては認められない。	
外国語科目	英語科目 English I-A	一年生を対象にした必修科目で、ブレースメントテストの結果を踏まえて履修者を5段階のレベルに分け、授業を行う。多様な内容の英文やAV教材の学習を通して、読解力を養うとともに、提示されたトピックについてのディスカッションやライティングも行う。ライティングにおいては、パラグラフライティングの基礎を学び、情報提供型のパラグラフをまとめ、それを発表する。本科目を通して、大学生として必要な総合的英語運用能力の基礎を固める。	
	English I-B	English I-Aと同様、一年生を対象にした必修科目で、ブレースメントテストの結果を踏まえて履修者を5段階のレベルに分け、授業を行う。多様な内容の英文やAV教材の学習を通して、読解力を養うとともに、提示されたトピックについてのディスカッションやライティングも行う。ライティングにおいては、パラグラフライティングの基礎を学び、情報提供型のパラグラフをまとめ、それを発表する。本科目を通して、大学生として必要な総合的英語運用能力の基礎を固める。	
	English II-A	一年生を対象にした必修科目であり、5段階のレベルに分けて授業を展開する。English I-A, Bで習得した英語運用能力をふまえ、より高度なレベルの英文を使用したテキストの理解を目指すと共に、幅広い内容について、複数の見解を適切に関連付けながら、自分の意見を形成し、それを発信する能力を養う。また、説明型のパラグラフをまとめ、それを発表することを通して、より洗練された英語を駆使できる力を養う。	
	English II-B	English II-Aに引き続き、一年生を対象にした必修科目であり、5段階のレベルに分けて授業を展開する。English I-A, Bで習得した英語運用能力をふまえ、より高度なレベルの英文を使用したテキストの理解を目指すと共に、幅広い内容について、複数の見解を適切に関連付けながら、自分の意見を形成し、それを発信する能力を養う。また、説明型のパラグラフをまとめ、それを発表することを通して、より洗練された英語を駆使できる力を養う。	
	English III-A	5段階のレベルに分けて授業を展開する必修科目であり、1年次の必修科目で習得した英語運用能力を踏まえ、より難解なレベルの英文を使用したテキストの理解を目指す。英語によるディスカッションやライティングなど、リーディングを土台としたうえで、コミュニケーションや表現力などアウトプットのスキルも総合的に鍛えていく。ショートエッセイの書き方も学び、その中で、自分の主張を論理的かつ明確にまとめる力も養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English III-B	English III-Aに引き続き、5段階のレベルに分けて授業を展開する。これまでの必修科目で習得した英語運用能力を踏まえ、より難解なレベルの英文を使用したテキストの理解を目指す。英語によるディスカッションやライティングなど、リーディングを土台としたうえで、コミュニケーションや表現力などアウトプットのスキルも総合的に鍛えていく。ショートエッセイの書き方も学び、その中で、自分の主張を論理的かつ明確にまとめる力を高めていく。	
	Reading Comprehension	フィクション、論説、学術論文など幅広い内容のテキストを読むことで、英語読解力を鍛えると共に、物事を深く理解するための視野を広げることを目標とする。英文の表面的な意味の把握だけでなく、筆者の主張や立場、その背景にある社会事象や文化などもリーディングを通じて学んでいく。また、教材についての英語によるディスカッションなど、リーディングを土台にしたうえで、コミュニケーションや表現力などアウトプットのスキルも総合的に鍛える。	
	Debate & Discussion	様々な社会的問題について考え、議論することによって、批判的に考え、論理的かつ的確に自らの考えを表現する力を養成する。ディベートやディスカッションの場でよく使われる表現やテクニックを身につけながら、考えの論理的なまとめ方、説得力のある議論展開の仕方、効果的な反論方法、論点をサポートする資料の取り入れ方などを学んでいく。単に自らの意見を主張するだけでなく、反対意見を理解し、尊重しながら議論を進めることができる力を向上させていく。	
	Presentation Strategies	必修科目で修得した英語運用能力を土台として、英語プレゼンテーション能力をさらに高めることを目指す。トピック選択や提示論題の設定方法を学んだうえで、聞き手の注意を惹くポイントを取り入れながら、論理的かつ明確な文章を作成する方法を習得する。また、伝えたい内容をより効果的に聞き手に伝達するための視覚資料作成やスピーチデリバリーの技術を学び、実践を繰り返しながら、質疑応答にも臆することなく対応できる力を養っていく。	
	English Test Preparation	TOEICにおける高得点獲得を目指す。自分の弱点がどこにあるかを知り、それを克服するための勉強法を探るとともに、問題の傾向やパターンを熟知し、その対応力をしっかり身につけていく。さらに、目標スコア達成に必要な不可欠なレスポンス力、速読の秘訣、時間配分の育成など、正答率を上げるストラテジーを学んでいく。英語学習の方法論や姿勢まで身につけることで、目標スコア到達の先に広がっている可能性を意識し、学習意欲を高めていく。	
	Writing Strategies	必修科目で培ったパラグラフライティングの基礎知識をふまえ、エッセイライティングの手法を学んでいく。多岐にわたるトピックについて、設定した主題をもとに論を組み立て、論拠となる詳細関連事項や具体例などによって論点を補強しながら、明確で説得力ある議論を展開できるような力を養う。そのために必要な文献資料の探し方、その引用方法、パラフレイズの仕方なども学ぶほか、語彙力を高め、議論をよりの確に提示することができる表現の修得を目指す。	
	Academic Reading	学術誌に掲載された英語論文など学術的専門性の高い文献や、文学作品のように、理解をするためには、意味や文体の微妙な違いや、明示的な意味のみならず暗示的な意味にも注意を払う必要のある文献を精読・多読することで、英文読解力ならびに批判的分析能力の向上を目指す。授業では、扱う文献についての英語によるディスカッションを行い、自らの分析を他者の分析と比較考察しながら、内容理解を深めていく。授業は原則として英語で行われる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Academic Discussion	学術的に議論を行う実践を通じて、論理的かつ批評的な思考力を養成する。様々な社会問題や学術的・専門的なトピックを扱い、ディスカッションを効率的に、適切に、規範的に行う方法を活動の中で修得していくことを目指す。授業の前半部分において学術的な議論の原則について知識を培い、後半部分では獲得した知識の実践への応用を狙う。授業運営は双方向活動を基本として、履修者に積極的な発言を求める。授業活動は原則として英語で行われる。	
	Academic Presentation	効果的なプレゼンテーション技能及びライティングによる表現力を向上させ、学術的専門性の高い内容の英語プレゼンテーションを臆することなく行うことのできる力を養う。洗練された語彙を駆使しながら、主題について明瞭な議論展開をし、聞き手の反応を捉えながら話し方にも即座に変化をつけるなどの対処をしたり、質疑応答では、答えに窮するような質問にも柔軟に対応できる力を身につけることで、国際学会での発表にも十分対応できるようになることを目標とする。授業は原則として英語で行われる。	
	English Test Preparation for Academic Purposes	海外大学への留学および進学に向けて英語能力に磨きをかけ、世界基準で入学要件となる難度の高い資格試験における高得点取得を目指す。留学時に必須となる技能の修得を目標とし、限られた時間で専門性の高い長文を読み解く読解力、ノートテイキングを踏まえて講義やアナウンスを聞き取る聴解力をベースとし、理解したことを話す・書くことで出力する訓練を継続的に行う。履修者のレベルによって、授業媒介言語は、日本語もしくは英語とする。	
	Academic Research & Writing	研究力の基盤となる論文作成法を身に着け、学術的専門性の高い論文およびエッセイ執筆能力を養う。授業ではアカデミックに書かれたジャーナル論文、資料、文献を読み解きながら、論文の書き方を主体的に学ぶ活動を行う。基本的なライティングにおける基本的な理解に基づき、パラグラフライティングの徹底、文節を意識した執筆、図表の挿入、英文校正、引用ルール等、論文執筆に必要となる知識を実践によって養う。授業は原則として英語で行われる。	
専門基礎科目	データ科学 データサイエンス概論	データサイエンスとはデータから様々な科学的・社会に有益な知見を引き出すとする技術・アプローチのことであり、データに関する総合的な学問・研究分野と考えられている。その対象となる領域は、データの処理や分析、活用方法など広範囲に及ぶ。この授業ではデータサイエンスの重要性や活用のポイント、課題解決プロセス全体の流れについて学んだ後、様々な分野の具体的な応用事例を知ることで、データサイエンスとは何かを理解することを目標とする。	
	コンピュータ基礎演習	データサイエンスの学習・研究において、コンピュータの利用は必要不可欠である。本演習では、コンピュータの基礎的な事項を演習形式で学ぶ。様々な使用例を自ら実践し、今後の基礎・専門科目の学習（電子メールの使用、様々なソフトウェアを利用したレポート作成、グラフの作成などデータ解析の作業など）に、コンピュータを活用できるようになることを目標とする。まず、Microsoft Word, Excel, Power Pointの利用法を身につけ、さらにはデータサイエンスの学習・研究分野でよく使われるOSのLinuxの基本的な使い方やLinuxコマンド、シェルスクリプトも取り上げる。	
	プログラミング基礎演習	データサイエンスの学習・研究においてコンピュータを活用するためには、既存のソフトウェア（例えばエクセルなど）を利用するだけでなく、与えられた問題に応じて自らプログラムを作成する必要がある。本演習ではデータサイエンス分野で広く使われている Python 言語の文法や最低限しておくべきプログラミングの基礎を学習することを目標とする。本演習は、コンピュータ基礎演習の知識を前提として進める予定であるため、コンピュータ基礎演習を履修していることが望ましい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データサイエンス数学	データサイエンスにおけるデータ分析技術を適切に利用するためにはさまざまな数学の知識が必要となる。そこで、本科目ではデータサイエンスの学習の前提として必要な数学を学ぶことを目標とする。具体的には、数列および関数の極限、逆三角関数や双曲線関数などの初等関数、テイラーの定理、極値問題、区分求積法による定積分の定義、不定積分の計算、広義積分などの微積分学とベクトルの内積と外積、行列とその演算、正則行列および逆行列、行列式とその性質、掃き出し法による連立一次方程式の解法などの線形代数を中心として、統計学や機械学習などの理解に必要な数学を学ぶ。	
	統計学基礎	データからなんらかの知見を引き出すにはデータの集め方、整理の仕方、情報の読み取り方などに関する知識が必要となる。その基盤となる数学分野として統計学の基礎を学ぶことを目的とする。本科目では、記述統計学、確率論、推測統計学の範囲内の統計学を学ぶ。記述統計学からは、平均値、標準偏差などの記述統計量および度数分布表、ヒストグラム、相関などを、確率論からは、確率、確率分布、大数の法則、中心極限定理などを、推測統計学からは信頼区間、仮説検定などを扱う。	
	統計データ解析演習	本演習では、統計ソフトウェアを用いて実データや模擬データを使った分析を実施することにより、確率的分析に慣れ、統計推測法の意味を理解することを目的とする。統計ソフトウェアの簡単な使い方を学んだあと、基本的な記述統計量と標本分布に関する基礎事項を実践して学習する。推測統計学における基礎的な推定・検定法、および分散分析、回帰分析の方法等を実践する。本演習は、統計学基礎及びプログラミング基礎演習の知識を前提として実施するため、それぞれの科目を履修していることが望ましい。	
	情報学理論	データサイエンスにおいて、機械学習をはじめとした情報学の諸技術は重要なツールであり、それらの習得は必須である。そこで、本科目では情報学の諸技術の背景となる基礎理論の中で、データサイエンスに必要となる概念を学ぶことを目標とする。まず、オートマトン、形式言語、計算量などの計算理論、情報量、符号などの情報理論をはじめとした、基本的な概念を学ぶ。さらに、それらに基づいて、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する情報技術の基本知識や情報セキュリティに関する基本知識を習得する。	
	アルゴリズムとデータ構造	効率的なデータ処理方法やデータ管理方法を設計するためにはアルゴリズムとデータ構造の知識は欠かせない。アルゴリズムの基礎となる集合、関係、写像、繰り返しと再帰の性質、また、リスト、木構造、グラフなど代表的なデータ構造の性質を例題を用いて学習し、これらの重要性を認識する。次に、ソート、探索、ハッシュ法、マッチング、グラフ処理といった代表的問題におけるデータの処理アルゴリズムとその特徴について学ぶ。情報学理論の知識を前提とするため、情報学理論を履修していることが望ましい。	
	機械学習論	教師あり学習、強化学習、教師なし学習などの各分野にわたって多くの事例を体系だてて紹介することから始め、その後、教師あり学習、教師なし学習、強化学習、深層学習を含む機械学習の主要なアルゴリズムやその評価方法を理解する。具体的には、分類/回帰、クラスタリングや次元削減についてのアルゴリズムやその評価方法を学習する。アルゴリズムの選択と評価指標が、学習されたモデルの質にとってどれくらい重要であるか理解することを目標とする。本講義は、アルゴリズムとデータ構造の知識を前提として進める予定であるため、アルゴリズムとデータ構造を履修していることが望ましい。	
	データマイニング	データマイニングとは機械学習や統計的手法を用いてデータから知識を掘り出す手法をいう。本科目ではデータマイニングの概念を理解するとともに、データマイニングで典型的に解析に利用される手法を学ぶ。また、ビッグデータとよばれる巨大なデータを取り扱うことを前提とすることが多いため、ビッグデータの取り扱いについても学ぶ。本講義は、解析手法の理解のために統計学基礎および機械学習論を、ビッグデータの取り扱いのためにアルゴリズムとデータ構造を履修していることが望ましい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データベース	データを効率的に蓄積し活用するためには、データベースを利用する必要がある。本科目では、データベースを正しく理解する上で必要な理論とその利用方法について習熟することを目標とする。関係データベースを中心として、データモデル、関係の概念などの理論的バックグラウンドから、データベースの作成、関係データベースのクエリ言語SQLを用いた検索、プログラムからの関係データベース利用など、関係データベースの利用に必要な手法を学ぶ。また、NoSQLなど、最近の技術動向についても学ぶ。本講義は、アルゴリズムとデータ構造の知識を前提として進める予定であるため、アルゴリズムとデータ構造を履修していることが望ましい。	
	データ社会論	現在社会において私たちは、大量のデータを活用して生活している。クラウドを用いたデータの同期、共同作業、SNS、ネットショッピング、ネットワークゲームなど、データの活用は我々に大きな利便性や楽しみをもたらしている。その一方、個人情報の問題、著作権の問題、誹謗中傷、改ざんや漏えいなど様々な問題と隣り合わせである。本授業では、データの社会的な利用状況を理解した上で、現代におけるデータがもたらす社会的な利便性、影響、問題、倫理について学ぶ。	
	量的ユーザー調査	よりよいシステムやフレームワークをデザインするためには、システムのユーザーインタフェース (UI) やユーザーエクスペリエンス (UX) を適切に評価することが重要となる。本授業では、ユーザーの生理・認知・心理・行動などを科学的 (量的) に測定・分析するための理論や手法を学ぶ。まず、実験・調査計画を立案し、実験・質問紙調査・行動観察などを用いてデータを収集する手法を習得する。次に、収集したデータを統計的に分析する手法を習得する。実際に統計ソフトを用いてデータを分析し、統計的分析結果の解釈方法、結果の示し方まで学ぶ。	
	質的ユーザー調査	デザインにおいてはユーザーの活動を観察し、その結果をカタチに反映することが必要である。本授業では定性的なデータに着目し、ユーザーの活動を把握する調査手法を代表的な分析法を使用して学ぶ。具体的にはグループを組み、フィールドへの入り方を学び、フィールドワークを行い、現場においてユーザーの活動を観察して定性的分析を行う手法を学ぶ。また、インタビュー法の質問項目を立ててユーザーにインタビューし、インタビューを文字化することによって定性的分析を行う手法を学ぶ。	
	経営分析論	経営における基本的な仕組みには、経営戦略立案、経営組織編制、各種業務管理、人的資源の管理などがあり、これらを円滑に行う必要がある。経営が円滑にできているかどうかを評価することは、大変重要であり、経営における各種管理業務を学習した上で、業務遂行における良さを評価するKPI (Key Performance Indicator) について学ぶ。さらに、財務会計や管理会計など、収益・費用の基準などについて学ぶとともに、財務諸表の作り方と読み方を通して会計実務の基礎知識も習得する。	
	業務プロセス分析	企業における業務効率を向上させる活動は重要である。職場を最適な状態に設計改善するために、職場で扱われている人・物・設備および情報などの資源を有効活用する必要がある。製造や流通の現場だけでなく、事務作業を行うオフィスワークにおいても、業務改善活動は重要であり、その改善活動を体系的に実施する必要がある。そのためには、業務プロセスの現状を正しく把握する各種IE分析技法を理解し、改善に結び付ける実践力を習得する。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ユーザー エクスペ リエンス デザイン	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	<p>(概要) ユーザーエクスペリエンスデザイン (以下UXD) という言葉について、「体験のデザイン」という一定の共通理解はあるにせよ、その詳細については専門家によって考えが異なる。本授業は、UXDを専門とする教員がそれぞれのデザインの考え方、技法などについて講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式 全14回) (11 永盛 祐介/5回) 感性デザイン、感性工学をテーマとし、生理指標計測によるデザイン評価の実例、生理指標計測機器の概要、UXDとの関わりについて解説する。 (6 市野 順子/5回) インタフェースデザイン、インタラクションデザインをテーマとし、これらの現状と課題、実現のための技術、UXDとの関わりについて解説する。 (8 斎藤 文/4回) ビジネス、テクノロジーと繋ぎ合わせ、世の中に受け入れられるためのUX企画を行う方法論を、人間観、コンセプトづくり、顧客体験への落とし込み、という手順で解説する。</p> <p>これらの講義によって、デザインの多様性について体感し、その中にある共通した軸を見いだすこと、自らのUXDの考え方を明確化することを目的とする。</p>	オムニバス方式
	デザインプレゼンテーション	<p>情報を適切に相手に伝える能力を身につける事は本学部のも一つの目標である。そのために必要なビジュアルデザイン技法の基礎を身につける事が本授業の目的である。具体的にはドキュメント作成の基礎、紙面レイアウトの基礎、プレゼンテーション作成の基礎、フォントや色彩活用の基礎を学ぶ。またこれらの基礎を学ぶと同時に、Adobe系ソフトウェアの操作方法の基礎も習得することを旨とする。これらの能力は就職活動に用いるポートフォリオの作成や、プレゼンテーションの作成に有用である。</p>	
	デザインプロトタイピング(1)	<p>ソフトウェアやハードウェアのプロトタイプ(試作品)を制作するための計画、設計の方法を学び、実際にプロトタイプの製作を行う。具体的にはハードウェアを試作するためのペーパープロトタイピング技術、ユーザーインタフェースやユーザーエクスペリエンスを試作するためのAdobe XD等の操作方法の修得を目指す。またこれらのプロトタイプを用いた初歩的なユーザビリティ評価を行う。ものづくりの楽しさ実感しつつ、プロトタイプ制作とデザイン評価の基礎を学ぶことが目的である。</p>	
	ウェブプログラミング	<p>ウェブは情報発信の手段として広く利用されているが、それを「作る」にはどのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実践して理解する。具体的には、HTML5、CSS3、JavaScriptの基本的な知識を前提に授業を進める。視覚に関するデザインや認知に関するデザインに加えて、ウェブアクセシビリティやレスポンスデザインも修得。ユーザー操作を意識したフロントエンドのデザインだけでなく、PHPやサーバーの理解といったバックエンドの知識も学ぶ。(またウェブアプリのデザインを通じて、スマートフォンへの最適化を理解する。)</p>	
	情報デザイン	<p>旧来はデザイナーが扱うべき対象に対し、グラフィックやプロダクト、建築などの区分けを行ってきた。しかし現在ではユーザーの体験やヒトとヒト、ヒトとモノ、ヒトと情報とのコミュニケーションを包括的にデザインすることが主流になり、そのような区分けが意味をなさなくなってきた。このような包括的なデザインをあらわす言葉が情報デザインである。この授業では情報デザインの概要と事例について解説する。加えて、ヒトと情報とのコミュニケーションをデザイン実践として、インフォグラフィックスの制作を行う。これにより、情報デザインの理論の修得と、実践を体感することで、情報デザインの概念を深く理解することが本授業の目的とする。</p>	
	デザインリサーチ	<p>この授業では14回の講義を通して、ユーザーエクスペリエンスデザイン(以下UXD)やその周辺研究領域に関する研究論文または事例をレビューし、最新のUXDの動向を把握することを目的とする。担当教員それぞれの専門から、UXD、デザインプロトタイピング、インタラクションデザイン、感性デザインに関連した和文・英文の論文またはデザイン事例を選定し、教員による解説、受講者同士のディスカッションを通して、研究に関する知見の獲得を目指す。</p>	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ソーシャルシステムデザイン	ソーシャルシステムデザイン入門	<p>(概要) ソーシャルシステムデザイン (以下、SSD) における知識体系の概要の理解を目指し、オムニバス方式の授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式 全14回)                      (2 葉村 真樹・7 大槻 奈那/7回) (共同)                      SSDを学び始める上で、最も基礎的な概論の事項を、社会システムやビジネスシステムにおけるバリューチェーンに関連させながら、その要点を学ぶ。Society5.0など近年の注目されている重要な課題とその課題へのアプローチへの捉え方を習得する。                      (1 関 良明・12 大久保 寛基/7回) (共同)                      SSDは、新たな価値を提供する体験を最終的なアウトプットとして設計し、サービスモデルやビジネスモデルとした形にすることを理解する。そして、持続的運営に必要なサービスシステムとマネジメントシステムの概要を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同
	金融・市場システム論	銀行、証券、中央銀行等様々な金融機関や金融市場などをグローバルに俯瞰し、世界経済の流れを把握するのに不可欠な金融の成り立ちについて学修する。特に、近年変化が激しい金融テクノロジーの現場での活用や、これに伴う業界の変化やマネーの流れの潮流について焦点をあて、金融の将来像や、その社会的意義や役割等を考える。さらに、企業にとって、資金調達から運用に至るまで、市場との接点は欠かせない。株式、債券、コモディティ等さまざまな市場の成り立ちを包括的に学ぶとともに、実際のトレーディングや市場の現場に触れることを通じて理解を深めることで、データ分析の市場での生かし方等を習得する。	
	サービスイノベーション	企業の発展のためには、イノベーションが不可欠であり、イノベーションには、既存製品や既存サービスの改善に基づく持続的イノベーションと、全く新しい製品やサービスを生み出し、既存製品やサービスを置き換える破壊的イノベーションがある。これらのイノベーションについて、デザイン経営、デジタル戦略などに関する事例に基づく議論を通じて、その理解を深める学修をする。また、イノベーター理論やサービスイノベーションなど、イノベーションに関する各種理論についても学習する。	
	経営戦略概論	経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析したり、実際に自身が戦略を立案する立場になった場合にどのように振る舞うべきかを議論するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。製品・価格・流通・販促といったマーケティング戦略の基本から、プロダクトライフサイクルも踏まえた製品戦略、さらに事業レベルでの競争優位を考える事業戦略や、複数事業間の資源配分や国際化・多角化などに関する全社戦略を学ぶ。また、成長戦略とポートフォリオ理論や、イノベーションマネジメント、各種戦略理論への理解も習得する。	
	総合的品質管理	総合的品質管理では、ある製品を企画設計する段階から、製造販売そしてアフターサービスまでの全プロセスで総合的に品質管理を行うことである。そして、品質管理においては、買い手の要求に合った品質の製品を、経済的に作り出すために、QC7つ道具に代表される手段を用いる。特に、統計的品質管理として、統計的な手段を採用することが多い。モノづくりやコトづくりの現場におけるデータに基づき、高い設計品質、適合品質を実現するための方法論を習得する。	
	オペレーションマネジメント	オペレーションマネジメントは、経営管理論の中で業務遂行と実行に関する分野と対象と、特に、生産プロセスの設計と管理、および、サービスの生産活動の再設計に関する領域の管理が中心である。企業活動においては、最小限の経営リソースを有効活用し、顧客の要求を満足できる活動をできるように、オペレーションマネジメントとして実行する。特に、工場における生産管理、サービス提供活動の管理とその運営方法、さらに、効率的な業務の遂行方法について理解し、習得する。	
	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネージャーとしてプロジェクトを成功に導くために、プロジェクト完成までの各要素を管理・運用するための知識・技術・ツール・技法を習得することを目的とする。予算の策定・管理だけでなく、スケジュール管理、プロジェクト管理プロセス等について学習をする。情報システム開発のプロセスなど実践的な例を使用したグループ演習を通じて、プロジェクトマネジメントスキルを涵養する。また、PMBOKなどのプロジェクトマネジメントにおける各種知識体系も知ることで、より実践的な知識を習得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他	SD PBL(1)	東京都市大学の導入教育と位置付けとして、“心に学びの灯を点ける”プログラムとして行う。シナリオなどによって提示される問題状況の中から解決すべき課題を見出し、その解決に取り組む。解決においては、発想法のひとつであるデザインシンキングの手法を、具体的なテーマを元に、製品マッピング、ユーザー調査、KJ法分析を使い、解決の過程で知識を獲得し対話により思考を深化させる体験を通して、専門分野に対する興味・関心を喚起させる。チームで取り組むことで他者と学び合う姿勢やスキル修得の機会を作りながら、問題解決のコンセプト立案、プロトタイプ製作、プレゼンテーションなどを通して学ぶ。この授業は全学生を少人数のグループに分け、実施する。	共同
	SD PBL(2)	現実に存在するような問題状況の中から解決すべき課題を見出し、データサイエンスやデザイン技術やデザイン思考の専門的な立場から課題解決に挑む基本的なツールやスキルを学ぶ。特に、クリティカルシンキング(批判的思考)を対象とし、情報の内容を的確に読み取り・それについて批判的に吟味することで、何を信じるべきか、すべきかについて決定することに集中する合理的、反省的思考を学ぶ。課題解決を旨とするデザインの実践において、クリティカルシンキングは必須の基礎素養であり、その技術(考えや議論を解釈・分析・評価する能力)を具体的なテーマを元に、実践的かつ明確に教授することで、その技術を発達させることを目指す。	
	SD PBL(3)	総合力をもって社会変革に挑むためのリテラシー・コンピテンシーの修得をめざす。問題を含む環境設定を提示した上で、問題を抽出し、問題の本質を見極め複数レベルの解決案を導き出し多角的な検討を加えて最適解を選択する。また、その過程で、自ら知識を獲得しつつ既知の理論や知識を再構成する。それを実践に活用して新たな知や価値の創造を経験し、持続可能社会構築の原動力となるイノベーション創出の意義や、専門分野に立脚した幅広い視野や課題発見・解決能力、起業家マインドの重要性を知る。授業形態や評価は、他分野混合の学習共同体で多様な情報や考え方を共有して課題解決を目指し、其々の学習状態を把握する評価方法を用いる。到達目標は、自らの能力を發揮して問題解決に貢献するスキルと姿勢を身につけることである。	
専門応用科目	データ科学 プログラミング応用演習	本演習では、プログラミング基礎演習に引き続き、データサイエンス分野で広く使われている Python 言語を用いたプログラミングの発展的な内容を学習する。具体的には Python プログラミングにおいて、もっとも多用されるパッケージである NumPy (配列処理) と Matplotlib (可視化) の使い方を習熟する。さらには、データサイエンス分野において多用される Pandas も習熟する。また、演習の後半では、LaTeX という文書整形プログラムも学ぶ。本演習は、プログラミング基礎演習の知識を前提として進める予定であるため、プログラミング基礎演習を履修していることが望ましい。	
	機械学習演習	本演習では機械学習論で学習した分類/回帰、クラスタリング、次元削減などの技術や評価方法を実データを用いて実施する。実用に近い形の機械学習の技術利用手法を体得することを目標とする。Python言語を利用し、データの選択、前処理、機械学習による分析、可視化の一通りのデータ分析プロセスを、結果のフィードバックによる改善プロセスも含めて実践する。本講義は、プログラミング基礎演習、機械学習論を前提として進める予定であるため、これらの講義を履修していることが望ましい。	
	ビッグデータ解析演習	本演習ではビッグデータを活用しデータマイニングなどの技術を用いて知識発見するための技術を演習を通じて獲得することを目的とする。実用的な事例を用いて、ビッグデータの収集、加工、データベースへの蓄積という前処理から、機械学習技術や統計的手法を用いたマイニング、さらにはここからの知識発見までの一連の流れをPython言語などのプログラミングやソフトウェア利用も交えつつ演習形式で行う。そのため、本講義ではプログラミング基礎演習、データベース、データマイニングを履修していることが望ましい。	
	ベイズ統計学	ベイズ統計学は、計算機の性能向上に伴い、現代のデータ分析に欠かせないツールとなっている。また、迷惑メール判別など、応用も幅広い。本科目では、ベイズの定理にはじまるベイズ統計学の基本的な考え方の学習を古典的な頻度統計学との対比を交えつつ始める。さらに、ベイズ推定、ギブスサンプリング法やメトロポリス・ヘイスティンクス法などのマルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用について学ぶ。本講義は統計学基礎の知識を前提として進めるため、統計学基礎を履修していることが望ましい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ニューラルネットワーク	本科目では、ニューラルネットワークの基礎であるパーセプトロンからはじめ、ニューラルネットワーク、ニューラルネットワークの学習、誤差逆伝播法、学習に対するテクニック、畳み込みニューラルネットワークを経て、ディープラーニングまでを学ぶ。講義では、フレームワークを使用せずに、Pythonと必要最低限の外部ライブラリのみを利用して、理解できる最低限の知識から出発して、ディープラーニングを作り上げることで理解を促す。本講義は、プログラミング基礎演習及びプログラミング応用演習の知識を前提として進める予定であるため、これら2科目を履修していることが望ましい。	
	画像・音声処理	人工知能分野において、画像、音声、映像などの非構造データに対する計算機処理の技術の発展はめざましく、様々な分野での応用が期待されている。本科目では画像・音声データをデータサイエンスで活用する際に必要となる処理技術や特徴的な分析手法を理解することを目標とする。音声、画像、映像などをデジタルデータとして表現する方法と、それらの基本的な処理技術を学習し、代表的なアルゴリズムについて実データによる分析を実施する。本講義は、データサイエンス数学・アルゴリズムとデータ構造の知識を前提として進めるため、これらの科目を履修していることが望ましい。	
	自然言語処理	多くの情報が日本語や英語などの自然言語とよばれる。計算機では直接扱うことが難しい形で蓄積されている。これらの情報を計算機でデータとして扱うためには、自然言語処理と呼ばれる技術が不可欠である。本科目では、大量の自然言語で書かれた文書から知識を取り出すために必要な自然言語処理技術について学ぶ。また、手法について学習するだけでなく、自然言語処理のツールを組み合わせて、プログラミングも交えつつ、文書から情報や知識を取り出し活用することを体験する。本講義ではデータマイニングを履修していることが望ましい。	
	ウェブデータ処理	ウェブ上でアクセス可能なデータは年々増大し続けている。また、データの形式やコンテンツの種類も多岐にわたる。本科目ではウェブ上でアクセス可能な大量のデータについて、データ取得方法および処理方法について学ぶことを目標とする。W3Cの各種仕様やHTTPについての基本知識の習得に加え、コマンドラインやプログラムからのウェブのコンテンツの取得方法、ウェブAPIを通じたデータの取得、HTTPヘッダーの利用方法、schema.orgなどのメタデータの利用などを体験しつつ習得する。本講義ではデータマイニングを履修していることが望ましい。	
	企業経営分析ケーススタディ	企業の経営状態を正しく分析し、その企業発展に向けた活動を行うことは重要である。事例を用いながら、経営分析とその意味を理解する能力の獲得を目指す。企業における将来性や強み・弱点・市場における地位・戦略的計画について財務情報を中心に情報収集をし、分析する。このような手法で得られた知見を元に企業戦略や戦術を立てるプロセスについての理解を深めていく学習を行う。さらに、企業が公開している中期経営計画などの事例情報などを使いながら、市場、競合他社に関するデータとの比較などにに基づき、新規製品開発や業務改革のための戦略立案に関するデータ整理とその考察法について学習を行う。	
ユーザーエクスペリエンスデザイン	デザインプロトタイプ(2)	デザインプロトタイプ(1)での学修内容を基盤とし、より高度なソフトウェア・ハードウェアのプロトタイプ技法とその評価を学ぶ。ハードウェアについてはペーパーだけでなく、実際に動作可能な機構を含んだプロトタイプの制作、ソフトウェアについてはユーザーが操作可能なプログラムの制作を目指す。仕上げとしてこれらを用いたユーザビリティ評価を実際に行い、評価レポートの作成までを一貫して行うことが本授業の目的である。	
	ブランドコンセプトデザイン	今や「製品を買うのではなく、世界観を買う」と言われるほど、ブランディングはその目的を変容させている中、従来型の「ブランド」では何が立ち行かなくなっているのか、「世界観」とは何なのかを学ぶ。製品製造を中心とするメーカーから、サービスやテックジャイアントなど、多様な業種から眺めることで、今の社会に求められている新たなブランディングのあり方について、実際のブランディング業務で実践されているブランドコンセプトの立案・構想から設計、構築までの方法論などについて理解する。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インタフェースデザイン	インタフェースとは人間と機器やサービスの機能との接点部分である。各種機器の操作はインタフェースを通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインが機器やサービスの評価を決める重要な要素になっている。インタフェースデザインの最終目標は、わかりやすく扱いやすいことだけでなく、それによって得られる効果が人間の生活を豊かで幸せなものにすることである。本講義では、コンピュータや電子機器などのインタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、体系的なインタフェースデザイン手法を学習する。	
	感性デザイン演習	論理的思考・判断を行う能力を理性というのに対し、感性とは心地よさや美しさといった、非言語的、無意識的、直感的な感覚を知覚する能力である。従来のデザインは使いやすさや作業効率、性能向上を目的として行われることが多い。それに対して感性デザインはモノに触れた際にヒトが知覚する感性に着目し、それらを様々な技法で評価しデザインにフィードバックものである。本授業は実例について学び、そのいくつかを実践することにより、感性デザインへ理解を深めることを目的とする。	
	デザインプロダクション演習	日常生活や社会の問題を解決するためには、現状のデータ分析だけではなく、具体的な解決方法を可視化・具現化して提示する必要がある。本授業では、問題を明らかにするプロセスから、その問題を解決するためのソフトウェア・ハードウェアの設計を学ぶ。具体的にはソフトウェア・ハードウェアを組み合わせたプロトタイプ制作である。この制作を通して、データをプロダクトに落とし込むことによる具体的な問題解決を体験するのが本授業の目的である。	
	インタラクションデザイン演習	人間とのインタラクションを前提とした情報システムをユーザー視点で設計できる能力の開発を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)のデザインや開発に必要な知識およびスキルを、学習する。直接操作と知的システム、実世界指向、ソーシャルインタラクションなど、HCIにおける重要な概念と論点をいくつか概説し、CHIやUISTなどHCI分野におけるトップ国際会議における最新の論文を講読し、その内容について議論を行う。	
ソーシャルシステムデザイン	ビヘイビアル・ファイナンス	いかにITシステムやAI技術が発達しても、人間の生来の特性を知ることなくしてこれらを現場で生かすのは難しい。最新の各種テクノロジーを実際のビジネスの場に生かすために不可欠な人間の心理的なバイアスやそれに基づく行動の本質を、行動経済学に関連するさまざまな事例や実験を通して学修する。特に、プロスペクト理論、メンタルアカウンディング、ナッジ、現状維持バイアスなど、行動経済学の重要な要素の基本と応用、心理学との関連も含めながら学修する。	
	リスク&クライシスマネジメント	企業や経済の成長は、正しいリスクと危機管理の下で初めて成就する。特に、昨今のように経済の変動が激しい中では、リスクおよびクライシスを適切に管理し、回避し、これらを次の成長に役立てていくことが重要になっている。これらのリスクとクライシスの未然防止から事後対処までを対象に、リスク因子を評価するリスク分析と、リスクの発生頻度やリスク発生による被害を最小化するための対策立案について、企業レベルからマクロレベルまで多面的に学修する。	
	未来創造デザインプロジェクト	企業から提供されたテーマに対して、グループでアイデアを作り提案する。マクロ調査、先進事例の調査によって、10年後の未来の技術、生活を想像する(フォーキャスト)。与えられたテーマで焦点を当てる領域を定める。エスノグラフィーやインタビューなどの調査、分析からインサイトを見出す。コンセプトのプロトタイプを作成し、アイデアを実現するための戦略(バックキャスト)・計画を策定する。最終日に企業への提案を発表する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

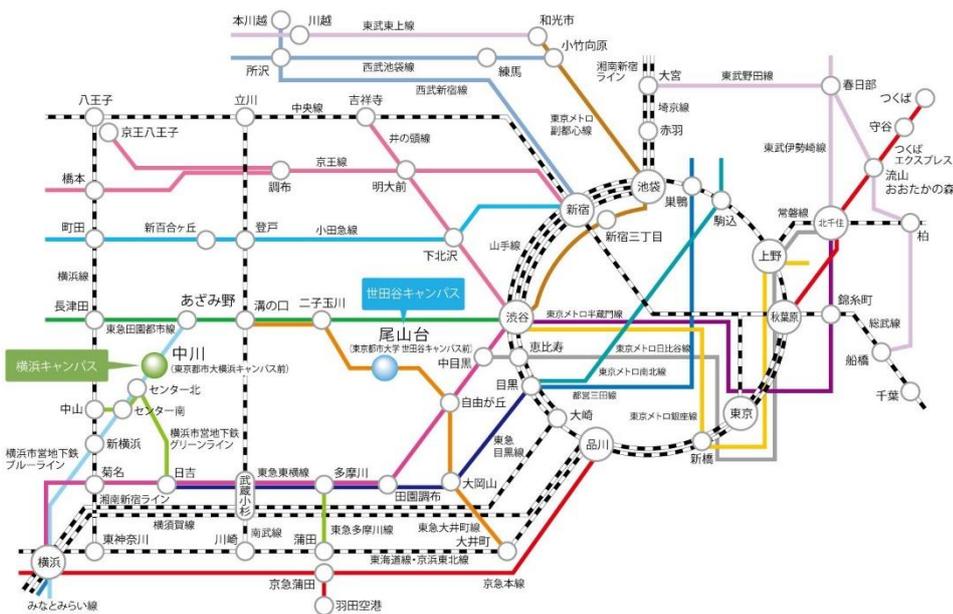
科目区分	授 業 科 目 の 名 称	講 義 等 の 内 容	備 考
	サービスシステムデザイン演習	デザインシンキングとシステムシンキングを基礎にした、サービスデザイン手法を学ぶ。サービスは、提供者と顧客が共に価値を作り出すことに特徴がある。提供者と顧客やその他の関与者等の関係を可視化し、それらのインタラクションやプロセスによっていかに価値が造られるかをデザインする。さらに、デザインされたサービスが、社会システムやビジネスシステムの環境下で、他の製品やサービスと及ぼし合う影響関係も考慮して学習する。また、多面的な観察をまとめて、スケッチやサービスプロトタイプなど、サービスの設計コンセプトやアイデアを視覚的に表現する演習を行う。	
	サプライチェーンデザイン演習	製品やサービスを顧客に共有するためには、原材料の準備をスタートに、複数の企業間で連鎖した調達供給システムを構築しマネジメントする、サプライチェーンマネジメントが必要にある。サプライチェーンにおいては、インバウンド（企業内）とアウトバウンド（企業間）で区別する場合が多い。アウトバウンドSCMとして企業間や客との間の物流管理と在庫管理を学び、インバウンドSCMとして生産・物流・在庫の管理を学ぶ。これらについて、実践的な理解を深めるためにも、生産システムの設計や生産流通シミュレーションの演習を行う。	
	ビジネスシステムデザイン演習	起業家論(effectuation)、リスタートアップのプロセスを学び、実行する。また、構想した事業活動を戦略・オペレーション・収益の観点から設計し、ビジネスモデルキャンパスなどによってビジネスモデルを表現することを学習する。さらに、演習として、身近な問題を調査し、解決案を作ることを通じて、アイデアを事業化するために、ビジネスモデルを策定し、仮説を記述する。さらに、プロトタイプ(MVP)を作り、検証を行う実践的な演習も行う。	
その他	特別講義	新たな「もの」と「こと」について「デザイン」＝構想・設計・構築を展開できる実践的な専門力を持つ人材を養成するためには、定量・定性両方の「データ科学」に関する知識と技術に裏付けられたクリティカルシンキング（批判思考）スキル、そして英語力や国際感覚などのグローバルリテラシーを兼ね備えることが求められる。そこで、実社会における社会課題を対象に、新しい「もの」と「こと」をデザインする知識と技術について、理論的な背景や思考の枠組みを体系的に理解した上で、ジョブ型人材＝実践的専門力を持つ国際人の育成などを目的として、担当教員がそれぞれの専門性を活かしたテーマを設定して、学生の幅広い知的好奇心に応えるための講義をこの科目では実施する。	
	海外インターンシップ	問題発見と課題解決能力を身に付けるために、日本の国外における企業や研究機関等において、実務経験者やエンジニアの指導の下で職業体験を行い、就業の意味を正しく理解するとともに、学習した理論や知識を実践する機会を得る。特に、異文化や異なる生活慣習の人々と共同作業を行うことで、コミュニケーション能力の向上に向けた実地研修を行う。さらに、業務実行に必要な文書作成や、研修成果の発表をすることで実践的プレゼンテーション能力を身に付ける。	
	COOPプログラム	COOP (Cooperative) プログラムは、学内の授業と学外での就労経験型学修を組み合わせた教育プログラムのことで、学生は一定期間、企業で働くことで、就業経験と報酬、大学の単位を手にするるとともに、実践力や総合的な社会人基礎力など、従来型のカリキュラムだけでは修得しにくい能力を効果的に身につけることを目的としている。就業経験前の基礎学修から経験後のレポート作成やプレゼンテーションまで体系的に構成、プログラムを通して、実践力、責任感、主体的行動力を身につけることを目指す。	
	キャップストーンプロジェクト	様々な企業や事業体が直面する課題について、チーム体制を構築し、その解決を目指す。課題の解決のためには、課題の背景調査、関連書籍や論文による文献調査を行い、これまで学習したデータサイエンス、ユーザーエクスペリエンスデザイン、ソーシャルシステムデザインの手法や知識を使い、その解決策を立案し、その実現性と有効性を検証するための実験や設計を行う。課題解決活動の質の向上を実現するために、チーム議論、途中成果発表を繰り返す。最終的にプロジェクト報告書をまとめることで、総合的な課題解決力を習得する。	共同

# 校地校舎等の図面

## 都道府県内における位置関係の図面



## キャンパス間の移動に要する距離・時間・交通手段



世田谷・横浜キャンパス間	
距離	約 15.0km
交通手段・時間	
[バス]SC⇄YC間	約 30分
[電車]尾山台駅⇄中川駅	約 30分

# 横浜キャンパス

- 所在地                   〒224-8551  
神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3 - 3 - 1

---

- 設置学部               環境学部／メディア情報学部／  
デザイン・データ科学部／  
大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻

---

- 校地面積 (㎡)           64,687.96 ㎡ (キャンパス全体)

---

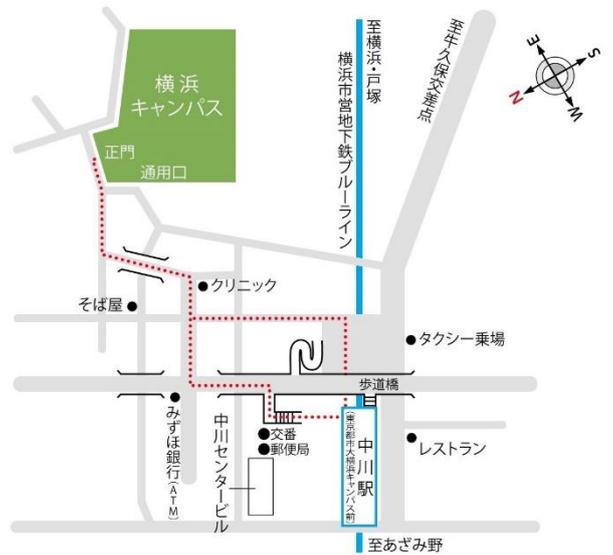
- 校舎面積 (㎡)           18,078.07 ㎡ (キャンパス全体)

---

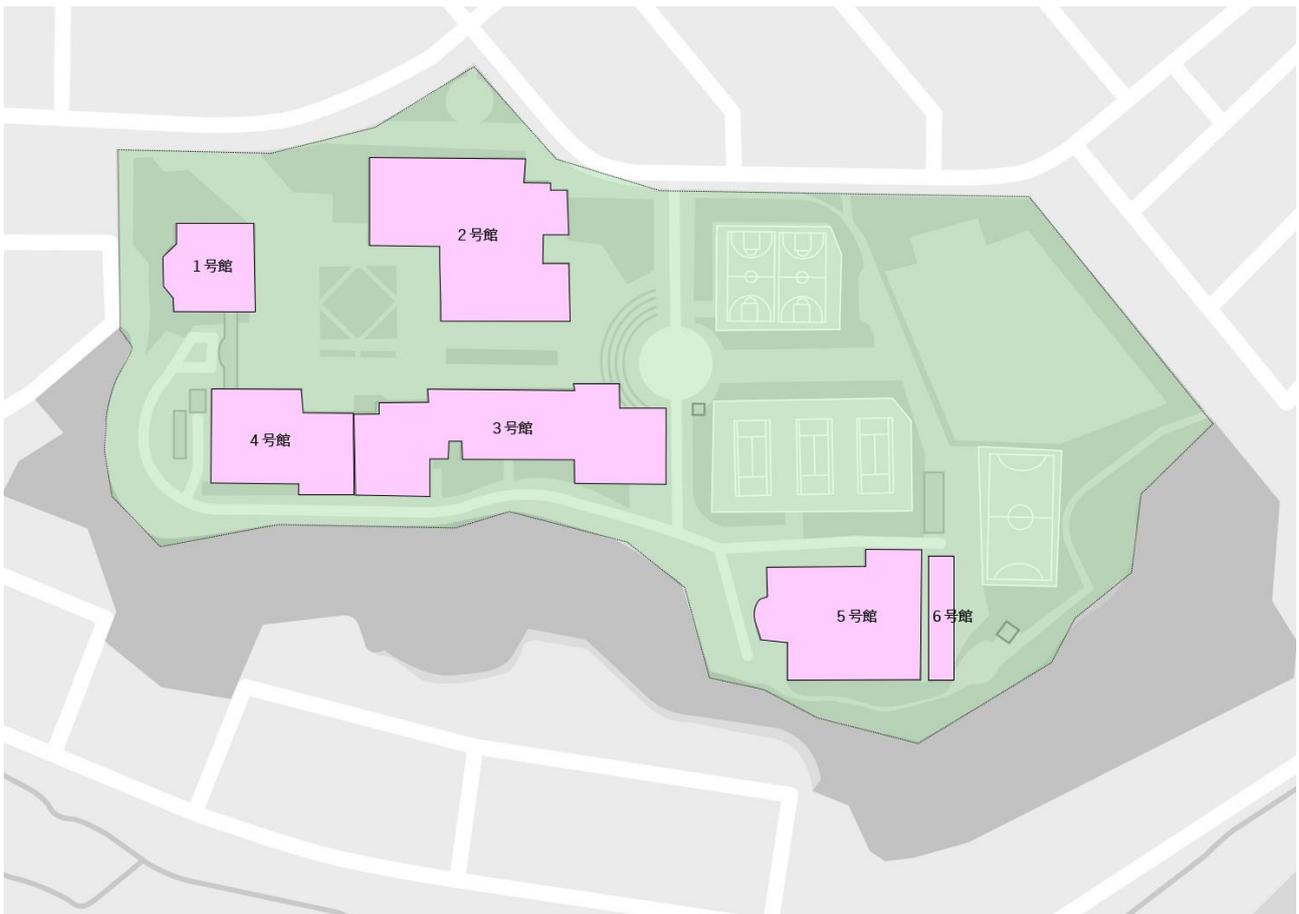
- 最寄り駅からの距離       0.5 km

## 最寄り駅からの図面

横浜市営地下鉄「中川(京都市大 横浜キャンバス前)」駅 徒歩5分



## キャンパスの校舎・運動場等の配置図



- 校地面積算入部分
- デザイン・データ科学部が使用する校舎
- ※当該学部はすべての建物を使用(他学部と共用)

## 第1章 総則

(目的)

**第1条** 本大学は、学校教育法に基づき、豊かな教養を授け、深く専門の学術を教授研究し、もって文化の向上に寄与するとともに、人類福祉の増進に貢献することを目的とする。

(自己点検及び評価)

**第1条の2** 本大学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は、別に定める。

(名称)

**第2条** 本大学は、東京都市大学と称する。

(位置)

**第3条** 本大学は、東京都世田谷区玉堤1丁目28番1号に置く。

## 第2章 組織

(学部、学科及び収容定員)

**第4条** 本大学に、理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、環境学部、メディア情報学部、デザイン・データ科学部、都市生活学部及び人間科学部を置く。

2 各学部に設ける学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
理工学部	機械工学科	120	480
	機械システム工学科	110	440
	電気電子通信工学科	150	600
	医用工学科	60	240
	応用化学科	75	300
	原子力安全工学科	45	180
	自然科学科	60	240
	計	620	2,480
建築都市デザイン学部	建築学科	120	480
	都市工学科	100	400
	計	220	880
情報工学部	情報科学科	100	400
	知能情報工学科	80	320
	計	180	720
環境学部	環境創生学科	90	360
	環境経営システム学科	90	360
	計	180	720
メディア情報学部	社会メディア学科	90	360
	情報システム学科	100	400
	計	190	760
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科	100	400
都市生活学部	都市生活学科	160	640
人間科学部	人間科学科	100	400
合 計		1,750	7,000

(人材の養成及び教育研究上の目的)

**第4条の2** 第1条を実現するため、各学部と学科における人材の養成及び教育研究上の目的を別表6に定める。

(共通教育部)

**第4条の3** 本大学に、共通教育部を置く。

2 共通教育部に関する規程は、別に定める。

(大学院)

**第5条** 本大学に、大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

(図書館)

**第6条** 本大学に、図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

(学生部)

**第7条** 本大学に、学生部を置く。

2 学生部に関する規程は、別に定める。

(付属施設)

**第8条** 本大学に、以下の付属施設を置く。

(1) 総合研究所

(2) 情報基盤センター

2 理工学部に、原子力研究所を置く。

3 付属施設に関する規程は、別に定める。

(付属学校)

**第9条** 本大学に、次の付属学校を置く。

(1) 附属高等学校

(2) 附属中学校

(3) 等々力高等学校

(4) 等々力中学校

(5) 塩尻高等学校

(6) 附属小学校

(7) 二子幼稚園

2 付属学校の学則は、別に定める。

### 第3章 職員

(職員組織)

**第10条** 本大学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員及び事務職員を置く。

2 前項のほか、副学長を置くことができる。

3 学長及び副学長に関する規程は、別に定める。

4 各学部に、学部長を置く。

5 学部長に関する規程は、別に定める。

(教員資格)

**第11条** 各学科の主要な学科目は、各専門分野につき資格を有する専任の教授、准教授、講師又は助教が担当する。

2 各学科の学科目を担当する教員の資格基準及び資格審査に関し必要な規程は、別に定める。

## 第4章 大学協議会及び教授会

(大学協議会)

**第12条** 本大学に、大学協議会を置き、学長の求めに応じ、本大学の運営に関する重要事項を審議する。

2 大学協議会に関する規程は、別に定める。

(教授会)

**第13条** 各学部には、教授会を置く。

2 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。

3 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べる。

(1) 当該学部における学生の入学、卒業及び学位授与に関すること。

(2) 当該学部における教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの。

4 教授会は、前項に規定するもののほか、当該学部の教育研究に関する事項について審議し、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 教授会には、准教授その他の職員を加えることができる。

6 教授会の運営に関する規程は、別に定める。

## 第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目の区分)

**第14条** 理工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、PBL科目、理工学基礎科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。

2 建築都市デザイン学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、PBL科目、学部基盤科目、専門科目に区分する。

3 情報工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、PBL科目、情報工学基盤科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。

4 環境学部にあつては、授業科目を基礎科目(体育科目・外国語科目・教養科目)、PBL科目、専門基礎科目、専門科目(学科基盤科目・学科専門科目)に区分する。

5 メディア情報学部にあつては、授業科目を基礎科目(体育科目・外国語科目・教養科目)、PBL科目、専門基礎科目、専門科目(学科基盤科目・学科専門科目)、並びに教科及び教職に関する科目に区分する。

6 デザイン・データ科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門応用科目に区分する。

7 都市生活学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、PBL科目、専門基礎科目、専門科目に区分する。

8 人間科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、PBL科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。

(履修単位及び年限)

**第15条** 学生は、4年以上在学し、次の区分に従って所定の単位数以上を修得しなければならない。

理工学部

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	1単位
外国語科目	8単位
PBL科目	3単位
理工学基礎科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	112単位
自由選択 ※	12単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

建築都市デザイン学部 建築学科

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	1単位
外国語科目	8単位
PBL科目	3単位
学部基盤科目	30単位
専門科目	68単位
小 計	120単位
自由選択 ※	4単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して4単位以上修得しなければならない。

建築都市デザイン学部 都市工学科

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	1単位
外国語科目	8単位
PBL科目	3単位
学部基盤科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	112単位
自由選択 ※	12単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

情報工学部 一般コース

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	1単位
外国語科目	8単位
PBL科目	3単位
情報工学基盤科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	112単位
自由選択 ※	12単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

情報工学部 国際コース

区 分	卒 業 要 件
教養科目	10単位
体育科目	1単位
外国語科目	12単位
PBL科目	3単位
情報工学基盤科目	30単位
専門科目	60単位
小 計	116単位
自由選択 ※	8単位
合 計	124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して8単位以上修得しなければならない。

環境学部

区 分		卒 業 要 件
基礎科目	外国語科目	8単位
	体育科目	1単位
	教養科目	10単位
PBL科目		4単位
小 計		23単位
専門基礎科目		30単位
小 計		30単位
専門科目	学科基盤科目	60単位
	学科専門科目	
小 計		60単位
自由選択科目	※	11単位
合 計		124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して11単位以上修得しなければならない。

メディア情報学部

区 分		卒 業 要 件
基礎科目	外国語科目	8単位
	体育科目	1単位
	教養科目	10単位
PBL科目		3単位
小 計		22単位
専門基礎科目		30単位
小 計		30単位
専門科目	学科基盤科目	60単位
	学科専門科目	
小 計		60単位
自由選択科目	※	12単位
合 計		124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

デザイン・データ科学部

区 分		卒 業 要 件
教養科目		12単位
外国語科目		14単位
専門基礎科目		50単位
専門応用科目		40単位
小 計		116単位
自由選択 ※		8単位
合 計		124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して8単位以上修得しなければならない。

都市生活学部

区 分		卒 業 要 件
教養科目		10単位
外国語科目		8単位
体育科目		1単位
PBL科目		3単位
専門基礎科目		37単位
専門科目		53単位
小 計		112単位
自由選択 ※		12単位
合 計		124単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

人間科学部

区 分	卒 業 要 件
教養科目	20 単位
外国語科目	
体育科目	
専門科目	90 単位
小 計	110 単位
自由選択 ※	14 単位
合 計	124 単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

- 2 学部の定めるところにより、他学部、他学科で開設する指定授業科目を履修したときは、当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。
- 3 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、60単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。
- 4 環境学部の学生は、2年以上在学し、66単位以上を修得しなければ事例研究（1）に着手することができない。
- 5 メディア情報学部の学生は、2年以上在学し、66単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。
- 6 デザイン・データ科学部の学生は、2年以上在学し、50単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。
- 7 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、3年以上在学し、100単位以上を修得しなければ4年次に進級することができない。
- 8 都市生活学部及び人間科学部の学生は、3年以上在学し、100単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。
- 9 環境学部の学生は、3年以上在学し、事例研究（1）及び事例研究（2）を含む100単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。
- 10 メディア情報学部の学生は、3年以上在学し、事例研究を含む100単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。
- 11 デザイン・データ科学部の学生は、3年半以上在学し、110単位以上を修得しなければキャップストーンプロジェクトに着手することができない。

（在学年数及び在学年限）

**第16条** 本大学及び前条における在学年数とは、本大学入学後の年数とする。

- 2 編入学又は転入学した者の在学年数は、前項の在学年数に以下の年数を加えたものとする。
  - (1) 2年次入学の場合は1年
  - (2) 3年次入学の場合は2年
- 3 転学部又は転学科した者の在学年数は、転学部又は転学科の学年次にかかわらず、第1項による。
- 4 再入学した者の在学年数は、第1項の在学年数に再入学する前の在学年数を加えたものとする。
- 5 休学期間は、在学年数に含めない。
- 6 在学年数は、8年を超えることができない。
- 7 理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、メディア情報学部及びデザイン・データ科学部については、2年次までの在学年数は、4年を超えることができない。

（科目の履修届出）

**第17条** 学生は、履修しようとする科目について、所定の届出をしなければならない。

(教育課程、単位の計算方法及び授業の方法)

**第18条** 各学部各学科の教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数は、別表1のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

2 本条に規定する各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせ45時間とし、次の標準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習、製図及び実技は、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、45時間の授業をもって1単位とする。

(3) 卒業研究は、30時間をもって1単位とするが、内容を考慮して定める。

3 本条に規定する各授業科目の授業を、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、この授業において修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(各授業科目の授業期間)

**第18条の2** 各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(編入学者等の既修得単位の認定)

**第19条** 学生が本大学の学部に編入学又は転入学する前に、大学、短期大学、高等専門学校又は専修学校の専門課程において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が転学部又は転学科する前に所属した学部・学科において履修した授業科目について修得した単位を、転学部又は転学科後の学部・学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の単位認定は当該学部教授会の議を経て行うものとする。

(教育職員の免許状)

**第20条** 教育職員免許状の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	(教科)
理工学部	機械工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 工業)
		中学校教諭一種免許状	(数学, 技術)
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 工業)
		中学校教諭一種免許状	(数学, 技術)
	電気電子通信工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 理科, 工業)
		中学校教諭一種免許状	(数学, 理科, 技術)
	医用工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 理科)
中学校教諭一種免許状		(数学, 理科)	
応用化学科	高等学校教諭一種免許状	(理科, 工業)	
	中学校教諭一種免許状	(理科, 技術)	
原子力安全工学科	高等学校教諭一種免許状	(理科, 工業)	
	中学校教諭一種免許状	(理科, 技術)	
自然科学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 理科)	
	中学校教諭一種免許状	(数学, 理科)	
情報工学部	情報科学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 情報)
		中学校教諭一種免許状	(数学)
	知能情報工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 情報)
		中学校教諭一種免許状	(数学)
メディア情報学部	社会メディア学科	高等学校教諭一種免許状	(情報)
	情報システム学科	高等学校教諭一種免許状	(情報)
人間科学部	人間科学科	幼稚園教諭一種免許状	

3 教科及び教職に関する科目の単位数及び授業時間数は、別表2のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(学芸員の資格)

**第20条の2** 学芸員の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法及び同法施行規則に定められている博物館に関する科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の博物館に関する科目の単位を修得するために開講する科目及びその単位数は、別表1の理工学部自然科学科の専門科目教育課程表に定める。

3 第2項の科目の履修に関する規定は別に定める。

(保育士の資格)

**第20条の3** 人間科学部人間科学科の学生で保育士の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、児童福祉法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

2 保育士養成課程の単位数、授業時間数、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

## 第6章 学年及び休業

(学年)

**第21条** 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期・クォーター)

**第22条** 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月20日まで

後学期 9月21日から翌年3月31日まで

- 2 前項に規定する各学期を2つの期間(以下「クォーター」という。)に分けることができる。
- 3 各クォーターの始期及び終期については、別に定める。

(休業日)

**第23条** 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 創立記念日 10月17日

(4) 夏期休業日 7月26日から9月20日まで

(5) 冬期休業日 12月15日から翌年1月10日まで

- 2 学長は、必要に応じ当該学部教授会の議を経て、臨時に前項に定める休業日を変更し、又は別に休業日を定めることができる。

## 第7章 入学、休学、退学及び賞罰

(入学の時期)

**第24条** 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

**第25条** 本大学1年次に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) その他本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学志願の手続)

**第26条** 入学志願者は、指定の期間内に、入学検定料を添えて、所定の書類を提出しなければならない。

- 2 入学志願の手続きに関し、必要な事項は別に定める。

(入学者の選考)

**第27条** 入学志願者に対しては、学力、健康その他について選考の上、入学者を定める。入学者の選考に関し、必要な事項は別に定める。

(入学手続)

**第28条** 入学試験に合格した者は、所定の期日までに、本大学の定める入学手続きをしなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に、入学を許可する。
- 3 入学手続きに関し、必要な事項は別に定める。

(編入学及び転入学)

**第29条** 次の各号の一に該当する者が編入学又は転入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することができる。

- (1) 大学(外国の大学を含む。)を卒業した者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- (3) 短期大学(外国の短期大学を含む。)を卒業した者
- (4) 我が国において、外国の短期大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者(第25条に定める入学資格を有する者に限る。)
- (5) 高等専門学校を卒業した者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第25条に定める入学資格を有する者に限る。)
- (7) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程に在学した者(第25条に定める入学資格を有する者に限る。)

2 他の大学(外国の大学を含む。)の在学生在が、本大学への転入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することができる。

(再入学)

**第30条** やむをえない事情で本大学を退学した者が再入学を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、入学を許可することができる。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

(転学部又は転学科)

**第31条** 本大学の学生が、本大学の他学部への転学部又は同一学部内の他学科への転学科を願い出たときは、定員を考慮し、選考の上、これを許可することができる。

(休学)

**第32条** やむを得ない理由により長期にわたって修学することができない者は、その理由を休学願に詳記の上、各学期の始めまでに願い出て休学の許可を得なければならない。

2 休学の期間は、原則として1学期または1学年を区分とし、当該年度限りとする。ただし、既に許可を得ている休学期間の延長を希望するときは引き続き許可するが、通算して3年を超えることはできない。

3 前2項にかかわらず、不慮の傷病等特別な事情により、連続して2ヶ月以上修学できなくなった場合、学期途中でであっても証明書類を添付して休学を願い出ることができる。

(退学)

**第33条** 病気その他やむをえない事情のため、学業を続ける見込みがない者は、その理由を退学願に詳記の上、願い出て退学することができる。

2 授業料を納入せずに退学しようとするときは、前学期は4月30日、後学期は10月20日までに願い出なければならない。

3 前項により退学した者の在籍期間は、第46条に定める授業料等を納入した学期の末日までとする。

(除籍)

**第34条** 次の各号の一に該当する学生があるときは、学長は当該学部教授会の議を経て、除籍する。

- (1) 所定の期日までに授業料等を納入しない者
- (2) 第16条第6項に定める在学年限に及んでなお卒業できない者
- (3) 第16条第7項に定める在学年限に及んでなお3年次に進級できない者

2 前項第1号により除籍となった者の在籍期間は、第46条に定める授業料等を納入した学期の末日までとする。

(授賞)

**第35条** 学生で、人物及び学業が優秀な者には授賞することができる。

(懲戒)

**第36条** 学生で、本大学の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があったときは、学長は当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

- 2 懲戒は、譴責、停学及び退学とする。
- 3 懲戒に関し必要な規程は、別に定める。

## 第8章 試験及び卒業

(試験の種類)

**第37条** 試験を分けて、科目試験及び卒業試験とする。

(試験の方法)

**第38条** 科目試験は、所定の期間内に行う。ただし、平常の成績によって考査することがある。

(卒業試験)

**第39条** 卒業試験は、論文、設計又は実験報告等につき、その作成経過を加味して行う。

(受験資格)

**第40条** 学生は、本学則及びこれに基づいて定められる規程に従って履修した科目についてのみ受験することができる。

(成績の評価)

**第41条** 試験の成績は、原則として秀、優、良、可及び不可の5級に分け、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

(単位の授与)

**第42条** 科目試験に合格した者には、第18条に掲げる単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

**第43条** 本大学は、教育上有益と認めるときは、協議により他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、当該学部教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

**第44条** 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、前条により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業及び学位)

**第45条** 本大学に4年以上在学し、第15条に定める単位を修得し、かつ、卒業試験に合格した者には、当該学部教授会の議を経て、卒業証書を授与する。

2 本大学を卒業した者には、本大学学位規程の定めるところにより以下の学位を授与する。

学部 (学科)	学位
理工学部 (機械工学科, 機械システム工学科, 電気電子通信工学科, 医用工学科, 応用化学科, 原子力安全工学科)	学士 (工学)
理工学部 (自然科学科)	学士 (理学)
建築都市デザイン学部	学士 (工学)
情報工学部	学士 (工学)
環境学部	学士 (環境学)
メディア情報学部 (社会メディア学科)	学士 (社会情報学)
メディア情報学部 (情報システム学科)	学士 (情報学)
デザイン・データ科学部	学士 (学術)
都市生活学部	学士 (都市生活学)
人間科学部	学士 (人間科学)

3 第1項の在学年数については、第16条を準用する。

## 第9章 入学検定料, 入学金及び授業料

(授業料等)

**第46条** 入学検定料, 入学金及び授業料の額は、別表3に定める。

2 授業料は、所定の期日までに納入しなければならない。

3 一旦納入した入学検定料, 入学金及び授業料は返還しない。ただし、入学手続時の授業料については、所定の期日までに入学辞退の届け出があった場合は返還することがある。

4 休学中の授業料等は、別に定める東京都市大学授業料等納入規程によるものとする。

## 第10章 研究生, 科目等履修生, 外国人留学生, 特別研究生及び特別聴講学生

(研究生)

**第47条** 本大学において研究を志望する者は、許可を得て、研究生として入学することができる。研究生は、本大学の指定する教授等の指導を受けるものとする。

(研究生の資格)

**第48条** 研究生は、本大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者に限る。

(研究生の在学期間)

**第49条** 研究生の在学期間は、半年又は1カ年とする。ただし、事情によっては期間の延長を認めることがある。

(研究生の授業料等)

**第50条** 研究生は、別表4に定める入学金及び授業料を納入しなければならない。

(研究生の証明書)

**第51条** 研究生で、研究について相当の成果を収めた者に対しては、研究証明書を授与することがある。

(科目等履修生)

**第52条** 本大学の授業科目中、特定の科目の履修を希望する者があるときは、科目等履修生として入学を許可することがある。

(科目等履修生の資格)

**第53条** 科目等履修生は、履修科目を学修し得る能力のある者に限る。

(科目等履修生の在学期間)

**第54条** 科目等履修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、事情によっては、期間の延長を認めることがある。

(履修料)

**第55条** 科目等履修生は、別表5に定める入学検定料、入学金及び履修料を納入しなければならない。

(科目等履修生の証明書)

**第56条** 科目等履修生で、履修科目の試験に合格した者に対しては、第42条に定める規定を準用し、単位修得証明書を授与する。

(外国人留学生)

**第57条** 第25条に定める入学資格を有する外国人で、本大学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関して必要な事項については、別に定める。

(特別研究生)

**第57条の2** 本大学において、他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)との協議により、当該大学等の学生に特別研究生として本大学の指定する教授等の指導を受けさせることがある。

2 特別研究生に関して必要な事項については、別に定める。

(特別聴講学生)

**第58条** 本大学において、他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)との協議により、当該大学等の学生に特別聴講学生として本大学の授業科目を履修させることがある。

2 特別聴講学生に関して必要な事項については、別に定める。

(規定の準用)

**第59条** 研究生及び特別研究生については、本章に規定する場合のほか、第15条、第16条、第20条、第42条、第43条、第44条及び第45条を除き、一般学生の規定を準用する。

2 科目等履修生及び特別聴講学生については、本章に規定する場合のほか、第15条、第16条及び第45条を除き、一般学生の規定を準用する。

3 外国人留学生については、第57条に規定するもののほかは一般学生の規定を準用する。

## 第11章 学生寮

(学生寮)

**第60条** 本大学に、学生寮を置く。

2 学生寮に関する規程は、別に定める。

付 則（令和2年3月13日）

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前に入学した者については、従前どおりとする（一部変更（第4条、第20条、第45条、第18条別表1、第4条の2別表6））。
- 2 環境学部及びメディア情報学部の収容定員は、第4条の規定にかかわらず、令和3年度から令和5年度までの間は、次のとおりとする。

学 部	学 科	令和3年度	令和4年度	令和5年度
環境学部	環境創生学科	360	360	360
	環境経営システム学科	300	320	340
	計	660	680	700
メディア情報学部	社会メディア学科	360	360	360
	情報システム学科	370	380	390
	計	730	740	750

付 則（令和2年5月28日）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前に入学した者については、従前どおりとする（一部変更（第46条別表3））。

付 則（令和3年2月16日）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前に入学した者については、第32条、第33条及び第34条の変更を除き従前どおりとする（一部変更（第15条、第16条、第32条、第33条、第34条、第18条別表1、第20条別表2））。

付 則（令和4年2月15日）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以前に入学した者については、従前どおりとする（一部変更（第15条、第18条別表1、第20条別表2、第4条の2別表6））。

付 則（令和4年3月23日）

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以前に入学した者については、従前どおりとする（一部変更（第4条、第14条、第15条、第16条、第20条、第20条の3、第45条、第18条別表1、第20条別表2、第46条別表3、第4条の2別表6））。
- 2 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の収容定員は、第4条の規定にかかわらず、令和5年度は100名、令和6年度は200名、令和7年度は300名とする。

## 別表1 教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数（学則第18条）

### 1-1 理工学部 教育課程表

1-1① 理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部

教養科目・体育科目・外国語科目・PBL科目 教育課程表

1-1② 理工学部 機械工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1③ 理工学部 機械システム工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1④ 理工学部 電気電子通信工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1⑤ 理工学部 医用工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1⑥ 理工学部 応用化学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1⑦ 理工学部 原子力安全工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1⑧ 理工学部 自然科学科 自然コース 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

1-1⑨ 理工学部 自然科学科 数理コース 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

### 1-2 建築都市デザイン学部 教育課程表

1-2① 建築都市デザイン学部 建築学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

1-2② 建築都市デザイン学部 都市工学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

### 1-3 情報工学部 教育課程表

1-3① 情報工学部 情報科学科 情報工学基盤科目・専門科目 教育課程表

1-3② 情報工学部 知能情報工学科 情報工学基盤科目・専門科目 教育課程表

### 1-4 環境学部 教育課程表

1-4① 環境学部 学部共通科目 基礎科目・PBL科目 教育課程表

1-4② 環境学部 環境創生学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

1-4③ 環境学部 環境経営システム学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

### 1-5 メディア情報学部 教育課程表

1-5① メディア情報学部 学部共通科目 基礎科目・PBL科目 教育課程表

1-5② メディア情報学部 社会メディア学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

1-5③ メディア情報学部 情報システム学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

### 1-6 デザイン・データ科学部 教育課程表

デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科

教養科目・外国語科目・専門基礎科目・専門応用科目 教育課程表

### 1-7 都市生活学部 教育課程表

都市生活学部 都市生活学科

教養科目・外国語科目・体育科目・PBL科目・専門基礎科目・専門科目 教育課程表

### 1-8 人間科学部 教育課程表

人間科学部 人間科学科 教育課程表

1-1① 理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部  
 教養科目・体育科目・外国語科目・PBL科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群 系統	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
人文 学系	哲学(1)		2	2											
	哲学(2)		2		2										
	倫理学(1)		2	2											
	倫理学(2)		2		2										
	倫理学(a)		1		1										
	倫理学(b)		1		1										
	文化人類学		2		2										
	視覚芸術史(1)		2	2											
	視覚芸術史(2)		2		2										
	デザイン概論(1)		2			2									
	デザイン概論(2)		2				2								
	日本文学		2			2									
	日本史(1)		2	2											
	日本史(2)		2		2										
	西洋史(1)		2	2											
	西洋史(2)		2		2										
	民俗学(a)		1		1										
	民俗学(b)		1		1										
	宗教学		2	2											
	社会 科学系	社会学(1a)		1	1										
		社会学(1b)		1	1										
		社会学(2a)		1		1									
		社会学(2b)		1		1									
		社会学入門(a)		1	1										
		社会学入門(b)		1	1										
		経済学(1a)		1	1										
		経済学(1b)		1	1										
		経済学(2a)		1		1									
		経済学(2b)		1		1									
		日本経済論(a)		1				1							
		日本経済論(b)		1				1							
		政治学(1a)		1	1										
		政治学(1b)		1	1										
		政治学(2a)		1		1									
		政治学(2b)		1		1									
		日本の政治(a)		1			1								
		日本の政治(b)		1			1								
		国際関係論(1a)		1	1										
国際関係論(1b)			1	1											
国際関係論(2a)			1		1										
国際関係論(2b)			1		1										
日本国憲法			2	2	(2)										
法学			2	2											
民法			2		2										
西洋経済史			2	(2)	2										
人文地理学(a)		1	1												
人文地理学(b)		1	1												
現代中国論		2		2											
人間 科学系	教育学(1a)		1	1											
	教育学(1b)		1	1											
	教育学(2a)		1		1										
	教育学(2b)		1		1										
	スポーツ・健康論		2	2	(2)										
	心理学(1a)		1	1											
	心理学(1b)		1	1											
	心理学(2a)		1		1										
	心理学(2b)		1		1										
	心理学入門		2	2											

区分 科目群 系統	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
教養科目	人間科学系	社会とジェンダー(a)	1		1									
	社会とジェンダー(b)	1		1										
	国際化と異文化理解(a)	1						1						
	国際化と異文化理解(b)	1						1						
	日本文化の伝承(a)	1		1										
	日本文化の伝承(b)	1		1										
	情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)	1	2	(2)									※DS
	データサイエンスリテラシー(2)	1	(2)	2										※DS
	論理学(1a)	1	1											
	論理学(1b)	1	1											
	論理学(2a)	1	1											
	論理学(2b)	1	1											
	その他	ボランティア(1)	1											
	ボランティア(2)	1												
	教養ゼミナール(1)	2	2	(2)										
教養ゼミナール(2)	2	2	(2)											
教養特別講義(1)	2	2	(2)											
教養特別講義(2)	2	2	(2)											
教養特別講義(3)	2	2	(2)											
体育科目	基礎体育(1a)	△	0.5	1										
	基礎体育(1b)	△	0.5	1										
	基礎体育(2a)	△	0.5	1										
	基礎体育(2b)	△	0.5	1										
	応用体育(1)		1			2	(2)							集中授業あり
	応用体育(2)		1			2	(2)							集中授業あり
外国語科目	英語科目(スキル)	○	1	2										
	Communication Skills(2)	○	1		2									
	Reading and Writing(1a)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(1b)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(2a)	○	0.5		1									
	Reading and Writing(2b)	○	0.5		1									
	Basic English Training(a)		1			1	(1)							
	Basic English Training(b)		1			1	(1)							
	Grammar(1a)		1			1	(1)							
	Grammar(1b)		1			1	(1)							
	Grammar(2a)		1			1	(1)							
	Grammar(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(3a)		1			1	(1)							*
	Test Taking Skills(3b)		1			1	(1)							*
	Critical Reading(1a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(1b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(2a)		1			1	(1)							*
	Critical Reading(2b)		1			1	(1)							*
	Critical Reading(3a)		1			1	(1)							*
	Critical Reading(3b)		1			1	(1)							*
	Critical Listening(1a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(1b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(2a)		1			1	(1)							*
	Critical Listening(2b)		1			1	(1)							*
	Critical Listening(3a)		1			1	(1)							*
	Critical Listening(3b)		1			1	(1)							*
	Communication Strategies(1a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(1b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(2a)		1			1	(1)							*
Communication Strategies(2b)		1			1	(1)							*	
Communication Strategies(3a)		1			1	(1)							*	
Communication Strategies(3b)		1			1	(1)							*	
Academic English(1a)		1			1	(1)								
Academic English(1b)		1			1	(1)								
Academic English(2a)		1			1	(1)							*	
Academic English(2b)		1			1	(1)							*	
Academic English(3a)		1			1	(1)							*	
Academic English(3b)		1			1	(1)							*	

区分 科目群 系統	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
英語科目 (教養)	Literature in English(1a)		1			1	(1)								
	Literature in English(1b)		1			1	(1)								
	Literature in English(2a)		1			1	(1)								
	Literature in English(2b)		1			1	(1)								
	Global Culture(1a)		1			1	(1)								
	Global Culture(1b)		1			1	(1)								
	Global Culture(2a)		1			1	(1)							*	
	Global Culture(2b)		1			1	(1)								*
	Language Sciences(1a)		1			1	(1)								
	Language Sciences(1b)		1			1	(1)								
	Language Sciences(2a)		1			1	(1)								*
	Language Sciences(2b)		1			1	(1)								*
	Global Society(1a)		1			1	(1)								
	Global Society(1b)		1			1	(1)								
	Global Society(2a)		1			1	(1)								
	Global Society(2b)		1			1	(1)								
	共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)									
		外国語特別講義(1a)		1			1	(1)							
		外国語特別講義(1b)		1			1	(1)							
		外国語特別講義(2a)		1			1	(1)							
	外国語特別講義(2b)		1			1	(1)								
	外国語科目	英語以外の 外国語科目	ドイツ語(1a)		1			1	(1)						
			ドイツ語(1b)		1			1	(1)						
			ドイツ語(2a)		1			1	(1)						
			ドイツ語(2b)		1			1	(1)						
			フランス語(1a)		1			1	(1)						
			フランス語(1b)		1			1	(1)						
			フランス語(2a)		1			1	(1)						
			フランス語(2b)		1			1	(1)						
			スペイン語(1a)		1			1	(1)						
			スペイン語(1b)		1			1	(1)						
			スペイン語(2a)		1			1	(1)						
			スペイン語(2b)		1			1	(1)						
			イタリア語(1a)		1			1	(1)						
			イタリア語(1b)		1			1	(1)						
			イタリア語(2a)		1			1	(1)						
		イタリア語(2b)		1			1	(1)							
		中国語(1a)		1			1	(1)							
		中国語(1b)		1			1	(1)							
		中国語(2a)		1			1	(1)							
		中国語(2b)		1			1	(1)							
		アラビア語(1a)		1			1	(1)							
アラビア語(1b)			1			1	(1)								
アラビア語(2a)			1			1	(1)								
アラビア語(2b)			1			1	(1)								
韓国語(1a)			1			1	(1)								
韓国語(1b)			1			1	(1)								
韓国語(2a)			1			1	(1)								
韓国語(2b)			1			1	(1)								
日本語表現(a)			1			1	(1)								
日本語表現(b)			1			1	(1)								
PBL科目	SD PBL(1)	○	1	2											
	SD PBL(2)	○	1		2										
	SD PBL(3)	○	1						2						

卒業要件	教養科目	10単位	
	体育科目	1単位	右記を含むこと △選択必修科目1単位
	外国語科目	8単位*	右記を含むこと ○必修科目4単位 ※情報工学部国際コースは、12単位とする。○必修科目4単位と 「英語科目(教養)」・「英語科目(スキル)」科目群の*印の選択科目から8単位を含むこと。
	PBL科目	3単位	右記を含むこと ○必修科目3単位

1-1② 理工学部 機械工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)										※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)										*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	○	1		1	(1)									※MS
	微分積分学(2b)	○	1		1	(1)									※MS
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)										※MS
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)										※MS
	線形代数学(2a)	○	1		1	(1)									※MS
	線形代数学(2b)	○	1		1	(1)									※MS
	微分方程式論	△1	2			2									
	ベクトル解析学	△1	2			2									
	フーリエ解析学	△1	2				2								
	数理統計学(a)	△1	1			1									※MS
	数理統計学(b)	△1	1			1									※MS
	代数学		2			2									
自然科学系	物理学及び演習(1)	△2	3		4	(4)									
	物理学及び演習(2)	△2	3		4	(4)									
	物理学(3)	△2	2		2										
	物理学(4)	△2	2		2										
	電磁気学基礎	△2	2		2										
	上級力学	△2	2		2										
	物理学実験(a)	○	1	2	(2)										
	物理学実験(b)	○	1	2	(2)										
	化学(1)		2	2											
	化学(2)		2		2										
	化学実験		2	(4)	4										
	生物学(1)		2			2									
	生物学(2)		2				2								
	生物学実験(a)		1			2	(2)								
	生物学実験(b)		1			2	(2)								
	地学(1)		2			2									
地学(2)		2				2									
地学実験(a)		1			2	(2)									
地学実験(b)		1			2	(2)									
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1											
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1											
	コンピュータ概論(a)		1		1										
	コンピュータ概論(b)		1		1										
	プログラミング基礎(a)		1		1										
	プログラミング基礎(b)		1		1										
	数値解析		2				2								
	AI・ビッグデータ基礎		1						2						
AI・ビッグデータ応用		1							2						
理工学教養系	技術者倫理	○	2					2							
	インターンシップ(1)		1												
	インターンシップ(2)		1												
	海外体験実習(1)		2												
	海外体験実習(2)		2												
	金属加工(製図・実習含)		2				2								
	電気工学概論(実習含)		2			2									
ことづくり	ことづくり(1)		2		2										
	ことづくり(2)		2			2									
	ことづくり(3)		2				2								
	ことづくり(4)		2					2							
	ことづくり(5)		1							1					

区分 科目群	授業科目	必選 の別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 科目	理工学と生活		2		2										
	工業概論		2		2										
	原子力汎論		2		2										
	量子力学入門		2				2								
	相対論入門		2				2								
	論理的な問題解決の進め方		2								2				
	学部 共通	電気電子通信計測応用		2						2					
		電気化学(a)		1				1							
		電気化学(b)		1				1							
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2		2									
	こ ひ ら め き づ く り	ひらめきづくり(1)		2	2										
		ひらめきづくり(2)		2		2									
		ひらめきづくり(3)		2				2							
		ひらめきづくり(4)		2					2						
		ひらめきづくり(5)		2						2					
		Next PBL		1										2	
	学 科 共 通	機械設計製図(a)	○	1	2	(2)									
		機械設計製図(b)	○	1	2	(2)									
		機械工作実習(a)	○	1	(2)	2									
		機械工作実習(b)	○	1	(2)	2									
		創成設計演習	○	2				4							
		知的財産		2											
		特別講義(1)		2											
		特別講義(2)		2											
	特別講義(3)		2												
	機 械 力 学	機械力学(1)及び演習・実験	○	3				4							
		機械力学(2)		2				2							
制御工学(1)			2						2						
制御工学(2)			2							2					
材 料 力 学	材料力学	○	2		2										
	応力解析学及びFEM演習		3						4						
流 体 力 学	流れ学及び演習・実験	○	3				4								
	流体力学		2						2						
	流体工学		2							2					
熱 力 学	熱力学及び演習・実験	○	3				4								
	伝熱工学		2						2						
	内燃機関		2							2					
	トライボロジー		2								2				
材 料 学	機械材料学及び演習・実験	○	3				4								
	材料評価		2						2						
	材料強度学		2							2					
加 工 学	機械工作概論		2	2											
	機械要素設計及び演習	○	3					4							
	材料加工学		2							2					
関 連 専 業 研 究	事例研究	○	2						(4)	4					
	卒業研究(1)	○	3							(6)	6				
	卒業研究(2)	○	3								(6)	6			

卒業 要件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目	13単位	以下を含むこと ○ 必修科目	31単位	以下を含むこと ※DS	1単位
	△1 選択必修科目	4単位				
	△2 選択必修科目	2単位				

1-1③ 理工学部 機械システム工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考								
				1年		2年		3年		4年										
				前	後	前	後	前	後	前	後									
数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)															※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)															*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	○	1		1	(1)														※MS
	微分積分学(2b)	○	1		1	(1)														※MS
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)															※MS
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)															※MS
	線形代数学(2a)	○	1		1	(1)														※MS
	線形代数学(2b)	○	1		1	(1)														※MS
	微分方程式論	△	2				2													
	ベクトル解析学	△	2				2													
	フーリエ解析学	△	2					2												
	数理統計学(a)	△	1				1													※MS
数理統計学(b)	△	1				1													※MS	
代数学		2				2														
自然科学系	物理学及び演習(1)		3		4	(4)														
	物理学及び演習(2)	○	3		4	(4)														
	物理学(3)		2		2															
	物理学(4)		2		2															
	電磁気学基礎		2		2															
	上級力学		2		2															
	物理学実験(a)	○	1	2	(2)															
	物理学実験(b)	○	1	2	(2)															
	化学(1)		2		2															
	化学(2)		2		2															
	化学実験		2	(4)	4															
	生物学(1)		2			2														
	生物学(2)		2				2													
	生物学実験(a)		1			2	(2)													
	生物学実験(b)		1			2	(2)													
	地学(1)		2			2														
地学(2)		2				2														
地学実験(a)		1			2	(2)														
地学実験(b)		1			2	(2)														
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1																
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1																
	コンピュータ概論(a)		1		1															
	コンピュータ概論(b)		1		1															
	プログラミング基礎(a)	△	1		1															
	プログラミング基礎(b)	△	1		1															
	数値解析		2				2													
	AI・ビッグデータ基礎	△	1							2										
AI・ビッグデータ応用	△	1							2											
理工学教養系	技術者倫理	○	2					2												
	インターンシップ(1)		1																	
	インターンシップ(2)		1																	
	海外体験実習(1)		2																	
	海外体験実習(2)		2																	
	金属加工(製図・実習含)		2				2													
	電気工学概論(実習含)		2			2														
ことづくり	ことづくり(1)		2		2															
	ことづくり(2)		2			2														
	ことづくり(3)		2				2													
	ことづくり(4)		2					2												
	ことづくり(5)		1							1										

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	専 門 教 養	理工学と生活	2	2									
		工業概論	2	2									
		原子力汎論	2	2									
		量子力学入門	2		2								
		相対論入門	2		2								
		論理的な問題解決の進め方	2					2					
	学 部 共 通	電気電子通信計測応用	2				2						
		電気化学(a)	1			1							
		電気化学(b)	1			1							
		Direct Current Electrical Circuit Analysis	2	2									
	こ と ら づ め く り	ひらめきづくり(1)	2	2									
		ひらめきづくり(2)	2	2									
		ひらめきづくり(3)	2		2								
		ひらめきづくり(4)	2			2							
		ひらめきづくり(5)	2				2						
		Next PBL	1							2			
	学 科 共 通	機械工作概論及び実習(a)	○	1.5	2	(2)							
		機械工作概論及び実習(b)	○	1.5	2	(2)							
		機械材料	△1	2	2								
		工業力学及び演習	○	1.5	2								
		電気物理及び演習(a)	○	1.5	2								
		電気物理及び演習(b)	○	1.5	2								
		機械システム	△1	2			2						
		機械要素	△1	2				2					
	材 料 力 学	振動工学	△1	2				2					
		材料力学(1)及び演習	○	1.5			2						
		材料力学(2)	△1	2			2						
	熱 流 体 工 学	強度解析学		2					2				
		熱力学(1)及び演習	○	1.5			2						
熱力学(2)		△1	2			2							
流れ学(1)及び演習		○	1.5			2							
流れ学(2)		△1	2			2							
伝熱工学		△1	2				2						
電 気 電 子 工 学	熱流体システム		2						2				
	電気電子回路及び演習(a)	○	1.5	2									
	電気電子回路及び演習(b)	△2	1.5			2							
	計測工学	△1	2				2						
制 御 工 学	電気機器		2					2					
	システム <sup>※</sup> イミックス及び演習(a)	○	1.5			2							
	システム <sup>※</sup> イミックス及び演習(b)	△2	1.5			2							
	制御システム設計	△1	2				2						
ロ ボ ッ ト 工 学	制御理論		2					2					
	ロボット工学		2					2					
宇 宙 工 学	ロボット工学応用		2						2				
	航空宇宙工学概論		2					2					
応 用 分 野 科 目	宇宙システム学		2					2					
	知的財産		2										
	特別講義(1)		2										
	特別講義(2)		2										
テ ク ニ ク 関 連 科 目	特別講義(3)		2										
	プログラミング及び演習(a)	○	1.5			2							
	プログラミング及び演習(b)	△2	1.5			2							
	数値シミュレーション	△1	2			2							
実 験 実 習 科 目	ロボット制御プログラミング	△1	2				2						
	基礎設計製図	○	2	4	(4)								
	機械システム基礎実験	○	2			4							
	電気基礎実験	○	2				4						
	機械システム設計演習(1)	○	2				4						
関 卒 連 業 科 目 究	機械システム設計演習(2)	○	2					4					
	事例研究	○	2					(4)	4				
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6			
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6		

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目	16単位	以下を含むこと ○ 必修科目	34.5単位	※DS	1単位
	△ 選択必修科目	7単位	△1 選択必修科目	10単位		
			△2 選択必修科目	1.5単位		

1-1④ 理工学部 電気電子通信工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)								※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)								*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	△1	1		1	(1)							※MS
	微分積分学(2b)	△1	1		1	(1)							※MS
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)								※MS
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)								※MS
	線形代数学(2a)	△1	1		1	(1)							※MS
	線形代数学(2b)	△1	1		1	(1)							※MS
	微分方程式論	△1	2			2							
	ベクトル解析学	△1	2			2							
	フーリエ解析学	△1	2				2						
	数理統計学(a)	△1	1			1							※MS
数理統計学(b)	△1	1			1							※MS	
代数学		2			2								
理工学基礎科目	自然科学系	物理学及び演習(1)	△2	3		4	(4)						
		物理学及び演習(2)	△2	3		4	(4)						
		物理学(3)	△2	2		2							
		物理学(4)	△2	2		2							
		電磁気学基礎	○	2		2							
		上級力学	△2	2		2							
		物理学実験(a)	○	1	2	(2)							
		物理学実験(b)	○	1	2	(2)							
		化学(1)		2	2								
		化学(2)		2	2								
		化学実験		2	(4)	4							
		生物学(1)		2		2							
		生物学(2)		2		2							
		生物学実験(a)		1		2	(2)						
		生物学実験(b)		1		2	(2)						
		地学(1)		2		2							
		地学(2)		2		2							
地学実験(a)		1		2	(2)								
地学実験(b)		1		2	(2)								
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1									
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1									
	コンピュータ概論(a)		1	1									
	コンピュータ概論(b)		1	1									
	プログラミング基礎(a)	○	1	1									
	プログラミング基礎(b)	○	1	1									
	数値解析		2			2							
	AI・ビッグデータ基礎	△1	1				2						
AI・ビッグデータ応用	△1	1				2							
理工学教養系	技術者倫理	○	2					2					
	インターンシップ(1)		1										
	インターンシップ(2)		1										
	海外体験実習(1)		2										
	海外体験実習(2)		2										
	金属加工(製図・実習含)		2			2							
	電気工学概論(実習含)		2			2							
ことづくり	ことづくり(1)		2	2									
	ことづくり(2)		2		2								
	ことづくり(3)		2			2							
	ことづくり(4)		2				2						
	ことづくり(5)		1					1					
専門科目	専門教養	理工学と生活		2	2								
		工業概論		2	2								
		原子力汎論		2	2								
		量子力学入門		2		2							
		相対論入門		2		2							
		論理的な問題解決の進め方		2			2						
	学部共通	電気電子通信計測応用	△1	2				2					
		電気化学(a)		1		1							
		電気化学(b)		1		1							
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2	2								

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
こ と づ く り	ひらめきづくり(1)		2	2									
	ひらめきづくり(2)		2		2								
	ひらめきづくり(3)		2			2							
	ひらめきづくり(4)		2				2						
	ひらめきづくり(5)		2					2					
	Next PBL		1									2	
学 科 共 通	電気数学(1)	○	2	2									
	電気数学(2)	○	2	2									
	電気電子通信基礎実験(a)	○	1			2							
	電気電子通信基礎実験(b)	○	1			2							
	電気電子通信工学実験(a)	○	1				2						
	電気電子通信工学実験(b)	○	1				2						
	電気電子通信応用実験(a)	○	1					2					
	電気電子通信応用実験(b)	○	1					2					
	電気回路概論	○	2	2									
	電気回路基礎及び演習	○	3		4								
	電気回路応用	△2	2			2							
	電磁気学概論	○	2	2									
	電磁気学基礎演習	○	1		2								
	電磁気学応用	△2	2			2							
	電気電子通信計測	○	2				2						
	電気電子材料		2				2						
	論理回路		2				2						
	電子回路	○	2				2						
	応用電子回路		2				2						
	デジタル工学		2						2				
	通信工学		2				2						
	符号理論		2				2						
	伝送回路		2						2				
	通信信頼性工学		2							2			
	電気電子通信技術英語(1)		2						2				
	電気電子通信技術英語(2)		2							2			
	音響工学		2							2			
	電気製図(a)		1							2			
	電気製図(b)		1							2			
	電気法規及び施設管理		2								2		
	プログラミング応用		2					2					
	デジタル信号処理		2					2					
知的財産		2	2										
サイバーフィジカルDX		2	2										
特別講義(1)		2											
特別講義(2)		2											
特別講義(3)		2											
グ リ ン エ レ ク ト ロ ニ ク ス	電子物理基礎	△1	2				2						
	半導体デバイス	△1	2					2					
	エレクトロニクス工学	△1	2						2				
	光エレクトロニクス	△1	2							2			
次 世 代 ド ラ イ ブ シ ス テ ム	電気機器工学	△1	2				2						
	パワーエレクトロニクス	△1	2					2					
	システム解析	△1	2						2				
	システム制御工学	△1	2							2			
超 ス マ ー ト エ ネ ル ギ ー 社 会	発変電工学	△1	2				2						
	高電圧工学	△1	2					2					
	配電工学	△1	2						2				
	送電工学	△1	2							2			
情 報 通 信 ア プ リ ケ ー シ ョ ン	デジタル通信方式	△1	2				2						
	通信システム	△1	2					2					
	集積回路システム工学	△1	2						2				
	電磁波工学	△1	2							2			
関 連 業 務 研 究	先端工学	○	2						2				
	事例研究	○	2					(4)	4				
	卒業研究(1)	○	3							(6)	6		
	卒業研究(2)	○	3								(6)	6	

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと		以下を含むこと		以下を含むこと	
	○ 必修科目	13単位	○ 必修科目	32単位	※DS	1単位
	△1 選択必修科目	4単位	△1 選択必修科目	10単位		
	△2 選択必修科目	2単位	△2 選択必修科目	2単位		

1-1⑤ 理工学部 医用工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分科目群	授業科目	必選の別	単位数	週時間数								備考				
				1年		2年		3年		4年						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
理工学基礎科目	数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)									※MS	
		微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)									*週時間数2とすることがある。 ※MS	
		微分積分学(2a)	○	1		1	(1)								※MS	
		微分積分学(2b)	○	1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(1a)	○	1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(1b)	○	1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(2a)	○	1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(2b)	○	1		1	(1)								※MS	
		微分方程式論			2			2								
		ベクトル解析学			2			2								
		フーリエ解析学			2				2							
		数理論計学(a)			1			1								※MS
	数理論計学(b)			1			1								※MS	
	代数学			2			2									
	自然科学系	物理学及び演習(1)	△	3		4	(4)									
		物理学及び演習(2)	△	3		4	(4)									
物理学(3)				2		2										
物理学(4)				2		2										
電磁気学基礎				2		2										
上級力学				2		2										
物理学実験(a)		△	1		2	(2)										
物理学実験(b)		△	1		2	(2)										
化学(1)		△	2		2											
化学(2)		△	2		2											
化学実験				2		(4)	4									
生物学(1)		△	2				2									
生物学(2)		△	2					2								
生物学実験(a)				1				2		(2)						
生物学実験(b)			1				2		(2)							
地学(1)			2			2										
地学(2)			2					2								
地学実験(a)			1					2		(2)						
地学実験(b)			1						2		(2)					
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5		1											
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5		1											
	コンピュータ概論(a)			1		1										
	コンピュータ概論(b)			1		1										
	プログラミング基礎(a)	○	1		1											
	プログラミング基礎(b)	○	1		1											
数値解析			2					2								
理工学教養系	技術者倫理	○	2							2						
	インターンシップ(1)			1												
	インターンシップ(2)			1												
	海外体験実習(1)			2												
	海外体験実習(2)			2												
	金属加工(製図・実習含)			2						2						
電気工学概論(実習含)			2					2								

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専 門 科 目	理工学と生活		2		2										
	工業概論		2		2										
	原子力汎論		2		2										
	量子力学入門		2			2									
	相対論入門		2			2									
	論理的な問題解決の進め方		2						2						
	学 部 共 通	電気電子通信計測応用		2					2						
		電気化学(a)		1			1								
		電気化学(b)		1			1								
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2		2									
	医 学 系	生理学(1)	○	2			2								
		生理学(2)	△	2			2								
		解剖・外科学	○	2			2								
		解剖・生理学	△	2					2						
		内科・診断学	△	2					2						
		生化学		2					2						
		臨床医学総論		2						2					
		公衆衛生学		2						2					
	基礎医学総論		2						2						
	医 用 工 学 系	医用工学リテラシー	○	2	2										
		福祉ロボット工学及び実習(a)	○	1.5			2								
		福祉ロボット工学及び実習(b)	○	1.5			2								
		生理学及び実習(a)	○	1.5					2						
		生理学及び実習(b)	○	1.5					2						
		医用機械工学応用(1)	△	2					2						
		医用機械工学応用(2)		2					2						
		臨床機器学及び実習(a)	○	1.5					2						
		臨床機器学及び実習(b)	○	1.5					2						
		医用計測工学	△	2					2						
		医用機器	△	2					2						
		医用安全工学	△	2					2						
		総合実習(a)	○	1						2					
		総合実習(b)	○	1						2					
	音響工学		2						2						
	機 械 系	医用機械工学実習(1a)	○	1	2	(2)									
		医用機械工学実習(1b)	○	1	2	(2)									
		医用機械工学実習(2a)	○	1	(2)	2									
		医用機械工学実習(2b)	○	1	(2)	2									
		医用機械工学基礎(1)	△	2					2						
		医用機械工学基礎(2)	△	2					2						
電 気 ・ 電 子 ・ 情 報 系	医用電磁気学及び演習(a)	○	1.5			2									
	医用電磁気学及び演習(b)	○	1.5			2									
	医用電気回路	○	2			2									
	医用電子回路	○	2			2									
	プログラミング応用	△	2					2							
	デジタル信号処理		2					2							
	デジタル回路	△	2					2							
	計測工学	△	2					2							
学 科 共 通	特別講義(BME-1)		2												
	特別講義(BME-2)		2												
	特別講義(BME-3)		2												
関 連 業 科 研 究	事例研究(1)	○	2					2	(2)						
	事例研究(2)	○	2					(2)	2						
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6					
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6				

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと		以下を含むこと		以下を含むこと	
	○ 必修科目	13単位	○ 必修科目	38単位	※DS	1単位
	△ 選択必修科目	8単位	△ 選択必修科目	14単位		

1-1⑥ 理工学部 応用化学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
理工学基礎科目	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)									※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)									*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	○	1		1	(1)								※MS
	微分積分学(2b)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)									※MS
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)									※MS
	線形代数学(2a)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(2b)	○	1		1	(1)								※MS
	微分方程式論	△1	2			2								
	ベクトル解析学	△1	2			2								
	フーリエ解析学	△1	2				2							
	数理統計学(a)	△1	1			1								※MS
	数理統計学(b)	△1	1			1								※MS
	代数学		2			2								
	物理学及び演習(1)	△2	3			4	(4)							
	物理学及び演習(2)	△2	3			4	(4)							
	物理学(3)	△2	2			2								
	物理学(4)	△2	2			2								
	電磁気学基礎	△2	2			2								
	上級力学	△2	2			2								
	物理学実験(a)	○	1	2	(2)									
	物理学実験(b)	○	1	2	(2)									
	化学(1)	○	2	2										
	化学(2)	○	2		2									
	化学実験	○	2	(4)	4									
	生物学(1)		2			2								
生物学(2)		2				2								
生物学実験(a)		1			2	(2)								
生物学実験(b)		1			2	(2)								
地学(1)		2			2									
地学(2)		2				2								
地学実験(a)		1			2	(2)								
地学実験(b)		1			2	(2)								
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1										
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1										
	コンピュータ概論(a)		1		1									
	コンピュータ概論(b)		1		1									
	プログラミング基礎(a)		1		1									
	プログラミング基礎(b)		1		1									
	数値解析		2				2							
理工学教養系	技術者倫理	○	2				2							
	インターンシップ(1)		1											
	インターンシップ(2)		1											
	海外体験実習(1)		2											
	海外体験実習(2)		2											
	金属加工(製図・実習含)		2				2							
	電気工学概論(実習含)		2				2							

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考									
				1年		2年		3年		4年											
				前	後	前	後	前	後	前	後										
専 門 教 養	理工学と生活		2		2																
	工業概論		2		2																
	原子力汎論		2		2																
	量子力学入門		2				2														
	相対論入門		2				2														
	論理的な問題解決の進め方		2										2								
	学 部 共 通	電気電子通信計測応用		2							2										
		電気化学(a)		1				1													
		電気化学(b)		1				1													
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2			2														
	学 科 共 通	応用化学総合演習(a)	○	0.5		1															
		応用化学総合演習(b)	○	0.5		1															
		物理化学演習(a)	○	0.5			1														
		物理化学演習(b)	○	0.5			1														
		量子化学	○	2			2														
		化学熱力学(1)	○	2			2														
		化学熱力学(2a)		1				1													
		化学熱力学(2b)		1				1													
		物理化学(1)	○	2				2													
		物理化学(2)	○	2				2													
		物理化学(3)		2					2												
		分析化学(1)		2				2													
		有機化学(1a)	○	1				1													
		有機化学(1b)	○	1				1													
		有機化学(2)		2					2												
		無機化学(a)	○	1				1													
		無機化学(b)	○	1				1													
		グリーンケミストリー(a)		1				1													
		グリーンケミストリー(b)		1				1													
	分子構造論	○	2				2														
	特別講義(1)		2																		
	特別講義(2)		2																		
	特別講義(3)		2																		
	実 験 ・ 実 習 系	応用化学実験基礎(1a)	○	1				2													
		応用化学実験基礎(1b)	○	1				2													
		応用化学実験基礎(2a)	○	1					2												
		応用化学実験基礎(2b)	○	1					2												
		応用化学実験発展(a)	○	1						2											
		応用化学実験発展(b)	○	1							2										
	有 機 ・ 生 物 化 学	高分子化学		2						2											
		生物化学		2						2											
		バイオプロセス化学		2								2									
		有機材料化学		2									2								
		構造化学		2									2								
	物 理 化 学 工 学 ・ 化 学 工 学	界面化学		2							2										
		光機能性化学		2							2										
		応用電気化学		2							2										
化学工学			2							2											
反応工学			2									2									
エネルギー変換工学			2									2									
無 機 ・ 分 析 化 学	固体化学		2					2													
	無機物質化学(a)		1						1												
	無機物質化学(b)		1							1											
	固体物性(a)		1							1											
	固体物性(b)		1							1											
	無機材料化学		2								2										
	分析化学(2a)		1								1										
分析化学(2b)		1									1										
関 卒 進 業 科 研 目 究	事例研究	○	2							(4)	4										
	卒業研究(1)	○	3								(6)	6									
	卒業研究(2)	○	3									(6)	6								

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目	19単位	以下を含むこと ○ 必修科目	30単位	以下を含むこと ※DS	1単位
	△1 選択必修科目	2単位				
	△2 選択必修科目	4単位				

1-1⑦ 理工学部 原子力安全工学科 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
理工学基礎科目	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)										※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)										*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	○	1		1	(1)									※MS
	微分積分学(2b)	○	1		1	(1)									※MS
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)										※MS
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)										※MS
	線形代数学(2a)	○	1		1	(1)									※MS
	線形代数学(2b)	○	1		1	(1)									※MS
	微分方程式論	△1	2			2									
	ベクトル解析学	△1	2			2									
	フーリエ解析学	△1	2				2								
	数理統計学(a)	△1	1			1									※MS
	数理統計学(b)	△1	1			1									※MS
	代数学		2			2									
	物理学及び演習(1)	○	3		4	(4)									
	物理学及び演習(2)	○	3		4	(4)									
	物理学(3)		2		2										
	物理学(4)		2		2										
	電磁気学基礎		2		2										
	上級力学		2		2										
	物理学実験(a)	△2	1	2	(2)										
	物理学実験(b)	△2	1	2	(2)										
	化学(1)	○	2		2										
	化学(2)		2		2										
	化学実験	△2	2	(4)	4										
	生物学(1)		2			2									
生物学(2)		2				2									
生物学実験(a)		1			2	(2)									
生物学実験(b)		1			2	(2)									
地学(1)		2			2										
地学(2)		2				2									
地学実験(a)		1			2	(2)									
地学実験(b)		1			2	(2)									
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1											
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1											
	コンピュータ概論(a)		1		1										
	コンピュータ概論(b)		1		1										
	プログラミング基礎(a)		1		1										
	プログラミング基礎(b)		1		1										
数値解析		2				2									
理工学教養系	技術者倫理	○	2				2								
	インターンシップ(1)		1												
	インターンシップ(2)		1												
	海外体験実習(1)		2												
	海外体験実習(2)		2												
	金属加工(製図・実習含)		2				2								
電気工学概論(実習含)		2				2									

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考				
				1年		2年		3年		4年						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
専 門 科 目	理工学と生活		2		2											
	工業概論		2		2											
	原子力汎論	○	2		2											
	量子力学入門		2				2									
	相対論入門		2				2									
	論理的な問題解決の進め方		2							2						
	学 部 共 通	電気電子通信計測応用		2						2						
		電気化学(a)		1				1								
		電気化学(b)		1				1								
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2		2										
	学 科 共 通	放射線概論	○	2	2											
		原子力構造工学基礎	○	2	2											
		基礎設計製図(a)		1	2	(2)										
		基礎設計製図(b)		1	2	(2)										
		放射線・電気工学基礎	△1	2			2									
		地球環境科学		2			2									
		原子力機械工学基礎	△1	2				2								
		核反応工学基礎	△1	2			2									
		原子力技術法規		2				2								
		プログラミング応用		2				2								
		デジタル信号処理		2				2								
		核燃料・放射化学基礎	△1	2				2								
		原子力安全工学基礎	△1	2				2								
		信号処理と数値計算		2							2					
		都市防災論		2			2									
	耐震工学		2						2							
	特別講義(1)		2													
	特別講義(2)		2													
	特別講義(3)		2													
	実 験 実 習 科 目	機械工作実習(a)	○	1	(2)	2										
		機械工作実習(b)	○	1	(2)	2										
		原子力設計製図(a)		0.5			1									
		原子力設計製図(b)		0.5			1									
		電気機械・放射線実験(1a)	○	1			2									
		電気機械・放射線実験(1b)	○	1			2									
		電気機械・放射線実験(2a)	○	1				2								
		電気機械・放射線実験(2b)	○	1				2								
		原子力実験実習(a)	○	1					2							
		原子力実験実習(b)	○	1					2							
	原 子 炉 工 学	原子炉物理学	△2	2					2							
		原子炉設計工学		2						2						
	核 燃 料 利 用 工 学	核燃料材料・サイクル化学工学	△2	2					2							
		バックエンド工学		2							2					
	原 子 力 構 造 設 計 工 学	原子力耐震工学	△2	2					2							
		原子力メンテナンス工学		2						2						
原 子 力 安 全 工 学	原子炉熱流動・リスク工学	△2	2					2								
	原子力安全工学		2							2						
放 射 線 工 学	放射線計測工学	△2	2					2								
	放射線利用工学		2							2						
関 連 卒 業 科 目 究	事例研究	○	2					(2)	2							
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6						
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6					

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと		以下を含むこと		以下を含むこと	
	○ 必修科目	19単位	○ 必修科目	22単位	※DS	1単位
	△1 選択必修科目	2単位	△1 選択必修科目	8単位		
	△2 選択必修科目	2単位	△2 選択必修科目	4単位		

1-1⑧ 理工学部 自然科学科 自然コース 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目 ◇博物館に関する科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考				
				1年		2年		3年		4年						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
理工学基礎科目	数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)									※MS	
		微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)									*週時間数2とする場合がある。 ※MS	
		微分積分学(2a)		1		1	(1)								※MS	
		微分積分学(2b)		1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(1a)	○	1	1	(1)									※MS	
		線形代数学(1b)	○	1	1	(1)									※MS	
		線形代数学(2a)		1		1	(1)								※MS	
		線形代数学(2b)		1		1	(1)								※MS	
		微分方程式論		2			2									
		ベクトル解析学		2			2									
フーリエ解析学		2				2										
		1			1									※MS		
		1			1									※MS		
理工学基礎科目	自然科学系	物理学及び演習(1)		3		4	(4)									
		物理学及び演習(2)		3		4	(4)									
		物理学(3)		2		2										
		物理学(4)		2		2										
		電磁気学基礎		2		2										
		上級力学		2		2										
		物理学実験(a)	○	1	2	(2)										
		物理学実験(b)	○	1	2	(2)										
		化学(1)	△	2	2											
		化学(2)	△	2	2											
		化学実験	○	2	(4)	4										
		生物学(1)	△	2	2											
		生物学(2)	△	2	2											
		生物学実験(a)	○	1	2	(2)										
		生物学実験(b)	○	1	2	(2)										
		地学(1)	△	2	2											
		地学(2)	△	2	2											
地学実験(a)	○	1	2	(2)												
地学実験(b)	○	1	2	(2)												
理工学基礎科目	情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1											
		情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1											
		コンピュータ概論(a)		1		1										
		コンピュータ概論(b)		1		1										
		プログラミング基礎(a)		1		1										
		プログラミング基礎(b)		1		1										
		2			2											
理工学基礎科目	理工学教養系	技術者倫理	○	2			2									
		インターンシップ(1)		1												
		インターンシップ(2)		1												
		海外体験実習(1)		2												
		海外体験実習(2)		2												
		金属加工(製図・実習含)		2			2									
		電気工学概論(実習含)		2			2									
専門科目	専門教養	理工学と生活		2	2											
		工業概論		2	2											
		原子力汎論		2	2											
		量子力学入門		2			2									
		相対論入門	△	2			2									
		論理的な問題解決の進め方		2					2							
	学部共通	電気電子通信計測応用		2					2							
		電気化学(a)		1			1									
		電気化学(b)		1			1									
		Direct Current Electrical Circuit Analysis		2	2											

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
学 科 共 通	自然科学科実験及び演習	○	2			4								
	野外調査法及び実習(1)	○	3				4							
	野外調査法及び実習(2)		3					4						
	自然と数理	○	2				2							
	現代科学論	○	2				2							
	生涯学習概論		2			2								◇
	博物館教育論		2			2								◇
	博物館学(1)	○	2			2								◇
	博物館学(2)		2			2								◇
	博物館学(3)		2				2							◇
	映像表現論	○	2			2								◇
	博物館資料保存論		2					2						◇
	博物館展示論		2				2							◇
	博物館学実習(1)		1				2							◇
	博物館学実習(2)		2						4					◇
特別講義(NS-1)		2												
特別講義(NS-2)		2												
特別講義(NS-3)		2												
自 然	力学	○	2	2										
	力学演習		1	2										
	波動・熱力学	△	2		2									
	電磁気学	△	2			2								
	分子構造論	○	2			2								
	生命の化学	○	2				2							
	分子物性論	○	2				2							
	分子の運動	△	2					2						
	進化論	○	2			2								
	動物学	△	2				2							
	植物学	△	2				2							
	生命と物質	○	2					2						
	微生物学	△	2						2					
	地球変動論	○	2			2								
	プレート・テクトニクス	△	2			2								
宇宙科学	○	2				2								
惑星科学	△	2						2						
古生物学	△	2						2						
地理学	△	2						2						
数 理	数学演習(1a)		0.5	1										
	数学演習(1b)		0.5	1										
	数学演習(2a)		0.5		1									
	数学演習(2b)		0.5		1									
	基礎論理回路		2			2								
	離散数学		2		2									
	集合と論理		2			2								
	極限と位相		2					2						
	基礎確率統計		2	2										
	関数論		2				2							
	代数学(1)		2				2							
	代数学(2)		2					2						
	代数学(3)		2					2						
	幾何学(1)		2				2							
	幾何学(2)		2					2						
幾何学(3)		2					2							
ルベーグ積分論		2							2					
関数解析学		2							2					
現代代数学		2						2						
計算物理学		2							2					
関 卒 連 業 科 目 研 究	事例研究(1)	○	4					4	(4)					
	事例研究(2)	○	2					(2)	2					
	卒業研究(1)	○	3							(6)				
	卒業研究(2)	○	3								(6)	6		

卒業要件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目 △ 選択必修科目	15単位 6単位	以下を含むこと ○ 必修科目 △ 選択必修科目	41単位 14単位	以下を含むこと ※DS	1単位

1-1⑨ 理工学部 自然科学科 数理コース 理工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目 ◇博物館に関する科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
理工学基礎科目	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)									※MS
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)									*週時間数2とする場合がある。 ※MS
	微分積分学(2a)	○	1		1	(1)								※MS
	微分積分学(2b)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(1a)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(1b)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(2a)	○	1		1	(1)								※MS
	線形代数学(2b)	○	1		1	(1)								※MS
	微分方程式論	○	2			2								
	ベクトル解析学	○	2			2								
	フーリエ解析学	○	2				2							
	数理統計学(a)		1			1								※MS
	数理統計学(b)		1			1								※MS
	物理学及び演習(1)		3			4	(4)							
	物理学及び演習(2)		3			4	(4)							
	物理学(3)		2			2								
	物理学(4)		2			2								
	電磁気学基礎		2			2								
	上級力学		2			2								
	物理学実験(a)	△	1			2	(2)							
	物理学実験(b)	△	1			2	(2)							
	化学(1)		2			2								
	化学(2)		2			2								
	化学実験	△	2			(4)	4							
	生物学(1)		2			2								
	生物学(2)		2			2								
	生物学実験(a)	△	1			2	(2)							
	生物学実験(b)	△	1			2	(2)							
	地学(1)		2			2								
	地学(2)		2			2								
	地学実験(a)	△	1			2	(2)							
地学実験(b)	△	1			2	(2)								
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5		1									
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5		1									
	コンピュータ概論(a)		1		1									
	コンピュータ概論(b)		1		1									
	プログラミング基礎(a)		1		1									
	プログラミング基礎(b)		1		1									
	数値解析		2				2							
理工学教養系	技術者倫理	○	2			2								
	インターンシップ(1)		1											
	インターンシップ(2)		1											
	海外体験実習(1)		2											
	海外体験実習(2)		2											
	金属加工(製図・実習含)		2			2								
	電気工学概論(実習含)		2			2								
専門科目	理工学と生活		2		2									
	工業概論		2		2									
	原子力汎論		2		2									
	量子力学入門		2			2								
	相対論入門		2			2								
	論理的な問題解決の進め方		2					2						
学部共通	電気電子通信計測応用		2					2						
	電気化学(a)		1			1								
	電気化学(b)		1			1								
	Direct Current Electrical Circuit Analysis		2		2									

区 分 科 目 群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
学 科 共 通	自然科学科実験及び演習	○	2			4								
	野外調査法及び実習(1)		3				4							
	野外調査法及び実習(2)		3					4						
	自然と数理	○	2				2							
	現代科学論	○	2				2							
	生涯学習概論		2			2								◇
	博物館教育論		2			2								◇
	博物館学(1)		2			2								◇
	博物館学(2)		2			2								◇
	博物館学(3)		2					2						◇
	映像表現論		2			2								◇
	博物館資料保存論		2						2					◇
	博物館展示論		2					2						◇
	博物館学実習(1)		1					2						◇
	博物館学実習(2)		2							4				◇
特別講義(NS-1)		2												
特別講義(NS-2)		2												
特別講義(NS-3)		2												
自 然	力学		2	2										
	力学演習		1	2										
	波動・熱力学		2		2									
	電磁気学		2			2								
	分子構造論		2			2								
	生命の化学		2				2							
	分子物性論		2				2							
	分子の運動		2					2						
	進化論		2				2							
	動物学		2					2						
	植物学		2					2						
	生命と物質		2						2					
	微生物学		2							2				
	地球変動論		2				2							
	プレート・テクトニクス		2				2							
数 理	数学演習(1a)	△	0.5	1										
	数学演習(1b)	△	0.5	1										
	数学演習(2a)	△	0.5		1									
	数学演習(2b)	△	0.5		1									
	基礎論理回路	△	2			2								
	離散数学	△	2			2								
	集合と論理	○	2				2							
	極限と位相	△	2					2						
	基礎確率統計	△	2	2										
	関数論	○	2				2							
	代数学(1)	○	2				2							
	代数学(2)	△	2					2						
	代数学(3)	△	2						2					
	幾何学(1)	○	2					2						
	幾何学(2)	△	2						2					
幾何学(3)	△	2							2					
ルベーグ積分論	△	2								2				
関数解析学	○	2									2			
現代代数学	○	2									2			
計算物理学	○	2										2		
関 卒 連 業 科 目 研 究	事例研究(1)	○	4						4	(4)				
	事例研究(2)	○	2						(2)	2				
	卒業研究(1)	○	3								(6)			
	卒業研究(2)	○	3									(6)	6	

卒 業 要 件	理工学基礎科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目	17単位	以下を含むこと ○ 必修科目	32単位	※DS	1単位
	△ 選択必修科目	2単位	△ 選択必修科目	14単位		

1-2① 建築都市デザイン学部 建築学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
数学系	微分積分学(1a)	○	1	1*	(1)								※MS	
	微分積分学(1b)	○	1	1*	(1)								*週時間数2とする場合がある。※MS	
	微分積分学(2a)		1		1	(1)							※MS	
	微分積分学(2b)		1		1	(1)							※MS	
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)								※MS	
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)								※MS	
	線形代数学(2a)		1		1	(1)							※MS	
	線形代数学(2b)		1		1	(1)							※MS	
	微分方程式論	△	2			2								
	ベクトル解析学	△	2				2							
	フーリエ解析学	△	2				2							
	数理統計学	△	2			2							※MS	
自然科学系	物理学及び演習(1)	○	3		4	(4)								
	物理学及び演習(2)	○	3		4	(4)								
	物理学(3)		2			2								
	物理学(4)		2			2								
	電磁気学基礎		2			2								
	物理学実験(a)	○	1	2	(2)									
	物理学実験(b)	○	1	2	(2)									
	化学(1)		2	2										
	化学(2)		2		2									
	化学実験		2	(4)	4									
	生物学		2			2								
	地学		2			2								
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1										
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1										
	プログラミング基礎(a)		1		1									
	プログラミング基礎(b)		1		1									
	数値解析		2			2								
総合系	技術者倫理	○	2					2						
	インターンシップ(1)		1											
	インターンシップ(2)		1											
	海外体験実習(1)		2											
	海外体験実習(2)		2											
専門科目	専門教養		2		2									
	学部共通	都市計画(1)		2			2							
		都市計画(2)	△1	2				2						
		都市デザイン	△4	2					2					
		ランドスケープデザイン	△4	1					1					
		インフラデザイン		2						2				
		都市防災論		2			2							
		都市交通計画		2					2					
	都市・地域分析		2						2					
	学科共通	建築CAD演習(1)	△4	1					2					
		建築CAD演習(2)	△4	1					2					
		建築製図演習(1)	△4	1					2					
		建築製図演習(2)	△4	1					2					
		建築実験	△4	2					4					
		キャリア開発	○	1			2							
		特別講義(1)		2										
		特別講義(2)		2										
特別講義(3)		2												
建築基礎	図学	○	1	2										
	設計基礎(1)	○	1	2										
	設計基礎(2)	○	1.5		3									
	設計基礎(3)	○	1.5		3									
	設計(1)	○	2			4								
	設計(2)	○	2			4								
	設計(3)	○	2			4								
設計(4)	○	2			4									

区分科目群	授業科目	必選の別	単位の別	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	建築基礎	建築計画(1)	○	2			2							
		建築材料(1)	○	2			2							
		建築構法(1)	○	2			2							
		建築構造力学基礎(1)	○	1	1									
		建築構造力学基礎(2)	○	1	1									
		建築構造力学基礎(3)	○	1		1								
		建築構造力学基礎(4)	○	1		1								
		建築環境工学(1)	○	2			2							
		建築設備学基礎(1)	○	1			1							
		建築設備学基礎(2)	○	1			1							
		建築総合演習	○	1						2				
	建築計画・設計	建築計画(2)	△1	2			2							
		西洋建築史	△1	2			2							
		日本建築史	△1	2			2							
		建築意匠論	△1	2					2					
		設計(5)	△4	2					4					
		設計(6)	△4	2					4					
		設計スタジオ(1)	△4	2						4				
		設計スタジオ(2)	△4	2						4				
		設計スタジオ(3)	△4	2							4			
		設計スタジオ(4)	△4	2								4		
	空間デザイン演習	△4	1.5					2						
	建築工学	建築生産	△3	2					2					
		建築施工法	△3	2						2				
		建築材料(2)	△4	2					2					
		建築防災計画	△4	2						2				
		建築構法(2)	△2	1			1							
		木質構造	△2	1			1							
		建築構造力学(1)	△4	1			1							
		建築構造力学(2)	△4	1			1							
		建築構造力学(3)	△4	1			1							
		建築構造力学(4)	△4	1			1							
		建築構造力学(5)	△4	1					1					
		建築構造力学(6)	△4	1					1					
		鉄筋コンクリート構造	△2	2			2							
		鉄骨構造	△2	2					2					
建築構造計画		△2	2			2								
地盤と基礎		△4	2					2						
耐震・耐風構造		△4	2						2					
建築構造設計		△2	2							2				
建築環境工学(2)		△4	2			2								
建築環境工学(3)		△4	2					2						
建築設備学	△4	2					2							
建築設備学応用	△4	2						2						
建築音響学	△4	1					1							
建築工学モデリング(1)	△4	1					1							
建築工学モデリング(2)	△4	1					1							
関連卒業科目	事例研究	○	2					(2)	2					
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6				
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6			

卒業要件	学部基礎科目	30単位	専門科目	68単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目 15単位 △ 選択必修科目 2単位		以下を含むこと ○ 必修科目 37単位 △ 選択必修科目 ※△1～4の合計で31単位 内訳 △1 選択必修科目 6単位 △2 選択必修科目 2単位 △3 選択必修科目 2単位 △4 選択必修科目 ※		以下を含むこと ※DS	1単位

1-2② 建築都市デザイン学部 都市工学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
数学系	微積分分学(1a)	○	1	1*	(1)								※MS	
	微積分分学(1b)	○	1	1*	(1)								*週時間数2とする場合がある。※MS	
	微積分分学(2a)		1		1	(1)							※MS	
	微積分分学(2b)		1		1	(1)							※MS	
	線形代数学(1a)	○	1	1	(1)								※MS	
	線形代数学(1b)	○	1	1	(1)								※MS	
	線形代数学(2a)		1		1	(1)							※MS	
	線形代数学(2b)		1		1	(1)							※MS	
	微分方程式論	△	2			2								
	ベクトル解析学	△	2				2							
	フーリエ解析学	△	2				2							
	数理統計学	△	2			2							※MS	
自然科学系	物理学及び演習(1)	○	3		4	(4)								
	物理学及び演習(2)	○	3		4	(4)								
	物理学(3)		2			2								
	物理学(4)		2			2								
	電磁気学基礎		2			2								
	物理学実験(a)	○	1	2	(2)									
	物理学実験(b)	○	1	2	(2)									
	化学(1)		2	2										
	化学(2)		2		2									
	化学実験		2	(4)	4									
	生物学		2			2								
	地学		2			2								
情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1										
	情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1										
	プログラミング基礎(a)		1		1									
	プログラミング基礎(b)		1		1									
	数値解析		2			2								
総合系	技術者倫理	○	2					2						
	インターンシップ(1)		1											
	インターンシップ(2)		1											
	海外体験実習(1)		2											
	海外体験実習(2)		2											
専門科目	専門教養	都市のインフラストラクチャー	△4	2		2								
	学部共通	都市デザイン		2						2				
		ランドスケープデザイン		1						1				
		インフラデザイン		2							2			
		都市防災論		2			2							
		都市計画(1)	△2	2				2						
		都市計画(2)		2							2			
		都市交通計画	△2	2					2					
	都市・地域分析	△2	2						2					
	学科共通	都市工学概論	○	1	2									
		設計基礎	○	1	2									
		測量学	○	2			2							
		測量学実習	○	1			2							
		都市構造物設計	△1	2						2				
		都市工学設計製図	○	1						2				
		都市工学実験演習(1)	○	1					2					
		都市工学実験演習(2)	○	1					2					
総合演習ゼミナール		○	1						2					
キャリア開発		○	1					2						
特別講義(1)		2												
特別講義(2)		2												
特別講義(3)		2												

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専門 科目	力学・ 材料	水理学及び演習(1)	○	3			4							
		水理学及び演習(2)	△1	3			4							
		構造力学及び演習(1)	○	3		4								
		構造力学及び演習(2)	○	3			4							
		構造力学及び演習(3)	△1	3			4							
		地盤工学及び演習(1)	△1	3			4							
		地盤工学及び演習(2)	△1	3				4						
		コンクリート工学及び演習	△1	3				4						
	鋼構造	△1	2					2						
	マシナリ	建設施工マネジメント	△2	2				2						
		インフラマネジメント	△2	2					2					
	都市 環境	水圏環境工学	△3	2					2					
		地圏環境工学	△3	2						2				
		上下水道工学	△3	2						2				
		水文河川工学	△3	2							2			
		海岸・港湾工学	△3	2					2					
	都市 防災	メンテナンス工学	△4	2					2					
		交通施設工学		2							2			
		エネルギー施設工学	△4	2						2				
		耐震工学	△4	2					2					
関 連 卒 業 研 究	事例研究	○	2					(2)	2					
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6				
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6			

卒業 要件	学部基盤科目	30単位	専門科目	60単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと ○ 必修科目	15単位	以下を含むこと ○ 必修科目	27単位	以下を含むこと ※DS	1単位
	△ 選択必修科目	2単位	△1 選択必修科目	10単位	△3 選択必修科目	4単位
			△2 選択必修科目	4単位	△4 選択必修科目	4単位

1-3① 情報工学部 情報科学科 情報工学基盤科目・専門科目 教育課程表

①：一般コース ②：国際コース

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
数学系	数学演習(1a)			0.5	1										
	数学演習(1b)			0.5	1										
	数学演習(2a)			0.5		1									
	数学演習(2b)			0.5		1									
	微分積分学(1a)	○	○	1	1										※MS
	微分積分学(1b)	○	○	1	1										※MS
	微分積分学(2a)	○	○	1		1									※MS
	微分積分学(2b)	○	○	1		1									※MS
	線形代数学(1a)	○	○	1	1										※MS
	線形代数学(1b)	○	○	1	1										※MS
	線形代数学(2a)	○	○	1		1									※MS
	線形代数学(2b)	○	○	1		1									※MS
	基礎確率統計	○	○	2	2										※MS
	微分方程式論			2			2								
	ベクトル解析学			2			2								
	フーリエ解析学			2				2							
代数学			2			2									
自然科学系	物理学(1)	△1	○	2	2										
	物理学(1)演習			1	2										
	物理学(2)	△1	△1	2		2									
	物理学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)									
	物理学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)									
	化学(1)	△1	△1	2	2										
	化学(2)	△1	△1	2		2									
	化学実験	△2	△2	2	(4)	4									
	生物学(1)	△1	△1	2	2										
	生物学(2)	△1	△1	2		2									
	生物学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)									
	生物学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)									
	地学(1)			2	2										
	地学(2)			2		2									
	地学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)									
	地学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)									
情報基盤系	情報リテラシー	○	○	2	2										
	コンピュータ概論	○	○	2	2										
	数値解析	○	○	2		2									
	技術者倫理	○	○	1			1								
	情報社会と職業(a)			1				1							
	情報社会と職業(b)			1				1							
	情報と特許	○	○	2					2						
	キャリアデザイン	○	○	1				2							
	専門キャリアデザイン			1					2						
	インターンシップ(1)			1											
	インターンシップ(2)			1											
	インターンシップ(3)			1											
	インターンシップ(4)			1											
	海外体験実習(1)			1											
	海外体験実習(2)			1											
	海外体験実習(3)			1											
海外体験実習(4)			1												
特別講義(IT-1)			2												
特別講義(IT-2)			2												

①：一般コース ②：国際コース

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	プログラミング(1)	○	○	1	2										
	プログラミング(2)	○	○	1	2										
	プログラミング(3)	○	○	2		4									
	プログラミング(4)	○	○	2		4									
	基礎論理回路	○	○	2			2								
	情報科学実験(a)	○	○	1.5				3							
	情報科学実験(b)	○	○	1.5				3							
	情報科学演習	○	○	3					6						
	離散数学	○	○	2		2									
	コンピュータシステム	○	○	2			2								
	オペレーティングシステム	○	○	2				2							
	アルゴリズムとデータ構造	○	○	2			2								
	ソフトウェア工学	○	○	2				2							
	デジタル信号処理	○	○	2			2								
	情報理論	○	○	2			2								
	情報セキュリティ			1						1					
	英語論文読解		○	2						2					
	特別講義 (CS-1)			2											
	特別講義 (CS-2)			2											
	特別講義 (CS-3)			2											
	計 算 機 工 学	ハードウェア記述言語			2			2							
		コンピュータアーキテクチャ			2			2							
		組込みシステム			2				2						
		コンピュータネットワーク			2			2							
		オブジェクト指向プログラミング(1)			1			2							
		オブジェクト指向プログラミング(2)			1			2							
		プログラミング言語処理			2				2						
	並列分散処理			1					1						
	メ デ ィ ア 工 学	画像処理			2				2						
		パターン認識	△	△	2				2						※DS
		コンピュータグラフィックス			2					2					
		音声情報処理			2				2						
		インタラクティブ・メディア			2					2					
		自然言語処理			2					2					
データベースシステム			2			2									
情 報 数 理	古典制御理論			2					2						
	システム解析			2				2							
	現代制御理論			2					2						
	人工知能	△	△	2					2					※DS	
	符号理論			2				2							
	計算論			2					2						
情報数学			2				2								
卒 業 研 究 開 連 科 目	事例研究	○	○	2					(2)	2					
	卒業研究(1)	○	○	3						(6)	6				
	卒業研究(2)	○	○	3							(6)	6			

卒 業 要 件	情報工学基盤科目	30単位	専門科目				60単位	数理・データサイエンスプログラム				4単位
	①：一般コース	以下を含むこと	②：国際コース	以下を含むこと	①：一般コース	以下を含むこと	②：国際コース	以下を含むこと	(*DS及び*MS)			
	○ 必修科目	20単位	○ 必修科目	22単位	○ 必修科目	36単位	○ 必修科目	38単位				
	△1 選択必修科目	4単位	△1 選択必修科目	2単位	△ 選択必修科目	2単位	△ 選択必修科目	2単位				
	△2 選択必修科目	2単位		△2 選択必修科目	2単位							

1-3② 情報工学部 知能情報工学科 情報工学基盤科目・専門科目 教育課程表

①：一般コース ②：国際コース

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
数学系	数学演習(1a)			0.5	1										
	数学演習(1b)			0.5	1										
	数学演習(2a)			0.5		1									
	数学演習(2b)			0.5		1									
	微分積分学(1a)	○	○	1	1										※MS
	微分積分学(1b)	○	○	1	1										※MS
	微分積分学(2a)	○	○	1		1									※MS
	微分積分学(2b)	○	○	1		1									※MS
	線形代数学(1a)	○	○	1	1										※MS
	線形代数学(1b)	○	○	1	1										※MS
	線形代数学(2a)	○	○	1		1									※MS
	線形代数学(2b)	○	○	1		1									※MS
	基礎確率統計	○	○	2	2										※MS
	微分方程式論			2			2								
ベクトル解析学			2			2									
フーリエ解析学			2				2								
代数学			2			2									
自然科学系	物理学(1)	△1	○	2	2										
	物理学(1)演習			1	2										
	物理学(2)	△1	△1	2		2									
	物理学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)									
	物理学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)									
	化学(1)	△1	△1	2	2										
	化学(2)	△1	△1	2		2									
	化学実験	△2	△2	2	(4)	4									
	生物学(1)	△1	△1	2	2										
	生物学(2)	△1	△1	2		2									
	生物学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)									
	生物学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)									
	地学(1)			2	2										
	地学(2)			2		2									
地学実験(a)	△2	△2	1	2	(2)										
地学実験(b)	△2	△2	1	2	(2)										
情報基盤系	情報リテラシー	○	○	2	2										
	コンピュータ概論	○	○	2	2										
	数値解析			2		2									
	技術者倫理	○	○	1			1								
	情報社会と職業(a)			1				1							
	情報社会と職業(b)			1				1							
	情報と特許			2					2						
	キャリアデザイン			1			2								
	専門キャリアデザイン			1				2							
	インターンシップ(1)			1											
	インターンシップ(2)			1											
	インターンシップ(3)			1											
	インターンシップ(4)			1											
	海外体験実習(1)			1											
	海外体験実習(2)			1											
	海外体験実習(3)			1											
	海外体験実習(4)			1											
特別講義(IT-1)			2												
特別講義(IT-2)			2												

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
学 科 共 通	知能情報工学概論	○	○	1		2									
	プログラミング	○	○	1	2										
	プログラミング演習	○	○	1	2										
	数理統計	○	○	1		2									※MS
	アルゴリズム設計	○	○	1		2									
	デジタル信号処理		○	2			2								
	情報理論		○	2			2								
	データサイエンス基礎			2			2								※DS
	オブジェクト指向プログラミング (a)	○	○	0.5			1								
	オブジェクト指向プログラミング (b)	○	○	0.5			1								
	オペレーションズリサーチ	○	○	1				2							
	シミュレーション基礎			2				2							
	データ解析演習	○	○	1				2							※DS
	プロジェクトマネジメント			1					2						
	データサイエンス応用			2					2						※DS
	実験デザイン			2						2					
	時系列解析			2						2					
	英語論文読解		○	2						2					
	特別講義 (IS-1)			2											
	特別講義 (IS-2)			2											
特別講義 (IS-3)			2												
専 門 科 目	シ 知的 テ 経営 メ 管理			2			2								
	経営情報システム			2			2								
	グローバル企業マネジメント			2					2						
	ビジネスモデル			2			2								
	ビジネスデータ分析演習			1						2					
デ 大 規 模 タ 模 解 析	大規模データ解析応用事例	○	○	2			2								※DS
	マーケティング・サイエンス			2			2								
	製品企画			2					2						
	クラウドコンピューティング			2			2								
	ビッグデータ・クラウド演習	○	○	1						2					※DS
人 工 知 能	知的情報処理	○	○	2			2								
	機械学習			2			2								※DS
	コンピュータビジョン			2				2							
	神経数理モデリング			2				2							
	生体信号処理			2					2						
シ 人 間 テ 情 報	人間工学	○	○	2			2								
	認知工学			2			2								
	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション			2					2						
人間情報システム演習	○	○	1					2							
I o T	コンピュータネットワーク	○	○	2			2								
	ネットワークアルゴリズム			2			2								
	ネットワークセキュリティと管理			2					2						
卒 業 研 究 関 連 科 目	事例研究	○	○	2					(2)	2					
	卒業研究 (1)	○	○	3						(6)	6				
	卒業研究 (2)	○	○	3							(6)	6			

卒業要件	情報工学基盤科目 30単位		専門科目 60単位				数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS) 4単位
	①:一般コース 以下を含むこと	②:国際コース 以下を含むこと	①:一般コース 以下を含むこと	②:国際コース 以下を含むこと	③:一般コース 以下を含むこと	④:国際コース 以下を含むこと	
○ 必修科目	15単位	○ 必修科目	17単位	○ 必修科目	26単位	○ 必修科目	32単位
△1 選択必修科目	4単位	△1 選択必修科目	2単位				
△2 選択必修科目	2単位	△2 選択必修科目	2単位				

1-4① 環境学部 学部共通科目 基礎科目・PBL科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目 外国語科目	Communication Skills(1)	○	1	2										
	Communication Skills(2)	○	1		2									
	Reading and Writing(1a)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(1b)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(2a)	○	0.5		1									
	Reading and Writing(2b)	○	0.5		1									
	Basic English Training(a)		1			1	(1)							
	Basic English Training(b)		1			1	(1)							
	Grammar(1a)		1			1	(1)							
	Grammar(1b)		1			1	(1)							
	Grammar(2a)		1			1	(1)							
	Grammar(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(3a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(3b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(1a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(1b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(2a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(2b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(3a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(3b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(1a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(1b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(2a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(2b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(3a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(3b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(1a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(1b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(2a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(2b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(3a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(3b)		1			1	(1)							
	Academic English(1a)		1			1	(1)							
	Academic English(1b)		1			1	(1)							
	Academic English(2a)		1			1	(1)							
	Academic English(2b)		1			1	(1)							
	Academic English(3a)		1			1	(1)							
	Academic English(3b)		1			1	(1)							
	Literature in English(1a)		1			1	(1)							
	Literature in English(1b)		1			1	(1)							
	Literature in English(2a)		1			1	(1)							
	Literature in English(2b)		1			1	(1)							
	Global Culture(1a)		1			1	(1)							
	Global Culture(1b)		1			1	(1)							
Global Culture(2a)		1			1	(1)								
Global Culture(2b)		1			1	(1)								
Language Sciences(1a)		1			1	(1)								
Language Sciences(1b)		1			1	(1)								
Language Sciences(2a)		1			1	(1)								
Language Sciences(2b)		1			1	(1)								
Global Society(1a)		1			1	(1)								
Global Society(1b)		1			1	(1)								
Global Society(2a)		1			1	(1)								
Global Society(2b)		1			1	(1)								
共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)									
	外国語特別講義(a)		1			1	(1)							
	外国語特別講義(b)		1			1	(1)							
英語以外の外国語科目	ドイツ語(1a)		1			1	(1)							
	ドイツ語(1b)		1			1	(1)							
	ドイツ語(2a)		1			1	(1)							
	ドイツ語(2b)		1			1	(1)							
	フランス語(1a)		1			1	(1)							
	フランス語(1b)		1			1	(1)							
	フランス語(2a)		1			1	(1)							
	フランス語(2b)		1			1	(1)							

区分	授業科目	必選の別	単位数	週 時 間 数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
外国語科目	スペイン語(1a)		1			1	(1)							
	スペイン語(1b)		1			1	(1)							
	スペイン語(2a)		1			1	(1)							
	スペイン語(2b)		1			1	(1)							
	イタリア語(1a)		1			1	(1)							
	イタリア語(1b)		1			1	(1)							
	イタリア語(2a)		1			1	(1)							
	イタリア語(2b)		1			1	(1)							
	中国語(1a)		1			1	(1)							
	中国語(1b)		1			1	(1)							
	中国語(2a)		1			1	(1)							
	中国語(2b)		1			1	(1)							
	アラビア語(1a)		1			1	(1)							
	アラビア語(1b)		1			1	(1)							
	アラビア語(2a)		1			1	(1)							
	アラビア語(2b)		1			1	(1)							
	韓国語(1a)		1			1	(1)							
	韓国語(1b)		1			1	(1)							
	韓国語(2a)		1			1	(1)							
	韓国語(2b)		1			1	(1)							
日本語表現(a)		1			1	(1)								
日本語表現(b)		1			1	(1)								
体育科目	基礎体育(1a)	△	0.5	1										
	基礎体育(1b)	△	0.5	1										
	基礎体育(2a)	△	0.5		1									
	基礎体育(2b)	△	0.5		1									
	応用体育(1)		1			2	(2)							集中講義あり
	応用体育(2)		1			2	(2)							集中講義あり
基礎科目	人文学系	哲学(1)		2	2									
		哲学(2)		2		2								
		倫理学(1)		2	2									
		倫理学(2)		2		2								
		倫理学(a)		1		1								
		倫理学(b)		1		1								
		文化人類学		2		2								
		視覚芸術史(1)		2	2									
		視覚芸術史(2)		2		2								
		デザイン概論(1)		2			2							
		デザイン概論(2)		2				2						
		日本文学		2			2							
		日本史(1)		2		2								
		日本史(2)		2		2								
		西洋史(1)		2	2									
		西洋史(2)		2		2								
	民俗学(a)		1		1									
	民俗学(b)		1		1									
	宗教学		2	2										
	社会科学系	社会学(1a)		1	1									
		社会学(1b)		1	1									
		社会学(2a)		1		1								
		社会学(2b)		1		1								
		社会学入門(a)		1	1									
		社会学入門(b)		1	1									
		経済学(1a)		1	1									
		経済学(1b)		1	1									
		経済学(2a)		1		1								
		経済学(2b)		1		1								
		日本経済論(a)		1					1					
		日本経済論(b)		1					1					
		西洋経済史		2	(2)	2								
政治学(1a)			1	1										
政治学(1b)			1	1										
政治学(2a)			1		1									
政治学(2b)		1		1										
日本の政治(a)		1			1									
日本の政治(b)		1			1									
国際関係論(1a)		1	1											
国際関係論(1b)		1	1											
国際関係論(2a)		1		1										
国際関係論(2b)		1		1										

区分	授業科目	必選の別	単位数	週 時 間 数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	社会科学系	日本国憲法		2	(2)	2								
		法学		2	2									
		民法		2		2								
		人文地理学(a)		1	1									
		人文地理学(b)		1	1									
			現代中国論		2		2							
	人間科学系	教育学(1a)		1	1									
		教育学(1b)		1	1									
		教育学(2a)		1		1								
		教育学(2b)		1		1								
		心理学(1a)		1	1									
		心理学(1b)		1	1									
		心理学(2a)		1		1								
		心理学(2b)		1		1								
		心理学入門		2	2									
		社会とジェンダー(a)		1		1								
		社会とジェンダー(b)		1		1								
		国際化と異文化理解(a)		1						1				
		国際化と異文化理解(b)		1						1				
		日本文化の伝承(a)		1		1								
		日本文化の伝承(b)		1		1								
	スポーツ・健康論		2	2	(2)									
	自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)		1	2	(2)								※DS
		データサイエンスリテラシー(2)		1	(2)	2								※DS
		論理学(1a)		1	1									
		論理学(1b)		1	1									
		論理学(2a)		1		1								
		論理学(2b)		1		1								
		現代の物理(a)		1	1									
		現代の物理(b)		1	1									
		現代の化学		2	2									
		現代の地学		2	2									
		情報社会入門		2	2									
		情報演習基礎(a)		1	1									
		情報演習基礎(b)		1	1									
		情報通信入門		2	2									
		科学技術と社会		2				2						
	生活とメディア		2				2							
	その他	ボランティア(1)		1	2									
		ボランティア(2)		1		2								
		教養ゼミナール(1)		2	2	(2)								
		教養ゼミナール(2)		2	2	(2)								
教養特別講義(1)			2	2	(2)									
教養特別講義(2)			2	2	(2)									
キャリアデザイン基礎			2		2									
海外フィールド演習			2		2									
特別講義(1)			2		2									
特別講義(2)			2				2							
インターンシップ(1)			1		2									
インターンシップ(2)			1				2							
PBL科目	SD PBL(1)	○	1	1										
	SD PBL(2)	○	2				2							
	SD PBL(3)	○	1						2					

卒業要件	基礎科目・外国語科目	8単位	右記を含むこと	○必修科目	4単位
	基礎科目・体育科目	1単位	右記を含むこと	△選択必修科目	1単位
	基礎科目・教養科目	10単位			
	PBL科目	4単位	右記を含むこと	○必修科目	4単位

1-4② 環境学部 環境創生学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目

区分	授業科目	必 進 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	環境マネジメントシステム		2	2									
	温暖化の科学		2	2									
	統計学基礎	○	2	2									※MS
	数学入門		2	2									※MS
	環境基礎		2	2									
	基礎生物学		2	2									
	ミクロ経済学		2		2								
	マネジメント入門		2		2								
	基礎プログラミング演習(a)		1		1								
	基礎プログラミング演習(b)		1		1								
	環境倫理		2		2								
	持続可能な消費		2		2								
	環境統計学		2		2								※MS
	グローバルC L I Lプログラム		3			4							
	公共経済学		2		2								
	情報セキュリティ		2		2								
	社会調査		2		2								
	画像処理技法		2		2								
	環境教育		2		2								
	エネルギーと社会		2		2								
	地理情報システム	○	2			2							
	食料問題と環境		2			2							
	環境アセスメント概論		2			2							
キャリアデザイン		2			2								
環境計量学		2			2								
NPOとソーシャルビジネス		2				2							
都市気候論		2				2							
環境情報可視化技法		2				2							
専門科目	都市環境学概論	○	2	2									
	環境地理		2	2									
	生物分類学		2	2									
	環境数理学入門	○	2		2								※MS
	生態学概論	○	2		2								
	図化表現技法		2		2								
	建築環境学	○	2	<2>		2							<TAP履修制限科目>
	ランドスケープ論	○	2			2							
	環境化学		2			2							
	測量学		2			2							
	環境法概論		2			2							
	測量学実習		2			2							
	図面・模型作成演習		2			2							
	環境都市計画学		2				2						
	生態環境実習		2				*2						2年集中実習
	CAD基礎演習		2				2						
	都市環境データ分析演習		2				2						※MS
	環境都市関連法(1)		2				2						
	環境都市関連法(2)		2					2					
	環境緑地学		2			2							
	環境分析演習		2			2							
	自然環境調査演習		2				2						
	自然復元論		2				2						
保全生物学		2				2							
物質循環学		2					2						
エコロジカル・プランニング		2						2					
建築気候学		2			2								
都市・居住環境論		2			2								
都市インフラストラクチャー		2				2							
適応的快適論		2				2							
環境モニタリング技術		2					2						
都市プランニング論		2					2						
地域環境再生論		2					2						
事例研究(1)	○	2						3	(3)				
事例研究(2)	○	2							3	(3)			
卒業研究(1)	○	3								6	(6)		
卒業研究(2)	○	3								(6)	6		

<TAP履修制限科目>=TAP参加者履修登録許可

卒業要件	専門基礎科目	30単位	右記を含むこと	○必修科目	4単位
	専門科目	60単位	右記を含むこと	○必修科目	20単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと	※DS	1単位

1-4③ 環境学部 環境経営システム学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専門基礎科目	環境マネジメントシステム		2	2										
	環境基礎		2	2										
	マクロ経済学		2	2										
	数学入門		2	2									※MS	
	統計学基礎	○	2	2									※MS	
	環境倫理	○	2		2									
	ミクロ経済学		2		2									
	マネジメント入門	○	2		2									
	社会調査		2			2								
	公共経済学		2			2								
	グローバルC L I Lプログラム		3			4								
	NPOとソーシャルビジネス		2					2						
	基礎生物学		2	2										
	都市環境学概論		2	2										
	環境数理学入門		2		2								※MS	
	生態学概論		2		2									
	環境化学		2			2								
	画像処理技法		2			2								
	環境計量学		2				2							
	環境アセスメント概論		2				2							
	環境都市関連法 (1)		2				2							
	地理情報システム		2				2							
	環境都市関連法(2)		2					2						
	都市気候論		2					2						
	基礎プログラミング演習(a)		1		1									
	基礎プログラミング演習(b)		1		1									
情報セキュリティ		2			2									
キャリアデザイン(a)		1				1								
キャリアデザイン(b)		1				1								
専門科目 (環境経営システム学入門)	環境経営システム学入門	○	2	2										
	温暖化の科学		2	2										
	持続可能な消費		2		2									
	アカウントシステム		2		2									
	環境統計学		2		2								※MS	
	エコマテリアル		2		2									
	財務会計		2			2								
	マネジメント数学		2			2							※MS	
	環境教育		2		2									
	エネルギーと社会		2		2									
	環境法概論		2		2									
	アルゴリズムとデータ構造		2		2								※DS	
	経営管理基礎		2		2									
	食料問題と環境		2			2								
	プロジェクトマネジメント		2			2								
	オペレーションズリサーチ		2			2								
	専門科目 (環境経営専門分野)	ライフサイクルアセスメント		2			2							
		持続可能なサプライチェーンマネジメント		2				2						
		エコデザイン		2				2						
		グリーン物流		2				2						
		環境マーケティング		2					2					
		CSRの理論と実践		2					2					
		企業経営とサステナビリティ		2					2					
		環境監査		2					2					
		ビジネスモデル		2					2					
		環境社会学		2			2							
専門科目 (環境政策専門分野)	開発協力と環境		2				2							
	環境経済学		2				2							
	環境ガバナンス論		2				2							
	国際経済と環境		2					2						
	合意形成論		2					2						
	国際環境法		2					2						
	土地利用と法		2					2						
	事例研究(1)	○	2					3	(3)					
	事例研究(2)	○	2						3	(3)				
	卒業研究(1)	○	3							6	(6)			
卒業研究(2)	○	3								6	(6)			

卒業要件	専門基礎科目	30単位	右記を含むこと	○必修科目	6単位
	専門科目	60単位	右記を含むこと	○必修科目	12単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと	※DS	1単位

1-5① メディア情報学部 学部共通科目 基礎科目・PBL科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	授業科目	必修の別	単位数	週 時 間 数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目 外国語科目	Communication Skills(1)	○	1	2										
	Communication Skills(2)	○	1		2									
	Reading and Writing(1a)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(1b)	○	0.5	1										
	Reading and Writing(2a)	○	0.5		1									
	Reading and Writing(2b)	○	0.5		1									
	Basic English Training(a)		1			1	(1)							
	Basic English Training(b)		1			1	(1)							
	Grammar(1a)		1			1	(1)							
	Grammar(1b)		1			1	(1)							
	Grammar(2a)		1			1	(1)							
	Grammar(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(1b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(2b)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(3a)		1			1	(1)							
	Test Taking Skills(3b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(1a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(1b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(2a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(2b)		1			1	(1)							
	Critical Reading(3a)		1			1	(1)							
	Critical Reading(3b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(1a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(1b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(2a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(2b)		1			1	(1)							
	Critical Listening(3a)		1			1	(1)							
	Critical Listening(3b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(1a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(1b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(2a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(2b)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(3a)		1			1	(1)							
	Communication Strategies(3b)		1			1	(1)							
	Academic English(1a)		1			1	(1)							
	Academic English(1b)		1			1	(1)							
	Academic English(2a)		1			1	(1)							
	Academic English(2b)		1			1	(1)							
	Academic English(3a)		1			1	(1)							
	Academic English(3b)		1			1	(1)							
	英語科目 (教養)	Literature in English(1a)		1			1	(1)						
		Literature in English(1b)		1			1	(1)						
		Literature in English(2a)		1			1	(1)						
Literature in English(2b)			1			1	(1)							
Global Culture(1a)			1			1	(1)							
Global Culture(1b)			1			1	(1)							
Global Culture(2a)			1			1	(1)							
Global Culture(2b)			1			1	(1)							
Language Sciences(1a)			1			1	(1)							
Language Sciences(1b)			1			1	(1)							
Language Sciences(2a)			1			1	(1)							
Language Sciences(2b)			1			1	(1)							
Global Society(1a)			1			1	(1)							
Global Society(1b)			1			1	(1)							
Global Society(2a)			1			1	(1)							
Global Society(2b)		1			1	(1)								
共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)									
	外国語特別講義(a)		1			1	(1)							
	外国語特別講義(b)		1			1	(1)							

区分	授業科目	必選の別	単位数	週 時 間 数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	外国語科目 英語以外の外国語科目	ドイツ語(1a)		1			1	(1)						
		ドイツ語(1b)		1			1	(1)						
		ドイツ語(2a)		1			1	(1)						
		ドイツ語(2b)		1			1	(1)						
		フランス語(1a)		1			1	(1)						
		フランス語(1b)		1			1	(1)						
		フランス語(2a)		1			1	(1)						
		フランス語(2b)		1			1	(1)						
		スペイン語(1a)		1			1	(1)						
		スペイン語(1b)		1			1	(1)						
		スペイン語(2a)		1			1	(1)						
		スペイン語(2b)		1			1	(1)						
		イタリア語(1a)		1			1	(1)						
		イタリア語(1b)		1			1	(1)						
		イタリア語(2a)		1			1	(1)						
		イタリア語(2b)		1			1	(1)						
		中国語(1a)		1			1	(1)						
		中国語(1b)		1			1	(1)						
		中国語(2a)		1			1	(1)						
		中国語(2b)		1			1	(1)						
		アラビア語(1a)		1			1	(1)						
		アラビア語(1b)		1			1	(1)						
		アラビア語(2a)		1			1	(1)						
		アラビア語(2b)		1			1	(1)						
		韓国語(1a)		1			1	(1)						
	韓国語(1b)		1			1	(1)							
	韓国語(2a)		1			1	(1)							
	韓国語(2b)		1			1	(1)							
	日本語表現(a)		1			1	(1)							
	日本語表現(b)		1			1	(1)							
	基礎科目	体育科目	基礎体育(1a)	△	0.5	1								
			基礎体育(1b)	△	0.5	1								
			基礎体育(2a)	△	0.5	1								
			基礎体育(2b)	△	0.5	1								
			応用体育(1)		1			2	(2)					集中講義あり
			応用体育(2)		1			2	(2)					集中講義あり
	基礎科目	教養科目 人文学系	哲学(1)		2	2								
			哲学(2)		2		2							
			倫理学(1)		2	2								
			倫理学(2)		2		2							
			倫理学(a)		1		1							
倫理学(b)				1		1								
文化人類学				2		2								
視覚芸術史(1)				2	2									
視覚芸術史(2)				2		2								
デザイン概論(1)				2			2							
デザイン概論(2)				2				2						
日本文学				2			2							
日本史(1)				2	2									
日本史(2)				2		2								
西洋史(1)				2	2									
西洋史(2)				2		2								
民俗学(a)				1		1								
民俗学(b)				1		1								
宗教学				2	2									

区分	授業科目	必修の別	単位数	週 時 間 数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	社会科学系	社会学(1a)	1	1										
		社会学(1b)	1	1										
		社会学(2a)	1		1									
		社会学(2b)	1		1									
		社会学入門(a)	1	1										
		社会学入門(b)	1	1										
		経済学(1a)	1	1										
		経済学(1b)	1	1										
		経済学(2a)	1		1									
		経済学(2b)	1		1									
		日本経済論(a)	1				1							
		日本経済論(b)	1				1							
		西洋経済史	2	(2)	2									
		政治学(1a)	1	1										
		政治学(1b)	1	1										
		政治学(2a)	1		1									
		政治学(2b)	1		1									
		日本の政治(a)	1			1								
		日本の政治(b)	1			1								
		国際関係論(1a)	1	1										
	国際関係論(1b)	1	1											
	国際関係論(2a)	1		1										
	国際関係論(2b)	1		1										
	日本国憲法	2	(2)	2										
	法学	2	2											
	民法	2	2	2										
	人文地理学(a)	1	1											
	人文地理学(b)	1	1											
	現代中国論	2	2	2										
	人間科学系	教育学(1a)	1	1										
		教育学(1b)	1	1										
		教育学(2a)	1		1									
教育学(2b)		1		1										
心理学(1a)		1	1											
心理学(1b)		1	1											
心理学(2a)		1		1										
心理学(2b)		1		1										
心理学入門		2	2											
社会とジェンダー(a)		1		1										
社会とジェンダー(b)		1		1										
国際化と異文化理解(a)		1					1							
国際化と異文化理解(b)		1					1							
日本文化の伝承(a)		1		1										
日本文化の伝承(b)		1		1										
スポーツ・健康論		2	2	(2)										
自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)	1	2	(2)									※DS	
	データサイエンスリテラシー(2)	1	(2)	2									※DS	
	論理学(1a)	1	1											
	論理学(1b)	1	1											
	論理学(2a)	1		1										
	論理学(2b)	1		1										
	環境問題と社会	2	2											
	現代の物理(a)	1	1											
	現代の物理(b)	1	1											
	現代の化学	2	2											
	現代の地学	2	2											
	情報編集入門	2		2										
	生活とメディア	2		2										
その他	ボランティア(1)	1	2											
	ボランティア(2)	1	2											
	教養ゼミナール(1)	2	2	(2)										
	教養ゼミナール(2)	2	2	(2)										
	教養特別講義(1)	2	2	(2)										
	教養特別講義(2)	2	2	(2)										
	キャリアデザイン基礎	2		2										
	海外フィールド演習	2		2										
	特別講義(1)	2	2	(2)										
	特別講義(2)	2	2	(2)										
	インターンシップ(1)	1		2										
	インターンシップ(2)	1		2										
PBL科目	SD PBL(1)	○	1	1										
	SD PBL(2)	○	1			1								
	SD PBL(3)	○	1						2					

卒業要件	基礎科目・外国語科目	8単位	右記を含むこと	○必修科目	4単位
	基礎科目・体育科目	1単位	右記を含むこと	△選択必修科目	1単位
	基礎科目・教養科目	10単位			
	PBL科目	3単位	右記を含むこと	○必修科目	3単位

1-5② メディア情報学部 社会メディア学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	情報と社会	○	2	2									
	情報リテラシー演習	○	2	2									
	統計学基礎	○	2	2									※MS
	現代国内情勢		2	2									
	現代社会とメディア	○	2	2									
	社会調査	○	2		2								
	社会学概論		2		2								
	社会心理学概論		2		2								
	デザインシンキング	○	2		2								
	認知科学		2		2								
	情報と法		2			2							
	情報セキュリティ		2			2							
	情報と職業		2			2							
	世界のメディア		2				2						
	サイエンス・スタディーズ		2				2						
	データベース		2				2						
	キャリアデザイン(a)		1				1						
	キャリアデザイン(b)		1				1						
	情報の倫理		2						2				
	情報政策論		2							2			
専門科目	プロジェクト学習		2			2							
	応用統計	△1	2		2								※MS
	社会メディア実験・測定演習	△1	2			2							
	社会文化フィールドワーク	△1	1				1						
	社会調査設計	△1	2				2						
	質的調査演習	△1	2				2						
	データ分析法	△1	2					2					
	社会調査実習	△1	2					2	2				
	情報通信技術入門	△2	2	2									
	基礎プログラミング演習(1a)	△2	1	1									
	基礎プログラミング演習(1b)	△2	1	1									
	基礎プログラミング演習(2a)	△2	1		1								
	基礎プログラミング演習(2b)	△2	1		1								
	コンピュータシステム	△2	2		2								
	コンピュータグラフィックス	△2	2		2								
	インフォグラフィックスデザイン演習	△2	2			2							
	インタフェースデザイン演習	△2	2				2						
	電子商取引論	△2	2				2						
	LAN環境演習	△2	2					2					
	サーバシステム構築	△2	2				2						
ヒューマンコンピュータインタラクション	△2	2							2				
(ソーシャルデザイン分野)	情報環境論		2		2								
	メディア文化論		2			2							
	メディアと表現		2			2							
	社会情報デザイン		2				2						
	参加型デザイン論		2				2						
	社会ネットワーク論		2				2						
	メディア・プロデュース論		2					2					
	NPOとソーシャルビジネス		2					2					
	街づくり論		2							2			
	自己理解とカウンセリング		2		2								
メディア・コミュニケーション	ジャーナリズム論		2			2							
	マスコミュニケーション論		2				2						
	現代国際情勢		2				2						
	メディアと政治		2				2						
	異文化間コミュニケーション		2				2						
	リスクコミュニケーション		2					2					
	産業組織心理学		2					2					
	行動的意思決定論		2						2				
	事例研究(1)	○	2						3	(3)			
	事例研究(2)	○	2							3	(3)		
卒業研究(1)	○	3								6	(6)		
卒業研究(2)	○	3								6	(6)		

卒業要件	専門基礎科目	30単位	右記を含むこと ○必修科目	12単位
	専門科目	60単位	右記を含むこと ○必修科目	10単位、△1 選択必修科目4単位、△2 選択必修科目4単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと ※DS	1単位

1-5③ メディア情報学部 情報システム学科 専門基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専門基礎科目	情報リテラシー演習		2	2										
	ICTアセスメント概論	○	2	2										
	情報と社会		2	2										
	教養数学(a)	○	1	1										
	教養数学(b)	○	1	1										
	統計学基礎		2	2									※MS	
	情報環境論		2	2										
	線形代数学(1a)	○	1	1									※MS	
	線形代数学(1b)	○	1	1									※MS	
	微分積分学(1a)	○	1	1									※MS	
	微分積分学(1b)	○	1	1									※MS	
	情報と法		2		2									
	情報と職業		2		2									
	メディアと表現		2		2									
	線形代数学(2a)	○	1	1									※MS	
	線形代数学(2b)	○	1	1									※MS	
	微分積分学(2a)		1	1									※MS	
	微分積分学(2b)		1	1									※MS	
	確率統計(a)		1	1									※MS	
	確率統計(b)		1	1									※MS	
	情報セキュリティ		2		2									
データベース		2			2									
サイエンス・スタディーズ		2			2									
キャリアデザイン		2			2									
情報の倫理		2					2							
アカウントティングシステム		2						2						
専門科目	プログラミング基礎演習A	○	2	2										
	アルゴリズムとプログラミング	○	2	2										
	プログラミング基礎演習B	○	2	2										
	ソフトウェア開発技法	○	2	2										
	プログラミング演習A	△	2		2									
	プログラミング演習B	△	2		2									
	システム開発演習A		2			2								
	システム開発演習B		2			2								
	オブジェクト指向方法論		2			2								
	情報数学	○	2	2										
	コンピュータシステム	○	2	2										
	コンピュータネットワーク		2	2										
	オペレーティングシステム		2	2										
	コンピュータグラフィックス		2	2										
	情報理論		2		2									
	デジタル信号処理		2		2									
	ヒューマンコンピュータインタラクション		2			2								
	人工知能とデータマイニング	○	2			2							※DS	
	LAN環境演習	○	2					2						
	データ分析法		2					2						
	(システムデザイン分野) 学科専門科目	サーバシステム構築	○	2			2							
サーバ運用技術		○	1			1								
マルチメディア情報処理			2					2						
マルチメディア記述法			2					2						
ビジュアルライゼーション			2					2						
コンピュータシミュレーション			2					2						
Webプログラミング			2					2						
(システムデザイン分野) 学科専門科目		電子商取引論		2			2							
		企業統治と情報管理		2					2					
		組織とマネジメント		2					2					
	システムソリューション		2						2					
	ネットワークセキュリティ		2							2				
	事例研究	○	2							3				
	卒業研究(1)	○	3								6	(6)		
卒業研究(2)	○	3								(6)	6			
卒業要件	専門基礎科目	30単位	右記を含むこと ○必修科目 10単位											
	専門科目	60単位	右記を含むこと ○必修科目 27単位、△選択必修科目2単位											
	教理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位												

1-6 デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科  
 教養科目・外国語科目・専門基礎科目・専門応用科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教養科目	人文学系	倫理学(1)	2	2									
		倫理学(2)	2		2								
		倫理学(a)	1		1								
		倫理学(b)	1		1								
		視覚芸術史(1)	2	2									
		視覚芸術史(2)	2		2								
		デザイン概論(1)	2			2							
		デザイン概論(2)	2				2						
		日本史(1)	2	2									
		日本史(2)	2		2								
西洋史(1)	2	2											
西洋史(2)	2		2										
社会科学系	社会学入門(a)		1	1									
	社会学入門(b)		1	1									
	日本経済論(a)		1				1						
	日本経済論(b)		1				1						
	西洋経済史		2	(2)	2								
	日本の政治(a)		1			1							
	日本の政治(b)		1			1							
	日本国憲法		2	(2)	2								
	法学		2	2									
民法		2		2									
人間科学系	心理学入門		2	2									
	社会とジェンダー(a)		1		1								
	社会とジェンダー(b)		1		1								
	日本文化の伝承(a)		1		1								
	日本文化の伝承(b)		1		1								
	スポーツ・健康論		2	2	(2)								
情報・自然科学系	データサイエンスリテラシー(1)		1	2	(2)							※DS	
	データサイエンスリテラシー(2)		1	(2)	2							※DS	
	環境問題と社会		2	2									
	情報編集入門		2		2								
グローバル教養系	Japan Studies	△	2			(2)	(2)	2					
	Global Studies(1)	△	2			(2)	(2)	2					
	Global Studies(2)	△	2			(2)	(2)	2					
	Global Studies(3)	△	2			(2)	(2)	2					
	Global Studies(4)	△	2			(2)	(2)	2					
	Intercultural Understanding(1)	△	2			(2)	(2)	2					
	Intercultural Understanding(2)	△	2			(2)	(2)	2					
その他	教養特別講義		2	2	(2)								
	ボランティア(1)		1										
	ボランティア(2)		1										
	インターンシップ(1)		1										
	インターンシップ(2)		1										
外国語科目	英語科目	English I-A	○	1	2								
		English I-B	○	1	2								
		English II-A	○	1	(2)	2							
		English II-B	○	1	(2)	2							
		English III-A	○	1	(2)	(2)	2						
		English III-B	○	1	(2)	(2)	2						
		Reading Comprehension		2		(2)	(2)	2					
		Debate & Discussion		2		(2)	(2)	2					
		Presentation Strategies		2		(2)	(2)	2					
		English Test Preparation		2		(2)	(2)	2					
		Writing Strategies		2		(2)	(2)	2					
		Academic Reading	△	2	(2)	(2)	(2)	2					
		Academic Discussion	△	2	(2)	(2)	(2)	2					
		Academic Presentation	△	2	(2)	(2)	(2)	2					
		English Test Preparation for Academic Purposes	△	2	(2)	(2)	(2)	2					
		Academic Research & Writing	△	2	(2)	(2)	(2)	2					

区分科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考						
				1年		2年		3年		4年								
				前	後	前	後	前	後	前	後							
専門基礎科目	データ科学	データサイエンス概論	○	2	2												※DS	
		コンピュータ基礎演習	○	2	2													
		プログラミング基礎演習	△	2	2													
		データサイエンス数学	△	2	2													※MS
		統計学基礎	△	2			2											※MS
		統計データ解析演習	△	2			2											※MS
		情報学理論	△	2	2													
		アルゴリズムとデータ構造	△	2			2											
		機械学習論	△	2			2											
		データマイニング	△	2			2											
		データベース	△	2			2											
		データ社会論	△	2			2											
		量的ユーザー調査	△	2			2											
		質的ユーザー調査	△	2			2											
		経営分析論		2			2											
業務プロセス分析		2			2													
リエゾンデザイン	ユーザエクスペリエンスデザイン入門	○	2	2														
		デザインプレゼンテーション		2			2											
		デザインプロトタイプ(1)		2			2											
		ウェブプログラミング		2			2											
		情報デザイン		2			2											
		デザインリサーチ		2				2										
		デザインシステム	ソーシャルシステムデザイン入門	○	2	2												
金融・市場システム論				2			2											
サービスイノベーション				2			2											
経営戦略概論				2			2											
総合的品質管理				2			2											
オペレーションマネジメント				2			2											
プロジェクトマネジメント				2				2										
その他	SD PBL(1)	○	1	1														
	SD PBL(2)	○	1			1												
	SD PBL(3)	○	1						2									
専門応用科目	データ科学	プログラミング応用演習		2			2											
		機械学習演習		2			2											
		ビッグデータ解析演習		2				2										
		ベイズ統計学		2				2										
		ニューラルネットワーク		2				2										
		画像・音声処理		2					2									
		自然言語処理		2						2								
		ウェブデータ処理		2						2								
		企業経営分析ケーススタディ		2					2									
	リエゾンデザイン	デザインプロトタイプ(2)		2					2									
			ブランドコンセプトデザイン		2					2								
			インタフェースデザイン		2					2								
			感性デザイン演習	△	2					2								
			デザインプロダクション演習	△	2						2							
			インタラクションデザイン演習	△	2							2						
ムソデザイン	ビヘイビア・ファイナンス		2					2										
		リスク&クライシスマネジメント		2						2								
		未来創造デザインプロジェクト		2							2							
		サービスシステムデザイン演習	△	2						2								
		サプライチェーンデザイン演習	△	2							2							
		ビジネスシステムデザイン演習	△	2							2							
		特別講義		2	(2)	2												
その他	海外インターンシップ		2															
	COOPプログラム		4									4						
	キャッチストーンプロジェクト	○	4									(4)	4					

卒業要件	教養科目	12単位	右記を含むこと	△選択必修科目 6単位
	外国語科目	14単位	右記を含むこと	○必修科目 6単位、△選択必修科目 4単位
	専門基礎科目	50単位	右記を含むこと	○必修科目 11単位、△選択必修科目 20単位
	専門応用科目	40単位	右記を含むこと	○必修科目 4単位、△選択必修科目 2単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位		

1-7 都市生活学部 都市生活学科

教養科目・外国語科目・体育科目・PBL科目・専門基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修 △印選択必修

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
人文学系	哲学(1)		2	2										
	哲学(2)		2		2									
	倫理学(1)		2	2										
	倫理学(2)		2		2									
	倫理学(a)		1		1									
	倫理学(b)		1		1									
	文化人類学		2		2									
	視覚芸術史(1)		2	2										
	視覚芸術史(2)		2		2									
	デザイン概論(1)		2			2								
	デザイン概論(2)		2				2							
	日本文学		2			2								
	日本史(1)		2	2										
	日本史(2)		2		2									
	西洋史(1)		2	2										
	西洋史(2)		2		2									
	民俗学(a)		1		1									
	民俗学(b)		1		1									
	宗教学		2	2										
	社会科学系	社会学(1a)		1	1									
社会学(1b)			1	1										
社会学(2a)			1		1									
社会学(2b)			1		1									
社会学入門(a)			1	1										
社会学入門(b)			1	1										
経済学(1a)			1	1										
経済学(1b)			1	1										
経済学(2a)			1		1									
経済学(2b)			1		1									
日本経済論(a)			1				1							
日本経済論(b)			1				1							
政治学(1a)			1	1										
政治学(1b)			1	1										
政治学(2a)			1		1									
政治学(2b)			1		1									
日本の政治(a)			1			1								
日本の政治(b)			1			1								
国際関係論(1a)			1	1										
国際関係論(1b)			1	1										
国際関係論(2a)			1		1									
国際関係論(2b)			1		1									
日本国憲法			2	2	(2)									
法学			2	2										
民法			2		2									
西洋経済史			2	(2)	2									
人文地理学(a)			1	1										
人文地理学(b)		1	1											
現代中国論		2		2										
人間科学系	教育学(1a)		1	1										
	教育学(1b)		1	1										
	教育学(2a)		1		1									
	教育学(2b)		1		1									
	スポーツ・健康論		2	2	(2)									
	心理学(1a)		1	1										
	心理学(1b)		1	1										
	心理学(2a)		1		1									
	心理学(2b)		1		1									
	心理学入門		2	2										
	社会とジェンダー(a)		1		1									
	社会とジェンダー(b)		1		1									
	国際化と異文化理解(a)		1					1						
	国際化と異文化理解(b)		1					1						
	日本文化の伝承(a)		1		1									
日本文化の伝承(b)		1		1										

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考				
				1年		2年		3年		4年						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
教養科目	データサイエンスリテラシー(1)		1	2	(2)											※DS
	データサイエンスリテラシー(2)		1	(2)	2											※DS
	文系のための数理基礎		2	2	(2)											※MS
	論理学(1a)		1	1												
	論理学(1b)		1	1												
	論理学(2a)		1		1											
	論理学(2b)		1		1											
	生活とメディア		2			2										
	現代の物理(a)		1	1												
	現代の物理(b)		1	1												
	現代の化学		2	2												
	現代の地学		2	2												
	科学技術と社会		2				2									
その他	ボランティア(1)		1													
	ボランティア(2)		1													
	教養ゼミナール(1)		2	2	(2)											
	教養ゼミナール(2)		2	2	(2)											
	教養特別講義(1)		2	2	(2)											
教養特別講義(2)		2	2	(2)												
外国語科目	Communication Skills(1)	○	1	2												
	Communication Skills(2)	○	1	2												
	Reading and Writing(1a)	○	0.5	1												
	Reading and Writing(1b)	○	0.5	1												
	Reading and Writing(2a)	○	0.5		1											
	Reading and Writing(2b)	○	0.5		1											
	Basic English Training(a)		1			1	(1)									
	Basic English Training(b)		1			1	(1)									
	Grammar(1a)		1			1	(1)									
	Grammar(1b)		1			1	(1)									
	Grammar(2a)		1			1	(1)									
	Grammar(2b)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(1a)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(1b)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(2a)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(2b)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(3a)		1			1	(1)									
	Test Taking Skills(3b)		1			1	(1)									
	Critical Reading(1a)		1			1	(1)									
	Critical Reading(1b)		1			1	(1)									
	Critical Reading(2a)		1			1	(1)									
	Critical Reading(2b)		1			1	(1)									
	Critical Reading(3a)		1			1	(1)									
	Critical Reading(3b)		1			1	(1)									
	Critical Listening(1a)		1			1	(1)									
	Critical Listening(1b)		1			1	(1)									
	Critical Listening(2a)		1			1	(1)									
	Critical Listening(2b)		1			1	(1)									
	Critical Listening(3a)		1			1	(1)									
	Critical Listening(3b)		1			1	(1)									
	Communication Strategies(1a)		1			1	(1)									
	Communication Strategies(1b)		1			1	(1)									
	Communication Strategies(2a)		1			1	(1)									
Communication Strategies(2b)		1			1	(1)										
Communication Strategies(3a)		1			1	(1)										
Communication Strategies(3b)		1			1	(1)										
Academic English(1a)		1			1	(1)										
Academic English(1b)		1			1	(1)										
Academic English(2a)		1			1	(1)										
Academic English(2b)		1			1	(1)										
Academic English(3a)		1			1	(1)										
Academic English(3b)		1			1	(1)										

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
英語科目 (教養)	Literature in English(1a)		1			1	(1)								
	Literature in English(1b)		1			1	(1)								
	Literature in English(2a)		1			1	(1)								
	Literature in English(2b)		1			1	(1)								
	Global Culture(1a)		1			1	(1)								
	Global Culture(1b)		1			1	(1)								
	Global Culture(2a)		1			1	(1)								
	Global Culture(2b)		1			1	(1)								
	Language Sciences(1a)		1			1	(1)								
	Language Sciences(1b)		1			1	(1)								
	Language Sciences(2a)		1			1	(1)								
	Language Sciences(2b)		1			1	(1)								
	Global Society(1a)		1			1	(1)								
	Global Society(1b)		1			1	(1)								
	Global Society(2a)		1			1	(1)								
	Global Society(2b)		1			1	(1)								
	共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)									
		外国語特別講義(a)		1			1	(1)							
		外国語特別講義(b)		1			1	(1)							
	外国語科目	英語以外の 外国語科目	ドイツ語(1a)		1		1	(1)							
			ドイツ語(1b)		1		1	(1)							
			ドイツ語(2a)		1		1	(1)							
			ドイツ語(2b)		1		1	(1)							
			フランス語(1a)		1		1	(1)							
			フランス語(1b)		1		1	(1)							
			フランス語(2a)		1		1	(1)							
			フランス語(2b)		1		1	(1)							
			スペイン語(1a)		1		1	(1)							
			スペイン語(1b)		1		1	(1)							
			スペイン語(2a)		1		1	(1)							
スペイン語(2b)				1		1	(1)								
イタリア語(1a)				1		1	(1)								
イタリア語(1b)				1		1	(1)								
イタリア語(2a)				1		1	(1)								
イタリア語(2b)				1		1	(1)								
中国語(1a)				1		1	(1)								
中国語(1b)				1		1	(1)								
中国語(2a)				1		1	(1)								
中国語(2b)				1		1	(1)								
アラビア語(1a)				1		1	(1)								
アラビア語(1b)				1		1	(1)								
アラビア語(2a)				1		1	(1)								
アラビア語(2b)				1		1	(1)								
韓国語(1a)				1		1	(1)								
韓国語(1b)				1		1	(1)								
韓国語(2a)				1		1	(1)								
韓国語(2b)		1		1	(1)										
日本語表現(a)		1		1	(1)										
日本語表現(b)		1		1	(1)										
体育科目	基礎体育(1a)	△	0.5	1											
	基礎体育(1b)	△	0.5	1											
	基礎体育(2a)	△	0.5		1										
	基礎体育(2b)	△	0.5		1										
	応用体育(1)		1			2	(2)								
	応用体育(2)		1			2	(2)								
PBL科目	SD PBL(1)	○	1	1	1										
	SD PBL(2)	○	1			2									
	SD PBL(3)	○	1					2							

区分科目群	授業科目	必修の別		単位数	週時間数								備考			
		①	②		1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門基礎科目	マーケティング概論	○	○	2	2											
	経営学概論	○	○	2	2											
	都市の経済学	○	○	2		2										
	世界の都市	○	○	2		2										
	基礎共通科目	都市計画(1)	△	△	2	2										
		世界の住まい	△	△	2	2										
		都市の文化・芸術	△	△	2			2								
		民法と商法	△	△	2					2						
		会計学概論	△	△	2					2						
		統計と分析	△	△	2						2					※MS
		国際都市経営概論(1)	△	△	2		2									
	国際都市経営概論(2)		△	2			2									
	演習領域	コンピュータ演習	○	○	2	2										
		グラフィックデザイン演習	○	○	2	2										
		まちの観察	○	○	2			2								
		Facilitation & Communication	△	△	2				2							
		空間デザイン演習(1)	○	○	3	4										
		空間デザイン演習(2)	△	△	2		2									
		空間デザイン演習(3)	△		2		2									
		空間デザイン演習(4)	△		2			2								
都市デジタルシミュレーション(1)		○	○	2		2										
都市デジタルシミュレーション(2)		△	△	2				2								
都市デジタルシミュレーション(3)		△		2				2								
マーケティングリサーチ演習(1)	○	○	2		2											
マーケティングリサーチ演習(2)	△	△	2				2									
マーケティングリサーチ演習(3)	△		2				2									
専門科目	都市のライフスタイル	都市の社会学	△	△	2		2									
		経営戦略論	△	△	2					2						
		経営財務			2					2						
		Urban Area Marketing		☆	2				2							
		Urban Tourism		☆	2						2					
		広告コミュニケーション			2						2					
		ブランド戦略			2						2					
		集客学			2				2							
	都市のマネジメント	プロジェクトマネジメント	△	△	2					2						
		住宅と不動産			2			2								
		都市空間の演出			2				2							
		Urban Development & Management		☆	2				2							
		都市ビジネス			2				2							
		エリアマネジメント	△	△	2				2							
	コミュニティマネジメント			2			2									
	都市のデザイン	都市デザイン	△	△	2		2									
		建築空間論	△	△	2					2						
		Urban Landscape		☆	2					2						
		Urban Environment Design		☆	2					2						
		インテリアデザインと実務			2			2								
		建築史			2			2								
		住宅計画			2						2					
	リノベーションとコンバージョン			2					2							
	都市のしくみ	都市政策	△	△	2		2									
		Urban Mobility		☆	2						2					
		ユニバーサルデザイン	△	△	2					2						
		住まいの構法・生産・流通			2				2							
		まちの防災			2				2							
住まいと環境				2					2							
都市計画(2)			2					2								
建築士対応科目	建築法規			2		2										
	建築材料			2		2										
	建築構造			2						2						
	構造力学(1)及び演習			3					4							
	構造力学(2)及び演習			3						4						
	鉄筋コンクリート構造			2						2						
	環境と設備			2					2							

①：都市生活創造コース ②：国際都市経営コース

○印必修 △印選択必修 ☆印国際都市経営コース指定科目

区分 科目群	授業科目	必選の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	総合 領域 1	キャリアデザイン(1)	○	○	1					2	(2)				
		キャリアデザイン(2)	○	○	1					2	(2)				
		プロジェクト演習(1)	○	○	2					4					
		プロジェクト演習(2)	○	○	2						4				
	総合 領域 2	海外研修(1)			2										
		海外研修(2)			1										
		インターンシップ(1)			1										
		インターンシップ(2)			1										
		卒業研究(1)	○	○	3							6	(6)		
		卒業研究(2)	○	○	3							(6)	6		
		まちづくり演習(1)			2										
		まちづくり演習(2)			1										
		まちづくり演習(3)			1										
		国際ワークショップ(1)		☆	2										
		国際ワークショップ(2)		☆	1										
		国際ワークショップ(3)		☆	1										
		特別講義(1)			2										
		特別講義(2)			2										
		特別講義(3)			2										
		Special Lecture(4)		☆	2										
Special Lecture(5)		☆	2												

①：都市生活創造コース

卒業要件	124単位 以下を含むこと			
	教養科目	10単位		
	外国語科目	8単位	右記を含むこと	○必修 4単位
	体育科目	1単位	右記を含むこと	△選択必修 1単位
	PBL科目	3単位	右記を含むこと	○必修 3単位
	専門基礎科目	37単位	右記を含むこと	○必修 21単位 △選択必修 16単位 (演習領域8単位を含む)
	専門科目	53単位	右記を含むこと	○必修 12単位 △選択必修 10単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと	※DS 1単位

②：国際都市経営コース

卒業要件	124単位 以下を含むこと			
	教養科目	10単位		
	外国語科目	8単位	右記を含むこと	○必修 4単位
	体育科目	1単位	右記を含むこと	△選択必修 1単位
	PBL科目	3単位	右記を含むこと	○必修 3単位
	専門基礎科目	37単位	右記を含むこと	○必修 21単位 △選択必修 16単位 (演習領域4単位を含む)
	専門科目	53単位	右記を含むこと	○必修 12単位 △選択必修 10単位 ☆国際都市経営コース指定 6単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと	※DS 1単位

1-8 人間科学部 人間科学科 教育課程表

①：児童学コース ②：人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考			
		①	②		1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
人文学系	哲学(1)			2	2											
	哲学(2)			2		2										
	倫理学(1)			2	2											
	倫理学(2)			2		2										
	倫理学(a)			1		1										
	倫理学(b)			1		1										
	文化人類学			2		2										
	視覚芸術史(1)			2	2											
	視覚芸術史(2)			2		2										
	デザイン概論(1)			2			2									
	デザイン概論(2)			2				2								
	日本文学			2			2									
	日本史(1)			2	2											
	日本史(2)			2		2										
	西洋史(1)			2	2											
	西洋史(2)			2		2										
	民俗学(a)			1		1										
	民俗学(b)			1		1										
	宗教学			2	2											
	社会科学系	社会学(1a)			1	1										
社会学(1b)				1	1											
社会学(2a)				1		1										
社会学(2b)				1		1										
社会学入門(a)				1	1											
社会学入門(b)				1	1											
経済学(1a)				1	1											
経済学(1b)				1	1											
経済学(2a)				1		1										
経済学(2b)				1		1										
日本経済論(a)				1					1							
日本経済論(b)				1					1							
政治学(1a)				1	1											
政治学(1b)				1	1											
政治学(2a)				1		1										
政治学(2b)				1		1										
日本の政治(a)				1			1									
日本の政治(b)				1			1									
国際関係論(1a)				1	1											
国際関係論(1b)				1	1											
国際関係論(2a)				1		1										
国際関係論(2b)				1		1										
日本国憲法				2		2										
法学				2	2											
民法				2		2										
西洋経済史				2	(2)	2										
人文地理学(a)				1	1											
人文地理学(b)			1	1												
現代中国論			2		2											
人間科学系	教育学(1a)			1	1											
	教育学(1b)			1	1											
	教育学(2a)			1		1										
	教育学(2b)			1		1										
	スポーツ・健康論			2	2	(2)										
	心理学(1a)			1	1											
	心理学(1b)			1	1											
	心理学(2a)			1		1										
	心理学(2b)			1		1										
	心理学入門			2	2											
	社会とジェンダー(a)			1		1										
	社会とジェンダー(b)			1		1										
	国際化と異文化理解(a)			1							1					
	国際化と異文化理解(b)			1							1					
	日本文化の伝承(a)			1		1										
日本文化の伝承(b)			1		1											

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考					
		①	②		1年		2年		3年		4年							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
教養科目	自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1)			1	2	(2)										※DS	
		データサイエンスリテラシー(2)			1	(2)	2											※DS
		文系のための統計基礎			2	2	(2)											※MS
		文系のための数理基礎			2	2	(2)											※MS
		論理学(1a)			1	1												
		論理学(1b)			1	1												
		論理学(2a)			1		1											
		論理学(2b)			1		1											
		生活とメディア			2			2										
		現代の物理(a)			1	1												
		現代の物理(b)			1	1												
		現代の化学			2	2												
		現代の地学			2	2												
		科学技術と社会			2			2										
	情報処理演習(1)	○	○	1	2													
	情報処理演習(2)	○	○	1		2												
	情報処理演習(3)	○	○	1			2											
	情報処理演習(4)	○	○	1				2										
その他	ボランティア(1)			1														
	ボランティア(2)			1														
	教養ゼミナール(1)			2	2	(2)												
	教養ゼミナール(2)			2	2	(2)												
	教養特別講義(1)			2	2	(2)												
教養特別講義(2)			2	2	(2)													
外国語科目	英語科目(スキル)	Communication Skills(1)	○	○	1	2												
		Communication Skills(2)	○	○	1		2											
		Reading and Writing(1)	○	○	1	2												
		Reading and Writing(2)	○	○	1		2											
		Basic English Training(a)			1			1	(1)									
		Basic English Training(b)			1			1	(1)									
		Grammar(1a)			1			1	(1)									
		Grammar(1b)			1			1	(1)									
		Grammar(2a)			1			1	(1)									
		Grammar(2b)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(1a)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(1b)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(2a)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(2b)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(3a)			1			1	(1)									
		Test Taking Skills(3b)			1			1	(1)									
		Critical Reading(1a)			1			1	(1)									
		Critical Reading(1b)			1			1	(1)									
		Critical Reading(2a)			1			1	(1)									
		Critical Reading(2b)			1			1	(1)									
		Critical Reading(3a)			1			1	(1)									
		Critical Reading(3b)			1			1	(1)									
		Critical Listening(1a)			1			1	(1)									
		Critical Listening(1b)			1			1	(1)									
		Critical Listening(2a)			1			1	(1)									
		Critical Listening(2b)			1			1	(1)									
		Critical Listening(3a)			1			1	(1)									
		Critical Listening(3b)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(1a)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(1b)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(2a)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(2b)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(3a)			1			1	(1)									
		Communication Strategies(3b)			1			1	(1)									
Academic English(1a)			1			1	(1)											
Academic English(1b)			1			1	(1)											
Academic English(2a)			1			1	(1)											
Academic English(2b)			1			1	(1)											
Academic English(3a)			1			1	(1)											
Academic English(3b)			1			1	(1)											

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
英語科目 (教養)	Literature in English(1a)			1			1	(1)							
	Literature in English(1b)			1			1	(1)							
	Literature in English(2a)			1			1	(1)							
	Literature in English(2b)			1			1	(1)							
	Global Culture(1a)			1			1	(1)							
	Global Culture(1b)			1			1	(1)							
	Global Culture(2a)			1			1	(1)							
	Global Culture(2b)			1			1	(1)							
	Language Sciences(1a)			1			1	(1)							
	Language Sciences(1b)			1			1	(1)							
	Language Sciences(2a)			1			1	(1)							
	Language Sciences(2b)			1			1	(1)							
	Global Society(1a)			1			1	(1)							
	Global Society(1b)			1			1	(1)							
	Global Society(2a)			1			1	(1)							
	Global Society(2b)			1			1	(1)							
共通	海外・特別選抜セミナー			2	2	(2)									
	外国語特別講義(a)			1			1	(1)							
	外国語特別講義(b)			1			1	(1)							
外国語科目	ドイツ語(1a)			1			1	(1)							
	ドイツ語(1b)			1			1	(1)							
	ドイツ語(2a)			1			1	(1)							
	ドイツ語(2b)			1			1	(1)							
	フランス語(1a)			1			1	(1)							
	フランス語(1b)			1			1	(1)							
	フランス語(2a)			1			1	(1)							
	フランス語(2b)			1			1	(1)							
	スペイン語(1a)			1			1	(1)							
	スペイン語(1b)			1			1	(1)							
	スペイン語(2a)			1			1	(1)							
	スペイン語(2b)			1			1	(1)							
	イタリア語(1a)			1			1	(1)							
	イタリア語(1b)			1			1	(1)							
	イタリア語(2a)			1			1	(1)							
	イタリア語(2b)			1			1	(1)							
	中国語(1a)			1			1	(1)							
	中国語(1b)			1			1	(1)							
	中国語(2a)			1			1	(1)							
	中国語(2b)			1			1	(1)							
	アラビア語(1a)			1			1	(1)							
	アラビア語(1b)			1			1	(1)							
	アラビア語(2a)			1			1	(1)							
	アラビア語(2b)			1			1	(1)							
	韓国語(1a)			1			1	(1)							
	韓国語(1b)			1			1	(1)							
韓国語(2a)			1			1	(1)								
韓国語(2b)			1			1	(1)								
日本語表現(a)			1			1	(1)								
日本語表現(b)			1			1	(1)								
体育科目	人間と健康	○	○	2	2										
	基礎体育(1a)	○	△	0.5	1										
	基礎体育(1b)	○	△	0.5	1										
	基礎体育(2a)	○	△	0.5		1									
	基礎体育(2b)	○	△	0.5		1									



①：児童学コース ②：人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考															
		①	②		1年		2年		3年		4年																	
					前	後	前	後	前	後	前	後																
専 門 科 目	インターンシップ(1)			1																								
	インターンシップ(2)			1																								
	子どもと環境			2	2																							
	海外研修(1)			2																								
	海外研修(2)			2																								
	海外研修(3)			1																								
	子育て支援演習			2					1	1	1	1	1	1	1	1	1											
	食農文化と子育て(1)			2					2																			
	食農文化と子育て(2)			2					2																			
	教育工学			○	2											2												
	学習科学概論			○	2									2														
	生涯発達心理学(1)			○	1									2														
	生涯発達心理学(2)			○	1									2														
	理工学と生活				2			2																				
	生理学(1)				2				2																			
	生理学(2)				2				2																			
	解剖・外科学				2						2																	
	臨床医学総論				2											2												
	基礎医学総論				2											2												
	医用工学リテラシー				2	2																						
	医用機器				2										2													
	医用安全工学				2										2													
	音響工学				2											2												
	人間科学入門			○	○	2	2																					
	SD PBL(1)			○	○	1	2																					
	SD PBL(2)			○	○	1				2	(2)																	
	SD PBL(3)			○	○	1										2												
	特別研究(1)			○	○	2								2	(2)													
特別研究(2)			○	○	2								2	2	(2)													
卒業研究(1)			○	○	3																			6	(6)			
卒業研究(2)			○	○	3																			(6)	6			

①：児童学コース

卒業要件	1 2 4 単位 以下を含むこと		
	教養科目		右記を含むこと ○必修 2 単位
	外国語科目	2 0 単位	右記を含むこと ○必修 4 単位及び選択 4 単位
	体育科目		右記を含むこと ○必修 4 単位
	専門科目	9 0 単位	右記を含むこと ○必修 3 9 単位
数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4 単位	右記を含むこと ※DS 1 単位	

②：人間総合科学コース

卒業要件	1 2 4 単位 以下を含むこと		
	教養科目		右記を含むこと ○必修 4 単位
	外国語科目	2 0 単位	右記を含むこと ○必修 4 単位及び選択 4 単位
	体育科目		右記を含むこと ○必修 2 単位 △選択必修 1 単位
	専門科目	9 0 単位	右記を含むこと ○必修 3 9 単位
数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4 単位	右記を含むこと ※DS 1 単位	

## 別表2 教育職員免許状を取得するための教科及び教職に関する科目（学則第20条）

### 2-1 理工学部・情報工学部 教育課程表〔教職〕

2-1① 理工学部・情報工学部・メディア情報学部

教育の基礎的理解に関する科目等及び各教科の指導法（各学科共通） 教育課程表

2-1② 理工学部・情報工学部 教科に関する専門的事項（各学科共通） 教育課程表

2-1③ 理工学部・情報工学部 大学が独自に設定する科目（各学科共通） 教育課程表

2-1④ 理工学部・情報工学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（各学科共通） 教育課程表

### 2-2 メディア情報学部 教育課程表〔教職〕

2-2① メディア情報学部 社会メディア学科 教科に関する専門的事項 教育課程表

2-2② メディア情報学部 情報システム学科 教科に関する専門的事項 教育課程表

2-2③ メディア情報学部 大学が独自に設定する科目（各学科共通） 教育課程表

2-2④ メディア情報学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（各学科共通） 教育課程表

### 2-3 人間科学部 教育課程表〔教職〕

2-3① 人間科学部 教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法（人間科学科） 教育課程表

2-3② 人間科学部 領域に関する専門的事項（人間科学科） 教育課程表

2-3③ 人間科学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（人間科学科） 教育課程表

2-1① 理工学部・情報工学部・メディア情報学部

教育の基礎的理解に関する科目等及び各教科の指導法（各学科共通） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学期第4条の学科で取得し得る教育職員免許状の種類と免許教科	科目区分	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考	
					1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
高等学校教諭 一種免許状 数学, 理科, 情報, 工業  中学校教諭 一種免許状 数学, 理科, 技術	教育の基礎的理解に関する科目等	①-1 教育原論	○	2	2									
		①-2 教職論	○	2		2								
		①-3 教育社会学	△	2			2							1科目必修
		①-4 教育制度論	△	2		2								
		①-4 教育心理学	△	2	2									1科目必修
		①-4 発達心理学	△	2	2									
		①-5 特別支援教育	○	2		2								
		①-6 教育課程論	○	2			2							
		②-1 道徳教育の理論と方法	○	2		2								中学校のみ
		②-2 総合的な学習の時間の理論と方法	○	2			2							
		②-3 特別活動の理論と方法	○	2		2								
		②-4 教育方法学 (ICT活用を含む)	○	2			2							
		②-5 生徒指導・進路指導の理論と方法	○	2	2									
		②-6 教育相談とカウンセリング(1)	△	2	2									1科目必修
		②-6 教育相談とカウンセリング(2)	△	2		2								
		③-1 教育実習(1)	○*	2					2					*中学校は必修
		③-1 教育実習事前事後指導(1)	○*	1					1					
		③-1 教育実習(2)	○	2							2			
		③-1 教育実習事前事後指導(2)	○	1						1				
		③-2 教職実践演習(中・高)	○	2									2	
高等学校教諭 一種免許状 数学 中学校教諭 一種免許状 数学	(各教科 通の指 導法 の活 用を 含む。)	数学教育法(1)	○	2			2						*中学校は必修	
数学教育法(2)		○	2				2							
数学教育法(3)		○*	2			2								
数学教育法(4)		○*	2			2								
高等学校教諭 一種免許状 理科 中学校教諭 一種免許状 理科		理科教育法(1)	○	2			2						*中学校は必修	
理科教育法(2)		○	2			2								
理科教育法(3)		○*	2			2								
理科教育法(4)		○*	2			2								
中学校教諭 一種免許状 技術		技術教育法(1)	○	2			2							
技術教育法(2)		○	2			2								
技術教育法(3)		○	2			2								
技術教育法(4)		○	2			2								
高等学校教諭 一種免許状 情報		情報教育法(1)	○	2					2					
情報教育法(2)		○	2						2					
高等学校教諭 一種免許状 工業		工業教育法(1)	○	2					2					
工業教育法(2)		○	2						2					

<科目区分の詳細>

①教育の基礎的理解に関する科目

- ①-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
- ①-2 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
- ①-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
- ①-4 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
- ①-5 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
- ①-6 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

②道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

- ②-1 道徳の理論及び指導法
- ②-2 総合的な学習の時間の指導法
- ②-3 特別活動の指導法
- ②-4 教育の方法及び技術  
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
- ②-5 生徒指導の理論及び方法  
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
- ②-6 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

③教育実践に関する科目

- ③-1 教育実習
- ③-2 教職実践演習

2-1② 理工学部・情報工学部 教科に関する専門的事項（各学科共通） 教育課程表

○印：必修科目 △印：選択必修科目

学期第4案の 学科で取得し 得る教育職員 免許状の種類 と免許教科	科目区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考	
					1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
高等学校教諭 一種免許状 数学  中学校教諭 一種免許状 数学	数1) 代数学	※3												※1)必修科目(○)及び選択必修科目(△)を含み合計20単位以上修得する。 ※2)科目区分数1～5から各1単位以上修得する。 ※3)科目区分数1は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。 ※4)科目区分数2(△)から1科目を選択し修得する。 ※5)科目区分数3は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。 ※6)科目区分数5は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。 ※7)不足する単位は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。
	数2) 幾何学	幾何学(1)	△	2			2							
		幾何学(2)	△	2			2							
		幾何学(3)	△	2			2							
	数3) 解析学	※5												
数4) 「確率論、統計学」	確率論		○	2	2									
数5) コンピュータ	※6													
高等学校教諭 一種免許状 理科  中学校教諭 一種免許状 理科	理1) 物理学	物理学概論		○	2		2							※1)必修科目(○)を含み合計20単位以上修得。 ※2)科目区分理2～4は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。 ※3)科目区分理1～4から1単位以上修得する。 ※4)※3に加えて、中学校の場合は科目区分理5～8の実験全てを 修得する。 ※5)※3に加えて、高等学校の場合は科目区分理5～8の中から1つ を選択し修得する。 ※6)不足する単位は、各学科の指定科目を修得することにより充 当可能。
	理2) 化学	※2												
	理3) 生物学	※2												
	理4) 地学	※2												
	理5) 物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※2												
	理6) 化学実験(コンピュータ活用を含む。)	※2												
	理7) 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※2												
	理8) 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	※2												
中学校教諭 一種免許状 技術	技1) 木材加工 (製図及び実習を含む。)	木材加工(製図・実習含)		○	2			2						※1)必修科目(○)を含み合計20単位以上修得する。 ※2)科目区分技1～技6から各1単位以上修得する。 ※3)科目区分技2、技4、技6は、各学科の指定科目を修得する ことにより充当可能。 ※4)科目区分技3の必修科目(○)は、※1)に関わらず、各学科 の指定科目の修得により充当可能な場合がある。 ※5)不足する単位は、各学科の指定科目を修得することにより 充当可能。
	技2) 金属加工 (製図及び実習を含む。)	※3												
	技3) 機械(実習を含む。)	機械工作実習(a) ※4		○	1			1						
		機械工作実習(b) ※4		○	1			1						
	技4) 電気(実習を含む。)	※3												
	技5) 栽培(実習を含む。)	栽培(実習含)		○	2		2							
技6) 情報とコンピュータ(実習を含む。)	※3													
高等学校教諭 一種免許状 情報	情1) 情報社会・情報倫理	※2												※1)合計20単位以上修得。 ※2)科目区分情1～6は、各学科の指定科目を修得することによ り充当可能。 ※3)科目区分情1～6から各1単位以上修得する。 ※4)不足する単位は、各学科の指定科目を修得することによ り充当可能。
	情2) コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	※2												
	情3) 情報システム(実習を含む。)	※2												
	情4) 情報通信ネットワーク(実習を含む。)	※2												
	情5) マルチメディア表現・マルチメディア技術 (実習を含む。)	※2												
	情6) 情報と職業	※2												
高等学校教諭 一種免許状 工業	工1) 工業の関係科目	※4												※1)選択必修科目(△)を含み合計20単位以上修得する。 ※2)科目区分工1～2から各1単位以上修得する。 ※3)科目区分工2(△)から1科目以上を選択し修得する。 ※4)科目区分工1は、各学科の指定科目を修得することにより 充当可能。 ※5)不足する単位は、各学科の指定科目を修得することによ り充当可能。
	工2) 職業指導	職業指導(1)		△	2			2						
		職業指導(2)		△	2			2						

2-1③ 理工学部・情報工学部

大学が独自に設定する科目（各学科共通） 教育課程表

○印必修

学期第4条の学科で取得し得る教育職員免許状の種類と免許教科	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
高等学校教諭一種免許状 数学, 理科, 情報, 工業,	介護等体験	○*	1			1								*中学校は必修
	道徳教育の理論と方法		2		2									高等学校のみ
中学校教諭一種免許状 数学, 理科, 技術	教職総合ゼミナール		2					2						
	「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得する科目													

2-1④ 理工学部・情報工学部

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（各学科共通） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科で取得し得る教育職員免許状の種類と免許教科	免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考		
					1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
高等学校教諭 一種免許状 数学, 理科, 情報, 工業	日本国憲法	日本国憲法	○	2	2	(2)									
		基礎体育(1a)	△1	0.5	1										
中学校教諭 一種免許状 数学, 理科, 技術	体育	基礎体育(1b)	△1	0.5	1										
		基礎体育(2a)	△1	0.5		1									
		基礎体育(2b)	△1	0.5		1									△1より 1単位修得
		応用体育(1)	△1	1			2	(2)							
		応用体育(2)	△1	1			2	(2)							
		スポーツ・健康論	○	2	2	(2)									
		外国語コミュニケーション	Communication Skills(1)	○	1	2									
	Communication Skills(2)	○	1		2										
情報機器の操作	情報リテラシー	△2	2	2											
	情報リテラシー演習(a)	△2	0.5	1											
	情報リテラシー演習(b)	△2	0.5	1											
	プログラミング基礎(a)	△2	1		1									△2より 2単位修得 または、 △3より 2単位修得	
	プログラミング基礎(b)	△2	1		1										
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	データサイエンスリテラシー(1)	△3	1	2	(2)										
	データサイエンスリテラシー(2)	△3	1	(2)	2										

2-2① メディア情報学部 社会メディア学科 教科に関する専門的事項 教育課程表

○印必修

学則第4条の学科 で取得し得る教育 職員免許状の種類 と免許教科	科目区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
					1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
高等学校教諭 一種免許状 情報	情報社会・情報倫理	情報と社会	○	2	2										
		情報と法	○	2			2								
		参加型デザイン論		2			2								
		情報の倫理		2					2						
		情報政策論		2						2					
	コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	基礎プログラミング演習(1a)	○	1	1										
		基礎プログラミング演習(1b)	○	1	1										
		コンピュータシステム	○	2	2										
		基礎プログラミング演習(2a)		1	1										
		基礎プログラミング演習(2b)		1	1										
	情報システム (実習を含む。)	サーバシステム構築	○	2				2							
		データベース		2				2							
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報通信技術入門	○	2	2										
		LAN環境演習	○	2					2						
		情報セキュリティ		2				2							
	マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	情報編集入門	○	2	2										
		コンピュータグラフィックス	○	2	2										
		インフォグラフィックスデザイン演習		2				2							
		インタフェースデザイン演習		2					2						
		ヒューマンコンピュータインタラクション		2						2					
	情報と職業	情報と職業	○	2				2							

2-2② メディア情報学部 情報システム学科 教科に関する専門的事項 教育課程表

○印必修

学則第4条の学科で取得し得る教育職員免許状の種類と免許教科	科目区分	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								備考		
					1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
高等学校教諭一種免許状 情報	情報社会・情報倫理	情報と社会	○	2	2										
		情報と法	○	2			2								
		情報の倫理		2				2							
	コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	情報数学	○	2	2										
		コンピュータシステム	○	2		2									
		プログラミング基礎演習A		2	2										
		アルゴリズムとプログラミング		2	2										
		プログラミング基礎演習B		2		2									
	情報システム (実習を含む。)	サーバシステム構築	○	2				2							
		オペレーティングシステム		2		2									
		ソフトウェア開発技法	○	2		2									
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	LAN環境演習	○	2					2						
		コンピュータネットワーク		2		2									
		デジタル信号処理		2			2								
		情報セキュリティ		2			2								
	マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	情報編集入門	○	2		2									
		コンピュータグラフィックス	○	2		2									
		ヒューマンコンピュータインタラクション		2				2							
	情報と職業	情報と職業	○	2				2							

2-2③ メディア情報学部 大学が独自に設定する科目（各学科共通） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科 で取得し得る教育 職員免許状の種類 と免許教科	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
高等学校教諭 一種免許状 情報	道徳教育の理論と方法		2		2									
	「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得する科目													

2-2④ メディア情報学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(各学科共通)教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科 で取得し得る教育 職員免許状の種類 と免許教科	科目区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間教								備考					
					1年		2年		3年		4年							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
高等学校教諭 一種免許状 情報	日本国憲法	日本国憲法	○	2	(2)	2												
	体育	基礎体育(1a)	△1	0.5	1											} 1科目必修		
		基礎体育(1b)	△1	0.5	1													
		基礎体育(2a)	△1	0.5		1												
		基礎体育(2b)	△1	0.5		1												
		応用体育(1)	△1	1			2	(2)										
		応用体育(2)	△1	1			2	(2)										
		スポーツ・健康論	○	2	2	(2)												
	外国語 コミュニケーション	Communication Skills(1)	○	1	2													
		Communication Skills(2)	○	1		2												
	情報機器の操作	情報リテラシー演習	△2	2	2													
数理、データ活用 及び人工知能に関 する科目	データサイエンスリテラシー(1)	△3	1	2	(2)										△2より2単位修得 または、 △3より2単位修得			
	データサイエンスリテラシー(2)	△3	1	(2)	2													

2-3① 人間科学部

教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法（人間科学科） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学期第4条の学科で 取得し得る教育職員 免許状の種類	科目区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考					
					1年		2年		3年		4年							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
幼稚園教諭 一種免許状	教育の基礎的理解に関する科目等	①-1 教育原理	○	2			2											
		①-2 保育者論	○	2					2									
		①-3 教育社会学	○	2			2											
		①-4 発達心理学	○	2		2												
			教育心理学	○	2			2										
		①-5 特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援	○	2			2											
		①-6 カリキュラム論	○	2					2									
		②-1 幼児教育方法論	○	2					2									
			②-2 子ども理解の理論と方法	○	2					2								
			②-3 教育相談	○	2					2								
			③-1 幼稚園教育実習(1)	○	2				2									
		幼稚園教育実習(2)		○	2					2								
		幼稚園教育実習指導(1)		○	1				2									
	幼稚園教育実習指導(2)	○		1						1								
	③-2 保育・教職実践演習(幼稚園)	○	2									2						
	(保育内容の 情報機器の 指導 教材の活用を含む。)	保育内容健康指導法	○	2						2								
		保育内容人間関係指導法	○	2			2											
		保育内容言葉指導法	○	2				2										
		保育内容環境指導法	○	2					2									
		保育内容表現指導法	○	2				2										
子どもの音楽表現指導法		△	2					2										
子どもの造形表現指導法		△	2						2							これら3科目より 1科目選択必修		
子どもの身体表現指導法		△	2						2									
保育内容総論		○	2				2											

<科目区分の詳細>

①教育の基礎的理解に関する科目

- ①-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
- ①-2 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
- ①-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
- ①-4 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
- ①-5 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
- ①-6 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

②道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

- ②-1 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
- ②-2 幼児理解の理論及び方法
- ②-3 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

③教育実践に関する科目

- ③-1 教育実習
- ③-2 教職実践演習

2-3② 人間科学部 領域に関する専門的事項（人間科学科） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科で 取得し得る教育職員 免許状の種類	科目区分	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
					1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
幼稚園教諭 一種免許状	健康	子どもの保健と健康	○	2			2								
	人間関係	子どもと人間関係	○	2	2										
	環境	子どもと環境	○	2	2										
	言葉	子どもと言葉	○	2			2								
	表現	保育内容の理解と方法（音楽表現）	○	1			2								
		保育内容の理解と方法（造形表現）	○	1		2									
		保育内容の理解と方法（身体表現）	○	1			2								
		保育内容の理解と方法（言語表現）	○	1	2										

2-3③ 人間科学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（人間科学科） 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学期第4条の学科で取得し得る教育職員免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	必選の別	単位数	週時間数								備考			
					1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
幼稚園教諭 一種免許状	日本国憲法	日本国憲法	○	2		2										
	体育	基礎体育(1a)	○	0.5	1											
		基礎体育(1b)	○	0.5	1											
		基礎体育(2a)	○	0.5		1										
		基礎体育(2b)	○	0.5		1										
	外国語コミュニケーション	Communication Skills(1)	○	1	2											
		Communication Skills(2)	○	1		2										
	情報機器の操作	情報処理演習(1)	○	1	2											
		情報処理演習(2)	○	1		2										

別表3 入学検定料, 入学金及び授業料 (学則第46条)

科 目	学 部	金 額	備 考
入学検定料	全 学 部	35,000円	大学入学共通テストの成績のみを利用する場合は, 18,000円
入 学 金	全 学 部	200,000円	
授 業 料	理 工 学 部 建築都市デザイン学部 情報工 学 部	1,476,000円	
	環 境 学 部 メディア情報学部 デザイン・データ科学部	1,290,000円	
	都 市 生 活 学 部	1,194,000円	
	人 間 科 学 部	1,176,000円	

別表4 研究生の入学検定料, 入学金及び授業料 (学則第50条)

科 目	金 額
入学検定料	6,000円
入 学 金	6,000円
授 業 料	半期分 270,000円

別表5 科目等履修生の入学検定料, 入学金及び履修料 (学則第55条)

科 目	金 額
入学検定料	12,000円
入 学 金	10,000円
履 修 料	1単位につき 12,000円

別表6 人材の養成及び教育研究上の目的（学則第4条の2）

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
理工学部		教育理念である「理論と実践」のもと、理工学に関する深い専門性、幅広い教養、豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力及び高い倫理観を涵養し、これらの学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材の養成を目的とする。
	機械工学科	機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して、工業が自然や人間社会に及ぼす影響に興味と関心を持ち、問題の発見から解決に至る一連の流れを創造して、もの作りができる能力と、社会の多様な問題を解決するためのコミュニケーション能力を向上させることで、社会変革を担える人材の養成を目的とする。
	機械システム工学科	機械工学、電気工学、制御工学の基礎を幅広く学修し、機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより、理論的裏付けを持った実践と協働によって次代の多様な社会的要請に応じた機械システムを構築できると同時に、教養、語学力、国際的思考を有し、社会を担う気概と倫理観を持った技術者の養成を目的とする。
	電気電子通信工学科	電気電子通信工学の基礎となる知識を十分に修得した上で、幅広く専門知識を身に付け、さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験を積むことにより、進化する社会の中で技術者として生き抜く力を養い、現実に即した発想のもと身に付けた知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる人材の養成を目的とする。
	医用工学科	工学分野と医学分野の知識及びその活用に必要な基本知識と技能をバランスよく修得し、それらの知識と技能を有機的に融合させて医療及び福祉に貢献する機器や技術の研究開発を実践できる人材、さらには多様な知識を適切に活用して問題の発見と解決ができ、社会の変化に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。
	応用化学科	応用化学に関する系統的な学修、すなわち物質の構造や性質に関連する化学の様々な基礎知識を修得し、化学をベースに新しい物質を創成・利用するための基礎から応用までの専門知識について理解を深め、先進的な研究活動の経験を積むことにより、機能性材料開発、クリーンエネルギー、環境浄化、省資源などの分野で広く活躍できる能力をそなえた人材の養成を目的とする。
	原子力安全工学科	カーボンフリー電源である原子力エネルギー利用のさらなる安全性向上と発電以外の応用技術創造のために、原子核や原子力安全に関する正しい理論の学修と、放射線の取扱いに関する実務を交えた学修によって、原子力・放射線分野の理論及び技術を修得し、高度で専門的な能力を有する技術者の養成を目的とする。
	自然科学科	物理学・化学・生物学・地球科学・天文学及び数学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により、総合的な見識と健全な判断力を醸成し、自然科学における様々な現象を理学的視点により探究できる人材や広範な理学分野の学術的発展に寄与する調査分析能力を身に付けた人材を育成することで、複雑化及び多様化する社会に柔軟に対応できる人材や科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材の養成を目的とする。
建築都市デザイン学部		建築、社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとし、持続的な建築・都市の創造・再生を実現するため、社会の要請に対応できる高い能力をそなえた人材の養成を目的とする。
	建築学科	科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。
	都市工学科	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間—自然環境—社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアの養成を目的とする。

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
情報工学部		高度に発達した情報技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識や技術を体系的に身に付けるとともに、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有し、社会が要請する情報システムやサービスを実現して国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。
	情報科学科	情報科学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え、技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、社会の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材の養成を目的とする。
	知能情報工学科	人工知能や人間の知能など様々な知能を統合・活用しながら、IoT技術でビッグデータを収集でき、データサイエンスを駆使して分析し、その結果から解決案や新しい製品、仕組みをデザインし、それを社会に送り出すマネジメント能力を通じて、超スマート社会にイノベーションを起こすことのできる総合的技術者の養成を目的とする。
環境学部		グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とする。
	環境創生学科	持続可能な社会の基盤である生態環境、都市環境及びそれらの相互関係性を理解させるとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって安全で快適な都市空間の創造についての理念と方法論を修得させることによって、実社会において持続的な環境を創生できる専門家の養成を目的とする。
	環境経営システム学科	気候変動、廃棄物問題、大気と水の汚染、生物多様性の消失などの現在直面する地球環境問題は、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、循環型で持続可能な社会の実現に向けた提案や実践を行うことができる人材の養成を目的とする。
メディア情報学部		人間と情報通信技術の調和による、より良い社会の実現に向けて、人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解した上で、社会的仕組みや情報システムを調査・分析する能力を身に付けるとともに、新しい仕組みやシステムを実現・評価・改善することができる人材の養成を目的とする。
	社会メディア学科	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学的視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力・リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力等をそなえた人材の養成を目的とする。
	情報システム学科	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科	定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。
都市生活学部	都市生活学科	都市の経営とデザインに関する企画力を有し、事業の推進及び管理運営を担う構想力・実践力を兼ね備え、都市に関する豊富な知見と国際人として活躍できるコミュニケーションスキルを活用して、魅力的で持続可能な都市生活の創造に資する人材の養成を目的とする。
人間科学部	人間科学科	いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた高い専門性を持つ、自立した人材の養成を目的とする。

## 学則の変更事項を記載した書類

### 1. 変更の事由

- ・デザイン・データ科学部の設置及びこれに伴う大学全体の収容定員の変更
- ・学科の名称変更（人間科学部児童学科から人間科学科へ）

### 2. 変更点

- ・学則条文の変更
- ・付則の追加
- ・別表の変更
  - 別表 1 デザイン・データ科学部設置に伴う教育課程の変更  
人間科学部の教育課程の変更（学科の名称変更に伴う変更を含む）
  - 別表 2 人間科学部の教育課程の変更（学科の名称変更に伴う変更を含む）
  - 別表 3 デザイン・データ科学部の授業料を追加
  - 別表 6 デザイン・データ科学部の人材の養成及び教育研究上の目的を追加  
学科の名称変更に伴う変更

令和5年度 東京都市大学学則 変更部分の新旧比較対照表（案）

変更案				現行					
(学部、学科及び収容定員)				(学部、学科及び収容定員)					
第4条 本大学に、理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、環境学部、メディア情報学部、 <u>デザイン・データ科学部</u> 、都市生活学部及び人間科学部を置く。				第4条 本大学に、理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部及び人間科学部を置く。					
2 各学部に設ける学科及び収容定員は、次のとおりとする。				2 各学部に設ける学科及び収容定員は、次のとおりとする。					
	学部	学科	入学定員	収容定員		学部	学科	入学定員	収容定員
理工学部	理工学部	機械工学科	120	480	理工学部	理工学部	機械工学科	120	480
		機械システム工学科	110	440			機械システム工学科	110	440
		電気電子通信工学科	150	600			電気電子通信工学科	150	600
		医用工学科	60	240			医用工学科	60	240
		応用化学科	75	300			応用化学科	75	300
		原子力安全工学科	45	180			原子力安全工学科	45	180
		自然科学科	60	240			自然科学科	60	240
	計	620	2,480	計	620	2,480			
建築都市デザイン学部	建築都市デザイン学部	建築学科	120	480	建築都市デザイン学部	建築都市デザイン学部	建築学科	120	480
		都市工学科	100	400			都市工学科	100	400
	計	220	880	計	220	880			
情報工学部	情報工学部	情報科学科	100	400	情報工学部	情報工学部	情報科学科	100	400
		知能情報工学科	80	320			知能情報工学科	80	320
	計	180	720	計	180	720			
環境学部	環境学部	環境創生学科	90	360	環境学部	環境学部	環境創生学科	90	360
		環境経営システム学科	90	360			環境経営システム学科	90	360
	計	180	720	計	180	720			
メディア情報学部	メディア情報学部	社会メディア学科	90	360	メディア情報学部	メディア情報学部	社会メディア学科	90	360
		情報システム学科	100	400			情報システム学科	100	400
	計	190	760	計	190	760			
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学部	100	400						
都市生活学部	都市生活学部	160	640	都市生活学部	都市生活学部	160	640		
人間科学部	人間科学部	100	400	人間科学部	児童学科	100	400		
合計		1,750	7,000	合計		1,650	6,600		

変更案	現行
<p>(授業科目の区分)</p> <p>第14条 理工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、理工学基礎科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>2 建築都市デザイン学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、学部基盤科目、専門科目に区分する。</p> <p>3 情報工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、情報工学基盤科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>4 環境学部にあつては、授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目）、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目・学科専門科目）に区分する。</p> <p>5 メディア情報学部にあつては、授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目）、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目・学科専門科目）、並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>6 <u>デザイン・データ科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門応用科目に区分する。</u></p> <p>7 都市生活学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目に区分する。</p> <p>8 人間科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>(履修単位及び年限)</p>	<p>(授業科目の区分)</p> <p>第14条 理工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、理工学基礎科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>2 建築都市デザイン学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、学部基盤科目、専門科目に区分する。</p> <p>3 情報工学部にあつては、授業科目を教養科目、体育科目、外国語科目、<b>PBL</b>科目、情報工学基盤科目、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>4 環境学部にあつては、授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目）、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目・学科専門科目）に区分する。</p> <p>5 メディア情報学部にあつては、授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目）、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目・学科専門科目）、並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>6 都市生活学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、<b>PBL</b>科目、専門基礎科目、専門科目に区分する。</p> <p>7 人間科学部にあつては、授業科目を教養科目、外国語科目、体育科目、<u><b>PBL</b>科目</u>、専門科目並びに教科及び教職に関する科目に区分する。</p> <p>(履修単位及び年限)</p>
<p>第15条 学生は、4年以上在学し、次の区分に従って所定の単位数以上を修得しなければならない。</p>	<p>第15条 学生は、4年以上在学し、次の区分に従って所定の単位数以上を修得しなければならない。</p>

変更案	現行																														
<p>理工学部（表略）</p> <p>建築都市デザイン学部 建築学科（表略）</p> <p>建築都市デザイン学部 都市工学科（表略）</p> <p>情報工学部 一般コース（表略）</p> <p>情報工学部 国際コース（表略）</p> <p>環境学部（表略）</p> <p>メディア情報学部（表略）</p> <p>デザイン・データ科学部</p> <table border="1" data-bbox="353 635 920 916"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>卒業要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教養科目</td> <td>12単位</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> <td>14単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎科目</td> <td>50単位</td> </tr> <tr> <td>専門応用科目</td> <td>40単位</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>116単位</td> </tr> <tr> <td>自由選択 ※</td> <td>8単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>124単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して8単位以上修得しなければならない。</p>	区分	卒業要件	教養科目	12単位	外国語科目	14単位	専門基礎科目	50単位	専門応用科目	40単位	小計	116単位	自由選択 ※	8単位	合計	124単位	<p>理工学部（表略）</p> <p>建築都市デザイン学部 建築学科（表略）</p> <p>建築都市デザイン学部 都市工学科（表略）</p> <p>情報工学部 一般コース（表略）</p> <p>情報工学部 国際コース（表略）</p> <p>環境学部（表略）</p> <p>メディア情報学部（表略）</p>														
区分	卒業要件																														
教養科目	12単位																														
外国語科目	14単位																														
専門基礎科目	50単位																														
専門応用科目	40単位																														
小計	116単位																														
自由選択 ※	8単位																														
合計	124単位																														
<p>都市生活学部（表略）</p> <p>人間科学部</p> <table border="1" data-bbox="353 1114 920 1430"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>卒業要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教養科目</td> <td rowspan="3">20単位</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> </tr> <tr> <td>体育科目</td> </tr> <tr> <td>専門科目</td> <td>90単位</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>110単位</td> </tr> <tr> <td>自由選択 ※</td> <td>14単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>124単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	卒業要件	教養科目	20単位	外国語科目	体育科目	専門科目	90単位	小計	110単位	自由選択 ※	14単位	合計	124単位	<p>都市生活学部（表略）</p> <p>人間科学部</p> <table border="1" data-bbox="1323 1114 1890 1430"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>卒業要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教養科目</td> <td rowspan="3">20単位</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> </tr> <tr> <td>体育科目</td> </tr> <tr> <td>PBL科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>専門科目</td> <td>90単位</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>112単位</td> </tr> <tr> <td>自由選択 ※</td> <td>12単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>124単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	卒業要件	教養科目	20単位	外国語科目	体育科目	PBL科目	2単位	専門科目	90単位	小計	112単位	自由選択 ※	12単位	合計	124単位
区分	卒業要件																														
教養科目	20単位																														
外国語科目																															
体育科目																															
専門科目	90単位																														
小計	110単位																														
自由選択 ※	14単位																														
合計	124単位																														
区分	卒業要件																														
教養科目	20単位																														
外国語科目																															
体育科目																															
PBL科目	2単位																														
専門科目	90単位																														
小計	112単位																														
自由選択 ※	12単位																														
合計	124単位																														

変更案	現行
<p>※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して<u>14単位以上</u>修得しなければならない。</p> <p>2 学部の定めるところにより、他学部、他学科で開設する指定授業科目を履修したときは、当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。</p> <p>3 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、<u>60単位以上</u>を修得しなければ3年次に進級することができない。</p> <p>4 環境学部の学生は、2年以上在学し、<u>66単位以上</u>を修得しなければ事例研究(1)に着手することができない。</p> <p>5 メディア情報学部の学生は、2年以上在学し、<u>66単位以上</u>を修得しなければ3年次に進級することができない。</p> <p><u>6 デザイン・データ科学部の学生は、2年以上在学し、50単位以上を修得しなければ3年次に進級することができない。</u></p> <p><u>7</u> 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、3年以上在学し、<u>100単位以上</u>を修得しなければ4年次に進級することができない。</p> <p><u>8</u> 都市生活学部及び人間科学部の学生は、3年以上在学し、<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p> <p><u>9</u> 環境学部の学生は、3年以上在学し、事例研究(1)及び事例研究(2)を含む<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p> <p><u>10</u> メディア情報学部の学生は、3年以上在学し、事例研究を含む<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p> <p><u>11</u> <u>デザイン・データ科学部の学生は、3年半以上在学し、110単位以上を修得しなければキャップストーンプロジェクトに着手することができない。</u></p>	<p>※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して<u>12単位以上</u>修得しなければならない。</p> <p>2 学部の定めるところにより、他学部、他学科で開設する指定授業科目を履修したときは、当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。</p> <p>3 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、<u>60単位以上</u>を修得しなければ3年次に進級することができない。</p> <p>4 環境学部の学生は、2年以上在学し、<u>66単位以上</u>を修得しなければ事例研究(1)に着手することができない。</p> <p>5 メディア情報学部の学生は、2年以上在学し、<u>66単位以上</u>を修得しなければ3年次に進級することができない。</p> <p><u>6</u> 理工学部、建築都市デザイン学部及び情報工学部の学生は、3年以上在学し、<u>100単位以上</u>を修得しなければ4年次に進級することができない。</p> <p><u>7</u> 都市生活学部及び人間科学部の学生は、3年以上在学し、<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p> <p><u>8</u> 環境学部の学生は、3年以上在学し、事例研究(1)及び事例研究(2)を含む<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p> <p><u>9</u> メディア情報学部の学生は、3年以上在学し、事例研究を含む<u>100単位以上</u>を修得しなければ卒業研究に着手することができない。</p>

変更案	現行
<p>(在学年数及び在学年限)</p> <p>第16条 本大学及び前条における在学年数とは、本大学入学後の年数とする。</p> <p>2 編入学又は転入学した者の在学年数は、前項の在学年数に以下の年数を加えたものとする。</p> <p>(1) 2年次入学の場合は1年</p> <p>(2) 3年次入学の場合は2年</p> <p>3 転学部又は転学科した者の在学年数は、学年次にかかわらず、第1項による。</p> <p>4 再入学した者の在学年数は、第1項の在学年数に再入学する前の在学年数を加えたものとする。</p> <p>5 休学期間は、在学年数に含めない。</p> <p>6 在学年数は、8年を超えることができない。</p> <p>7 理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、<u>メディア情報学部及びデザイン・データ科学部</u>については、2年次までの在学年数は、4年を超えることができない。</p> <p>(教育職員の免許状)</p> <p>第20条 教育職員免許状の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。</p>	<p>(在学年数及び在学年限)</p> <p>第16条 本大学及び前条における在学年数とは、本大学入学後の年数とする。</p> <p>2 編入学又は転入学した者の在学年数は、前項の在学年数に以下の年数を加えたものとする。</p> <p>(1) 2年次入学の場合は1年</p> <p>(2) 3年次入学の場合は2年</p> <p>3 転学部又は転学科した者の在学年数は、学年次にかかわらず、第1項による。</p> <p>4 再入学した者の在学年数は、第1項の在学年数に再入学する前の在学年数を加えたものとする。</p> <p>5 休学期間は、在学年数に含めない。</p> <p>6 在学年数は、8年を超えることができない。</p> <p>7 理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部<u>及び</u>メディア情報学部については、2年次までの在学年数は、4年を超えることができない。</p> <p>(教育職員の免許状)</p> <p>第20条 教育職員免許状の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。</p>

変更案

2 前項に定める免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類 (教科)
理工学部	機械工学科	(略)
	機械システム工学科	(略)
	電気電子通信工学科	(略)
	医用工学科	(略)
	応用化学科	(略)
	原子力安全工学科	(略)
	自然科学科	(略)
情報工学部	情報科学科	(略)
	知能情報工学科	(略)
メディア情報学部	社会メディア学科	(略)
	情報システム学科	(略)
人間科学部	人間科学科	(略)

3 教科及び教職に関する科目の単位数及び授業時間数は、別表2のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(保育士の資格)

第20条の3 人間科学部人間科学科の学生で保育士の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、児童福祉法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

2 保育士養成課程の単位数、授業時間数、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(卒業及び学位)

第45条 本大学に4年以上在学し、第15条に定める単位を修得し、かつ、卒業試験に合格した者には、当該学部教授会の議を経て、卒業証書を授与する。

2 本大学を卒業した者には、本大学学位規程の定めるところにより以下の学位を授与する。

現行

2 前項に定める免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類 (教科)
理工学部	機械工学科	(略)
	機械システム工学科	(略)
	電気電子通信工学科	(略)
	医用工学科	(略)
	応用化学科	(略)
	原子力安全工学科	(略)
	自然科学科	(略)
情報工学部	情報科学科	(略)
	知能情報工学科	(略)
メディア情報学部	社会メディア学科	(略)
	情報システム学科	(略)
人間科学部	児童学科	(略)

3 教科及び教職に関する科目の単位数及び授業時間数は、別表2のとおりとし、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(保育士の資格)

第20条の3 人間科学部児童学科の学生で保育士の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、児童福祉法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

2 保育士養成課程の単位数、授業時間数、履修の順序、その他履修方法は、別に定める。

(卒業及び学位)

第45条 本大学に4年以上在学し、第15条に定める単位を修得し、かつ、卒業試験に合格した者には、当該学部教授会の議を経て、卒業証書を授与する。

2 本大学を卒業した者には、本大学学位規程の定めるところにより以下の学位を授与する。

変更案

学部 (学科)	学位
理工学部 (機械工学科, 機械システム工学科, 電気電子通信工学科, 医用工学科, 応用化学科, 原子力安全工学科)	学士 (工学)
理工学部 (自然科学科)	学士 (理学)
建築都市デザイン学部	学士 (工学)
情報工学部	学士 (工学)
環境学部	学士 (環境学)
メディア情報学部 (社会メディア学科)	学士 (社会情報学)
メディア情報学部 (情報システム学科)	学士 (情報学)
デザイン・データ科学部	学士 (学術)
都市生活学部	学士 (都市生活学)
人間科学部	学士 (人間科学)

3 第1項の在学年数については、第16条を準用する。

付 則 (令和4年3月23日)

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以前に入学した者については、従前どおりとする（一部変更（第4条、第14条、第15条、第16条、第20条、第20条の3、第45条、第18条別表1、第20条別表2、第46条別表3、第4条の2別表6））。

2 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の収容定員は、第4条の規定にかかわらず、令和5年度は100名、令和6年度は200名、令和7年度は300名とする。

現行

学部 (学科)	学位
理工学部 (機械工学科, 機械システム工学科, 電気電子通信工学科, 医用工学科, 応用化学科, 原子力安全工学科)	学士 (工学)
理工学部 (自然科学科)	学士 (理学)
建築都市デザイン学部	学士 (工学)
情報工学部	学士 (工学)
環境学部	学士 (環境学)
メディア情報学部 (社会メディア学科)	学士 (社会情報学)
メディア情報学部 (情報システム学科)	学士 (情報学)
都市生活学部	学士 (都市生活学)
人間科学部	学士 (児童学)

3 第1項の在学年数については、第16条を準用する。

変更案

現行

別表1 教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数（学則第18条）

別表1 教育課程、授業科目の単位数及び授業時間数（学則第18条）

1-6 デザイン・データ科学部 教育課程表

(新設)

デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科

教養科目・外国語科目・専門基礎科目・専門応用科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
教養 科目	人文学系	倫理学(1)	2	2											
		倫理学(2)	2		2										
		倫理学(a)	1		1										
		倫理学(b)	1		1										
		視覚芸術史(1)	2	2											
		視覚芸術史(2)	2		2										
		デザイン概論(1)	2			2									
		デザイン概論(2)	2				2								
		日本史(1)	2	2											
		日本史(2)	2		2										
		西洋史(1)	2	2											
		西洋史(2)	2		2										
		社会科学系	社会学入門(a)	1	1										
			社会学入門(b)	1	1										
日本経済論(a)	1					1									
日本経済論(b)	1					1									
西洋経済史	2		(2)	2											
日本の政治(a)	1				1										
日本の政治(b)	1				1										
日本国憲法	2		(2)	2											
法学	2		2												
民法	2			2											
人間科学系	心理学入門	2	2												
	社会とジェンダー(a)	1		1											
	社会とジェンダー(b)	1		1											
	日本文化の伝承(a)	1		1											
	日本文化の伝承(b)	1		1											
	スポーツ・健康論	2	2	(2)											

変更案

現行

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考		
				1年		2年		3年		4年				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
情報科学系 自然・ グローバル 教養系 その他	データサイエンスリテラシー(1)		1	2	(2)								※DS	
	データサイエンスリテラシー(2)		1	(2)	2								※DS	
	環境問題と社会		2	2										
	情報編集入門		2		2									
	Japan Studies	△	2			(2)	(2)	2						
	Global Studies(1)	△	2			(2)	(2)	2						
	Global Studies(2)	△	2			(2)	(2)	2						
	Global Studies(3)	△	2			(2)	(2)	2						
	Global Studies(4)	△	2			(2)	(2)	2						
	Intercultural Understanding(1)	△	2			(2)	(2)	2						
	Intercultural Understanding(2)	△	2			(2)	(2)	2						
	教養特別講義		2	2	(2)									
	ボランティア(1)		1											
	ボランティア(2)		1											
	インターンシップ(1)		1											
	インターンシップ(2)		1											
	外国語科目 英語科目	English I-A	○	1	2									
		English I-B	○	1	2									
		English II-A	○	1	(2)	2								
English II-B		○	1	(2)	2									
English III-A		○	1	(2)	(2)	2								
English III-B		○	1	(2)	(2)	2								
Reading Comprehension			2		(2)	(2)	2							
Debate & Discussion			2		(2)	(2)	2							
Presentation Strategies			2		(2)	(2)	2							
English Test Preparation			2		(2)	(2)	2							
Writing Strategies			2		(2)	(2)	2							
Academic Reading		△	2	(2)	(2)	(2)	2							
Academic Discussion		△	2	(2)	(2)	(2)	2							
Academic Presentation		△	2	(2)	(2)	(2)	2							
English Test Preparation for Academic Purposes	△	2	(2)	(2)	(2)	2								
Academic Research & Writing	△	2	(2)	(2)	(2)	2								

変更案

現行

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門 基礎 科目	データサイエンス概論	○	2	2									※DS
	コンピュータ基礎演習	○	2	2									
	プログラミング基礎演習	△	2		2								
	データサイエンス数学	△	2	2									※MS
	統計学基礎	△	2			2							※MS
	統計データ解析演習	△	2				2						※MS
	情報学理論	△	2	2									
	アルゴリズムとデータ構造	△	2		2								
	機械学習論	△	2			2							
	データマイニング	△	2				2						
	データベース	△	2				2						
	データ社会論	△	2		2								
	量的ユーザー調査	△	2		2								
	質的ユーザー調査	△	2		2								
	経営分析論		2			2							
業務プロセス分析		2			2								
イン ペリ エン ス エ ク ス デ ザ イ ン	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	○	2	2									
	デザインプレゼンテーション		2			2							
	デザインプロトタイピング(1)		2			2							
	ウェブプログラミング		2				2						
	情報デザイン		2				2						
ム デ ザ イ ン	デザインリサーチ		2					2					
	ソーシャルシステムデザイン入門	○	2		2								
	金融・市場システム論		2				2						
	サービスイノベーション		2			2							
	経営戦略概論		2			2							
	総合的品質管理		2				2						
そ の 他	オペレーションマネジメント		2				2						
	プロジェクトマネジメント		2					2					
	SD PBL(1)	○	1	1									
	SD PBL(2)	○	1			1							
	SD PBL(3)	○	1						2				

変更案

現行

区分 科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門 応用 科目	データ 科学	プログラミング応用演習	2			2							
		機械学習演習	2			2							
		ビッグデータ解析演習	2					2					
		ベイズ統計学	2					2					
		ニューラルネットワーク	2					2					
		画像・音声処理	2							2			
		自然言語処理	2							2			
		ウェブデータ処理	2							2			
	企業経営分析ケーススタディ	2					2						
イン バー エン ス デザ イ ン	ユー ザ エ ク ス デザ イ ン	デザインプロトタイピング(2)	2					2					
		ブランドコンセプトデザイン	2						2				
		インタフェースデザイン	2						2				
		感性デザイン演習	△	2					2				
		デザインプロダクション演習	△	2						2			
	インタラクションデザイン演習	△	2						2				
テ ム デザ イ ン シ ス	ソー シ ヤ ル シ ス	ビヘイビアル・ファイナンス	2					2					
		リスク&クライシスマネジメント	2						2				
		未来創造デザインプロジェクト	2						2				
		サービスシステムデザイン演習	△	2					2				
		サプライチェーンデザイン演習	△	2						2			
		ビジネスシステムデザイン演習	△	2						2			
そ の 他		特別講義	2	(2)	2								
		海外インターンシップ	2										
		COOPプログラム	4							4			
		キャップストーンプロジェクト	○	4							(4)	4	

卒 業 要 件	教養科目	12単位	右記を含むこと	△選択必修科目 6単位
	外国語科目	14単位	右記を含むこと	○必修科目 6単位、△選択必修科目 4単位
	専門基礎科目	50単位	右記を含むこと	○必修科目 11単位、△選択必修科目 20単位
	専門応用科目	40単位	右記を含むこと	○必修科目 4単位、△選択必修科目 2単位
	数理・データサイエンスプログラム	4単位		

(※DS及びMS)

変更案

1-7 都市生活学部 教育課程表

都市生活学部 都市生活学科

教養科目・外国語科目・体育科目・PBL科目・専門基礎科目・専門科目

教育課程表（表略）

1-8 人間科学部 教育課程表

人間科学部 人間科学科 教育課程表

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備考								
		①	②		1年		2年		3年		4年										
					前	後	前	後	前	後	前	後									
教 養 科 目	人 文 学 系	哲学(1)			2	2															
		哲学(2)			2		2														
		倫理学(1)			2	2															
		倫理学(2)			2		2														
		倫理学(a)			1		1														
		倫理学(b)			1		1														
		文化人類学			2		2														
		視覚芸術史(1)			2	2															
		視覚芸術史(2)			2		2														
		デザイン概論(1)			2			2													
		デザイン概論(2)			2				2												
		日本文学			2			2													
		日本史(1)			2	2															
		日本史(2)			2		2														
		西洋史(1)			2	2															
		西洋史(2)			2		2														
		民俗学(a)			1		1														
		民俗学(b)			1		1														
		宗教学			2	2															

現行

1-6 都市生活学部 教育課程表

都市生活学部 都市生活学科

教養科目・外国語科目・体育科目・PBL科目・専門基礎科目・専門科目

教育課程表（表略）

1-7 人間科学部 教育課程表

人間科学部 児童学科 教育課程表

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別	単 位 数	週時間数								備考									
				1年		2年		3年		4年											
				前	後	前	後	前	後	前	後										
教 養 科 目	人 文 学 系	哲学(1)		2	2																
		哲学(2)		2		2															
		倫理学(1)		2	2																
		倫理学(2)		2		2															
		倫理学(a)		1		1															
		倫理学(b)		1		1															
		文化人類学		2		2															
		視覚芸術史(1)		2	2																
		視覚芸術史(2)		2		2															
		デザイン概論(1)		2			2														
		デザイン概論(2)		2				2													
		日本文学		2			2														
		日本史(1)		2	2																
		日本史(2)		2		2															
		西洋史(1)		2	2																
		西洋史(2)		2		2															
民俗学(a)		1		1																	
民俗学(b)		1		1																	
宗教学		2	2																		



変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考					
		①	②		1年		2年		3年		4年							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
人間 科 学 系	教育学(1a)			1	1													
	教育学(1b)			1	1													
	教育学(2a)			1		1												
	教育学(2b)			1		1												
	スポーツ・健康論			2	2	(2)												
	心理学(1a)			1	1													
	心理学(1b)			1	1													
	心理学(2a)			1		1												
	心理学(2b)			1		1												
	心理学入門			2	2													
	社会とジェンダー(a)			1		1												
	社会とジェンダー(b)			1		1												
	国際化と異文化理解(a)			1							1							
	国際化と異文化理解(b)			1							1							
	日本文化の伝承(a)			1		1												
	日本文化の伝承(b)			1		1												
	自然・ 情 報 科 学 系	データサイエンスリテラシー(1)			1	2	(2)											※DS
		データサイエンスリテラシー(2)			1	(2)	2											※DS
文系のための統計基礎				2	2	(2)											※MS	
文系のための数理基礎				2	2	(2)											※MS	
論理学(1a)				1	1													
論理学(1b)				1	1													
論理学(2a)				1		1												
論理学(2b)				1		1												
生活とメディア				2			2											
現代の物理(a)				1	1													
現代の物理(b)				1	1													
現代の化学				2	2													
現代の地学			2	2														

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考					
		①	②		1年		2年		3年		4年							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
人間 科 学 系	教育学(1a)			1	1													
	教育学(1b)			1	1													
	教育学(2a)			1		1												
	教育学(2b)			1		1												
	スポーツ・健康論			2	2	(2)												
	心理学(1a)			1	1													
	心理学(1b)			1	1													
	心理学(2a)			1		1												
	心理学(2b)			1		1												
	心理学入門			2	2													
	社会とジェンダー(a)			1		1												
	社会とジェンダー(b)			1		1												
	国際化と異文化理解(a)			1								1						
	国際化と異文化理解(b)			1								1						
	日本文化の伝承(a)			1		1												
	日本文化の伝承(b)			1		1												
	自然・ 情 報 科 学 系	データサイエンスリテラシー(1)			1	2	(2)											※DS
		データサイエンスリテラシー(2)			1	(2)	2											※DS
文系のための統計基礎				2	2	(2)											※MS	
文系のための数理基礎				2	2	(2)											※MS	
論理学(1a)				1	1													
論理学(1b)				1	1													
論理学(2a)				1		1												
論理学(2b)				1		1												
生活とメディア				2			2											
現代の物理(a)				1	1													
現代の物理(b)				1	1													
現代の化学				2	2													
現代の地学			2	2														

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修 の別		単 位 数	週時間数								備考				
		①	②		1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
教 養 科 目	自然・ 情報 科学系	科学技術と社会			2				2								
		情報処理演習(1)	○	○	1	2											
		情報処理演習(2)	○	○	1		2										
		情報処理演習(3)		○	1			2									必修変更
		情報処理演習(4)		○	1				2								必修変更
	そ の 他	ボランティア(1)			1												
		ボランティア(2)			1												
		教養ゼミナール(1)			2	2	(2)										
		教養ゼミナール(2)			2	2	(2)										
		教養特別講義(1)			2	2	(2)										
外 国 語 科 目	英 語 科 目 ( ス キ ル )	Communication Skills(1)	○	○	1	2											
		Communication Skills(2)	○	○	1		2										
		Reading and Writing(1)	○	○	1	2											
		Reading and Writing(2)	○	○	1		2										
		Basic English Training(a)			1			1	(1)								
		Basic English Training(b)			1			1	(1)								
		Grammar(1a)			1			1	(1)								
		Grammar(1b)			1			1	(1)								
		Grammar(2a)			1			1	(1)								
		Grammar(2b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(1a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(1b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(2a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(2b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(3a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(3b)			1			1	(1)								
		Critical Reading(1a)			1			1	(1)								
Critical Reading(1b)			1			1	(1)										

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修 の別		単 位 数	週時間数								備考				
		①	②		1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
教 養 科 目	自然・ 情報 科学系	科学技術と社会			2				2								
		情報処理演習(1)	○		1	2											
		情報処理演習(2)	○		1		2										
		情報処理演習(3)			1			2									必修変更
		情報処理演習(4)			1				2								必修変更
	そ の 他	ボランティア(1)			1												
		ボランティア(2)			1												
		教養ゼミナール(1)			2	2	(2)										
		教養ゼミナール(2)			2	2	(2)										
		教養特別講義(1)			2	2	(2)										
外 国 語 科 目	英 語 科 目 ( ス キ ル )	Communication Skills(1)	○		1	2											
		Communication Skills(2)	○		1		2										
		Reading and Writing(1)	○		1	2											
		Reading and Writing(2)	○		1		2										
		Basic English Training(a)			1			1	(1)								
		Basic English Training(b)			1			1	(1)								
		Grammar(1a)			1			1	(1)								
		Grammar(1b)			1			1	(1)								
		Grammar(2a)			1			1	(1)								
		Grammar(2b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(1a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(1b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(2a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(2b)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(3a)			1			1	(1)								
		Test Taking Skills(3b)			1			1	(1)								
		Critical Reading(1a)			1			1	(1)								
Critical Reading(1b)			1			1	(1)										

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース ○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考			
		①	②		1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
外国語科目	Critical Reading(2a)			1			1	(1)								
	Critical Reading(2b)			1			1	(1)								
	Critical Reading(3a)			1			1	(1)								
	Critical Reading(3b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(1a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(1b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(2a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(2b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(3a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(3b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(1a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(1b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(2a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(2b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(3a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(3b)			1			1	(1)								
	Academic English(1a)			1			1	(1)								
	Academic English(1b)			1			1	(1)								
	Academic English(2a)			1			1	(1)								
	Academic English(2b)			1			1	(1)								
	Academic English(3a)			1			1	(1)								
	Academic English(3b)			1			1	(1)								
	英語科目 (教養)	Literature in English(1a)			1			1	(1)							
		Literature in English(1b)			1			1	(1)							
Literature in English(2a)				1			1	(1)								
Literature in English(2b)				1			1	(1)								
Global Culture(1a)				1			1	(1)								
Global Culture(1b)			1			1	(1)									

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考			
		①	②		1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
外国語科目	Critical Reading(2a)			1			1	(1)								
	Critical Reading(2b)			1			1	(1)								
	Critical Reading(3a)			1			1	(1)								
	Critical Reading(3b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(1a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(1b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(2a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(2b)			1			1	(1)								
	Critical Listening(3a)			1			1	(1)								
	Critical Listening(3b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(1a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(1b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(2a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(2b)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(3a)			1			1	(1)								
	Communication Strategies(3b)			1			1	(1)								
	Academic English(1a)			1			1	(1)								
	Academic English(1b)			1			1	(1)								
	Academic English(2a)			1			1	(1)								
	Academic English(2b)			1			1	(1)								
	Academic English(3a)			1			1	(1)								
	Academic English(3b)			1			1	(1)								
	英語科目 (教養)	Literature in English(1a)			1			1	(1)							
		Literature in English(1b)			1			1	(1)							
Literature in English(2a)				1			1	(1)								
Literature in English(2b)				1			1	(1)								
Global Culture(1a)				1			1	(1)								
Global Culture(1b)			1			1	(1)									

変更案

現行

①: 児童学コース ②: 人間総合科学コース ○印必修 △印選択必修

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考														
		①	②		1年		2年		3年		4年																
					前	後	前	後	前	後	前	後															
外国語科目	英語科目 (教養)	Global Culture(2a)			1			1	(1)																		
		Global Culture(2b)			1			1	(1)																		
		Language Sciences(1a)			1			1	(1)																		
		Language Sciences(1b)			1			1	(1)																		
		Language Sciences(2a)			1			1	(1)																		
		Language Sciences(2b)			1			1	(1)																		
		Global Society(1a)			1			1	(1)																		
		Global Society(1b)			1			1	(1)																		
		Global Society(2a)			1			1	(1)																		
		Global Society(2b)			1			1	(1)																		
	共通	海外・特別選抜セミナー			2	2	(2)																				
		外国語特別講義(a)			1			1	(1)																		
		外国語特別講義(b)			1			1	(1)																		
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1a)			1			1	(1)																		
		ドイツ語(1b)			1			1	(1)																		
		ドイツ語(2a)			1			1	(1)																		
		ドイツ語(2b)			1			1	(1)																		
		フランス語(1a)			1			1	(1)																		
		フランス語(1b)			1			1	(1)																		
		フランス語(2a)			1			1	(1)																		
		フランス語(2b)			1			1	(1)																		
		スペイン語(1a)			1			1	(1)																		
		スペイン語(1b)			1			1	(1)																		
		スペイン語(2a)			1			1	(1)																		
		スペイン語(2b)			1			1	(1)																		
イタリア語(1a)			1			1	(1)																				
イタリア語(1b)			1			1	(1)																				

○印必修

区分 科目群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備考													
		○	△		1年		2年		3年		4年															
					前	後	前	後	前	後	前	後														
外国語科目	英語科目 (教養)	Global Culture(2a)			1			1	(1)																	
		Global Culture(2b)			1			1	(1)																	
		Language Sciences(1a)			1			1	(1)																	
		Language Sciences(1b)			1			1	(1)																	
		Language Sciences(2a)			1			1	(1)																	
		Language Sciences(2b)			1			1	(1)																	
		Global Society(1a)			1			1	(1)																	
		Global Society(1b)			1			1	(1)																	
		Global Society(2a)			1			1	(1)																	
		Global Society(2b)			1			1	(1)																	
	共通	海外・特別選抜セミナー			2	2	(2)																			
		外国語特別講義(a)			1			1	(1)																	
		外国語特別講義(b)			1			1	(1)																	
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1a)			1			1	(1)																	
		ドイツ語(1b)			1			1	(1)																	
		ドイツ語(2a)			1			1	(1)																	
		ドイツ語(2b)			1			1	(1)																	
		フランス語(1a)			1			1	(1)																	
		フランス語(1b)			1			1	(1)																	
		フランス語(2a)			1			1	(1)																	
		フランス語(2b)			1			1	(1)																	
		スペイン語(1a)			1			1	(1)																	
		スペイン語(1b)			1			1	(1)																	
		スペイン語(2a)			1			1	(1)																	
		スペイン語(2b)			1			1	(1)																	
イタリア語(1a)			1			1	(1)																			
イタリア語(1b)			1			1	(1)																			

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備 考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
外国語科目	イタリア語(2a)			1			1	(1)							
	イタリア語(2b)			1			1	(1)							
	中国語(1a)			1			1	(1)							
	中国語(1b)			1			1	(1)							
	中国語(2a)			1			1	(1)							
	中国語(2b)			1			1	(1)							
	アラビア語(1a)			1			1	(1)							
	アラビア語(1b)			1			1	(1)							
	アラビア語(2a)			1			1	(1)							
	アラビア語(2b)			1			1	(1)							
	韓国語(1a)			1			1	(1)							
	韓国語(1b)			1			1	(1)							
	韓国語(2a)			1			1	(1)							
	韓国語(2b)			1			1	(1)							
	日本語表現(a)			1			1	(1)							
日本語表現(b)			1			1	(1)								
体育科目	人間と健康	○	○	2	2										
	基礎体育(1a)	○	△	0.5	1										必修変更
	基礎体育(1b)	○	△	0.5	1										必修変更
	基礎体育(2a)	○	△	0.5	1										必修変更
	基礎体育(2b)	○	△	0.5	1										必修変更
専門科目	保育原理	○	○	2	2										
	教育原理	○		2		2									必修変更
	教育社会学	○		2		2									必修変更
	子ども家庭福祉	○	○	2	2										
	社会福祉		○	2			2								必修変更
	社会的養護(1)			2			2								

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備 考		
		①	②		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
外国語科目	イタリア語(2a)			1			1	(1)							
	イタリア語(2b)			1			1	(1)							
	中国語(1a)			1			1	(1)							
	中国語(1b)			1			1	(1)							
	中国語(2a)			1			1	(1)							
	中国語(2b)			1			1	(1)							
	アラビア語(1a)			1			1	(1)							
	アラビア語(1b)			1			1	(1)							
	アラビア語(2a)			1			1	(1)							
	アラビア語(2b)			1			1	(1)							
	韓国語(1a)			1			1	(1)							
	韓国語(1b)			1			1	(1)							
	韓国語(2a)			1			1	(1)							
	韓国語(2b)			1			1	(1)							
	日本語表現(a)			1			1	(1)							
日本語表現(b)			1			1	(1)								
体育科目	人間と健康	○		2	2										
	基礎体育(1a)	○		0.5	1										必修変更
	基礎体育(1b)	○		0.5	1										必修変更
	基礎体育(2a)	○		0.5	1										必修変更
	基礎体育(2b)	○		0.5	1										必修変更
PBL科目	SD PBL(2)	○		1			2	(2)							区分変更
	SD PBL(3)	○		1						2					区分変更
専門科目	保育原理	○		2	2										
	教育原理	○		2		2									必修変更
	教育社会学			2		2									必修変更
	子ども家庭福祉	○		2	2										
	社会福祉			2			2								必修変更
	社会的養護(1)			2			2								

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考	
		①	②		1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	保育者論	○		2							2			必選変更
	発達心理学	○	○	2		2								名称変更
	教育心理学	○		2				2						必選変更
	子ども家庭支援の心理学	○		2		2								必選変更
	子どもの保健と健康		○	2		2								必選変更
	子どもの安全と健康			1				2						
	子どもの食と栄養		○	2		2								必選変更
	公衆衛生学		○	2							2			必選変更
	子ども家庭支援論			2		2								
	保育の計画と評価			2				2						
	カリキュラム論			2							2			
	保育内容総論		○	2		2								必選変更
	保育内容健康指導法			2							2			
	保育内容人間関係指導法			2		2								
	保育内容環境指導法			2						2				
	保育内容言葉指導法			2				2						
	保育内容表現指導法			2				2						
	乳児保育(1)			2		2								
	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援		○	2				2						必選変更
	社会的養護(2)			1								1		
	子育て支援		○	2							2			必選変更
	保育内容の理解と方法(音楽表現)			1				2						
	音楽実技入門			2		2								
	音楽実技(1)			2		2								
	保育内容の理解と方法(造形表現)			1				2						
	造形			2				2						
保育内容の理解と方法(身体表現)			1				2							
保育内容の理解と方法(言語表現)			1		2									

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考	
		①	②		1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	保育者論			2								2		必選変更
	発達心理学(1)	○		2		2								名称変更
	教育心理学			2					2					必選変更
	子ども家庭支援の心理学			2				2						必選変更
	子どもの保健と健康			2				2						必選変更
	子どもの安全と健康			1						2				
	子どもの食と栄養			2		2								必選変更
	公衆衛生学			2								2		必選変更
	子ども家庭支援論			2				2						
	保育の計画と評価			2						2				
	カリキュラム論			2								2		
	保育内容総論			2						2				必選変更
	保育内容健康指導法			2								2		
	保育内容人間関係指導法			2						2				
	保育内容環境指導法			2								2		
	保育内容言葉指導法			2							2			
	保育内容表現指導法			2							2			
	乳児保育(1)			2		2								
	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援			2						2				必選変更
	社会的養護(2)			1									1	
子育て支援			2								2		必選変更	
保育内容の理解と方法(音楽表現)			1						2					
音楽実技入門			2		2									
音楽実技(1)			2		2									
保育内容の理解と方法(造形表現)			1						2					
造形			2							2				
保育内容の理解と方法(身体表現)			1							2				
保育内容の理解と方法(言語表現)			1		2									

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース ○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備 考	
		①	②		1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	保育実習(1)(保育所・施設)			4					4					
	保育実習指導(1)(保育所)			1					2					
	保育実習指導(1)(施設)			1					2					
	保育実習(2)(保育所)			2							2			
	保育実習指導(2)(保育所)			1							2			
	保育実習(3)(施設)			2							2			
	保育実習指導(3)(施設)			1							2			
	保育・教職実践演習(幼稚園)			2								2		
	心理研究法		○	2					2					名称・必修・学年変更
	臨床心理学			2							2			
	乳児保育(2)			2					2					
	音楽実技(2)			2				2						
	児童文化			2	2									
	子どもと昔話			2							2			
	手話			2	2									
	子どもと人間関係			2	2									
	子どもと言葉			2			2							
	教育学概論		○	2		2								必修変更
	子どもの造形表現指導法			2						2				
	子どもの身体表現指導法			2						2				
	子どもの音楽表現指導法			2						2				
	幼児教育方法論			2						2				
	子ども理解の理論と方法		○	2						2				必修変更
	教育相談			2						2				
	幼稚園教育実習(1)			2				2						
	幼稚園教育実習(2)			2						2				
幼稚園教育実習指導(1)			1				2							
幼稚園教育実習指導(2)			1							1				

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必修の別		単 位 数	週時間数								備 考	
		①	②		1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	保育実習(1)(保育所・施設)			4					4					
	保育実習指導(1)(保育所)			1					2					
	保育実習指導(1)(施設)			1					2					
	保育実習(2)(保育所)			2							2			
	保育実習指導(2)(保育所)			1							2			
	保育実習(3)(施設)			2							2			
	保育実習指導(3)(施設)			1							2			
	保育・教職実践演習(幼稚園)			2								2		
	発達心理学(2)			2				2						名称・必修・学年変更
	臨床心理学			2							2			
	乳児保育(2)			2					2					
	音楽実技(2)			2					2					
	児童文化			2	2									
	子どもと昔話			2							2			
	手話			2	2									
	子どもと人間関係			2	2									
	子どもと言葉			2			2							
	教育学概論			2		2								必修変更
	子どもの造形表現指導法			2						2				
	子どもの身体表現指導法			2						2				
子どもの音楽表現指導法			2						2					
幼児教育方法論			2						2					
子ども理解の理論と方法			2							2			必修変更	
教育相談			2						2					
幼稚園教育実習(1)			2				2							
幼稚園教育実習(2)			2						2					
幼稚園教育実習指導(1)			1				2							
幼稚園教育実習指導(2)			1							1				

変更案

現行

①:児童学コース ②:人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考														
		①	②		1年		2年		3年		4年																
					前	後	前	後	前	後	前	後															
専 門 科 目	インターンシップ(1)			1																							
	インターンシップ(2)			1																							
	子どもと環境			2	2																						
	海外研修(1)			2																							
	海外研修(2)			2																							
	海外研修(3)			1																							
	子育て支援演習			2			1	1	1	1	1	1	1	1													
	食農文化と子育て(1)			2			2																				
	食農文化と子育て(2)			2			2																				
	教育学		○		2								2														必選変更
	学習科学概論		○		2								2														必選変更
	生涯発達心理学(1)		○		1								2														必選変更
	生涯発達心理学(2)		○		1								2														必選変更
	理工学と生活				2		2																				
	生理学(1)				2			2																			
	生理学(2)				2			2																			
	解剖・外科学				2				2																		
	臨床医学総論				2									2													
	基礎医学総論				2									2													
	医用工学リテラシー				2	2																					
	医用機器				2								2														
	医用安全工学				2								2														
	音響工学				2								2														
	人間科学入門		○	○	2	2																					名称変更
	SD PBL(1)		○	○	1	2																					名称・単位数変更
	SD PBL(2)		○	○	1			2	(2)																		区分変更
SD PBL(3)		○	○	1								2														区分変更	

○印必修

区 分 科 目 群	授業科目	必選 の別		単 位 数	週時間数								備 考														
		①	②		1年		2年		3年		4年																
					前	後	前	後	前	後	前	後															
専 門 科 目	インターンシップ(1)			1																							
	インターンシップ(2)			1																							
	子どもと環境			2	2																						
	海外研修(1)			2																							
	海外研修(2)			2																							
	海外研修(3)			1																							
	子育て支援演習			2			1	1	1	1	1	1	1	1													
	食農文化と子育て(1)			2			2																				
	食農文化と子育て(2)			2			2																				
	教育学				2														2								必選変更
	学習科学概論				2														2								必選変更
	生涯発達心理学(1)				1														2								必選変更
	生涯発達心理学(2)				1														2								必選変更
	理工学と生活				2		2																				
	生理学(1)				2			2																			
	生理学(2)				2			2																			
解剖・外科学				2				2										2									
臨床医学総論				2																							
基礎医学総論				2																							
医用工学リテラシー				2	2																						
医用機器				2																							
医用安全工学				2																							
音響工学				2																							
児童学入門		○		2	2																					名称変更	
基礎ゼミ		○		2	2																					名称・単位数変更	

変更案

現行

①: 児童学コース ②: 人間総合科学コース

○印必修 △印選択必修

区分 科目群	授業科目	必修 の別		単 位 数	週時間数								備考	
		①	②		1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	特別研究(1)	○	○	2							2	(2)		新設
	特別研究(2)	○	○	2							2	(2)		名称・単位数・開講期変更
	卒業研究(1)	○	○	3							6	(6)		新設
	卒業研究(2)	○	○	3							(6)	(6)		名称・単位数・開講期変更

○印必修

区分 科目群	授業科目	必修 の別		単 位 数	週時間数								備考	
					1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目														
	特別研究	○		4							2	2		名称・単位数・開講期変更
	卒業研究	○		6										名称・単位数・開講期変更

①: 児童学コース

卒業要件	124単位 以下を含むこと	
	教養科目	右記を含むこと ○必修 2単位
	外国語科目	20単位 右記を含むこと ○必修 4単位及び選択 4単位
	体育科目	右記を含むこと ○必修 4単位
	専門科目	90単位 右記を含むこと ○必修39単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位 右記を含むこと ※DS 1単位

卒業要件	124単位 以下を含むこと	
	教養科目	右記を含むこと ○必修 2単位
	外国語科目	20単位 右記を含むこと ○必修 4単位及び選択 4単位
	体育科目	右記を含むこと ○必修 4単位
	PBL科目	2単位 右記を含むこと ○必修 2単位
	専門科目	90単位 右記を含むこと ○必修22単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位 右記を含むこと ※DS 1単位

②: 人間総合科学コース

卒業要件	124単位 以下を含むこと	
	教養科目	右記を含むこと ○必修 4単位
	外国語科目	20単位 右記を含むこと ○必修 4単位及び選択 4単位
	体育科目	右記を含むこと ○必修 2単位及び△選択必修 1単位
	専門科目	90単位 右記を含むこと ○必修39単位
	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位 右記を含むこと ※DS 1単位

変更案

別表2 教育職員免許状を取得するための教科及び教職に関する科目

2-3 人間科学部 教育課程表 [教職]

2-3① 人間科学部 教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法

(人間科学科) 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科 で取得し得る教育 職員免許状の種類	科目区分		授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考	
						1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
幼稚園教諭 一種免許状	に 教 育 の 基 礎 的 理 解	①-4	発達心理学	○	2		2								名称変更

2-3② 人間科学部 領域に関する専門的事項 (人間科学科) 教育課程表 (表略)

2-3③ 人間科学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (人間科学科)

教育課程表 (表略)

別表3 入学検定料, 入学金及び授業料 (学則第46条)

科目	学部	金額	備考
入学検定料	全学部	35,000円	大学入学共通テストの成績のみを利用する場合は, 18,000円
入学金	全学部	200,000円	
授業料	理工学部 建築都市デザイン学部 情報工学部	1,476,000円	
	環境学部 メディア情報学部 デザイン・データ科学部	1,290,000円	
	都市生活学部	1,194,000円	
	人間科学部	1,176,000円	

現行

別表2 教育職員免許状を取得するための教科及び教職に関する科目

2-3 人間科学部 教育課程表 [教職]

2-3① 人間科学部 教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法

(児童学科) 教育課程表

○印必修 △印選択必修

学則第4条の学科 で取得し得る教育 職員免許状の種類	科目区分		授業科目	必 選 の 別	単 位 数	週時間数								備考	
						1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
幼稚園教諭 一種免許状	に 教 育 の 基 礎 的 理 解	①-4	発達心理学(1)	○	2		2								名称変更

2-3② 人間科学部 領域に関する専門的事項 (児童学科) 教育課程表 (表略)

2-3③ 人間科学部 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (児童学科)

教育課程表 (表略)

別表3 入学検定料, 入学金及び授業料 (学則第46条)

科目	学部	金額	備考
入学検定料	全学部	35,000円	大学入学共通テストの成績のみを利用する場合は, 18,000円
入学金	全学部	200,000円	
授業料	理工学部 建築都市デザイン学部 情報工学部	1,476,000円	
	環境学部 メディア情報学部	1,290,000円	
	都市生活学部	1,194,000円	
	人間科学部	1,176,000円	

変更案

現行

別表6 人材の養成及び教育研究上の目的（学則第4条の2）

別表6 人材の養成及び教育研究上の目的（学則第4条の2）

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
理工学部		(略)
	機械工学科	(略)
	機械システム工学科	(略)
	電気電子通信工学科	(略)
	医用工学科	(略)
	応用化学科	(略)
	原子力安全工学科	(略)
	自然科学科	(略)
建築都市デザイン学部		(略)
	建築学科	(略)
	都市工学科	(略)
情報工学部		(略)
	情報科学科	(略)
	知能情報工学科	(略)
環境学部		(略)
	環境創生学科	(略)
	環境経営システム学科	(略)
メディア情報学部		(略)
	社会メディア学科	(略)
	情報システム学科	(略)
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科	定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。
都市生活学部	都市生活学科	(略)
人間科学部	人間科学科	(略)

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
理工学部		(略)
	機械工学科	(略)
	機械システム工学科	(略)
	電気電子通信工学科	(略)
	医用工学科	(略)
	応用化学科	(略)
	原子力安全工学科	(略)
	自然科学科	(略)
建築都市デザイン学部		(略)
	建築学科	(略)
	都市工学科	(略)
情報工学部		(略)
	情報科学科	(略)
	知能情報工学科	(略)
環境学部		(略)
	環境創生学科	(略)
	環境経営システム学科	(略)
メディア情報学部		(略)
	社会メディア学科	(略)
	情報システム学科	(略)
都市生活学部	都市生活学科	(略)
人間科学部	児童学科	(略)

## ○東京都市大学デザイン・データ科学部教授会規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、東京都市大学学則第13条第6項の規定に基づき、デザイン・データ科学部教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営に関する事項を定めるものとする。

### (構成)

第2条 教授会は、教授をもって構成する。

2 教授会は、准教授及び講師（任期付を含める）を加えることができる。

3 教授会は、東京都市大学教育職員特別任用規程第12条第1号ただし書きに基づき、同規程第1条に定める特任者を加えることができる。

### (定例会)

第3条 教授会は、原則として月1回開催する。

### (臨時会)

第4条 学部長が必要と認めたとき、又は教授会の構成員（以下「構成員」という。）の3分の1以上の請求があったときは、臨時教授会を招集する。

### (議長)

第5条 学部長は、教授会を招集し、議長となる。

2 学部長に事故あるときは、あらかじめ学部長の指名した者がその任に当たる。

### (審議事項)

第6条 教授会は、東京都市大学学則第13条第3項及び第4項に定める事項以外に、学長の求めに応じ、デザイン・データ科学部に關わる次の事項を審議する。

(1) 教育課程の編成及び授業に関すること。

(2) 教授、准教授及び講師（任期付を含める）の資格認定に関すること。

(3) その他、学長又は学部長が必要と認めること。

### (議案の提出)

第7条 教授会への議案の提出は、学部長が行う。

2 教授会の議題は、あらかじめこれを構成員に連絡する。ただし、緊急やむを得ない場合は、この限りでない。

### (会議)

第8条 会議は、構成員の過半数の出席によって成立する。

2 教授会の議事は、出席者の過半数によって定める。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(利害関係人の会議出席)

第9条 構成員は、特別の利害関係のある議事に加わることはできない。

(幹事)

第10条 教授会に、幹事を置く。

2 幹事は、事務局が当たり、教授会の事務を処理する。

(構成員以外の出席)

第11条 議長は、必要と認めたときは構成員以外の教職員の出席を求め、又は学外関係者を招致することができる。

(合同教授会)

第12条 横浜キャンパスに所在する他の学部と合同で審議することが適当な事項を扱うために、合同教授会を置く。

2 合同教授会の運営規程は、別に定める。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学部長が行う。

2 前条の改廃については、前項の規定にかかわらず、大学協議会の議を経て、横浜キャンパスに所在する学部の長が協議の上で行う。

付 則 (令和4年4月18日)

1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

2 デザイン・データ科学部の設置にあたり必要な教授会は、この規程の施行日前においても開催することができる。

## 設置の趣旨等を記載した書類

### 目次

1.	設置の趣旨及び必要性	・・・ p.	2
2.	学部・学科の特色	・・・ p.	6
3.	学部・学科の名称及び学位の名称	・・・ p.	7
4.	教育課程の編成の考え方及び特色	・・・ p.	8
5.	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	・・・ p.	11
6.	編入学定員を設定する場合の具体的計画	・・・ p.	16
7.	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外 実習を実施する場合の具体的計画	・・・ p.	17
8.	入学者選抜の概要	・・・ p.	19
9.	教員組織の編制の考え方及び特色	・・・ p.	23
10.	施設、設備等の整備計画	・・・ p.	25
11.	管理運営	・・・ p.	29
12.	自己点検・評価	・・・ p.	30
13.	情報の公表	・・・ p.	32
14.	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・ p.	34
15.	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・ p.	37

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) 建学の精神と理念

本学の創立に至るまでの経緯は、極めて独特であった。前身校である武蔵高等工科学校は昭和4年に創立されたが、その創設計画に奔走したのは多くの生徒達であり、彼らの思いや行動に感銘を受けた創立者らによって、本学は誕生した。それは、今から約90年前のことであった。それ以来、本学は「公正・自由・自治」を建学の精神とし、時代の要請に応じた実務型人材の養成を第一の目標に掲げ、一貫して堅実な高等教育を継続してきた。

昭和24年、学校教育法が制定されたのを機に、本学は新制の4年制大学となった。当時からしばらくは機械工学科、電気工学科（第1分科：電力関係、第2分科：通信関係）、建設工学科（第1分科：建築工学、第2分科：土木工学）の3学科を主体とした工学教育に専念していたが、その後、時代の流れとともに平成8年まで70年近くにわたり工業系単科大学として産業界に多くの人材を輩出し歴史を重ねてきた。

その後、平成9年には、教育の多様化、情報の高度化など社会のニーズにより第二学部として社会科学系文理融合型の環境情報学部（平成25年に環境学部とメディア情報学部を改組）を横浜市に開設し、複数の学部を有する大学となり、また、平成19年には高度情報化社会のなかで情報関連の総合的な問題解決を意図した教育を行うため、第三学部として知識工学部（令和2年度より情報工学部に名称変更）を設置するに至っている。更に平成21年には昨今の社会情勢を踏まえ、同一法人内の東横学園女子短期大学を発展的に統合し、新たな学部（都市生活学部、人間科学部）を設置するとともに、大学名称を武蔵工業大学から東京都市大学に変更した。本学は、新しい時代と社会の要請に応えるために、これまでの工業系単科大学から複数の学部を有する大学へと大きく進化してきた結果、現在では7学部17学科、大学院2研究科8専攻を擁する専門性の高い総合大学となった。

建学の精神「公正・自由・自治」を活かしながら新たな発展を目指し、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を本学の理念としている。「持続可能な社会発展」とは、環境を損なうことなく社会を発展させることである。ここでの環境とは、単に、自然環境、地球環境という狭義の意味ではなく、社会的な環境も含んだ広義の環境である。例えば、経済の悪化による失業者増加や、山間の過疎地などでの高齢化による村落消失の危機などは、持続可能な発展を妨げるものである。この地球を多角的、総合的に見ながら、持続的な発展へと導くことが、新しい本学の役割・使命となる。そして、そのための人材育成と学術研究の推進が、本学の目的である。

### (2) 設置する理由・必要性

本学では、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を大学の理念として掲げており、「地球を多角的、総合的に見ながら、持続的な発展へと導くこと」が、本学の役割・使命となり、そのための人材育成と学術研究の推進が本学の目的である。

社会は急速にグローバル化が進展している。また、世界が抱える課題は、今後ますます高度化、複雑化し続けるであろう。世界が大きく変化する一方で、AI、ビッグデータ、Internet of Things (IoT) といった社会の在り方に影響を及ぼす技術革新が加速度的に進んでいる。これに対応するべく、本学では他大学に先駆けて、全学における数理・データサイエンス教育の推進及び充実を進めた結果、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を令和3年8月4日に受けた。たとえ社会がどのように変わろうとも、時代の変化に即応しながら進化し続け、優れた実践力、専門力、そして国際性という揺るぎない価値を備えた学生を育成し社会へ送り出すことで、微力ながら本学における改革を以て貢献できるものと考えている。これらの改革の一環として、デジタル人材の不足という日本の将来に向けた大きな不安の解消に向けた貢献の1つとして、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科を新設する。

中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）に記載されているように、AI、ビッグデータ、IoT等の先端技術の高度化に伴い、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、誰もが活躍でき、様々な社会課題を解決できるSociety 5.0（超スマート社会）の実現に向けた取組が加速している中で、その実現に寄与できるデジタル人材の重要性が高まっている。このような人材を育成するためには、従来の工学的要素技術の教育・研究だけでは不十分であり、社会科学やグローバルなリテラシーや教養も含めた多面的で多様な知識を必要に応じて取捨選択しながら活用できる能力が必要になってきている。

このような社会情勢を念頭に置き、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、既成パラダイムから脱し、新たな体験をプロダクトやメディア、空間といった「もの」のデザイン、あるいは新たなサービスや、社会経済システム、ビジネスモデルといった「こと」のデザインによって、新たなイノベーションを起こしていく人材の養成を目指す。これを実現するには、数理・定量データのみならず、社会調査手法等を通じて得られる定性データも含め、最適解にたどりつくデータ科学の知識と技術を修得する必要がある。その上で、実社会における社会課題を対象に、新しい「もの」と「こと」をデザインする知識と技術について、理論的な背景や思考の枠組みを体系的に理解した上で、プロジェクトワーク等を通じて、実践的な能力を修得させることで、新しい体験や社会を創出できる人材として活躍できる人材を育成する。以上のような社会的要請に応えるために、本学部本学科を新設させることとした。

### (3) 養成する人材及び卒業認定・学位授与の方針

本学では、教育理念として「ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる」ことを掲げている。また、教育目標として「公正・誠実さと自己研鑽力をもち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する」ことを掲げている。これを受けて、本学では、卒業認定・

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を以下のように定めている。

東京都市大学は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を修得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。

（自ら学ぶ力）

1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。

（課題を探究する力）

2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。

（ボーダーを超える力）

3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。

（協働する力）

4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。

（実践する力）

5. 人類文化と社会を理解し、基礎的および専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、「定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成」を人材の養成及び教育研究上の目的とする。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）は、以下の通りとする。

所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（学術）の学位を与える。

1. 定量・定性データ分析のデータ科学技術と批判的思考力・論理的思考力を基盤として、実社会に役立つ「もの」「こと」双方のデザインに関する専門性を修得している。

2. データ科学とデザイン技術に関して修得した知識、技術によって、人と社会のあらゆる現象の課題とそのメカニズムを読み解き、新たな「もの」「こと」のデザインによる課題解決のための構想力と創造力を修得している。

3. グローバルに活躍できる言語的リテラシーと国際的感覚を修得している。

なお、卒業認定・学位授与に関する方針と養成する人材像や教育課程編成・実施の方針との相関は、資料1に示すとおりである。

#### (4) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の人材養成の目的を達成するため、組織として研究対象とする中心的な学問分野は、データ科学、ユーザーエクスペリエンスデザイン、ソーシャルシステムデザインの3分野とする。共通分野として、グローバル教養がある。

「データ科学」では、数学と情報工学を基盤として、数値や各種データの源泉である社会システムや人間システムに関する分野も含まれる。特に、定量的な数値データを扱うための数理統計学の分野や、言語データなど定性的なデータを加工や変換するための情報処理の分野が中心的な分野である。

「ユーザーエクスペリエンスデザイン」では、デザイン工学や感性工学を基盤として、製品のデザインを進めるためのデザイン思考や、実際の製品を試作するための3次元設計製造技術の分野も含まれる。特に、ユーザーにとって使いやすい製品やシステムの機能設計するためのユーザーインターフェース設計の分野や、人々の心地よく活動できるための空間デザインや感性デザインの分野が中心的な分野である。

「ソーシャルシステムデザイン」では、経営科学や社会工学を基盤として、企業経営システムや社会経済システムに関する経済学や経営学の分野も含まれる。特に、製造やサービスの現場の生産性向上を目指した運営管理に関する経営工学や、Society 5.0などのコンセプトにも含まれるデジタル社会の設計なども目指したサービス工学が中心的な分野である。

これらの分野において、専任教員が中心となって、それぞれの専門分野の教育・研究を行う。

#### (5) 教育研究上の具体的な到達目標等

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、以下の項目について学生が修得することを、教育研究上の到達目標とする。

1. あらゆるデータの利活用と、人と社会に役立つ「もの」「こと」のデザインを志向し、それを実現できる深い専門的知識・能力を修得すること。
2. 修得した知識と技術を活用し、国籍、文化、専門等が異なる人々とのコミュニケーションによる主体的協働作業を志向し、それを実現するためにコミュニケーション能力を高め、相互理解し、説明責任を果たすためのプレゼンテーション能力を修得すること。
3. 数学・社会科学に対して興味と探究心を持ち、これを元にした思考力を合わせ持ち、実社会での課題を探究する問題発見・解決能力、及び、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得し、デザイン能力を含む総合的な課題解決能力を修得すること。
4. 修学に必要な英語力を有し、海外留学で幅広い教養を修得するコミュニケーション力向上に努力を惜しまず、地球的視点に立ち、社会の動向を理解し、幅広い教養力を修得すること。

## 2. 学部・学科の特色

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科は、社会科学と数理情報工学を基礎として、急速に発展している高度なデジタル社会をフィールドとし、これから変化し続ける社会の仕組みや、人間が豊かに暮らすための「もの」「こと」を構想・設計・構築するための学問を教育・研究対象としている。本学部本学科の名称にある「デザイン」を重要なキーワードとして、数学や情報工学に基づくデータ科学を、社会と人の暮らしに役立つシステムのデザインに活かすための知識と手法を実践的に学ぶことを目指している。そして、地球的な視野と多面的な視野から分析し、持続的な人と社会のシステムを構想・設計・構築できる人材の育成を行う。

なお、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）に記載されているように、AI、ビッグデータ、IoT等の先端技術の高度化に伴い、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、誰もが活躍でき、様々な社会課題を解決できる Society 5.0（超スマート社会）の実現に向けた取組が加速している中で、その実現に寄与できるデジタル人材の重要性が高まっている。このような人材を育成するためには、従来の工学的要素技術の教育・研究だけでは不十分であり、社会科学やグローバルなリテラシーや教養も含めた多面的で多様な知識を必要に応じて取捨選択しながら活用できる能力が必要になってきている。そのような能力を有する人材を育成し、社会に貢献し得る人材を輩出したいと考えている。

本学部では、データ科学の分野だけでなく、人々の便利で豊かな暮らしに必要な「もの」を作り出すためのユーザーエクスペリエンスデザインの分野と、付加価値と生産性の高い企業や社会の仕組みを作りだすためのソーシャルシステムデザインの分野を加えた3分野を学び、データ科学に関する確かなスキルと、「もの」「こと」に関する構想・設計・構築できる高度な専門知識と技術の修得を企図したカリキュラムを構成している。さらに、学科での学びの総仕上げであるキャップストーンプロジェクトによって、4年間における多彩な学びを有機的に活用するための実践教育を実施する。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）で提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、本学部では、主に「3. 幅広い職業人養成」、「4. 総合的教養教育」、「7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」等の機能に重点を置く。具体的には、地球的視点に立ち、社会の動向を理解し、幅広い教養力を修得することを目指していることから『総合的教養教育』に重点を置く。また、キャップストーンプロジェクトや COOP プログラムなどの実践的な『地域貢献、産学官連携』に基づく取り組みを行うこと、さらには、数学と情報工学を基盤とするデータサイエンスに代表されるデータ科学、デザイン工学や感性工学を基盤とするユーザーエクスペリエンスデザイン、経営科学や社会工学を基盤とするソーシャルシステムデザインを修得することで、様々な業種で役立つ即戦力型の『職業人養成』を目指している。

### 3. 学部・学科の名称及び学位の名称

#### (1) 学部・学科の名称

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科は、「定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成」を人材の養成及び教育研究上の目的としている。

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科は、「データ科学」の知識と技術に基づき、新たな「もの」と「こと」を「デザイン」することを中心課題としているため、この名称を選定した。特に、「データ科学」は、データサイエンスに関連する教育研究分野を普遍的に表現したものである。

国際的通用性を踏まえたうえで、デザイン・データ科学部の英訳名称は、「Faculty of Design and Data Science」とする。また、デザイン・データ科学科の英訳名称は、「Department of Design and Data Science」とする。

#### (2) 学位の名称

中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）を踏まえ、Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会に必要なとされる人材は、予測不可能な時代を生きぬくことができる人材であり、その人材像は、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていくことができ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材であると考えられる。

このような人材を養成するためには、従来の工学的要素技術の教育・研究だけでは不十分であり、社会科学やグローバルなリテラシーと教養も含めた多面的で多様な知識を必要に応じて取捨選択しながら活用できる能力が必要である。

これらの社会の要請に応じて編成した教育課程を踏まえ、本学部が授与する学位は、「学士（学術）」とする。また、学位の英訳名称は、国際的通用性を踏まえたうえで、「Bachelor of Arts and Sciences」とする。

#### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学の教育課程は、前述の「教育理念」を実現すべく、下記の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）のもとに編成している。

東京都市大学は、卒業認定・学位授与に関する方針を達成するために、以下のように教育課程を編成・実施します。

1. 「大学における学び方」を理解するため自校教育を含む初年次教育を実施する科目を配当するとともに、教育課程を通じて主体的・自律的な学習教育を実践する。
2. 学生が自らの知力と人間力を総合し、多様な知識・スキルを持った人々と協働して、複合的課題の設定とその解決にグローバルかつ未来志向の視点で取り組むための科目を配当する。
3. 実践的な英語スキルを含むコミュニケーション力およびチームワーク力を身につける科目を配当する。
4. 建学の精神「公正・自由・自治」を理解するとともに、専門に関わる倫理を理解・実践する力を含む人間力を身につける科目を配当する。
5. 多様な教養科目と、専門の基礎から応用までの知識とスキルを身につける科目を配当する。

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の教育課程は、前述の「教育研究上の理念及び目的」を実現すべく、下記の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）のもとに編成した。

1. 幅広い教養を基盤とする複眼的・多角的な視野と、あらゆるデータの分析技術と論理的思考力に裏付けられた批判的思考力、そして人と社会に役立つ新しい「もの」「こと」をデザイン（構想・設計・構築）できる実践的な専門力を総合的に修得し、課題解決と新しい価値をデザインできる人材として国際的に活躍できるように、「教養科目」「外国語科目」を教育の基盤として学び、さらに、「専門基礎科目」「専門応用科目」によって専門力、応用力を修得できるよう、海外留学を含めて体系的に授業を配置する。
2. 社会環境を考慮しながら教育目標を実現するために、「専門基礎科目」と「専門応用科目」においては、データ分析技術と論理的思考力を学ぶ「データ科学」科目群と、社会課題を解決する新たな体験を創造するための「もの」を中心に実践的に構想・設計・構築するための専門力を学ぶ「ユーザーエクスペリエンスデザイン」科目群、さらに、社会課題を解決する新しい社会像とそれを実現する新たな仕組みや組織や事業体のあり方を実践的に構想・設計・構築するための専門力を学ぶ「ソーシャルシステムデザイン」科目群を配置し、演習中心の学習を提供する。

3. データ科学とデザインの技術に関するより高度な専門性を有し、人と社会の発展に貢献できる実践的な人材の育成に向け、学生同士および学生と教員が相互に連携しながら、人と社会が抱える実際の課題の分析とその課題解決のデザインに取り組む「キャップストーンプロジェクト」や「COOP プログラム」を配置する。

なお、教育課程編成・実施の方針と養成する人材像や卒業認定・学位授与に関する方針との相関は、資料1のとおりである。また、教育課程と卒業認定・学位授与に関する方針との関係性を示すカリキュラムマップは、資料2のとおりである。

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の教育課程の科目区分は、「教養科目」、「外国語科目」、「専門基礎科目」、「専門応用科目」で構成する。このうち、「教養科目」、「外国語科目」は従来、教養課程と称されていた、いわゆるリベラルアーツに関わる科目群であるが、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、グローバルに活躍するための幅広く、かつ最新の知識を国際感覚に基づきながら学ぶための「グローバル教養系」の科目群を設置している。これは、国際的な諸問題に対処できる幅広い教養を育むことを想定し、中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成14年2月）によれば教養教育に関して「新たに構築される教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるものでなければならない。」とあり、数学や情報工学に基づくデータ科学を価値ある形で、人と社会に役立たせることができるための基本として、「グローバル教養系」の科目群を設置している。

専門基礎科目及び専門応用科目では、「データ科学」、「ユーザーエクスペリエンスデザイン」、「ソーシャルシステムデザイン」、「その他」の科目群に分けて設置している。この学部の基盤となる「データ科学」の科目群において、定量的データだけでなく定性的なデータも扱えるデータサイエンスにおける専門的な分析能力を習得できる教育課程を編成している。さらに、社会や人間に役立つ「もの」「こと」を作り出せる実践的な能力を身に付けるために「ユーザーエクスペリエンスデザイン」と「ソーシャルシステムデザイン」の科目群で、演習を重視した教育課程を編成している。また、この学科教育の総仕上げとしてのキャップストーンプロジェクトの授業と、実践力のより客観的に確認できる企業と連携して取り組むCOOPプログラムを用意している。専門基礎科目においては、32科目61単位を配置し、専門応用科目は、25科目54単位を配置している。

授業の配当年次は、基礎から応用へと体系的な学修が可能になるように配慮するとともに、特定の学年や学期に偏ることのない履修ができるように配当している。さらに、学生の学びたい意欲や得意分野をさらに伸ばすことを重視し、学生の学びを制約することにもなる必修科目を減らすことで、より学生個人の前向きな学びを実現できる教育課程を編成している。

各授業科目の単位数は、大学設置基準第21条第2項を踏まえ、本学学則第18条第2項に基づき、講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定め

る授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。また、実験及び実習は、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、45時間の授業をもって1単位とする。

## 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の授業科目は、授業形態を講義、演習、実験、実習またはこれらの併用で実施する。デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、学習効果を高めるために、外国語科目での必修科目「English I-A, I-B, II-A, II-B, III-A, III-B」は、1学年を概ね4分割（100名÷4=約25名）して、少人数教育を行う。

1年次では、自然科学や人文社会科学等からなる教養科目や外国語科目が中心に配当されているが、専門基礎科目のうち「データサイエンス概論」、「ユーザーエクスペリエンスデザイン入門」、「ソーシャルシステムデザイン入門」等が配当されている。これらは、教養科目、外国語科目から得られる総合的実践的な教養を修得するだけでなく、専門基礎科目の一部を学び始めることで、2年次、3年次の効果的な学修へとつなげる横断的な学修効果の実現を目指したものである。また、実践的で演習的な要素も含む「コンピュータ基礎演習」「SD PBL(1)」等の授業科目は、受講学生を少人数のグループに分けた教育も行う。

2年次から3年次にかけて、学生は各自が自身の希望や特性に応じて、「データ科学」、「ユーザーエクスペリエンスデザイン」、「ソーシャルシステムデザイン」の科目群から、中心を定めて専門基礎科目及び専門応用科目を履修することになる。中心的な科目群を定めたとしても、他の科目群の授業も受講することで、総合的な実践能力や多面的な問題発見能力と問題解決能力の修得を目指す。その実現のために、実習や演習をより多く含めた授業内容にしていく。また、最も基礎となる「データ科学」の科目群においては、選択必修科目を設定し、確実なデータ分析と情報工学の実力の修得を目指す。それ以外の科目群においては、必修科目を多くせず、学生個人の希望と適性に合わせた学修をしてもらうことを指向している。また、教養科目の中でも特に科目群「グローバル教養」科目群は、2年次または3年次に履修することで、より高度な教養教育につなげていく。

4年次においては、2年次、3年次の学びにも基づき、より補完したい科目を受講したりしながら、総仕上げとなる実践的な授業である「COOPプログラム」や「キャップストーンプロジェクト」を履修する。「キャップストーンプロジェクト」では、いわゆる固定的な研究室配属はせず、短期集中型のプロジェクト研究を、複数の教員、複数の学生と連携しながら学修を進めることで、焦点を限定した専門性を磨くのではなく、より多面的で実践的な取組を多数行い、確実な準備をすることで、失敗を恐れず挑戦できる実践力を磨いてもらう。さらに、企業などにおけるインターンシップなどを通じて、学内にとどまることなく、外部との接点を持つことで、より多様な関心と発見を得られることを目指す。

### (2) 卒業要件等

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の卒業要件は、総単位数124単位である。科目区分ごとに、教養科目12単位以上（うち選択必修科目6単位を含む）、外国

語科目 14 単位以上（うち必修科目 6 単位、選択必修科目 4 単位を含む）、専門基礎科目 50 単位以上（うち必修科目 11 単位、選択必修科目 20 単位を含む）、専門応用科目 40 単位以上（うち必修科目 4 単位、選択必修科目 2 単位を含む）の修得が必要となる。

教養科目は、デザイン・データ科学の背景にある社会性などを読み解くための基礎教養を得られるように、人文科学、社会科学等から 12 単位以上（うち選択必修科目（Japan Studies, Global Studies (1)-(4), Intercultural Understanding(1)(2)）から 6 単位以上を含む）の修得を卒業要件として定めている。教養科目は、主に、卒業認定・学位授与に関する方針 3. に基づいて設置されており、特に、選択必修科目に定めた科目は、卒業認定・学位授与に関する方針 3. のグローバルに活躍できるための国際的感覚の修得を目指した特徴を具体化した科目として、教養を英語でも学ぶことを目指している科目である。

外国語科目は、14 単位以上（うち必修科目 6 単位、選択必修科目（Academic Reading, Academic Discussion, Academic Presentation, English Test Preparation for Academic Purposes, Academic Research & Writing）から 4 単位以上を含む）の修得を卒業要件として定めている。外国語科目は、主に、卒業認定・学位授与に関する方針 3. に基づいて設置されており、グローバルに活躍できる言語的リテラシーの修得を目指している。

専門基礎科目は、50 単位以上（うち必修科目 11 単位、選択必修科目（プログラミング基礎演習、データサイエンス数学、統計学基礎、統計データ解析演習、情報学理論、アルゴリズムとデータ構造、機械学習論、データマイニング、データベース、データ社会論、量的ユーザー調査、質的ユーザー調査）から 20 単位以上を含む）の修得を卒業要件として定めている。専門基礎科目は、主に、卒業認定・学位授与に関する方針 1. に基づいて設置されており、定量・定性データ分析のデータ科学技術と論理的思考力・批判的思考力の修得と実社会に役立つ「もの」「こと」双方のデザインに関する専門性の修得を目指している。特に、選択必修科目に定めた科目は、データ科学の最も基盤となるデータ分析と情報技術の基本を学ぶ科目であるため、専門応用科目の学修を進める上で礎となる科目である。

専門応用科目は、40 単位以上（うち必修科目 4 単位、選択必修科目（感性デザイン演習、デザインプロダクション演習、インタラクションデザイン演習、サービスシステムデザイン演習、サプライチェーンデザイン演習、ビジネスシステムデザイン演習）から 2 単位以上を含む）の修得を卒業要件として定めている。専門応用科目のうち「データ科学」科目群は、主に、卒業認定・学位授与に関する方針 1. に基づいて設置されており、定量・定性データ分析のデータ科学技術と論理的思考力・批判的思考力の修得を目指す。また、専門応用科目のうち「ユーザーエクスペリエンスデザイン」、「ソーシャルシステムデザイン」、「その他」の各科目群は、主に、卒業認定・学位授与に関する方針 2. に基づいて設置されており、新たな「もの」「こと」のデザインによる課題解決のための構想力と創造力の修得を目指している。特に、必修科目及び選択必修科目に定めた科目は、演習による実践力の修得を重視しており、必修科目「キャップストーンプロジェクト」は、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科での学びの総仕上げの科目である。同科目の単位数

は、4単位とする。大学設置基準第21条第2項第1号を踏まえ、本学学則第18条第2項第1号において、「講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。」と規定している。授業時間として1週あたり2コマを割り当てているから、この単位数は、妥当である。

### (3) 履修モデル

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、各学生が学びたい分野や、将来、活躍したい職種に合わせて、3つの履修モデル（データ科学重視、ユーザーエクスペリエンスデザイン重視、ソーシャルシステムデザイン重視）を用意している（資料3）。「データ科学重視」の履修モデルで学修した学生は、将来、データサイエンティストなど、データ分析に関する専門能力を活かした職種で活躍できるようになる。「ユーザーエクスペリエンスデザイン重視」の履修モデルで学修した学生は、将来、データに基づく製品開発の担当者など、データに基づくデザイン能力を活かした職種で活躍できるようになる。「ソーシャルシステムデザイン重視」の履修モデルで学修した学生は、将来、プロジェクト管理や業務改善ができるマネージャーとして、科学的な管理ができる専門能力を活かした職種で活躍できるようになる。

### (4) 履修科目の年間登録上限

履修科目の登録上限は、半期で20単位とする。年間では、倍の40単位となる。これは、大学基準協会が「評価に係る各種指針」で、履修登録単位の上限設定「年間50単位未満で設定していることを目安とする」と定めている値を下回っている。単位制度の趣旨に沿った学修時間及び学修内容の確保、すなわち、単位の実質化を図る措置として、十分なものと考えている。

### (5) 他大学における授業科目の履修

他大学における履修科目は、その授業内容に応じて、卒業要件単位数に含めることができる。具体的には、「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」による単位互換制度や「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく単位互換制度により修得した単位は、教授会の議を経て卒業要件単位数に算入できる。

### (6) 留学生の受け入れ

留学生の入学を予定している。在籍管理の方法や入学後の履修指導、生活指導等については、以下の通りである。

#### ■在籍管理の方法

オリエンテーション期間において、留学生対象のガイダンスを実施する。ガイダンスでは、本学が作成した留学生ハンドブックを基に、①在留手続等、②学生相談室の利用

方法や国民健康保険の加入案内等、③各種奨学金の紹介、私費外国人留学生授業料減免制度、④就職活動等について説明を行う。なお、1か月に1回、月初に授業への出席やアルバイト等の状況を確認するためにカウンターへ来課させて、状況報告書類に必要事項を記載させることで在籍確認を行い、その結果を文部科学省に報告する。万一、来課しない、連絡が取れない留学生がいた場合には、クラス担任、指導教員や事務局から電話やメール、郵便等の各手段を使って連絡を取るようにする。在籍未確認者について、2カ月までは長期欠席者として文部科学省へ定期報告（人数のみの報告）、未確認が3カ月続く場合は在留カード番号等の個人情報を文部科学省及び出入国管理局へ定められた方法に則り報告を行う。

また、年初に全留学生に外国人留学生カードを新たに提出させ、在留カード等の在留資格や在留期間について確認を行い、コピーを保管する。

#### ■入学後の履修指導

クラス担任が、日本人・外国人留学生を問わず、個別指導を行う。なお、具体的なサポート内容については、教職員のためのガイドラインに掲載し、教職員に配布している。併せて、定期的に退学者削減プロジェクト担当者から出席管理システムを利用した情報を基に授業の出席率が低い学生については、日本人・外国人留学生を問わずに、学部長へ情報を提供し、クラス担任や指導教員を通して各学生に対して直接指導を行う。

私費外国人留学生に関しては、学修要覧で定める単位修得状況や成績に関する指導に加え、「私費外国人留学生減免学生の継続可否と学期末・学年末指導基準(以下、指導基準)」に基づき、各学期の成績（単位修得）状況を確認の上、必要に応じて面談を実施する。この指導基準を下回る留学生については、今後の履修計画や授業料の資金計画を確認の上、指導し、修学の継続が可能かどうかの確認も行う。

また、各学科から委員が選出されている学生部委員会の留学生分科会において、年に2回、学期毎に留学生の成績状況について報告を行い、情報共有を行う。

#### ■生活指導等

入学式後のオリエンテーション期間において既設学部と合同で、学生部ガイダンスを実施する。従前から地域の所轄警察署を招聘して学生が巻き込まれやすい犯罪等の事例を具体的に紹介してもらい、学生が犯罪に巻き込まれないよう講演を依頼している。なお、先のとおり、定期的に出席管理システムを利用した情報を基にクラス担任から各学生の指導を行う。成績不振や素行に問題がある留学生がいた場合には、個別に呼出して指導を行う。

また、母国を離れ、異国の地に留学して来ているため、精神面をサポートするために学生相談室の利用方法について留学生ガイダンス時に紹介する。併せて、学外健康相談窓口(英語対応可)も開設し、夜間や休日でも相談に対応できる体制を整えている。

各種奨学金についても大学宛に募集が届いた時点で、全留学生にメールや掲示等で周知して広く募集をかけ、一人でも多くの留学生に経済的支援を行えるようにしている。

加えて、留学生サポーター制度を設け、学部に入學した留学生1人に対して、複数の日本人上級学年の學生がサポートする体制を整えている。

その他にも留學生が日本の生活に少しでも馴染めるように各種イベントを用意している。具体的には、5月：留學生交流会(歓迎会)、7月：ランチミーティング、9月：留學生研修会(学外施設等見學)、10月：留學生就職支援プログラムを実施している。なお、令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催方式を対面からオンラインに変更して実施したが、飲食を伴うランチミーティングは中止とした。

## 6. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、編入学定員を設定せずに定員の範囲内で編入学を認めることとする。

編入学生の既修得単位については、出身大学等のシラバスの内容と本学が開講する科目の内容と同等であることを確認のうえ、教務委員と面談したうえで、教授会の議を経て単位認定を行う。

また、教務委員やクラス担任が主体となり、既修得単位の単位認定状況に応じて入学後に編入学生を対象としたガイダンスや個別指導を実施するなど、きめ細やかな履修指導を行う体制を整備する。なお、編入学生と在学生の履修指導の考え方を原則として区別しないことから、編入学生のみを対象とした履修モデルは作成していない。

編入学生が早期に本学の環境に適応し、適切な履修計画をたてることができるよう、教育上の配慮を行う体制を整備する。

## 7. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### (1) 企業実習（インターンシップを含む）

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、3種類の企業実習の機会を学生に提供する。既設学部において、過去5年間で受け入れ実績5名以上の企業は、資料4のとおりである。

#### ■COOP プログラム

本学科教員が連携先企業の担当者と綿密に連携し、実習内容を十分に確認し、企業等の実習先で実務に直結した実践的な実習型の授業を実施する。4年次の授業として配当されており、3年次までの学習内容を総合的に活用する実践の場を提供する。

##### ア) 実習先の確保の状況

本学科教員が、本学科のカリキュラムとして適切な実習型授業を実施できる連携先企業を用意する。履修登録した学生と教員が綿密に相談し、相談結果に基づいて、企業での実習を実施する。

##### イ) 実習先との連携体制

授業実施中には当学科教員が連携先企業と緊密に連絡を取り合う。必要に応じて、事務局キャリア支援センターとも連携することで、卒業後にも役立つ成果を得られるように努める。

##### ウ) 成績評価体制及び単位認定方法

本学科の授業担当教員が、連携先企業の担当者とともに、プログラムへの参画度合いや成果のプレゼンテーションの内容により成績評価を行い、単位を認定する。

#### ■海外インターンシップ

事務局キャリア支援センター、全学組織の海外インターンシップ専門委員会及び当学科教員が連携先企業の担当者と綿密に連携し、実習内容を十分に確認し、企業の実習先で実務に直結した実践的な演習型の授業を実施する。所定の手続きを行い、2～3週間程度の実習を行った上で、所定の報告を行うことにより2単位を修得することができる。受講希望者は、所定の手続きに基づき、海外インターンシップへの参加資格を確認した上で希望するインターンシップ先を選び、授業科目としてのインターンシップの手続等を行う。

##### ア) 実習先の確保の状況

事務局キャリア支援センター、および、海外インターンシップ専門委員会においてインターンシップ先を確保し、学生に紹介を行う。

##### イ) 実習先との連携体制

派遣先企業と事務局キャリア支援センター、海外インターンシップ専門委員会の委員及び当学科担当教員が緊密に連絡をとることで、インターンシップの成果を最大化できるように配慮している。実習先（実習施設名）及び受け入れ可能人数などは、これまで

のインターンシップの実績と同様であり、過去5年間の実績を資料4として示す。

#### ウ) 成績評価体制及び単位認定方法

本学科の教務委員が、下記の報告書と必要に応じてプレゼンテーションを課すなどの成果報告の内容により成績評価を行い、単位を認定する。

- ①インターンシップ参加申告書(写) ②評価報告書(企業様用)
- ③成果報告書(学生用) ④日報

#### ■インターンシップ(1),(2)

実社会に出る前に仕事について体験を行うことにより、社会に出てからのギャップが生じないようにすることを主な目的としている。所定の手続きを行い、1週間(実質5日間)の実習を行った上で、所定の報告を行うことにより、1科目あたり1単位を修得することができる。大学として「インターンシップガイド」を用意しており、また、本学学生向けウェブページに「インターンシップ受け入れ企業検索システム」を開設している。受講希望者はこれらを参照し、希望するインターンシップ先を選び、授業科目としてのインターンシップの手続等を行う。

#### ア) 実習先の確保の状況

事務局キャリア支援センターにおいてインターンシップ先の紹介を行う。「インターンシップ受け入れ企業検索システム」において派遣先が紹介されており、学生は主そこから派遣先を選択する。

#### イ) 実習先との連携体制

派遣先企業とは、事務局キャリア支援センター及び就職担当教員が緊密に連絡をとることで、インターンシップの成果を最大化できるよう配慮している。

#### ウ) 成績評価体制及び単位認定方法

本学科の教務委員が、下記の報告書と必要に応じてプレゼンテーションを課すなどの成果報告の内容により成績評価を行い、単位を認定する。

- ①インターンシップ参加申告書(写) ②評価報告書(企業様用)
- ③成果報告書(学生用) ④日報

#### (2) 海外留学プログラム

本学の留学プログラムには、「東京都市大学オーストラリアプログラム(以下、TAP)」がある。このプログラムは、本学が独自に開発した留学プログラムである。平成27年より始まったTAPは、西オーストラリア州パースの大学に16週にわたり留学する。参加条件は問わず、英語に自信が無い場合でも安心して留学することが可能であり、予め、準備教育として100日間の英会話レッスンも行う。本プログラムは、事務局国際支援センターが、企画、運営を行っており、本学科の学生が希望した場合、参加できる。

## 8. 入学者選抜の概要

### (1) 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

本学では、以下のように入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）を定めている。学力の3要素を主軸に置き、意欲や姿勢についても触れた上で、社会発展に寄与する目標について共有した学生を求めている。

東京都市大学は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の領域ごとに学部を設置しています。各学部では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

1. 大学教育に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を持つ人
2. 当該学部学科の学術研究領域に対する強い関心と意欲に基づき、自ら学ぶ姿勢を持つ人
3. 教育研究を通じて身につけた幅広い視野と専門的学識により、持続可能な社会発展に寄与する人材となることを目標とする人

上記の入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）を受けて、デザイン・データ科学部では、以下のように入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）を定めている。

#### ■人材養成および教育研究上の目的

デザイン・データ科学部では、定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得します。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とします。

#### ■求める人物像

- あらゆるデータの利活用と、人と社会に役立つ「もの」「こと」のデザインを志向する人
- 修得した知識と技術を活用し、国籍、文化、専門等が異なる人々とのコミュニケーションによる主体的協働作業を志向する人
- 数学・社会科学に対して興味と探究心を持ち、これを基にした思考力を合わせ持つ人
- 修学に必要な英語力を有し、海外留学で幅広い教養を修得するコミュニケーション力向上に努力を惜しまない人

<p>■入学前に学習しておくことが望ましい内容</p> <p>デザイン・データ科学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <p>□数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）</p> <p>□国語（国語総合）</p> <p>□外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）</p>
---

なお、「入学前に学習しておくことが望ましい内容」については、さらに資料5のように、学習指導要領〔令和4(2022)年度 高校3年生の場合〕との関連性や接続性を作成し、入学試験要項等で詳細に説明することとしている。

## (2) 入学者選抜の方法・体制・基準等

本学及びデザイン・データ科学部の入学者受入れの方針を受けて、本学部では、以下の通り入学者選抜を実施する。多様なタイプの学生を受け入れることを目的として、入試制度についても多くの種類を設定した。いわゆる文系・理系に偏らない入試科目にしていることも特徴としている。

### ① 入試制度一覧と募集人員

「一般選抜」、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」の区分ごとに設けた入試制度と募集人員は以下の通りである。

入試区分	入試制度	募集人員	割合
一般選抜	共通テスト利用入試（前期3教科型）	10名	60%
	共通テスト利用入試（前期5教科基準点型）	2名	
	一般選抜（前期）	35名	
	一般選抜（中期）	10名	
	一般選抜（後期）	2名	
	共通テスト利用入試（後期3教科小論文型）	1名	
総合型選抜	総合型選抜（1段階選抜制）…創造デザイン入試	5名	10%
	総合型選抜（2段階選抜制）	5名	
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜（指定校制）	20名	30%
	学校推薦型選抜（公募制）	5名	
	付属進学制度	5名	
その他	帰国生徒特別入試	若干名	---
	外国人留学生特別入試	若干名	
	国際バカロレア特別入試	若干名	
	社会人特別入試	若干名	
合計		100名	100%

### ② 入試制度の趣旨・判定方法と学力の3要素との関係性

各入試では、その趣旨に応じて、「調査書」、「志望理由書」、「小論文」、「面接」、「科目

試験」などを組み合わせ、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」について総合的に評価して選抜する。各入試制度の趣旨・主な判定方法・学力の3要素との関係性は、資料6のとおりである。

#### ③ 外国人留学生・帰国生徒・社会人等の受け入れ

本学では、大学入学者選抜実施要項「第3 入試方法」における「2(4) 帰国生徒選抜・社会人選抜」に対応して「帰国生徒特別入試」、「社会人特別入試」を設定している。この他に「外国人留学生特別入試」などを設け、より多様なタイプの入学者を受け入れる入試制度を用意している。これらの特別入試については、本学部においても実施することとしており、その具体的な内容は資料7のとおりである。

#### ④ 選抜体制

本学「入学センター」は、入学者受入れの方針に基づく入学者の確保のために、入学者選抜方法等に係る調査・研究・企画・検証及び入学希望者に対する広報活動等を行うとともに本学における入学者選抜の円滑な実施を図ることを目的として設置されている。委員は、学内教員から指名された教員と事務局入試センターで構成され、アドミッションオフィサーとして、全学的な立場で入試や学生募集にかかる企画立案及び入学者選抜の評価に参画している。

各入試制度の入学者選抜の判定においてはアドミッションオフィサーによる意見をもとに、各学部設置された「入学試験委員会」で審議し、各学部教授会の議を経て決定する。

このように、アドミッションオフィサーによる全学的な検証と、各学部における具体的対応によって、健全で厳正な入学者選抜が行われているが、入学試験委員会では、入試の公正確保についても当該委員会規程で以下のように定めている。

##### 東京都市大学入学試験委員会規程（抜粋）

###### （入試の公正確保）

第10条 委員会は、各入試を中立及び公正に実施するために、次に掲げる事項について取り組み、充実に努めるものとする。

- (1) 試験問題作成における機密性の確保と漏洩防止
- (2) 入試問題作成や実施担当教職員の選任における適格性の確保
- (3) 入試実施に関する事前研修等の実施
- (4) 入試合否判定資料における個人情報の適切な取扱い
- (5) 入試合否判定における公正な意思決定

#### (3) 留学生の受け入れ

外国人留学生特別入試を実施することで、若干名の留学生の受け入れを予定している。留学生の日本語能力の確認方法、経費支弁能力の確認方法や在籍管理の方法は、以下のと

おりである。

#### ■日本語能力の確認方法

外国人留学生特別入試では、資料7のとおり、出願及び入試実施の時点で日本国内に居住していることを条件とし、入試判定では日本留学試験の結果と面接から厳正に能力を確認している。

#### ■経費支弁能力の確認方法

出願及び入学試験(面接)時に経費支弁方法について確認を行う。また、既設学部では、年初に全留学生に外国人留学生カードを新たに提出させ、経済状況について確認を行っており、本学部でも同様に対応する。なお、日本人・外国人留学生を問わず、前学期は、6・7月、後学期は、11～1月に授業料の納入状況を教授会にて報告し、授業料が未納である学生に対しては、除籍とにならないようクラス担任を通じて、指導を行う。

#### ■在籍管理の方法

オリエンテーション期間において、留学生対象のガイダンスを実施する。ガイダンスでは、本学が作成した留学生ハンドブックを基に、①在留手続等、②学生相談室の利用方法や国民健康保険の加入案内等、③各種奨学金の紹介、私費外国人留学生授業料減免制度、④就職活動等について説明を行う。なお、1か月に1回、月初に授業への出席やアルバイト等の状況を確認するためにカウンターへ来課させて、状況報告書類に必要事項を記載させることで在籍確認を行い、その結果を文部科学省に報告する。万が一、来課しない、連絡が取れない留学生がいた場合には、クラス担任や事務局から電話やメール、郵便等の各手段を使って連絡を取る。在籍未確認者について、2か月までは長期欠席者として文部科学省へ定期報告(人数のみの報告)、未確認が3か月続く場合は在留カード番号等の個人情報文部科学省及び出入国管理局へ定められた方法に則り報告を行う。

また、年初に全留学生に外国人留学生カードを新たに提出させ、在留カード等の在留資格や在留期間について確認を行い、コピーを保管する。

#### (4) 科目等履修生等の正規の学生以外の者の受け入れ

科目等履修生等の正規の学生以外の者の受け入れは、希望があり正規の学生の履修の妨げにはならない範囲で対応する。すなわち若干名を受け入れることがある。

## 9. 教員組織の編制の考え方及び特色

専任教員は、原則として博士の学位を有し、研究上、もしくは、実務上において、特に顕著な業績を有する者で構成している。専任教員は、教育者として人格・識見に優れ、大学における教育を担当するにふさわしい能力を有すると認められる者で構成している。なお、本学では原則として専任教員を、公募により採用している。

必修科目を主とする教育上主要と認める授業科目は、原則として専任教員（教授又は准教授）が担当する。専任教員は、計 16 名（うち教授が 10 名）である。大学設置基準別表第一によると、工学関係である本学部の収容定員 400 人に対して必要な専任教員数は 14 名（うち、教授が 7 名）であり、これを上回っている。保有する学位については前述の通りであるが、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科における具体的な教員編制の考え方は以下の通りである。

### ■特定分野に偏りが無いこと

データサイエンスとも言われるデータ科学の分野は、数学や情報工学が中心ではあるが、その活用も重視する当学科においては、人と社会に役立つための教育研究として、「ユーザーエクスペリエンスデザイン」、「ソーシャルシステムデザイン」を担当する教員とのバランスを適切に保つことで、特定の分野に偏りのない教育内容を提供する。

### ■バランスの取れた年齢構成

専任教員は年齢が特定の年代に集中しないように、バランスの取れた年齢構成としている。なお、東京都市大学職員定年規程（資料 8）に定める定年は 65 歳である。開設時における専任教員の年齢構成は、60 歳代が 2 名、50 歳代が 8 名、40 歳代が 3 名、30 歳代が 2 名、20 歳代が 1 名となっている。完成年度までに 1 名の教員が、定年を超過する。当該教員は、東京都市大学教育職員特別任用規程（資料 9）第 2 条第 2 号に基づいて採用された教員であり、同規程第 6 条第 2 号ただし書きにより通常適用される退職年齢を超えることが可能となっている。当該教員の後任となる教員の補充については、計画的に採用活動を行うことで教員組織の継続性に問題が生じないように配慮する。

### ■実務経験を有する教員

専任教員は、関連する学会での業績、または、関連する業界での実務経験がある者を含むように構成している。卒業後、情報通信、情報サービス、デザイン、コンサルティングなどを中心とした一般企業、官公庁・自治体、NPO・NGO 団体など多種多様な場への就職だけでなく、自ら事業を起こす起業家・社会起業家も含め輩出することを想定している。関連する業界で実務経験を有する者が研究・教育を行うことにより、より現実味のある実社会の事象近い分野で研究・教育を行うことができる。また、本学部の専任教員は、関連分野の業界や公共団体との接点があり、そこで得られた知見を研究・教育にフィードバックすることで、より質の高い実社会のニーズを取り入れた研究・教育を行うことができる。

本学部では、本学における教育研究だけでなく、それ以外の業務にも従事する者も専任教員とする。当該教員も他の専任教員と同様に、FD への参加、教授会構成員として管理

運営への参画、適切な教育研究環境の整備、オフィスアワーの設置などを行うことで、教育研究上、支障がない体制を整える。

## 10. 施設、設備等の整備計画

### ア) 校地、校舎等の整備計画

本学は、世田谷キャンパス及び横浜キャンパスの2キャンパスを有しており、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科は、神奈川県横浜市都筑区牛久保西三丁目3番1号に位置する横浜キャンパスの既存の校地や校舎等を利用する。横浜キャンパスは、デザイン・データ科学部の他に環境学部及びメディア情報学部並びに大学院環境情報学研究科環境情報学専攻が共用している。

横浜キャンパスは、港北ニュータウンの閑静な住宅街の中、緑豊かで自然に囲まれたロケーションにあり、日本の大学を含む教育機関として初めてISO14001の認証を取得し、環境に配慮した施設・設備であることから「エコキャンパス」と称している。

運動場として、横浜キャンパスに2面のバスケットコート、3面のテニスコート、1面のフットサルコート、1面のトレーニングルームを有している。また、世田谷キャンパスに1面のトレーニングルームと近接する多摩川河川敷グラウンドを正規の授業や課外活動、サークル団体のための運動場として利用し、部活やサークルを通して他学部学生との交流を積極的に推奨している。

空地として横浜キャンパスの敷地外周全体にグリーンベルト（遊歩道、散策路、ポケットパーク）を配している。自然緑地を有効に生かして緑の中を回遊できるサークルを形成し、地域住民にも開放された場所となっている。学生の休息その他の利用のために適当な空間である。

### イ) 校舎等施設の整備計画

全専任教員の研究室は、オフィスアワーなど学生の教育上の情報管理等の機密性の観点から、プライバシーを確保できる環境に配慮のうえ、整備している。

環境学部及びメディア情報学部並びに大学院環境情報学研究科環境情報学専攻が共用する横浜キャンパスには、講義・研究棟、図書館・情報基盤センター棟、食堂棟、体育館・部室棟及び本館棟から構成されており、主に学生が授業を履修する講義・研究棟及び図書館・情報基盤センター棟には、収容人数200名～300名教室が4室（約192㎡～320㎡）、100名～150名教室が8室（約134㎡～217㎡）、60名～90名教室が8室（約70㎡～163㎡）、20名～50名教室が15室（約30㎡～108㎡）ある。

また、各種イベント等の開催も可能な大教室（収容人数（教室を接続して最大）500名）を設置している。体育施設については、体育館アリーナ（約1,008㎡）、フットサルコート（約1,144㎡：1面）、テニスコート（2,272㎡：3面）、プレーコート（1,348㎡：バスケットコート2面）を設置している。前述の通り、講義・研究棟、図書館・情報基盤センター棟は、本学部以外に環境学部及びメディア情報学部並びに大学院環境情報学研究科環境情報学専攻の学生も一緒に学ぶ。完成年度（令和8年度）を想定した使用教室数のシミュレーションを行った結果、教室稼働率の平均は40.4%であった（資料10）。この結果から、十分な教室数を確保できており、現状のまま使用しても何ら支障はないことを確認

した。教室・研究室以外の施設・設備としては、環境実験・演習室1室(約163㎡)、フィールド演習室1室(約98㎡)、会議室2室(約96㎡~233㎡)、就職資料室1室(32㎡)、就職面談室1室(約40㎡)、学生相談室1室(約21㎡)がある。また、キャンパスの開設20年目の節目にアクティブラーニングや個人学習への対応を企図してリニューアルを行った図書館は、授業以外に研究活動でも利用可能な施設である。また、GLOBAL COMMONS と称したグループ英語学習や国際交流の場として利用できる施設も有している。

機械・器具等の設備を具体的に、以下に示す。

#### ■大教室

教員用教卓PC(1式) / 大型スクリーン(200インチ) / レーザー光源DLPプロジェクター(1式) / マイクシステム(1式) / OHC(1式) / タッチパネル式操作パネル(1式) / 上下式黒板(1式) / 教室間連携システム(教室限定) / 遠隔授業配信システム(教室限定) / オンライン・ハイブリット授業支援用Webカメラ及び外部出力用パネル(1式) / コミュニケーション支援・会話の見える化アプリ(1式)

#### ■教室

レーザー光源DLPプロジェクター(1式) / マイクシステム(1式) / 黒板(1式) / 可動式大型モニタ(小規模教室のみ) / オンライン・ハイブリット授業支援用環境カメラ及び外部出力パネル(1式) / コミュニケーション支援・会話の見える化アプリ(1式)

#### ■演習室

教員用教卓PC(1式) / 演習室間連携システム(全6演習室同時連携) / 壁面ホワイトボード / プリンター / 中間モニタ(プログラム演習用) / 仮想デスクトップシステム

#### ■その他

無線LAN配備(全館対応) / 有線情報コンセント(全室対応) / 電子掲示システム(全館) / 可動式ホワイトボード(10式) / 事業成果分析サーバ装置 / ヘッドマウントディスプレイ / アイトラッカー / 携帯型レーザー彫刻機

以上から、学生の教育・研究における環境は十分に整備できている。

#### ウ) 図書等の資料及び図書館の整備計画

デザイン・データ科学部が位置する横浜キャンパス図書館は、平成9年4月の環境情報学部の開設以来、「環境」と「情報」分野だけでなく、文理融合学部ならではの学際的な幅広い分野の資料を収集し、体系的な蔵書構築を図ってきた。特に、平成25年4月のメディア情報学部改組後は、社会メディアや情報システム関係の図書の整備に力を入れている。横浜キャンパスの蔵書は約90,000冊(うち外国書約20,000冊)であるが、世田谷キャンパス図書館との相互利用を実施しており、全学の蔵書約350,000冊(うち外国書約50,000冊)が横浜キャンパスでも利用可能になっている。今後、横浜キャンパス図書

館は、既設学部分野の図書充実は当然のこと、「データサイエンス」「ユーザーエクスペリエンスデザイン」「ソーシャルシステムデザイン」等の分野も積極的に整備し、拡充する。また、シラバスに記載された授業関連図書の配置、学生からの資料購入リクエスト及び教員からの推薦図書、学生選書会の実施など、多角的な充実も図る。近年は電子ブックも積極的に採用しており、全学で約 20,000 冊（うち外国書約 16,000 冊）が利用可能となっており、今後も充実させていく。

デザイン・データ科学部が教授研究する分野に関する図書は、既に約 81,000 冊（うち外国書約 18,500 冊）、学術雑誌 881 種（うち外国雑誌 252 種）が整備してあることから、本学部の教育研究に支障がない環境と言える。代表的な学術雑誌としては、『コンピュータソフトウェア』、『ヒューマンインタフェース学会誌』、『デザイン学研究』、『Harvard business review』等がある。

本学は全学の学生・教職員が使用可能な電子ジャーナル約 17,000 タイトル（うち外国雑誌約 16,000 タイトル）を整備している。これらは、図書館ホームページより 24 時間いつでも、学内のみならず学外からでもアクセス可能なシステムによって、教育研究の利用に便宜を図っている。また、新聞（『Jiji-Web』・『日経 ValueSearch』など）、世界各国のニュース（『APF World Academic Archive』など）、雑誌索引（『Scopus』・『JDream』など）等のデータベースも 15 種利用提供している。

横浜キャンパス図書館は、地上 2 階地下 1 階建てで、1 階にはラーニングコモンズを設置し、グループワークルームを含む 138 席を、2 階には個人学習室 10 室のほか、キャレル席を含む 101 席を配している。地下には約 68,000 冊収容可能な書庫を整備してある。1 階のラーニングコモンズ内にラーニングサポートデスクを設け、学生ラーニングサポーターや教員によって、レポートの書き方や資格取得、英語学習等の相談を受け付けることで学修支援体制の充実を図っている。利用時間は授業開始前・終了後にも利用できるよう、開館時間を授業開始 30 分前とし、閉館時間は平日 22 時、土曜日 17 時に設定し、教育研究に支障がないように配慮している。資料の検索は、全学共通の図書館システムを使用し、蔵書資料一括検索や東京都市大学図書館間相互利用（予約・貸出・文献複写等）やキャンパス図書館間での図書の取り寄せにより、所蔵関連資料が自由に利用できる。

近年の電子資料の増加と利用促進のため、ディスカバリーサービスを導入し、利用可能な電子ジャーナル、データベースの一括検索及び雑誌文献タイトルでの検索を可能とし、簡便に豊富な情報提供が行えるようにしている。また、学外文献の利用促進策として、ILL（図書館間相互貸借システム）サービス利用料、文献手配業者への依頼料金を無償化したことで、必要な文献を迅速に入手できるよう学習・研究活動の支援強化を図っている。令和 3 年 9 月からは国立国会図書館が提供する図書館向けデジタル化資料送信サービスを導入している。

図書館間協力も積極的に行っており、横浜キャンパス図書館は横浜市内大学図書館コンソーシアム、神奈川県内大学図書館相互協力協議会に加盟している。これに加えて、世田谷キャンパス図書館は首都圏の理工系 13 大学で組織する私工大懇話会図書館連絡会や

地域を基盤とした世田谷 6 大学コンソーシアムに加盟している。各々の図書館は定期的に組織内の会合を持ち、図書館サービスにおける協力体制を推進している。また、電子ジャーナル・データベースの購入では、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) に参加し、資料の整備に努めている。

デザイン・データ科学部が教授研究する分野の資料を系統的に充実させるとともに、電子ジャーナル・データベースの充実も図る。また、今後も学生や教職員による利用促進に努めていきたい。

## 1 1. 管理運営

学部の校務を掌り、所属職員を統督する者として、本学学則第 10 条第 4 項に基づいて本学部に学部長を置く。また、本学学則第 13 条に基づいて本学部に教授会を置き、学部長を議長とする。教授会は、学部長候補者を 2 名推薦し、学長が学部長を選出する。教授会は、教授をもって構成し、准教授及び講師（任期付を含める）を加えることができる。また、東京都市大学教育職員特別任用規程に定める特任者を加えることができる。

教授会は、以下の事項について、学長が決定を行うにあたり審議し、意見を述べる。

- ・当該学部における学生の入学、卒業及び学位授与に関すること
- ・当該学部における教育研究に関する重要な事項
- ・教育課程の編成及び授業に関すること
- ・教授、准教授及び講師（任期付を含める）の資格認定に関すること

教授会は原則として月 1 回開催する。なお、学部長が必要と認めたとき、又は教授会の構成員の 3 分の 1 以上の請求があったときは、臨時教授会を開催するものとする。本学部が属する横浜キャンパスには、環境学部及びメディア情報学部があり、合同で審議することが適当な事項を扱うために、3 学部の合同教授会を置く。また、本学部を含めた複数の学部に関わる事項で、本学部教授会と他学部教授会との間で調整が必要である事項については、本学学則第 12 条に規定する大学協議会で審議を行う。

## 12. 自己点検・評価

本学では、本学学則第1条の2において、教育研究水準の向上を図り、学則第1条に掲げる目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する旨を定めている。

また、本学学則同条に則り、本学の理念・目的に基づく教育・研究目標及び各種方針を実現するために「東京都市大学内部質保証方針」を策定し、この方針の中で自己点検・評価の実施方法、自己点検・評価活動における責任主体、評価項目、結果の活用等について基本的な考えを明らかにしている。

### (1) 実施体制

本学学則第1条の2及び内部質保証方針に基づき、大学全体の自己点検・評価活動の責任主体として「東京都市大学大学評価室」を設置している。大学評価室では、学長から任命された室長及び室員が次の業務を行っている。

- ①全学的観点から実施する自己点検・評価に関する業務
- ②各学部等が行う自己点検・評価の把握、調整、指導及び支援に関する業務
- ③認証評価に関する業務
- ④内部質保証に関する調査研究並びに企画・立案
- ⑤その他、内部質保証の推進のために必要となる業務

以上の通り、大学評価室を中心とした自己点検・評価実施体制を整備している。

### (2) 実施方法

本学学則第1条の2及び内部質保証方針に基づき、「東京都市大学自己点検・評価に関する規程」を定めている。この規程では、自己点検・評価に関する実施方法の詳細を定めており、大学評価室と各活動に責任を負う学内組織（以下「所管組織」）及び学部等との関係、自己点検・評価の実施要領の策定から実施、評価、評価結果を改善・向上につなげていくための手続きやそれらの適切性、客観性及び妥当性を確保するための手段を示している。なお、同規程第7条では、大学評価室が自己点検・評価に基づく検討結果等を所管組織及び学部等に通知し、明確な行動計画を伴った具体的な改善・向上の取り組みを要請すること、そのために必要な指導及び支援等を行うこと、所管組織及び学部等は通知された結果及び要請に基づき、組織的に改善・向上に取り組まなければならないことを定めている。

大学評価室では、同規程に基づき、全学レベル及び学部等レベルの自己点検・評価の実施を要請し、提出された報告書の内容を検証するとともに、全学的な観点から「自己点検・評価報告書」としてまとめていく。その過程において改善が必要と判断される事項については、所管組織及び学部等に対する所見を付し、改善等に向けた提言を添えて、学長会議に結果を提出することとしている。学長会議で総括した後は、大学協議会に提出し、所管組織及び学部等に結果を通知し、改善活動を促すサイクルとしている。

### (3) 評価項目

内部質保証方針において、公益財団法人大学基準協会が定める大学基準及び点検・評価項目等に準拠して自己点検・評価を実施する旨を定めている。同方針に則って、次の 10 項目を評価項目として実施している。

- ①理念・目的 ②内部質保証 ③教育研究組織 ④教育課程・学習成果
- ⑤学生の受け入れ ⑥教員・教員組織 ⑦学生支援 ⑧教育研究等環境
- ⑨社会連携・社会貢献 ⑩大学運営・財務

なお、学部等レベルでは、上記の項目のうち①④⑤⑥を自己点検・評価の対象としている。

### (4) 結果の活用・公表

内部質保証方針においては、自己点検・評価の結果、教育・研究を中心とした諸活動について改善が必要と認められた場合は、真摯な姿勢で自律的に改善に取り組まなければならないこと、全学的な課題等が明らかになった場合は、それらの課題を本学の各種取り組みに適切に反映させることによって、本学の改善・改革を着実に推進することを明記している。

これに則り、自己点検・評価の結果については、大学協議会等を通じて所管組織及び学部等に通知するとともに、学内構成員に対する周知媒体「都市大広報」を通じて大学全体で共有し、必要な改善活動に取り組んでいる。また、自己点検・評価結果については、従前より本学ウェブページ「自己点検・評価活動」において学外に公表している。

### (5) 外部による評価

本学は、平成 28 年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け、その結果、同協会の定める大学基準に「適合」していると認定されている（認定期間は平成 29 年 4 月 1 日から 7 年間）。また、「東京都市大学外部評価の実施に関する細則」に則り、外部有識者による外部評価を令和 2 年度自己点検・評価に対して実施している。なお、実施体制、実施方法、結果の活用・公表については、本学の自己点検・評価と同じ考え方に立脚している。

### 1 3. 情報の公表

学生、保護者、研究者、受験生等の関係者が必要な情報を適切に得られるようにするとともに、研究・教育を行う公的な機関として、その活動や取り組みについて社会への説明責任を果たすことを目的として、教育及び研究情報の公表を行う。

本学では、全学部で情報の公表に積極的に取り組んでいるが、デザイン・データ科学部においても、同様に情報の公表を行う。網羅的に情報を公表するために、配布、掲載は主に制約の少ないウェブ上にて公表する。なお、冊子等の紙媒体も併用する。

#### ■東京都市大学ウェブページ (<https://www.tcu.ac.jp/>)

ウェブページに公表する情報は、関係者の属性や公表する情報の種類に応じて適切に配置し、訪問者別リンクなどにより容易に到達できるように配慮している。

具体的な情報の種類とその公表方法は、以下の通りである。

#### ア) 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・情報公開（各種データ）> 教育研究上の基礎的な情報 > 教育研究上の目的  
> 教育研究上の目的の一覧 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)

#### イ) 教育研究上の基本組織に関すること

- ・学部・学科構成 > 学部・学科構成一覧 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>)

#### ウ) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・情報公開（各種データ）> 修学上の情報 > 教員組織 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)
- ・研究者情報データベース (<http://www.risys.gl.tcu.ac.jp/>)

#### エ) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・アドミッションポリシー (<https://www.tcu.ac.jp/entrance/policy/>)
- ・入学定員・収容定員・入学者数 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/number02/>)
- ・学部・学科構成 > 学部・学科構成一覧 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>)
- ・在学者数 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/number/>)
- ・卒業者数・修了者数・学位授与数 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/number04/>)
- ・就職者数・進学者数 (<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/result/number/>)
- ・就職実績 (<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/result/>)

#### オ) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・シラバス（教授要目）(<https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/>)

#### カ) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関すること

- ・情報公開（各種データ）> 修学上の情報 > 学修評価及び卒業・修了認定基準  
> 学修の成果にかかる評価の基準 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)
- ・各種方針 > 卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）  
(<https://www.tcu.ac.jp/guidance/policies/>)

- キ) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
  - ・ キャンパス紹介 (<https://www.tcu.ac.jp/campuslife/introduction/>)
  - ・ 図書館・施設 (<https://www.tcu.ac.jp/facilities/>)
- ク) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
  - ・ 受験料・学費 (<https://www.tcu.ac.jp/entrance/expenses/>)
- ケ) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
  - ・ 各種方針 > 学生の支援に関する方針 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/policies/>)
  - ・ 生活支援 (<https://www.tcu.ac.jp/campuslife/support/>)
- コ) その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等)
  - ・ 情報公開(各種データ) > 修学上の情報
    - > 履修モデル (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)
  - ・ 情報公開(各種データ) > 教育研究上の基礎的な情報 > 教育研究上の目的
    - > 大学学則 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)
  - ・ 設置計画履行状況報告書 > 設置届出書  
(<https://www.tcu.ac.jp/academics/documents>)
  - ・ 設置計画履行状況報告書 (<https://www.tcu.ac.jp/academics/documents>)
  - ・ 自己点検・評価活動 (<https://www.tcu.ac.jp/guidance/programs/selfinspection/>)

#### 1 4. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

##### (1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究

本学では、教育開発機構の元に FD 推進センターを設け、「全学 FD・SD フォーラム」「新任者研修」「全学授業公開」等の取り組みを通して、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施している。教育開発機構は、全学における教育改革を推進するために設置したものであり、各学部・学科等の学内組織と緊密な連携を図りつつ、戦略的に企画・立案を行うことにより、教育の質的向上及び発展を実現する体制を確立している。

下記に示す具体的な取り組みは、本学のウェブページ及び「教育開発機構 News letter」「教育年報」等の各種刊行物を通して、学内外にその内容を広報しており、教育改善に関する情報共有及び理解の浸透を図るとともに、全学的な取り組みと各学部・学科等における独自の取り組みの相互活性化に繋げている。

##### ■全学 FD・SD フォーラム

毎年、全専任教職員を対象に「全学 FD・SD フォーラム」を開催している。近年の大学教育における重要な取り組みをテーマとして講演会や意見交換を行うことで、教職協働での教育改善に取り組んでいる。

過年度のテーマ：

- ・ハラスメントを考えるー学生中心の学びに向けた教育文化醸成のためにー
- ・都市大の新しい教育へのチャレンジ
- ・都市大におけるメディア授業の現状と展望
- ・ウィズコロナ、アフターコロナに向けた取り組み
- ・学生を育てる評価方法～評価方法の多様性と学修成果可視化の促進～

##### ■新任者研修

毎年、新任教員を対象として様々な内容の研修を行っており、本学の教育理念や養成する人材像について理解を深めることで、授業をはじめとした教育活動の改善に繋がっている。また、それぞれの教員が大学教育に取り組む中で日常的に感じている悩みや難しさを、参加者同士で共有し、学部・学科を越えた教員間のネットワークを形成する機会を提供することで、各教員が主体的に教育改善に取り組むことができるよう支援している。

なお、1年間の研修を通して蓄積された知見や事例は翌年度の新任者研修にも活用されており、継続的に検証・改善を行う体制が確立している。

##### ■全学授業公開

各教員が相互に授業を見学することにより、授業の内容及び方法の改善に繋がる気付きや発見が可能となるよう、原則として全ての開講授業を公開し、自由に見学できる期間を設けている。各教員は期間中、他の教員が担当する授業を自由に見学し、授業後には担当教員にフィードバックを行うことで、互いの授業に新しい気付きをもたらすことを企図している。

#### ■「学生による授業評価アンケート」の実施及び活用

各学期終了時に、原則として学部と大学院の全ての科目を対象に「学生による授業評価アンケート」を行い、学生の学修実態等を把握するとともに、授業に対する学生の意見を取り入れることで授業改善に活用している。アンケート結果は各学部・学科での組織的な教育改善活動や学生の修学行動等の分析に活用するとともに、匿名化したうえで原則として開示し、各学部・学科の Web ページや各授業科目のシラバス、学生 FD 委員と教職員の懇談会をはじめとしたイベント等を通して、学生へのフィードバックを行っている。

また、アンケート結果の優れている教員に対しては顕彰を行い、授業改善への意欲向上を図るとともに、授業公開の取り組みと連携する等、全学的な教育改善にも繋げている。

#### ■小規模学び合い FD、授業設計・改善 FD

全学の教員を対象に、アクティブラーニングや PBL といった教育手法の理解を深め、実践における事例共有や意見交換を行う「小規模学び合い FD」を年に数回開催している。また、LMS(e ラーニングの学習管理システム)や授業収録配信システムをはじめとした、ICT ツールの活用を促進するための研修会を開催する等、年間を通して各教員の課題に応じた教育改善の取り組みを行い、知識及び事例の共有、教育改善における教員間のネットワーク形成を推進している。

なお、各学部・学科等で行われる独自の教育改善の取り組みについても、FD 推進センターで FD 活動として情報を共有し、FD 活動の活性化に繋げている。

#### ■協定校との連携 FD

連携協定校との間で、各大学の FD プログラムに相互に教職員を派遣し、教職員間の交流を通じて実践例や成果、課題等を共有することで教育改善に繋げている。

(2) 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、大学職員に必要な知識・技能を習得させるとともに、必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組

大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修も行っている。全学的には、前述の「全学 FD・SD フォーラム」や「教職員のための研修会」が該当する。令和 3 年度に実施した教職員のための研修会では、「ケアが必要な学生への対応」と題して、様々な困難を抱えた学生に対する支援方法についての研修を行った。

また、事務職員を対象とした研修も行っており、その取り組みの具体例は以下のとおりである。

#### ■新規採用事務一般職員研修

毎年、新任の事務職員を対象に「社会人・組織人としての意識・行動」、「仕事に取り組む姿勢」、「人間関係の基本」などについて、実践形式の研修を実施している。

#### ■CS 推進チーム企画による新人研修

毎年、入職後2・3年目の若手事務職員を対象にCS向上推進活動の基本、学校法人職員としての基礎を学ぶ場として、「CS的観点」「学校法人の職員として必要なこと」「中期事業方針について学ぶ」という3つのテーマをもとに企画・設計した研修を実施しており、大学職員かつ本法人職員として必要な知識を若手職員の感性を活かした内容で学ぶことを企図している。

#### ■事務職員全体研修

定期的に、事務職員全員を対象に、現在の教育行政政策、それに伴う法令改正など、学校法人や教育業界を取り巻く最新動向を学ぶため、外部の識者を招聘し講演会を開催している。

#### ■初任者合同研修（SD研修）

毎年、新任及び中堅の事務職員を対象に、世田谷区の複数大学、世田谷区、区内産業界の3者で形成する「世田谷プラットフォーム」主催による研修会を実施している。大学運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修機会として、私立大学の現状や課題について学び、大学職員としてさらなる成長を企図している。

#### ■新人職員が創造する"次世代職員研修プログラム"

毎年、入職後1・2年目の若手事務職員を中心にチームを編成し、彼らが「学校職員としての基礎知識」を学ぶと共に、それを「次年度入職してくる新人職員に伝える」ことをゴールとして、約10か月にわたり、プロジェクトマネジメントを実践している。

## 1 5. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科では、教養科目に「インターンシップ(1),(2)」を、専門応用科目に「COOP プログラム」を設けている。これらは、就業体験を通じて仕事や社会への理解を深めるための授業であり、社会に出てからギャップが生じないようにすることも目的としている。

また、1年から3年の各学年に必修科目として「SD PBL(1)~(3)」の3科目を設けている。これらの科目では、現代的課題に未来志向で取り組む姿勢を育むこと、職業人となる自分自身の学びとをシームレスにつなげること、自己管理・時間管理能力を身につけること等を目的としており、社会的・職業的自立も目標としている。

「特別講義」の授業では、当学科に関連する分野で活躍する社会人にゲストスピーカーとして講義していただき、教育内容と実務の関連性について理解してもらうことを目的としている。

その他の授業においても、実務経験のある教員が多いため、授業での学習内容と実務との関連性を、適宜、授業で説明することを重視している。

### (2) 教育課程外の取組

教育課程外では、低学年からの「キャリア意識の育成」をテーマに将来を意識して学びのモチベーションを高めることを目指して、大学全体で以下に示すキャリア支援に係る取組を行っている。

#### ■キャリアデザイン講座の開設

学生自らが主体的にキャリアをデザインしていけるように、低学年から教育課程外の講座を設けている。

講座は1・2年生全員を対象として、各学期始めのオリエンテーションの機会を利用して合計4回実施しており、半期ごとに目標設定を行い、省察をし、新たな目標を立てることにより、学生生活において自らPDCAサイクルを回すことを習慣づけている。

#### ■キャリア情報記録システムの導入

学生が自身の学修や活動での成果を6つの指標で可視化する「ディプロマ・サプリメントシステム」を全学的に導入している。学生は日々の活動をパソコンやスマートフォンで記録をし、半期ごとに行うキャリアデザイン講座で活動を振り返り、当初立てた目標と結果との差異を確認する。また、就職活動時にはこれまでの活動を見返すことにより、自己分析や自己PRに利用することができる。

#### ■キャリアアセスメントツールによる自己理解

キャリアデザインを補助するにあたり、妥当性及び信頼性が確認されているアセスメントテストを全学年で実施し、定量的に基礎力を測定している。この結果を利用して、学生は自らの活動と能力開発との相関を意識し、社会で活躍する社会人の結果と自身の結

果を比較することにより自己理解を深め、自身のキャリアデザインの更なる充実を促進している。

#### ■キャリア相談体制の確立

低学年からのキャリア意識の向上やインターンシップへの参加学生の増加などにより、個別相談の件数は増加の一途を辿る。そのため、国家資格等を保有する専門のキャリアカウンセラーを配置し、学生のキャリアに関する相談対応を行っている。

また、相談対応の質を高めるために、スタッフ同士で随時ケース討論会を含めた研修会を実施している。

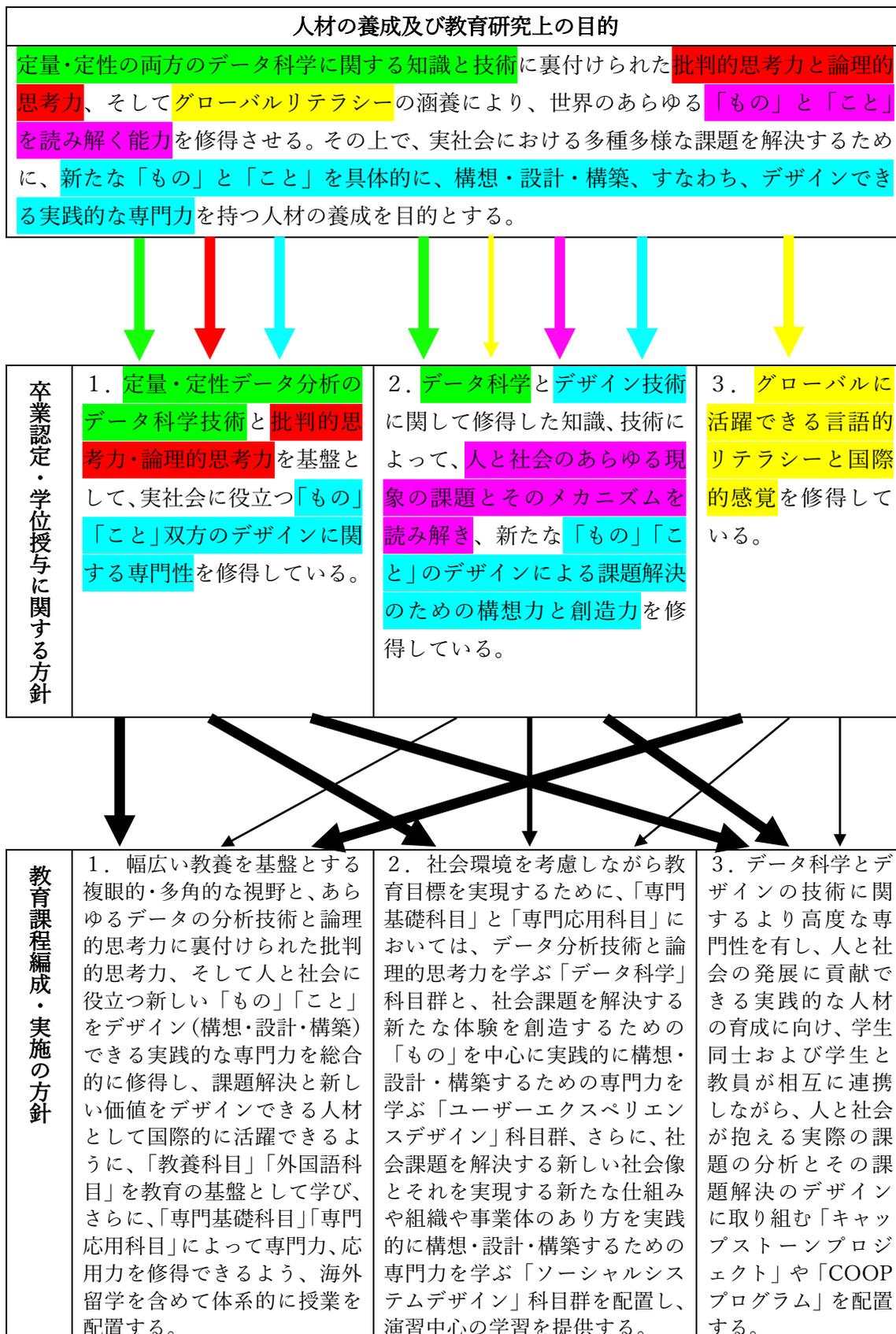
#### (3) 適切な体制の整備

学生の社会的・職業的自立を支援するために、キャリア委員会と事務局キャリア支援センターを設置している。キャリア委員会は、各学科及び各専攻から選出された就職担当教員と事務局キャリア支援センターの職員により構成されており、学生の就職支援及びキャリア形成支援を行っている。事務局キャリア支援センターは、半期に一度、学生の進路希望調査に基づき、全学科の学生と面談を行い、学生のニーズに応じたキャリア支援を行っている。その他、インターンシップや就職に関する対策講座やキャリアデザイン講座の企画・実施、新規企業の開拓を含めた求人票の受付及びインターネット上での求人票の公開、国家資格等を持つ専門のキャリアカウンセラーによる個別カウンセリングを実施している。就職担当教員は、各学科及び各専攻の就職担当窓口として、企業対応や求人の開拓を行っている。就職担当教員と事務局キャリア支援センターは求人情報や学生の就職状況を共有し、学科及び専攻内で把握をした就職未決定者を事務局キャリア支援センターに引き継ぎ、カウンセリングや求人紹介を行っている。教職員が連携してきめ細やかな学生の支援を行う体制が確立していることが本学のキャリア支援の特徴であり、支援を受けた多くの学生が自身の納得する企業等から内定を得ることができている。

# 資 料 目 次

- 資料 1 人材の養成及び教育研究上の目的、卒業認定・学位授与に関する方針、教育課程編成・実施の方針の関係図
- 資料 2 カリキュラムマップ
- 資料 3 履修モデル
- 資料 4 既設学部における主要なインターンシップ先企業（過去 5 年間）
- 資料 5 学習指導要領と教科等との関連性や接続性
- 資料 6 各入試制度の趣旨・主な判定方法・学力の 3 要素との関係性
- 資料 7 外国人留学生特別選抜・帰国生徒特別入試・社会人特別入試の概要
- 資料 8 東京都市大学職員定年規程
- 資料 9 東京都市大学教育職員特別任用規程
- 資料 10 完成年度（令和 8 年度）を想定した使用教室数のシミュレーション結果

人材の養成及び教育研究上の目的、卒業認定・学位授与に関する方針、教育課程編成・実施の方針の関係図



## カリキュラムマップ

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修/選択	卒業認定・学位授与に関する方針 との関係 ◎強く関連 ○関連				
					DP1	DP2	DP3		
教養 科目	人文 学系	倫理学(1)	1前	2	選択			◎	
		倫理学(2)	1後	2	選択			◎	
		倫理学(a)	1後	1	選択			◎	
		倫理学(b)	1後	1	選択			◎	
		視覚芸術史(1)	1前	2	選択		◎	○	
		視覚芸術史(2)	1後	2	選択		◎	○	
		デザイン概論(1)	2前	2	選択		◎		
		デザイン概論(2)	2後	2	選択		◎		
		日本史(1)	1前	2	選択			◎	
		日本史(2)	1後	2	選択			◎	
		西洋史(1)	1前	2	選択			◎	
		西洋史(2)	1後	2	選択			◎	
		社 会 科 学 系	社会学入門(a)	1前	1	選択		○	◎
			社会学入門(b)	1前	1	選択		○	◎
日本経済論(a)	3前		1	選択			◎		
日本経済論(b)	3前		1	選択			◎		
西洋経済史	1前・後		2	選択			◎		
日本の政治(a)	2前		1	選択			◎		
日本の政治(b)	2前		1	選択			◎		
日本国憲法	1前・後		2	選択			◎		
法学	1前		2	選択			◎		
民法	1後		2	選択			◎		
人 間 科 学 系	心理学入門	1前	2	選択	○		◎		
	社会とジェンダー(a)	1後	1	選択			◎		
	社会とジェンダー(b)	1後	1	選択			◎		
	日本文化の伝承(a)	1後	1	選択			◎		
	日本文化の伝承(b)	1後	1	選択			◎		
	スポーツ・健康論	1前・後	2	選択			◎		
情 報 科 学 系	データサイエンスリテラシー(1)	1前・後	1	選択	◎				
	データサイエンスリテラシー(2)	1前・後	1	選択	◎				
	環境問題と社会	1前	2	選択		○	◎		
	情報編集入門	1後	2	選択	◎				
グ ロ ー バ ル 教 養 系	Japan Studies	2前・後	2	選択必修			◎		
	Global Studies(1)	2前・後	2	選択必修			◎		
	Global Studies(2)	2前・後	2	選択必修			◎		
	Global Studies(3)	2前・後	2	選択必修			◎		
	Global Studies(4)	2前・後	2	選択必修			◎		
	Intercultural Understanding(1)	2前・後	2	選択必修			◎		
	Intercultural Understanding(2)	2前・後	2	選択必修			◎		
そ の 他	教養特別講義	1前・後	2	選択			◎		
	ボランティア(1)	1・2・3・4	1	選択		○	◎		
	ボランティア(2)	1・2・3・4	1	選択		○	◎		
	インターンシップ(1)	1・2・3・4	1	選択		○	◎		
	インターンシップ(2)	1・2・3・4	1	選択		○	◎		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修/選択	卒業認定・学位授与に関する方針との関係 ◎強く関連 ○関連		
					DP1	DP2	DP3
外国語科目	English I-A	1前	1	必修			◎
	English I-B	1前	1	必修			◎
	English II-A	1前・後	1	必修			◎
	English II-B	1前・後	1	必修			◎
	English III-A	1前・後	1	必修			◎
	English III-B	1前・後	1	必修			◎
	Reading Comprehension	1後・2前	2	選択			◎
	Debate & Discussion	1後・2前	2	選択			◎
	Presentation Strategies	1後・2前	2	選択			◎
	English Test Preparation	1後・2前	2	選択			◎
	Writing Strategies	1後・2前	2	選択			◎
	Academic Reading	1後・2前	2	選択必修			◎
	Academic Discussion	1後・2前	2	選択必修			◎
	Academic Presentation	1後・2前	2	選択必修			◎
	English Test Preparation for Academic Purposes	1後・2前	2	選択必修			◎
Academic Research & Writing	1後・2前	2	選択必修			◎	
専門基礎科目	データサイエンス概論	1前	2	必修	◎		
	コンピュータ基礎演習	1前	2	必修	◎	○	
	プログラミング基礎演習	1後	2	選択必修	◎	○	
	データサイエンス数学	1前	2	選択必修	◎		
	統計学基礎	2前	2	選択必修	◎		
	統計データ解析演習	2後	2	選択必修	◎	○	
	情報学理論	1前	2	選択必修	◎		
	アルゴリズムとデータ構造	1後	2	選択必修	◎		
	機械学習論	2前	2	選択必修	◎		
	データマイニング	2後	2	選択必修	◎		
	データベース	2後	2	選択必修	◎		
	データ社会論	1後	2	選択必修	◎	○	
	量的ユーザー調査	1後	2	選択必修	◎	○	
	質的ユーザー調査	1後	2	選択必修	◎	○	
	経営分析論	2前	2	選択	◎	○	
業務プロセス分析	2前	2	選択	◎	○		
ユーザーエクスペリエンス	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	1前	2	必修	◎	○	
	デザインプレゼンテーション	2前	2	選択	◎	○	
	デザインプロトタイピング(1)	2前	2	選択	◎	○	
	ウェブプログラミング	2後	2	選択	◎	○	
	情報デザイン	2後	2	選択	◎	○	
	デザインリサーチ	3前	2	選択	◎	○	
ソーシャルシステム	ソーシャルシステムデザイン入門	1後	2	必修	◎	○	
	金融・市場システム論	2後	2	選択	◎	○	
	サービスイノベーション	2前	2	選択	◎	○	
	経営戦略概論	2前	2	選択	◎	○	
	総合的品質管理	2後	2	選択	◎	○	
	オペレーションマネジメント	2後	2	選択	◎	○	
その他	SD PBL (1)	1前	1	必修		◎	
	SD PBL (2)	2前	1	必修		◎	
	SD PBL (3)	3後	1	必修		◎	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修/選択	卒業認定・学位授与に関する方針との関係 ◎強く関連 ○関連		
					DP1	DP2	DP3
専門応用科目	プログラミング応用演習	2前	2	選択	◎		
	機械学習演習	2後	2	選択	◎		
	ビッグデータ解析演習	3前	2	選択	◎		
	ベイズ統計学	3前	2	選択	◎		
	ニューラルネットワーク	3前	2	選択	◎		
	画像・音声処理	3後	2	選択	◎		
	自然言語処理	3後	2	選択	◎		
	ウェブデータ処理	3後	2	選択	◎		
	企業経営分析ケーススタディ	3前	2	選択	○	◎	
ユーザエクスペリエンス	デザインプロトタイピング(2)	3前	2	選択	○	◎	
	ブランドコンセプトデザイン	3後	2	選択	○	◎	
	インタフェースデザイン	3前	2	選択	○	◎	
	感性デザイン演習	3前	2	選択必修	○	◎	
	デザインプロダクション演習	3後	2	選択必修	○	◎	
	インタラクションデザイン演習	3後	2	選択必修	○	◎	
ソーシャルシステム	ビヘイビアル・ファイナンス	3前	2	選択	○	◎	
	リスク&クライシスマネジメント	3後	2	選択	○	◎	
	未来創造デザインプロジェクト	3後	2	選択	○	◎	
	サービスシステムデザイン演習	3前	2	選択必修	○	◎	
	サプライチェーンデザイン演習	3後	2	選択必修	○	◎	
	ビジネスシステムデザイン演習	3後	2	選択必修	○	◎	
その他	特別講義	1前・後	2	選択			◎
	海外インターンシップ	2・3・4	2	選択		◎	◎
	COOPプログラム	4前	4	選択	◎	◎	◎
	キャップストーンプロジェクト	4後・前	4	必修	◎	◎	◎

## 履修モデル【データ科学重視】

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目		教養選択科目(2単位)	教養選択科目(2単位)			Japan Studies	教養選択必修科目 インターンシップ(1)	教養選択必修科目 教養選択必修科目	教養選択必修科目
外国語科目		English I-A	English II-A	English III-A	英語選択科目	英語選択科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目
		English I-B	English II-B	English III-B					
専門基礎科目	データ科学	データサイエンス概論	プログラミング基礎演習	統計学基礎	統計データ解析演習				
		コンピュータ基礎演習	アルゴリズムとデータ構造	機械学習論	データベース				
		データサイエンス数学	データ社会論	経営分析論	データマイニング				
		情報学理論	量的ユーザー調査 質的ユーザー調査	業務プロセス分析					
	ユーザーエクスペリエンスデザイン	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門		ウェブプログラミング		情報デザイン	デザインリサーチ		
	ソーシャルシステムデザイン	ソーシャルシステムデザイン入門	経営戦略概論	金融・市場システム論	プロジェクトマネジメント		サービスイノベーション		
	その他	SD PBL(1)		SD PBL(2)			SD PBL(3)		
専門応用科目	データ科学			プログラミング応用演習	機械学習演習	ベイズ統計学	自然言語処理		
						ビッグデータ解析演習	画像・音声処理		
						ニューラルネットワーク	ウェブデータ処理		
						企業経営分析 ケーススタディ			
	ユーザーエクスペリエンスデザイン	必修科目			インタフェースデザイン	インタラクションデザイン演習		ブランドコンセプトデザイン	
	ソーシャルシステムデザイン	選択必修科目			ビヘイビアル・ファイナンス	リスク&クライシスマネジメント 未来創造デザインプロジェクト	サービスシステムデザイン演習		
	その他	選択科目					COOPプログラム	キャリアストーンプロジェクト	

履修モデル【ユーザーエクスペリエンスデザイン重視】

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目		教養選択科目(2単位)	教養選択科目(2単位)			Japan Studies	教養選択必修科目 インターンシップ(1)	教養選択必修科目 教養選択必修科目	教養選択必修科目
外国語科目		English I-A English I-B	English II-A English II-B	English III-A English III-B	英語選択科目	英語選択科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目
専門基礎科目	データ科学	データサイエンス概論 コンピュータ基礎演習 データサイエンス数学 情報学理論	プログラミング基礎演習 アルゴリズムとデータ構造 データ社会論 量的ユーザー調査 質的ユーザー調査	統計学基礎 機械学習論 経営分析論	統計データ解析演習 データベース データマイニング				
	ユーザーエクスペリエンスデザイン	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	デザインレベネーション デザインロト化(1)	ウェブプログラミング 情報デザイン	デザインリサーチ				
	ソーシャルシステムデザイン		ソーシャルシステムデザイン入門	サービスイノベーション	プロジェクトマネジメント			経営戦略概論	
	その他	SD PBL(1)		SD PBL(2)			SD PBL(3)		
	データ科学			プログラミング応用演習	機械学習演習	企業経営分析 ケーススタディ	画像・音声処理 ウェブデータ処理	ビッグデータ解析演習	
専門応用科目	ユーザーエクスペリエンスデザイン	必修科目				デザインロト化(2) インタフェースデザイン 感性デザイン演習	ブランドコンセプトデザイン インタラクションデザイン演習 デザインロト化演習		
	ソーシャルシステムデザイン	選択必修科目				ビヘイビアル・ファイナンス	リスク&クライシスマネジメント	サービスシステムデザイン演習	未来創造デザインプロジェクト
	その他	選択科目						COOPプログラム	キャップストーンプロジェクト
	その他								

履修モデル【ソーシャルシステムデザイン重視】

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目		教養選択科目(2単位)	教養選択科目(2単位)			Japan Studies	教養選択必修科目 インターンシップ(1)	教養選択必修科目 教養選択必修科目	教養選択必修科目
外国語科目		English I-A English I-B	English II-A English II-B	English III-A English III-B	英語選択科目	英語選択科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目	英語選択必修科目
専門基礎科目	データ科学	データサイエンス概論 コンピュータ基礎演習 データサイエンス数学 情報学理論	プログラミング基礎演習 アルゴリズムとデータ構造 データ社会論 量的ユーザー調査 質的ユーザー調査	統計学基礎 機械学習論 業務プロセス分析	統計データ解析演習 データベース データマイニング	経営分析論			
	ユーザーエクスペリエンスデザイン	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門				デザインロト化(1)			
	ソーシャルシステムデザイン		ソーシャルシステムデザイン入門	経営戦略概論 サービスイノベーション	金融・市場システム論 オペレーションマネジメント 総合的品質管理			プロジェクトマネジメント	
	その他	SD PBL(1)		SD PBL(2)			SD PBL(3)		
専門応用科目	データ科学			プログラミング応用演習	機械学習演習	ベイズ統計学 ビッグデータ解析演習	ウェブデータ処理	企業経営分析 ケーススタディ	
	ユーザーエクスペリエンスデザイン					感性デザイン演習	ブランドコンセプトデザイン デザインロケーション演習	デザインロト化(2)	
	ソーシャルシステムデザイン	必修科目 選択必修科目 選択科目				ビヘイビアル・ファイナンス サービスシステムデザイン演習	リスク&クライシスマネジメント ビジネスシステムデザイン演習 サプライチェーンデザイン演習		未来創造デザインプロジェクト
	その他							COOPプログラム	キャリアストーリープロジェクト

## 既設学部における主要なインターンシップ先企業（過去 5 年間）

区分	企業・団体等名
東急グループ インターンシップ	東京急行電鉄株式会社
	東急建設株式会社
	東急テクノシステム株式会社
	株式会社東急設計コンサルタント
	東急住宅リース株式会社
	東急リバブル株式会社
	株式会社東急グルメフロント
	株式会社東急ハンズ
	株式会社東急レクリエーション
	株式会社東急ストア
	東急バス株式会社
株式会社羽田エクセルホテル東急	
地方公共団体	横浜市都筑区役所
	横浜市役所
企業など	Sky 株式会社
	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
	大日本コンサルタント株式会社
	株式会社中央コンピュータシステム
	東京海上日動システムズ株式会社
	株式会社ハイマックス
	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
	大和リース株式会社
	独立行政法人都市再生機構
	日本電気株式会社
海外 インターンシップ	City Government of Tarlac
	La Paz Christian Academy
	English Central, Inc.
	KINOKUNIYA BOOK STORES (THAILAND) CO., LTD.
	Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
	IHI ASIA PACIFIC PTE. LED.
	PT. Secom Indonesia
	Man to Man Boarding School INC.
	Great Eastern Institute
	Thai Secom Security Co., Ltd.

※国内企業・団体については、受け入れ実績 5 名以上を抽出

## 学習指導要領と教科等との関連性や接続性

デザイン・データ科学部：入学前に学習しておくことが望ましい内容		
学習指導要領 令和4年度 高校3年生の場合		教科等との関連性や接続性
教科等	科目	
国語	国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B	デザイン・データ科学部の学修では、様々な文献や資料を読み解き、レポートや論文を作成する機会も多いため、「国語」教科は、そうした機会においても有効な力になります。加えて、人々の意見をより正確に聴取・要約する力や、グループワーク等で自分の意見を簡潔に論じる表現力、他者との間でコミュニケーションに基づいて合意形成を行う力などが求められます。そのため、必修科目「国語総合」のみならず、複数学年にわたり継続的に複数の科目を履修していることが望まれます。
地理歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	デザイン・データ科学部の学修では、社会学や情報学の専門分野のみならず、豊かな教養も身につけていきます。特に、グローバルに発展拡大する情報社会の諸問題の発見や分析をするためには、世界の各地域における歴史、文化、地域性に関する知識や能力が求められます。そのため、「地理歴史」教科においては、複数学年にわたり継続的に複数の科目を履修し、社会や歴史に関する関心を高めておくことが望まれます。
公民	現代社会 倫理 政治・経済	デザイン・データ科学部の学修では、基礎的な教養として、現代社会や生活における仕組みや課題を理解していることが重要です。現状の社会の仕組みに基づき、新たな社会の課題解決を指向します。そのため、「公民」教科の学びは大切であり、履修した科目については内容を深く理解していることが望まれます。
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学活用	デザイン・データ科学部の学修では、データ分析や情報処理に関連する科目を履修します。それらの科目の円滑な理解には、しっかりとした数学の力が求められるため、「数学」教科の知識が基盤となります。そのため、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」を履修し、内容を深く理解していることが望まれます。
理科	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学 理科課題研究	デザイン・データ科学部の学修では、情報系の専門知識のみならず、自然科学に関する豊かな教養も身につけていきます。そのため、「理科」教科においては、複数の科目の履修とともに科学への関心を高めておくことが望まれます。
保健体育	体育 保健	デザイン・データ科学部の学修では、「保健体育」教科を通じて、心と体を一体としてとらえ、自己の状況に応じて体力の向上を図り、健康を適切に管理する資質や能力を身につけていることが望まれます。
芸術	音楽Ⅰ～Ⅲ 美術Ⅰ～Ⅲ 工芸Ⅰ～Ⅲ 書道Ⅰ～Ⅲ	デザイン・データ科学部の学修では、「芸術」教科を通じて、芸術文化についての理解を深めるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、デザイン・データ科学部の学修全般にも有効な資質や能力として身につけていることが望まれます。
外国語	コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	デザイン・データ科学部の学修では、グローバルに活躍できる言語的リテラシーと異文化理解に基づく国際感覚の修得を目指し、様々な英語科目の履修を通して、読解力、聴解力、論理的思考力、批判的分析能力、明確かつ論理的な発信力を養っていきます。これらの学修のためにも、「外国語」教科の、特に「英語」は重要であり、必修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」のみならず、3学年にわたり継続的に複数の科目を履修していることが強く望まれます。
家庭	家庭基礎 家庭総合 生活デザイン	デザイン・データ科学部の学修では、「家庭」教科を通じて、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を体得し、デザイン・データ科学部の学修全般にも有効な資質や能力として身につけていることが望まれます。
情報	社会と情報 情報の科学	デザイン・データ科学部の学修では、情報系の専門的な知識を深めるため、「データサイエンス概論」「コンピュータ基礎演習」を必修科目として、「プログラミング基礎演習」「データサイエンス数学」などの専門基礎科目のほか、統計学や機械学習など、数多くの情報関連科目を履修します。そのため「情報」教科は重要であり、科目の履修とともに情報技術への関心を高めておくことが望まれます。
総合的な学習の時間		デザイン・データ科学部の学修では、「総合的な学習の時間」を通じて、横断的・総合的な学習や探究的な学習を経験することで、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、協働的な態度とともに、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけていることが望まれます。

## 各入試制度の趣旨・主な判定方法・学力の3要素との関係性

入試制度	入試制度の趣旨	主な判定方法	学力の3要素との連動		
			知識技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
共通テスト利用入試 (前期3教科型)	当該学科に関連する科目について、一定水準以上の学力を有していることを重視し、大学入学共通テストによる3教科の結果によって判定する。  「①大学入学共通テスト」の教科 「外国語(英語)」を必須とし、「国語」「地理歴史・公民」「数学」「理科」の中から高得点2教科による計3教科で判定する。	①大学入学共通テスト (3教科) ○自己分析・関連情報	●	○	△
共通テスト利用入試 (前期5教科基準点型)	広く一定水準の学力を有していることを重視し、大学入学共通テストによる5教科の結果によって判定する。  「①大学入学共通テスト」の教科 「外国語(英語)」「国語」「地理歴史・公民」「数学」「理科」の5教科による合計点において、本学の定める基準点により判定する。	①大学入学共通テスト (5教科) ○自己分析・関連情報	●	○	△
一般選抜 (前期)(中期)(後期)	当該学科に関連する科目について、一定水準以上の学力を有していることを、試験によって判定する。  「①科目試験(3or2教科)」の教科 前期 ①「理科」または「地理歴史」 ②「数学」または「国語」 ③「英語」 の3教科で判定する。 中期及び後期 ①「数学」または「国語」 ②「英語」 の2教科で判定する。	①科目試験 (3or2教科) ○自己分析・関連情報	●	●	△
共通テスト利用入試 (後期3教科小論文型)	当該学科に関連する科目について、一定水準以上の学力を有していることを重視し、大学入学共通テストによる3教科の結果と、課題読解を含めた小論文を組み合わせ、さらに調査書を含めた多角的な基準で「学力の3要素」を総合的に判定する。	①調査書 ②大学入学共通テスト ③小論文 ○自己分析・関連情報	● ●	○ ●	● ● △
総合型選抜 (1段階選抜制) 創造デザイン入試	素材として提供したデータに基づき、それらを分析して独自の視点で課題発見したり提案をデザインすることで、デザイン・データ科学部への適性や判定する。	①調査書 ②志望理由書 ③課題レポート ④面接	● ● ●	● ● ●	● ● ●
総合型選抜 (2段階選抜制)	書類審査を1次選考とする2段階選抜日程の総合型選抜。 当該学科に関する基礎学力・適性・学習意欲・目的意識を有しているとともに、特別な能力や豊富な活動経験を有する活力ある者(科学や芸術などの特定分野で卓越した能力を磨いてきた者)を受け入れる。	1次選考(書類審査) ①調査書 ②志望理由書 ③自己アピール申請書 ④活動記録票  2次選考 ⑤適性検査 ⑥面接	● ○ ○ ○  ○	● ● ● ○  ●	● ● ● ○  ●

入試制度	入試制度の趣旨	主な判定方法	学力の3要素との連動		
			知識技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
学校推薦型選抜 (指定校制)	進学実績等をもとに選定した高等学校から、高等学校長の推薦に基づき、東京都市大学で勉学するに適した優秀な生徒を、適切な学力確認等を行ったうえで入学を受け入れる。 面接ではプレゼンテーションを行う。	①調査書 ②志望理由書 ③課題論文 ④推薦書 ⑤AP対応状況自己診断書 ⑥グローバル意識・留学意欲調査票 ⑦面接	●  ○ ●   ○	●  ○ ●   ●	●  ○ ●   ●
学校推薦型選抜 (公募制)	全国の高等学校を対象とし、一定水準の学力を有した者を、高等学校長の推薦に基づき、適切な学力確認等を行ったうえで入学を受け入れる。 また、多様な条件による複数のエントリー方法を設定する。 面接ではプレゼンテーションを行う。	①調査書 ②志望理由書 ③推薦書 ④小論文 ⑤面接	●  ● ● ● ●	●  ● ● ● ●	●  ●  ●  ●
付属進学制度	本学の付属高校において優れた学力を有し、当該学科に関して高い学習意欲・明確な目的意識を有した者を受け入れる。 面接ではプレゼンテーションを行う。	○付属進学テスト ①調査書 ②志望理由書 ③推薦書 ④面接(プレゼン型)	● ●  ●	●  ● ●	●  ● ●

## 外国人留学生特別選抜・帰国生徒特別入試・社会人特別入試の概要

## 外国人留学生特別入試

## 1. 入試制度の趣旨

外国人留学生について、当該学科に関する基礎学力・高い学習意欲・明確な目的意識を有している学生を受け入れる。

## 2. 入学資格・出願要件

■「入学資格」は本学学則第 25 条による。

■「出願要件」は本学学則第 25 条「(3)外国において 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」を基本として、次のすべての要件に該当すること。

- ① 外国において、日本国以外の通常の学校教育課程の 12 年間で修了のうえ、その国の大学入学資格を有する者、または見込みの者。
- ② ①に準ずる者で、日本国文部科学大臣が指定する教育施設において、日本国の大学に入学するための準備教育を行う課程を修了した者、または修了見込みの者。
- ③ ①に準ずる者で、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格（ドイツ）取得者、バカロレア資格（フランス）取得者等、または資格取得見込みの者。
- ④ ①～③のいずれかに準ずると認められる者。※本学において入学資格審査を行い、出願資格を認める。

（注 1）修了見込み・取得見込みの場合は、2023 年 3 月 31 日までに修了あるいは取得すること。

（注 2）12 年間の教育の中で、日本国内に設置された日本国以外の教育制度による学校において日本国の中学校・高等学校に相当する課程に在籍した期間が通算 2 年以内であり、かつ卒業した高等学校が外国に所在する日本国以外の教育制度による学校であること。

（注 3）独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」について 2021 年 11 月または 2022 年 6 月実施回を受験済みの者。

（注 4）「出入国管理および難民認定法」による在留資格が「留学」である者、または入学時まで在留資格「留学」を取得見込みの者。

（注 5）出願時において日本国内に居住していることを原則とする。

## 3. 選考方法

- ①出願書類
- ②日本留学試験の結果
- ③面接（英語の口頭試問を含む）

## 帰国生徒特別入試

### 1. 入試制度の趣旨

当該学科に関する基礎学力・高い学習意欲・明確な目的意識を有していることを前提とし、帰国生徒を受け入れる。

### 2. 入学資格・出願要件

■「入学資格」は本学学則第25条による。

■「出願要件」は次のすべての要件に該当すること。

①前記「入学資格」を満たす者（以下を含む）。

※入学資格に付記 令和5（2023）年3月31日までに卒業、修了または合格見込みの者

※入学資格に付記 令和5（2023）年3月31日までに18歳に達する者

②日本国籍を有し、次のいずれかに該当する者。

（ア）日本国以外において、日本の高校に相当する外国の教育課程に1.5年以上在学し、12年間の普通教育を2021年9月1日から2023年3月31日の間に修了または修了見込みの者。

（イ）日本国以外において、日本の中等教育課程に相当する教育課程に通算して4年以上在学し、12年間の普通教育を2021年9月1日から2023年3月31日の間に修了または修了見込みの者。

（ウ）本学が上記（ア）、（イ）に準ずると認めた者。

### 3. 選考方法

①出願書類を総合的に評価

②適性検査（基礎的な英語・国語・数学の総合問題）

③面接（プレゼンテーションを含む）

### 4. 履修指導方法・教育上の配慮等

前記の通り、認定された在外教育施設を含んでいないのは、帰国生徒としての対象者に外国ならではの体験を求めていることによる。「英語」をはじめとした基礎能力を確認して、入学後の履修困難な状況が発生しないようにしている。

## 社会人特別入試

### 1. 入試制度の趣旨

当該学科に関する基礎学力・高い学習意欲・明確な目的意識を有していることを前提とし、学び直しや新しい分野の学修をしたい社会人を受け入れる。

### 2. 入学資格・出願要件

■「入学資格」は本学学則第 25 条による。

■「出願要件」は次のすべての要件に該当すること。

①前記「入学資格」を満たす者（社会人なので修了見込み者は含まない）。

②社会人特別入試の趣旨に基づき、以下の条件を満たす者。

▷ 当該学部で教育を受けるに十分な基礎学力を有している者

▷ 実社会での職務経験が2年以上で、令和5(2023)年4月1日現在で満23歳以上の者

▷ 学び直しや新しい分野の学修をしたいという意欲を有する者

### 3. 選考方法

①出願書類を総合的に評価

②小論文

③面接（学修内容の確認を含む）

### 4. 履修指導方法・教育上の配慮等・既修得単位の認定

当該入試による入学者については既修得単位の認定は行わない。通常の教育課程により、基礎から段階的な知識を身につけることができる。なお、別途「編入学試験」も設定しており、事前審査も行っている。その際には単位認定と、入試科目における学力試験の免除等を行っており、社会人にはそうした選択肢も紹介しながら入試について説明している。

○東京都市大学職員定年規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東京都市大学に勤務する専任職員（学長は除く。）の定年に関する事項を定めたものである。

(定年と退職)

第 2 条 定年は満 65 歳とし、定年に達した者は、その学年度の末日をもって退職するものとする。ただし、事務職員が定年に達したときは、その翌日をもって退職するものとし、その結果業務に支障をきたすときは、その年度の末日まで退職の日を延ばすことができる。

(退職金の支給)

第 3 条 定年による退職者に対しては、東京都市大学職員退職金支給規程により退職金を支給する。

○東京都市大学教育職員特別任用規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号）第5条第2項の規定に基づき、東京都市大学（以下「本学」という。）の発展のため任期を付して特別に任用する教育職員（以下「特任者」という。）に関する事項について定めるものとする。

(特任者の資格)

第2条 特任者は、次の各号の一に該当し、教育及び研究に著しい業績を有し、人格識見ともに優れ、かつ、本学が特に必要と認めた者とする。

- (1) 定年に達した本学の教授
- (2) 各学部教員資格基準に規定する教授、准教授及び講師の資格に準ずる本学以外の者
- (3) 本学在職中であるが、本人の希望により特任者とするのが相応しい教授、准教授及び講師

(特任者の審査)

第3条 学長が特任者を必要と認めたとき、学長は、大学協議会の意見を参考にして、次条に定める特任者審査委員会に諮るものとする。

(特任者審査委員会)

第4条 特任者審査委員会（以下「審査委員会」という。）は、次の各号の者をもって構成し、申請された特任者が、第2条に示す資格基準を満たしているかを審査する。

- (1) 大学院研究科長及び学部長
  - (2) 委員長が指名する者（3名以内、ただし、大学協議会構成員1名以上を含むものとする。）
- 2 委員長は、学長が指名する。
  - 3 審査委員会は、当該特任者の適否を審議する。
  - 4 審査委員会委員長は、選考の適否を文書により学長に報告する。
  - 5 審査委員の任期は、審査の結果を報告した日までとする。

(特任者の任命)

第5条 特任者は、学長の具申により理事長が任命する。

(特任者の任期)

第6条 特任者の任期は、次の各号による。

- (1) 第2条第1号の者の任期は、2年以内とし、任期満了後の更新は妨げないが、70歳を上限とする。
- (2) 第2条第2号の者の任期は、2年以内とし、任期満了後の更新は妨げないが、通算5年を限度とする。ただし、特別な理由がある場合に限り、第3条及び第4条により、再度審査を経た上で、70歳を上限として任用することができる。
- (3) 第2条第3号の者は、本学職員定年規程による。

(任期の更新)

第7条 特任者の任期の更新は、大学協議会の意見を聴取し、学長の具申により理事長が決定する。

(契約)

第8条 特任者は、別に定める契約書により契約を締結するものとする。

(所属)

第9条 特任者は、大学院研究科専攻、学部学科、総合研究所等の各部署、又は学長に、所属する。

(業務)

第10条 特任者は、本学の発展に特に寄与する業務を行う。又、大学院・学部の授業及び研究指導を行うことができる。

2 担当業務により教育・研究費の支給を受けることができる。

(管理職への就任)

第11条 特任者は、教育系管理職に就任することはできない。ただし、専攻及び学科新設等業務において責任者としての立場にあるとき、又は特別な理由があるときは、次の各号に掲げる教育系管理職の候補者としてすることができる。

(1) 総合研究所所長

(2) 主任教授

(3) 専攻主任教授

(4) 原子力研究所所長

2 前項の規定については、特任者が、大学の収容定員増加を伴う学部新設等業務において責任者としての立場にあるときは、この限りでない。

(会議への出席)

第12条 会議及び代表者選出における特任者の取扱いは、次の各号による。

(1) 特任者のうち、前条第1項第2号、第4号に任命された者は、所属学部教授会の構成員（議決権を有する。）とする。又、教授会が学長に推薦する学部長候補者選出の際に投票権を有するものとする。ただし、大学の収容定員増加を伴う学部を新設する場合において、特任者のうち所属学部教授会の構成員（議決権を有する。）となる者は、所属学部教授会規程の定めによることができる。

(2) 特任者のうち、研究科委員会の構成員（議決権を有する。）となる者は、各研究科委員会運営規程の定めによるものとする。又、研究科委員会が学長に推薦する大学院研究科長候補者選出の際に投票権を有するものとする。

(3) 各学科等が設置する会議における特任者の取扱いは、各学科等の定めによるものとする。又、学科等代表者の選出への関与については、所属する学科等において決定する。

(職名)

第13条 特任者は各資格に応じそれぞれ、特任教授、特任准教授及び特任講師と称し、対外的には特任を省くことができる。

(給与)

第14条 特任者の給与は、次の各号による。

- (1) 第2条第1号の者 基本給は特任する内容に応じて定年時の5割を上限として定める。
- (2) 第2条第2号の者 基本給は東京都市大学基本給算定要領を準用した上で、1週あたりの勤務日数を勘案し、学長の具申により理事長が決定する。
- (3) 第2条第3号の者 基本給は、特任する内容に応じて特任者となる直近の5割を上限として定める。ただし、学長が特に必要と認め、かつ、理事長が承認した場合は、この限りではない。

(退職金)

第15条 退職金は、支給しない。ただし、第2条第3号の者については、特任前及び特任後を区分した上で合算して支給する。

(その他)

第16条 この規程に定めのない事項が生じた場合は、その都度協議の上決定する。

(改廃)

第17条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学長の具申に基づき理事長が行う。

完成年度（令和 8 年度）を想定した使用教室数のシミュレーション結果

曜日	学期	教室数	使用教室数	使用率(%)
月	前期	175	107	61.1
	後期	175	91	52.0
火	前期	175	92	52.6
	後期	175	82	46.9
水	前期	175	45	25.7
	後期	175	42	24.0
木	前期	175	110	62.9
	後期	175	91	52.0
金	前期	175	98	56.0
	後期	175	87	49.7
土	前期	175	1	0.6
	後期	175	2	1.1
全体		2,100	848	40.4

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
①学生の確保の見通し	・・・ p. 2
ア. 定員充足の見込み	・・・ p. 2
イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	・・・ p. 5
ウ. 学生納付金の設定の考え方	・・・ p. 8
②学生確保に向けた具体的な取組状況	・・・ p. 8
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・ p. 10
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	・・・ p. 10

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ①学生の確保の見通し

#### ア. 定員充足の見込み

本学は、「学則の変更の趣旨等を記載した書類」で前述のとおり、建学の精神である「公正、自由、自治」の下、実践的な専門性を重視した教育理念を掲げ、社会からの要請に応えるべく教育・研究の改革を継続的に実行してきた。その結果、本学の教育・研究が、高校生やその保護者、高校の進路指導担当教員等の様々なステークホルダーから十分に認知、評価され、本学の過去5年間の入試動向を見てみると、平均志願者数は27,153.8名、平均志願倍率（志願者数÷入学定員）は16.70倍と高倍率であった（資料1）。また、東洋経済ONLINE（2021年5月29日）『「最新！志願者数が多い大学」ランキングトップ50』によると、2021年志願者数ランキングは全国で28位と上位に位置付けられた（資料2）。より一層、社会からの要請に応えるべく、この度、デザイン・データ科学部を新設するため、収容定員の増員を行う。以下、デザイン・データ科学部における定員充足の見込みを述べる。

入学定員充足の見込みを説明するにあたり、i)本学における類似学部の過去の入試実績、ii)同分野を有する近隣大学の入学志願動向、iii)Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会と必要とされる人材については、中央教育審議会の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）に基づいて述べる。i)、ii)より短期的に定員充足に問題がないこと、そして、iii)より中長期的にも志願者数の確保が安定的に見込まれること、これらを合わせて、入学定員の設定の妥当性を説明する。

#### i)本学における類似学部の過去の入試実績

この度新設するデザイン・データ科学部の本学における類似学部として、情報工学部及びメディア情報学部があげられる。両学部における平成29年度から令和3年度までの過去5年間の入試動向を見てみると、情報工学部の志願者数は、平成29年度の2,425名に対し、令和3年度は4,782名と約2倍となっていることが分かる。メディア情報学部の志願者数は、平成29年度の1,779名に対し、令和3年度は3,113名と約1.7倍となっており、両学部共に大幅な増加傾向にあることがわかる（資料3）。

これらは、本学におけるグローバル教育の中核を担うオーストラリア・留学プログラムの展開、全学における数理・データサイエンス教育の推進・充実と、これに基づく文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定、さらには、近年のデジタル人材の必要性に関する興味・関心の高さによるものであると考えられる。

このように、過去5年間の入試動向から、本学における類似学部の志願者数は増加傾向にあり、平均志願倍率では情報工学部が23.62倍、メディア情報学部が15.76倍、また、直近の令和3年度の志願倍率についても情報工学部が26.57倍、メディア情報学部が16.38倍と高倍率である。当然に入学者についても安定して確保できているため、今後の学生確保の見通しに全く問題はないものとする。

## ii) 同分野を有する近隣大学の入学志願動向

本学では、志願者のうち、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県（以下、「首都圏1都3県」とする。）の在住者が、8割前後を占めている（資料4）。首都圏1都3県に所在し、学科名からデータサイエンスを学ぶことが分かる、中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科（東京都文京区）、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科（東京都江東区）を競合校として想定した。

両校の令和3年度入試の一般選抜における入試結果は、中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科の志願倍率が16.90倍、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科の志願倍率25.21倍といずれも高倍率であった。また、令和3年度の入学定員超過率は、中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科が0.91倍、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科が1.04倍と入学者数の観点でも、申し分ない状況であった（資料5）。これらより、安定的に入学者数を確保することができるものと考えている。

## iii) Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会と必要とされる人材

高度デジタル人材の養成に向けた数理・データサイエンス教育への関心の高まりは、政府が進めているSociety 5.0、第4次産業革命が目指す社会が影響していると考えられる。中央教育審議会の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）には2040年頃の社会変化の方向として「Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会」が次のように示されている。

第4次産業革命とも言われる、AI、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられることで、日本の強みとリソースを最大限活用して、誰もが活躍でき、様々な社会課題を解決できる、日本ならではの持続可能でインクルーシブな経済社会システムであるSociety 5.0（超スマート社会）の実現に向けた取組が加速している。また、同時に、資源や物ではなく、知識を共有、集約することで、様々な社会課題を解決し、新たな価値が生み出される社会である知識集約型社会の到来が予想されている。また、AIが人間の能力をはるかに超えていく（シンギュラリティ（技術特異点））のではないかという意見もある。他方、一部の企業や国がデータの囲い込みや独占を図る「データ覇権主義」、寡占化により、経済社会システムの健全な発展が阻害される懸念も指摘されている。既に様々な分野で、AIやIoT、ロボットといった共通基盤技術と、産業コア技術、関連データの多様な組合せにより、革新的な製品・サービスが生まれてきており、今後も急速に技術開発が進んでいくと考えられる。これらの技術革新は、AIやロボットによる職業代替可能性を格段に高め、仕事の仕方や身に付けておくべきスキルや能力を現在想定されているものから大きく変化させていくことが予想される。資本集約型・労働集約型経済から、知識集約型経済へと移行する中で、現時点では想像もつかない仕事に従事していくことも予想され、幅広い知識を基に、新しいアイデアや構想を生み出せる力が強みとなる。

Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会に必要なとされる人材は、予測不可能な時代を生

きぬくことができる人材である。その人材像は、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていくことができ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材である。デザイン・データ科学部では、人材の養成及び教育研究上の目的を「定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。」と規定している。Society 5.0、第4次産業革命が目指す社会に必要なとされる人材には、数理・データサイエンスに関する能力だけでなく、実社会における社会課題を対象に、新しい「もの」と「こと」をデザインする知識と技術や、グローバルに活躍できる高度な教養も身に付ける必要があり、プロジェクトワーク等を通じて実践的な能力を修得させる必要があると考える。

以上、i)、ii)及びiii)の考察から、デザイン・データ科学部は、短期的に定員充足に問題がないだけでなく、中長期的にも志願者数の確保が安定的に見込まれ、定員を充足し続ける見込みである。

また、「学則の変更の趣旨等を記載した書類」で前述のとおり、実験・実習や演習の授業形態を取り入れ、学生の主体性を引き出すアクティブ・ラーニングを積極的に進める。現在、本学が一丸となって取り組んでいる教育改革では、講義に演習を取り入れて、学生の主体性を引き出すアクティブ・ラーニングを進めること、さらに、持続可能な社会の発展に資する人材育成という本学の教育目標のためのオリジナルな授業科目であるSD PBL (Sustainable Development Project organized Problem Based Learning)を1年次から3年次までの必修科目として導入しており、学生の積極的な学びの姿勢を引き出すことを目指している。

具体的には、全学で実施する3年次のSD PBL(3)に至る学科毎の1～2年次のSD PBL(1)(2)について、本学部ではまず、シナリオなどによって提示される問題状況の中から解決すべき課題を見出し、その解決に取り組む。解決においては、発想法のひとつであるデザインシンキングの手法を、具体的なテーマを元に、製品マッピング、ユーザー調査、KJ法分析を使い、解決の過程で知識を獲得し対話により思考を深化させる体験を通して、専門分野に対する興味・関心を喚起させ(1年次)、現実に存在するような問題状況の中から解決すべき課題を見出し、データサイエンスやデザイン技術やデザイン思考の専門的な立場から課題解決に挑む基本的なツールやスキルを学ぶ。特に、クリティカルシンキング(批判的思考)を対象とし、情報の内容を的確に読み取り、それについて批判的に吟味することで、何を信じるべきか、すべきかについて決定することに集中する合理的、反省的思考を学ぶ(2年次)。演習形式を取り入れた講義は、100名以下の中規模教室での実施が望ましい。SD PBL(1)(2)(3)については、少人数のグループに分け、チームで取り組むことで他者と学び合う姿勢やスキル修得の機会を作りながらグループワークを行うことが必要である。

以上の教育手法に加えて、教員数と教室数を考慮すると、33～34名×3クラス=100名程度が適正な定員数と考えられる。

## イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

この度、新設するデザイン・データ科学部は、本学横浜キャンパス（神奈川県横浜市）に設置する。リクルート進学総研による首都圏 1 都 3 県の 18 歳人口の予測を見ると、2020 年を 100 とした時に微減し続け、2032 年には 94.5 であるものの、日本全体では 2032 年に 87.7 とさらに減少していることから、相対的に良好な環境にあるといえる（資料 6）。

また、令和 3 年度学校基本調査によれば大学等進学率は、東京都が全国 2 位で 69.0%、神奈川県が 5 位で 63.1%、埼玉県が 8 位で 60.7%、千葉県が 12 位で 58.2%と、いずれの都県も全国平均の 57.4%よりも高く、これらも入学定員充足の観点で地域的に良好な環境であることを示している（資料 7）。

日本私立学校振興・共済事業団『令和 3（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向』によると、本学部を設置する神奈川県に所在する学部の志願倍率（志願者数÷入学定員）は、過去 5 年間で 7 倍以上と高倍率であるとともに、入学定員充足率も 100%程度であった。同様に東京都に所在する学部の志願倍率は 9 倍以上、入学定員充足率は 100%程度、埼玉県に所在する学部の志願倍率は 6 倍以上、入学定員充足率は 100%前後、千葉県に所在する学部の志願倍率は 7 倍以上、入学定員充足率は 100%程度であった（資料 8）。また、学部系統別の入学志願動向では、「データサイエンス」が学部名に含まれている学部を包含する理・工学系学部の志願倍率は 11 倍以上であり、入学定員充足率も 100%程度であった（資料 9）。これらの観点からも志願者数を安定的に確保して、定員を充足することが可能であると考えている。

以下、定員充足の根拠となる客観的なデータについて、詳述する。

### i) 本学における類似学部の過去の入試実績等（留学生入試を含む）

本学全体における平成 29 年度から令和 3 年度までの過去 5 年間の入試動向から、志願者数が増加傾向にあることがわかる（資料 1）。特にデザイン・データ科学部の本学における類似学部・学科の 1 つであり、かつ、本学横浜キャンパスに位置するメディア情報学部情報システム学科の志願者数は、平成 29 年度の 1,011 名から増加傾向にあり、令和 3 年度には 1,816 名にまで増えている。平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間の平均志願倍率は 17.51 倍、令和 3 年度の志願倍率は 18.16 倍であった（資料 10）。このように類似学部・学科における高い志願倍率から、デザイン・データ科学部は志願者を多く集めることができると考えている。

本学部においても、本学の他学部と同様に外国人留学生を入学者として、受け入れる計画である。本学の他学部では、外国人留学生特別選抜の募集人員を、近年は概ね若干名としており、過去 5 年間の入試動向を見ると、志願者数が倍増している。具体的には、平成 29 年度に志願者数が 55 名であったのが、令和 3 年度においては 113 名までに増えている。入学者数についても、平成 29 年度の 29 名から令和 3 年度は 41 名と増加しており、外国人留学生を安定的に受け入れてきた（資料 11）。

本学では、高校生や保護者向けに、「オープンキャンパス」を開催している。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、オンラインでの開催を主軸としつつも、対面でも実施した。特に対面でのオープンキャンパスについては、短時間で予約が満員となるほ

どの人気であったため、別日に追加して開催した。保護者等を除く参加者数は、のべ4,926名であった（資料12）。

これらの本学の好調な入試実績等から、デザイン・データ科学部の入学定員100名を安定的に充足することが可能であると判断した。

#### ii) 同分野を有する近隣大学の入学志願動向等

中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科（東京都文京区、入学定員115名）、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科（東京都江東区、入学定員90名）を競合校として想定した。

両校の令和3年度入試の一般選抜における入試結果は、中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科が、募集人員93名に対して、志願者数1,572名、志願倍率16.90倍、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科が、募集人員61名に対して、志願者数1,538名、志願倍率25.21倍といずれも高倍率であった。また、令和3年度の入学者数と入学定員超過率は、中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科が105名で、0.91倍、武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科が94名で、1.04倍と申し分のない状況であった（資料5）。

東進ハイスクールや東進衛星予備校を運営する株式会社ナガセが2021年5月26日に報道発表した『4月「共通テスト本番レベル模試」受験者の志望動向を分析—続く理高文低、理系人気は工学系が牽引 医歯薬系：医学部人気高も看護系は減少傾向』によると、2021年4月に実施した模試の受験者の志望動向について過去3カ年のデータと比較したところ、全体として理系人気の高まりと文系の低下という近年の傾向は変わらず、工学系は、2018年度と比べて1.8ポイント増加しており好調に推移していることを示した。要因として、「特にデータサイエンス分野の人気に影響しています。」と分析している（資料13）。

また、AERA dot.（2021年11月19日）『卒業後は有名企業から引く手あまた？—全国の大学で「データサイエンス学部」が増加している理由』において、株式会社大学通信の常務取締役・安田賢治氏は、「データサイエンスなどの情報系の学部は、就職に強く、受験生からの人気は高い」、「国の政策で小学校からプログラミングの授業が始まるなど、社会的に関心が高い分野であることに加え、今回コロナ禍で、文系に人気の就職先だった旅行会社や航空関係、百貨店業界では新卒採用を見送る企業が多くありました。その点、情報系は就職に強いと言われているので今後も人気は続くのではないのでしょうか」と指摘している。同記事の著者は、「2018年の「情報・メディア系」の志願者数を100とすると、21年は112。全学部系統の中でみてもその指数はトップだった。」と言及している（資料14）。

これらより、受験生の旺盛な進学需要に適合した本学部は、短期的にも中長期的にも、安定的に定員を充足する見込みが十分にあるものと考えている。

#### iii) 地域別の入学志願動向

デザイン・データ科学部の本学における類似学部・学科の1つであり、かつ、本学横浜キャンパスに位置するメディア情報学部情報システム学科の過去5年間の志願者数は、東京都及び神奈川県在住者が約70%前後で推移し、さらに首都圏1都3県の在住者では約75%前後

で推移している（資料 15）。前述のとおり、首都圏 1 都 3 県の 18 歳人口は大幅な減少傾向にはないとともに大学進学率が全国平均よりも高く、地域的に良好な環境であることから、デザイン・データ科学部の志願者数も、中長期的に堅調に推移するものと考えられる。

#### iv) 入学意向に関するアンケート調査の結果

デザイン・データ科学部の新設にあたり、学生確保の見通しを把握するため、令和 3 年 11 月から 12 月にかけて、第三者機関（株式会社日本ドリコム）に依頼し、高等学校向けにアンケート調査「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称・設置構想中）に関するアンケート」を実施した（資料 16）。

本調査では、首都圏 1 都 3 県及び静岡県に所在する高等学校及び本学付属高等学校（東京都 2 校、長野県 1 校）の 2 年生を対象に入学意向に関するアンケートを実施し、101 校 15,602 名より回答を得ることができた。調査方法は、定量調査（留め置き調査）とした。調査票は全 9 問で構成されており、全て選択肢式とした。

高校卒業後の希望進路を問う設問（Q3、複数回答可）においては、13,278 名が大学・専門職大学を希望した。この 13,278 名のうち、本学部のオープンキャンパス・入試説明会への参加希望者数は 2,931 名であった（Q7）。また、この 2,931 名のうち、デザイン・データ科学部を受験し、合格した場合に入学したいと回答したのは 308 名であり、入学定員 100 名を大きく上回る結果となった（Q8）。そして、この 308 名のうち、学部の特色について肯定的な回答、すなわち「魅力的」または「どちらかといえば魅力を感じる」と回答したのは 287 名であり、これについても入学定員 100 名を大きく上回る結果となった（Q6）。

関心のある学びの分野を問う設問（Q4、複数回答可）においては、「経済・経営・商業系統」が 17.8%と最も高く、「工学系統」が 13.2%、「文学・人文系統」が 12.8%、「理学系統」が 12.6%、「情報・メディア系統」が 11.4%と続く。「経済・経営・商業系統」、「工学系統」、「情報・メディア系統」への関心が高いことから、デザイン・データ科学部の設置構想は、受験生が関心のある学びの分野、すなわち受験生のニーズに合致していることもわかった。なお、学部の特色について肯定的な回答した入学希望者 287 名について、関心のある学びの分野を問う設問（Q4、複数回答可）とのクロス集計を本学では行った。その結果、本学部の学びの分野である「工学系統」、「経済・経営・商業系統」、「情報・メディア系統」のいずれかを回答した者は 153 名であり、入学定員 100 名を上回る結果となった（資料 17）。

これらの調査結果から、入学定員 100 名の学生確保の見通しを明確に得ることができた。

以上により、デザイン・データ科学部の定員充足については、本学における類似学部・学科の過去の入試実績、同分野を有する近隣大学の入学志願動向等、地域別の入学志願動向及び入学意向アンケート調査の結果から長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しを得た。

## ウ. 学生納付金の設定の考え方

デザイン・データ科学部を設置する本学横浜キャンパスには、環境学部及びメディア情報学部が設置されている。これら既設学部と施設を共用することなどを勘案し、学生納付金は既設の環境学部及びメディア情報学部と同額の入学金 200,000 円、授業料 1,290,000 円（各年次同額、4 年間合計 5,360,000 円）に設定した。

下表のとおり、令和 4 年度入学生の他大学のデータサイエンス系学科（情報系も含む）との比較においても本学部の学生納付金は低めの水準であり、学生募集の観点で問題はないものと考えている。

※各大学ウェブサイトより本学調べ

順位	大学	学部	学科	初年度学納金	入学金	授業料等
1	中央大学	理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	1,823,000	240,000	1,583,000
2	法政大学	情報科学部	デジタルメディア学科	1,811,000	240,000	1,571,000
3	日本大学	理工学部	応用情報工学科	1,730,000	260,000	1,470,000
4	東京理科大学	工学部	情報工学科	1,660,000	300,000	1,360,000
5	東京電機大学	システムデザイン工学部	情報システム工学科	1,651,000	250,000	1,401,000
6	関西学院大学	理学部	数理科学科	1,642,000	200,000	1,442,000
7	工学院大学	情報学部	システム数理学科	1,640,000	250,000	1,390,000
8	東京工科大学	コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	1,576,000	250,000	1,326,000
9	近畿大学	産業理工学部	情報学科	1,494,000	250,000	1,244,000
10	東京都市大学	デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科	1,490,000	200,000	1,290,000
11	武蔵野大学	データサイエンス学部	データサイエンス学科	1,480,000	180,000	1,300,000
12	南山大学	理工学部	データサイエンス学科	1,240,000	250,000	990,000

## ②学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、以下の通り学生確保に向けた取り組みを行っている。

### ■入試データの分析

本学と他大学の比較、入試制度の検証、入学後の成績状況、関係法令との整合性など、入試周辺情報をデータとして収集して分析し、志願者確保のための施策の展開に役立てている。

### ■アドミッションオフィスとアドミッションオフィサーの設置

入試実務を行う事務局の「入試センター」とは別に、入学制度やデータを分析する全学的な教学組織として教員・職員で構成する「入学センター」を設置している。また、最新情報を活用した入試施策の検討や、高校との連携を研究するアドミッションオフィサーを配置している。

### ■オープンキャンパス

高校生や保護者向けに、「オープンキャンパス」を開催している。コロナ感染予防のため近年はオンライン主導で実施しているが、2021 年度の参加者数（保護者等は除く）は、延べ 4,926 名であった（資料 12）。

■見学フリーパス制度

前述のオープンキャンパスの他、毎日いつでも見学希望者の都合に合わせて、大学内を見学できる制度で、興味のある施設や、研究室、クラブの部室などを気軽に探訪できる。近年はコロナ感染予防に沿った対策を講じている。

■進学相談会

全国各地で開催する「進学相談会」に参加し、受験生や保護者からの、大学概要・学科概要・入試・学生生活・就職のことなどの相談に対応している。コロナ禍以前は、例年約 100 件の進学相談会に参加していた。

■高校での進学説明会・出張授業

高等学校に出向いて、大学の説明や、学部系統別のガイダンスなどを行うもので、コロナ禍以前は例年約 200 件、実施していた。また、教員の出張授業もコロナ禍以前は年間 100 件を超えていた。

■高校訪問

定期的に高校を訪問し、相互の最新情報を共有している。コロナ禍以前は、例年約 500 校に訪問していた。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

デザイン・データ科学部の人材の養成及び教育研究上の目的は、「定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。」と規定している。

特に、2018年に中央教育審議会が取りまとめた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」に記載されているように、AI、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)等の先端技術の高度化に伴い、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、誰もが活躍でき、様々な社会課題を解決できる Society 5.0（超スマート社会）の実現に向けた取組が加速している中で、その実現に寄与できるデジタル人材の養成を重視している。

このような人材を養成するためには、従来の工学的要素技術の教育・研究だけでは不十分であり、社会科学、グローバルなリテラシーや教養も含めた多面的で多様な知識を必要に応じて取捨選択しながら活用できる能力が必要になってきている。そこで、デザイン・データ科学部の人材養成の目的を達成するため、数学と情報工学を基盤とし、数値データや言語データなどのデータ情報処理などを学ぶ科目群「データ科学」（専門基礎科目及び専門応用科目）、デザイン工学や感性工学を基盤として、製品のデザインを進めるためのデザイン思考などを学ぶ科目群「ユーザーエクスペリエンスデザイン」（専門基礎科目及び専門応用科目）、経営科学や社会工学を基盤として、Society 5.0などのデジタル社会の設計を目指したサービス工学などを学ぶ科目群「ソーシャルシステムデザイン」（専門基礎科目及び専門応用科目）と、各科目区分の共通知識となる科目群「グローバル教養系」（教養科目）を基軸として、カリキュラムを編成した。

### ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学は、建学の精神である「公正、自由、自治」の下、実践的な専門性を重視した教育理念を掲げ、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえ、その要請に応えるべく教育・研究の改革を継続的に実行してきた。

その結果、サンデー毎日（2021年8月15日・22日合併号）『全国250大学 実就職率ランキング』に掲載された卒業生数1000人以上の大学を対象とした実就職率ランキングにおいて全国で29位、全国の私立大学で16位と就職に強い大学として上位に位置づけられた（資料18）。東洋経済ONLINE（2021年10月2日）『最新!「有名企業への就職に強い大学」トップ200校』の有名企業400社への実就職率が高い大学ランキングでは、全国で38位、全国の私立大学で15位と上位に位置づけられた（資料19）。また、ITmedia ビジネスオンライン3分Biz.（2020年12月3日）『社長の出身大学、日本大学が10連覇 増収増益率1位は?』によれば、医科歯科系を除く社長出身大学の上位100校における増益達成ランキングで、本学は2位、私立大学で1位にランクインした。同様に、増収増益達成ランキングでは、5位、私立大学で3位にランクインした（資料20）。これらは、本学が社会的、地域的な人材

需要の動向を踏まえた人材を養成してきたことの証左であろう。

デザイン・データ科学部の類似学部である情報工学部情報科学科・知能情報工学科とメディア情報学部社会メディア学科・情報システム学科を合わせた過去5年間の就職率の平均は、98.1%であった。また、各学科の過去5年間の求人件数の平均は、14,000件前後、求人倍率の平均は150倍以上であった（資料21）。これらの数値から、類似学部においては、就職希望者に対して十分な求人件数を確保できているとともに、高い就職率を維持し続けている。デザイン・データ科学部においても、卒業後の進路を十分に確保できるものと考えている。

外国人留学生の人材需要の動向としては、デザイン・データ科学部の類似学部である情報工学部情報科学科・知能情報工学科とメディア情報学部社会メディア学科・情報システム学科卒業生の進路状況を見ると、令和元年度は就職希望者3名中3名が就職、令和2年度は就職希望者4名中4名が就職し、他に1名は大学院に進学していることから、良好な就職実績で推移しているものと考えられる。すなわち、外国人留学生の卒業生についても、社会的な人材需要にに応じているものと考えている。

以下では、情報通信白書（総務省）、大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会の資料（文部科学省）及び一般社団法人データサイエンティスト協会の調査結果に基づいて、「i）社会的な人材需要の動向」を説明する。また、横浜市官民データ活用推進計画（横浜市）に基づいて、「ii）地域的な人材需要の動向」を説明する。加えて、それらを裏付ける事実として、「iii）採用意向アンケート調査の結果」を用いて説明する。

#### i）社会的な人材需要の動向

令和3年版情報通信白書（総務省）によると、「我が国のICT人材はICT企業に偏在しており、企業がDXを進める上で人材不足が大きな課題。」と指摘している。具体的には、ICT人材は、2018年に約22万人不足しており、中位シナリオで、2030年には約45万人が不足する見込みである。また、DXに取り組む日本企業が、米国企業並みに増加した場合の変化は、製造業で約23兆円、非製造業で約45兆円の売上高の押し上げ効果があると推計している（資料22）。

本学部では、データ科学に関する知識と技術を身に付けるにあたり、当然にICTに関する素養を身に付けていくこととなる。また、データ科学に関する知識と技術を学んだ上で、人々の便利で豊かな暮らしに必要な「もの」を作り出すための「ユーザーエクスペリエンスデザイン」と、付加価値と生産性の高い企業や社会の仕組みを作り出すための「ソーシャルシステムデザイン」を学ぶ本学部の学生は、企業がDXを進める上で必要な人材となり得るものと考えている。

令和3年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会の資料（文部科学省）において掲載された『デザイン思考教育の推進について』によると、デザイン思考とは、「社会の課題やニーズを生活者や利用者の視点で見極めイノベーションを生み出す手法とされ、デザイン思考を取り入れた教育は、前例のない問題や未知の課題を解決するための人材育成において有益な側面があると考えられます。」とある（資料23）。これは、まさに前述の「ユーザーエ

クスペリエンスデザイン」と「ソーシャルシステムデザイン」の両分野を学ぶことで社会における様々な課題解決に資する人材を養成する本学部の教育そのものであり、本学部が養成する人材像は、社会的な動向を十分に踏まえているものと考えられる。

一般社団法人データサイエンティスト協会 調査・研究委員会が公表した『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果』（2019年11月）によると、データサイエンティストを採用しようとした企業のうち、この1年間で「目標としていた人数を確保できなかった」企業が58%であった（資料24）。これは、データ科学に関する知識と技術を身に付けた人材が不足していることを示しており、本学部が養成する人材は、この旺盛な人材需要に応えることができるものと考えている。

また、同調査において、今後3年間で増員したいデータサイエンティストの人材像も問うており、「ビジネス課題解決」「戦略検討」スキルを持つ人材が求められていると指摘している（資料25）。これらは、前述の「ソーシャルシステムデザイン」を通じて養成する人材そのものである。具体的に見てみると、最もあてはまるもの1つとしての回答で、データによるビジネス課題解決を得意とする人材が41%、複数の分野を俯瞰的にみてデータ分析の活用を戦略的に考えられる人材が18%、データ分析のプロフェッショナルな人材が10%等であった。あてはまるもの全てでの回答では、複数の分野を俯瞰的にみてデータ分析の活用を戦略的に考えられる人材が89%、データによるビジネス課題解決を得意とする人材が88%等であった。データ科学のみを学ぶのではなく、データ科学に関する確かなスキルを基盤として課題解決と新しい価値をデザインできる人材を養成する本学部は、社会的な人材需要の動向を十分に踏まえたものと言える。

## ii) 地域的な人材需要の動向

横浜市が策定した『横浜市官民データ活用推進計画』（平成30年5月）によると、「急速に進んでいく情報流通社会において、データを適切に活用し、地域課題の解決や市内経済の発展につなげていくためには、データ活用に係る知識や能力を持つ人材の育成が重要」とある。また、「データの活用を通じて、社会的課題の解決、市民生活の利便性や質の向上を図っていくためには、これまで以上に公民連携を促進するとともに、具体的なテーマや課題に応じたデータ活用の方法や、どのような技術や手法を社会システムに導入することが有効であるかなど、調査研究を進めることが重要」と指摘している。本学は横浜市都筑区と連携協定を締結しており、横浜キャンパスに既設の環境学部とメディア情報学部は、毎年開催している地域連携調査研究発表会において同学部の学生が研究発表を行うなど、地域の課題解決に貢献してきた。こうした実績を活かし、横浜市において、数理・データサイエンスに関する能力だけでなく、実社会における社会課題を対象に、新しい「もの」と「こと」をデザインする知識と技術や、グローバルに活躍できる高度な教養を身に付けさせるデザイン・データ科学部を新設することで、人材養成を通じて当該計画の推進に貢献し、地域社会の発展に寄与できるものと考えている。

## iii) 採用意向アンケート調査の結果

デザイン・データ科学部の新設にあたり、社会的・地域的な人材需要の動向の把握を目的

として令和3年11月から12月にかけて、第三者機関（株式会社日本ドリコム）に依頼し、アンケート調査「東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称・設置構想中）設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査」を実施した（資料26）。

本調査は、デザイン・データ科学部の卒業生の就職先として想定される企業・団体1,247件を対象に、インターネット調査とFAX調査を併用して実施した。アンケート調査票は全12問で構成されており、1問を記入式、11問を選択肢式とした。その結果、290件の企業・団体より回答を得ることができた。回収率は23.3%であった。

デザイン・データ科学部が養成する人材の採用意向を問う設問（Q10）において、「採用したい」と回答した企業・団体が91件であった。これらの企業・団体91件を対象として、採用想定人数（Q11）を集計したところ290名であった。入学定員100名に対して2.9倍となり、入学定員を大幅に上回る調査結果となった。これより、本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を十分に踏まえたものであることが裏付けられた。

また、デザイン・データ科学部の魅力、社会的ニーズに関する設問（Q8及びQ9）の双方において、肯定的な回答を行った企業・団体249件を対象として、採用意向を問う設問（Q10）で「採用したい」と回答した企業・団体は89件、採用想定人数の合計は288名であった。なお、当該企業・団体89件には、今後の新卒採用の計画について問う設問（Q7）において、「採用は減らしたい」「採用しない」と否定的な回答をした企業・団体は含まれていなかった。さらに、当該企業・団体89件のうち、本社や主たる事業所が首都圏1都3県に所在する企業・団体は76件、採用想定人数の合計は253名であった。入学定員100名に対して2.5倍以上となり、入学定員を大幅に上回る調査結果であった。これより、本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、社会的のみならず、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることが裏付けられた。

これらの調査結果から、デザイン・データ科学部の採用想定人数が入学定員に比しても十分であり、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえているものと考えられ、デザイン・データ科学部が輩出する人材には十分な需要があるものと考えている。

## 資料目次

- 資料1 東京都市大学 平成29年度～令和3年度入試動向（本学調べ）
- 資料2 東洋経済 ONLINE（2021年5月29日）「最新！志願者数が多い大学」ランキングトップ50
- 資料3 東京都市大学情報工学部・メディア情報学部 平成29年度～令和3年度入試動向（本学調べ）
- 資料4 東京都市大学 平成29年度～令和3年度1都3県別志願者数（本学調べ）
- 資料5 同分野を有する近隣大学の令和3年度入学志願動向等
- 資料6 リクルート進学総研マーケットリポート vol.86 2021年4月号 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 南関東版一埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
- 資料7 都道府県別大学・短期大学等への進学者数と大学等への進学率
- 資料8 日本私立学校振興・共済事業団 令和3（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向『地域別の動向 過去5ヵ年の推移（大学・学部別）』
- 資料9 日本私立学校振興・共済事業団 令和3（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向『学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移（大学）』
- 資料10 東京都市大学メディア情報学部情報システム学科 平成29年度～令和3年度入試動向（本学調べ）
- 資料11 東京都市大学 平成29年度～令和3年度外国人留学生特別選抜動向（本学調べ）
- 資料12 令和3年度東京都市大学オープンキャンパス参加者数（本学調べ）
- 資料13 株式会社ナガセ 4月「共通テスト本番レベル模試」受験者の志望動向を分析—続く理高文低、理系人気は工学系が牽引 医歯薬系：医学部人気高も看護系は減少傾向（2021年5月26日）
- 資料14 AERA dot.（2021年11月19日）卒業後は有名企業から引く手あまた？全国の大学で「データサイエンス学部」が増加している理由
- 資料15 東京都市大学メディア情報学部情報システム学科 平成29年度～令和3年度1都3県別志願者数（本学調べ）
- 資料16 東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）設置に関する受容性調査 結果報告書【高校生】（株式会社日本ドリコム）
- 資料17 特色に魅力を感じると回答した入学希望者287名と関心がある学びの分野（複数回答可）に関するクロス集計結果（本学集計）
- 資料18 サンデー毎日（2021年8月15日・22日合併号）全国250大学 実就職率ランキング
- 資料19 東洋経済 ONLINE（2021年10月2日）『最新！「有名企業への就職に強い大学」トップ200校』有名企業400社への実就職率が高い大学ランキング
- 資料20 ITmedia ビジネスオンライン3分Biz.（2020年12月3日）『社長の出身大学、日本大学が10連覇 増収増益率1位は？』社長出身大学上位100校（医科歯科系を除く）
- 資料21 東京都市大学情報工学部・メディア情報学部 平成28年度～令和2年度就職状況（本学調べ）
- 資料22 総務省 情報通信白書 令和3年版 概要  
第1章(2)企業活動におけるデジタル・トランスフォーメーションの現状と課題
- 資料23 文部科学省 令和3年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会  
デザイン思考教育の推進について
- 資料24 一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会（2019年11月）『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果』データサイエンティスト採用の充足度
- 資料25 一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会（2019年11月）『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果』今後3年間で増員したいデータサイエンティストの人材像
- 資料26 東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）設置に関する受容性調査 結果報告書【企業】（株式会社日本ドリコム）

## 東京都市大学 平成 29 年度～令和 3 年度入試動向 (本学調べ)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	過去 5 年間 の平均	平均志願倍率 (志願者/入学定員)
志願者	17,548	26,553	31,378	31,819	28,471	27,153.8	16.70
受験者	17,092	25,910	30,483	31,002	27,437	26,384.8	
合格者	6,264	7,551	6,913	7,406	7,381	7,103.0	
入学者(A)	1,779	1,732	1,700	1,623	1,707	1,708.2	
入学定員(B)	1,620	1,620	1,620	1,620	1,650	1,626	
入学定員 超過率(A/B)	1.09	1.06	1.04	1.00	1.03	1.05	

1. 書類等の題名

資料 2

東洋経済 ONLINE (2021 年 5 月 29 日)

最新! 「志願者数が多い大学」ランキングトップ 50

コロナや新入試の影響で軒並み志願者数減らす

2. 出典

株式会社東洋経済新報社

3. 引用範囲

東洋経済 ONLINE

最新! 「志願者数が多い大学」ランキングトップ 50

コロナや新入試の影響で軒並み志願者数減らす

表『2021 年志願者数ランキング (26~50 位)』を引用

<https://toyokeizai.net/articles/-/430806?page=6>

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

## 東京都市大学情報工学部・メディア情報学部 平成 29 年度～令和 3 年度入試動向（本学調べ）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	過去 5 年間 の平均	平均志願倍率 (志願者/入学定員)
情報工学部	志願者	2,425	3,745	4,913	5,153	4,782	4,203.6	23.62
	受験者	2,354	3,647	4,771	5,013	4,626	4,082.2	
	合格者	811	863	660	759	767	772.0	
	入学者(A)	207	218	182	180	192	195.8	
	入学定員(B)	175	175	180	180	180	178.0	
	入学定員 超過率(A/B)	1.18	1.24	1.01	1.00	1.06	1.10	
メディア情報学部	志願者	1,779	2,660	3,537	3,254	3,113	2,868.6	15.76
	受験者	1,725	2,614	3,434	3,176	3,002	2,790.2	
	合格者	513	577	542	505	479	523.2	
	入学者(A)	200	191	213	176	215	199.0	
	入学定員(B)	180	180	180	180	190	182.0	
	入学定員 超過率(A/B)	1.11	1.06	1.06	0.97	1.13	1.09	

## 東京都市大学 平成 29 年度～令和 3 年度 1 都 3 県別志願者数（本学調べ）

都道府県	志願者数									
	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
神奈川県	6,784	40.0	9,709	37.6	10,575	35.0	10,774	35.3	10,131	37.3
東京都	5,000	29.6	8,471	32.9	10,255	33.9	10,119	33.2	9,020	33.3
埼玉県	966	5.7	1,601	6.2	1,876	6.2	2,070	6.8	1,837	6.8
千葉県	673	4.0	900	3.5	1,218	4.0	1,293	4.2	1,379	5.1
その他	3,497	20.7	5,103	19.8	6,313	20.9	6,267	20.5	4,729	17.5
合計	16,920	100	25,784	100	30,237	100	30,523	100	27,096	100

## 同分野を有する近隣大学の令和 3 年度入学志願動向等

## 中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科

入試種別	募集人員	志願者数	志願倍率
一般入試	65	766	16.90
大学入学共通テスト 単独方式	13	508	
大学入学共通テスト 併用方式	15	298	
合計	93	1,572	

中央大学 2021 年度入試データより

[https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2021/05/9114\\_nyushi\\_data.pdf](https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2021/05/9114_nyushi_data.pdf)

## 武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科

入試種別	募集人員	志願者数	志願倍率
全学部統一選抜	13	196	25.21
一般選抜 A 日程	35	402	
一般選抜 B 日程		109	
一般選抜 C 日程		105	
共通テスト併用型		80	
共通テスト利用前期選抜	13	582	
共通テスト利用中期選抜		43	
共通テスト利用後期選抜		21	
合計	61	1,538	

武蔵野大学 2021 (令和 3) 年度入試結果より

<https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/result.html>

## 令和 3 年度 入学定員超過率

大学・学部・学科	入学定員	入学者数	入学定員 超過率
中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科	115	105	0.91
武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科	90	94	1.04

中央大学 学部在籍学生数 (令和 3 年 5 月 1 日現在) より

[https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/overview/head\\_count/head\\_count01.html](https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/overview/head_count/head_count01.html)

武蔵野大学 入学者数及び在学者数 (令和 3 年 5 月 1 日現在) より

<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/students.html>

1. 書類等の題名

資料 6

リクルート進学総研マーケットレポート vol.86 2021年4月号  
18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向  
南関東版—埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県—

2. 出典

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

3. 引用範囲

リクルート進学総研マーケットレポート vol.86 2021年4月号  
18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向  
南関東版—埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県— P.2  
グラフ『18歳人口予測（全体：南関東：2020～2032年）』を引用  
[http://souken.shingakunet.com/research/202104\\_minamikantou\\_souken\\_report.pdf](http://souken.shingakunet.com/research/202104_minamikantou_souken_report.pdf)

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

## 都道府県別大学・短期大学等への進学者数と大学等への進学率

No.	都道府県名	大学等進学者 (男女計)	大学等進学率 (男女計) %
1	京都府	15,399	69.8
2	東京都	68,292	69.0
3	兵庫県	28,285	64.3
4	大阪府	45,229	64.3
5	神奈川県	41,218	63.1
6	広島県	13,887	61.8
7	奈良県	6,909	61.8
8	埼玉県	33,440	60.7
9	愛知県	37,186	59.8
10	福井県	4,220	59.5
11	山梨県	4,536	58.7
12	千葉県	28,086	58.2
13	石川県	5,711	57.9
14	滋賀県	7,190	57.4
	全国	580,550	57.4

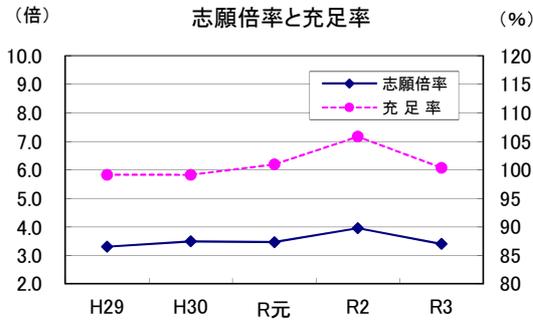
文部科学省 令和3年度 学校基本調査＞初等中等教育機関・専修学校・各種学校＞卒業後の状況調査＞高等学校＞全日制・定時制＞281 状況別卒業生数より抜粋

地域別の動向 過去5カ年の推移（大学・学部別）

過去5カ年における地域別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

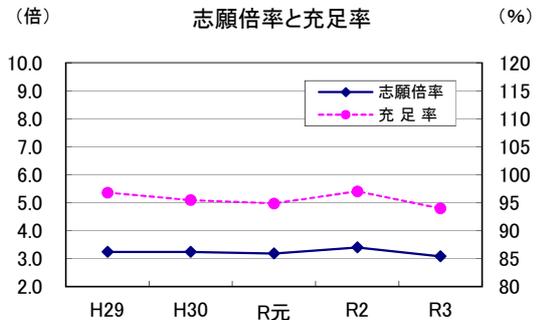
北海道

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	60	61	61	61	60
志願倍率	3.31	3.49	3.47	3.96	3.40
充 足 率	99.13	99.13	100.96	105.82	100.37



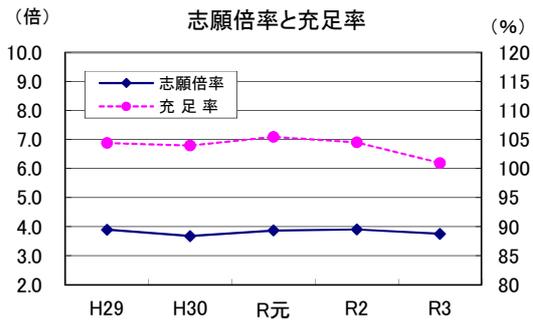
東北(宮城を除く)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	42	42	42	43	43
志願倍率	3.24	3.24	3.19	3.40	3.08
充 足 率	96.81	95.47	94.88	97.05	93.98



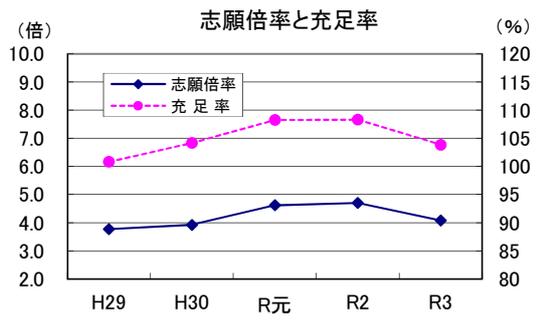
宮城

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	28	28	31	32	33
志願倍率	3.90	3.68	3.87	3.91	3.76
充 足 率	104.43	103.98	105.46	104.51	100.98



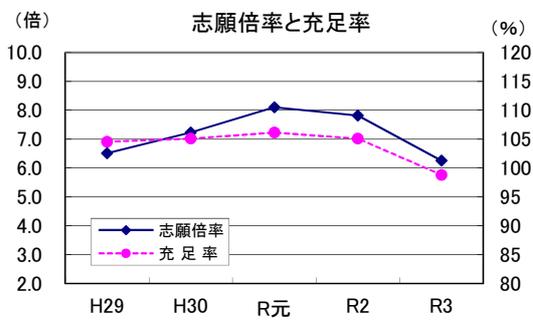
関東(埼玉、千葉、東京、神奈川を除く)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	50	54	55	55	57
志願倍率	3.77	3.92	4.62	4.70	4.08
充 足 率	100.80	104.17	108.25	108.30	103.85



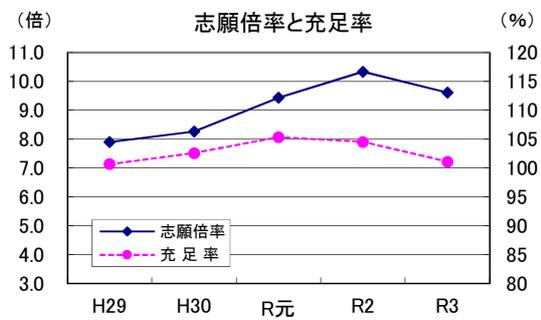
埼玉

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	76	79	79	83	84
志願倍率	6.51	7.23	8.11	7.82	6.26
充 足 率	104.57	105.12	106.14	105.11	98.83



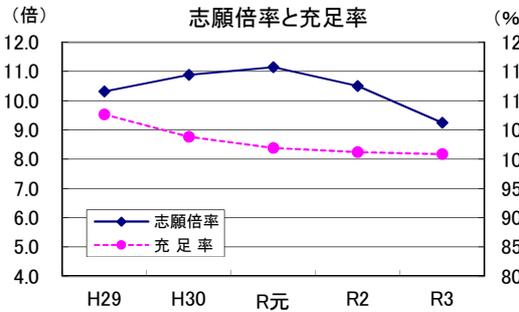
千葉

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	84	87	86	87	90
志願倍率	7.90	8.26	9.44	10.34	9.61
充 足 率	100.67	102.59	105.35	104.53	101.09



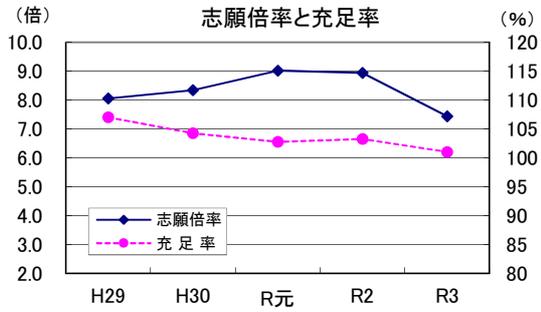
東京

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	382	387	394	405	409
志願倍率	10.32	10.88	11.14	10.50	9.25
充 足 率	107.65	103.81	101.90	101.21	100.85



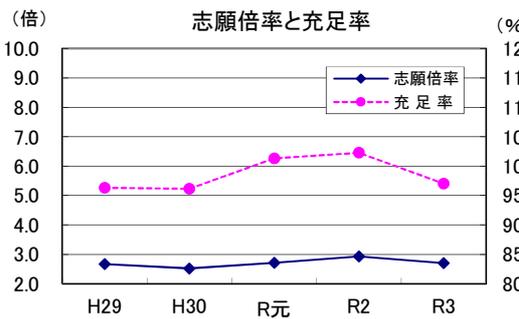
神奈川

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	106	108	110	111	109
志願倍率	8.06	8.34	9.02	8.94	7.44
充 足 率	107.01	104.22	102.77	103.23	101.01



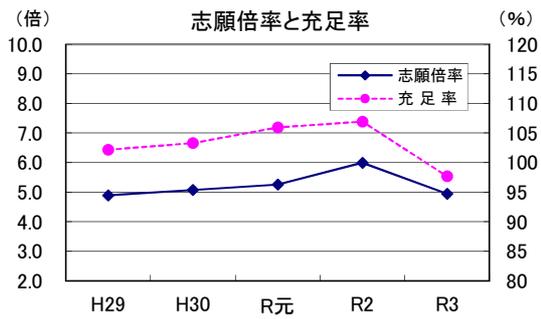
甲信越

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	36	37	40	42	44
志願倍率	2.67	2.52	2.71	2.93	2.70
充 足 率	96.34	96.14	101.30	102.27	97.03



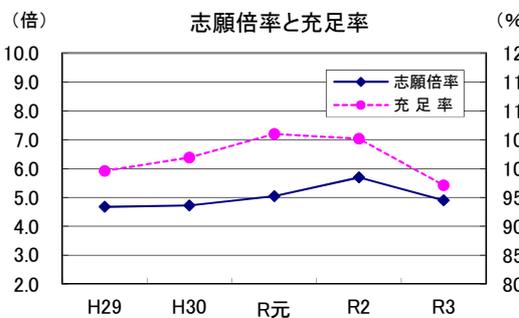
北陸

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	30	30	30	31	33
志願倍率	4.89	5.07	5.25	5.99	4.94
充 足 率	102.16	103.28	105.94	106.93	97.65



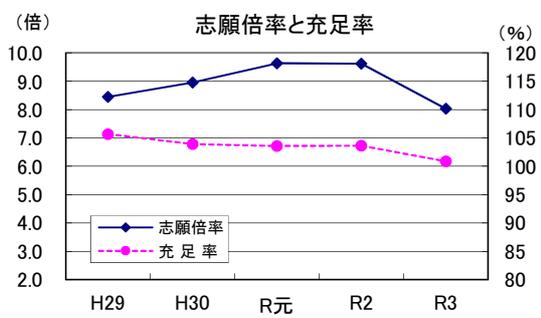
東海(愛知を除く)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	57	58	59	60	63
志願倍率	4.67	4.72	5.04	5.69	4.90
充 足 率	99.60	101.88	105.98	105.18	97.10



愛知

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	151	153	155	156	157
志願倍率	8.44	8.96	9.63	9.62	8.03
充 足 率	105.67	103.92	103.56	103.60	100.86



日本私立学校振興・共済事業団

令和3(2021)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向 (P.26及びP.27より抜粋)

地域別の動向過去5カ年の推移 (大学・学部別)

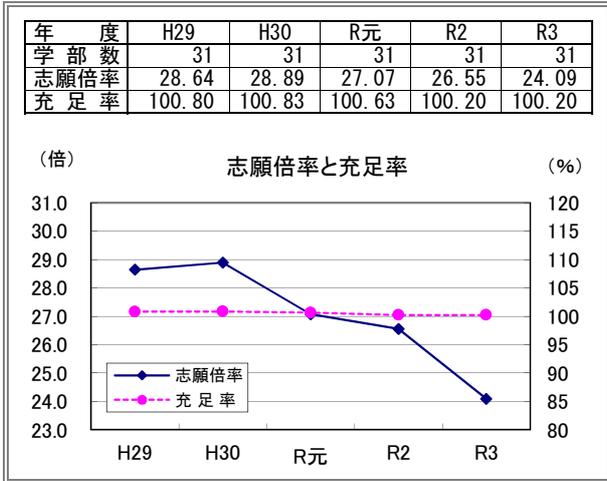
<https://www.shigaku.go.jp/files/nyuugakusiganndoukoukaitan0928.pdf>

学部系統別の動向 過去5カ年の推移（大学）

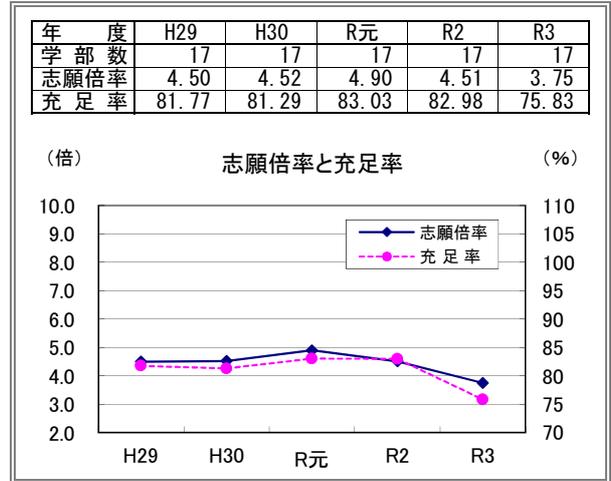
資料9

過去5カ年における学部系統別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

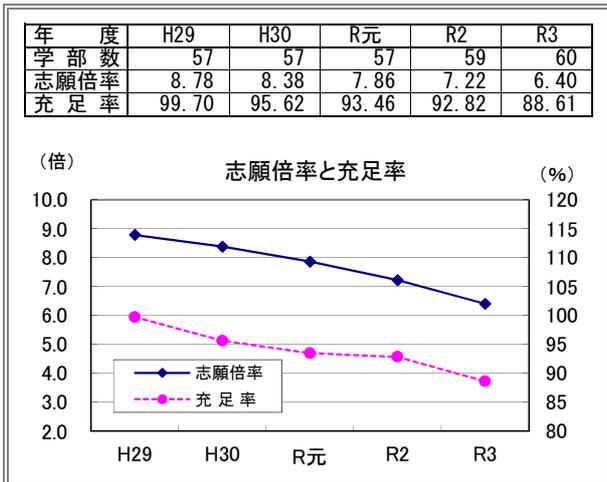
医学



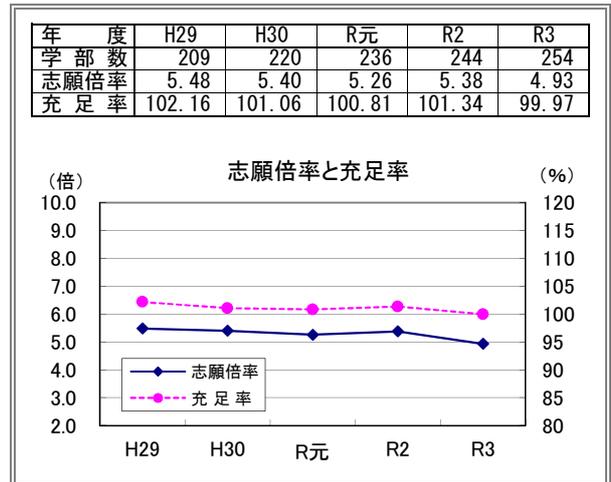
歯学



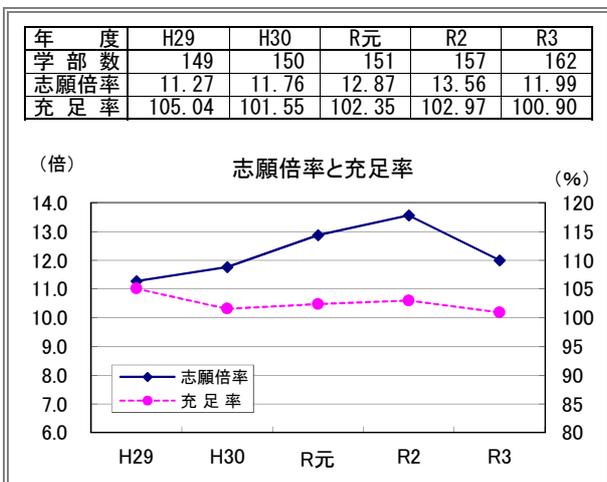
薬学



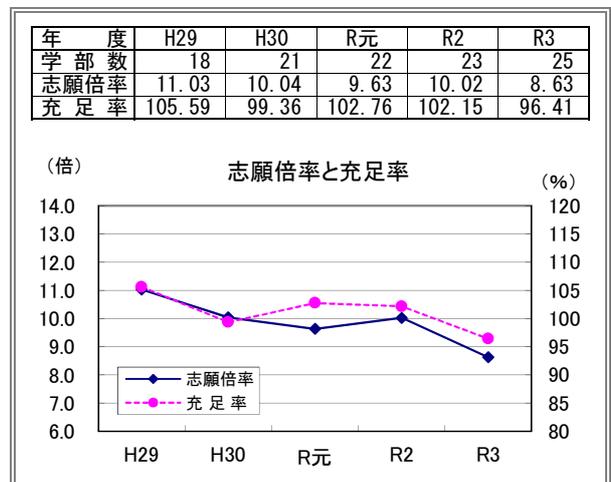
保健系



理・工学系



農学系



## 東京都市大学メディア情報学部情報システム学科 平成 29 年度～令和 3 年度入試動向（本学調べ）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	過去 5 年間 の平均	平均志願倍率 (志願者/入学定員)
志願者	1,011	1,315	2,088	1,826	1,816	1,611.2	17.51
受験者	976	1,283	2,025	1,768	1,746	1,559.6	
合格者	226	215	274	216	227	231.6	
入学者(A)	100	96	113	90	123	104.4	
入学定員(B)	90	90	90	90	100	92.0	
入学定員 超過率(A/B)	1.11	1.07	1.26	1.00	1.23	1.13	

## 東京都市大学 平成 29 年度～令和 3 年度外国人留学生特別選抜動向（本学調べ）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	過去 5 年間 の平均
志願者	55	51	101	167	113	97.4
合格者	42	36	45	72	51	49.2
入学者	29	22	30	56	41	35.6
募集人員	※1	※1	※2	※3	※3	—

- ※1 環境学部環境創生学科 3 名、環境学部環境マネジメント学科 3 名、  
メディア情報学部社会メディア学科 5 名、メディア情報学部情報システム学科 5 名、  
その他の学科 若干名
- ※2 人間科学部を除く全学科 若干名
- ※3 人間科学部を除く全学科 若干名（人間科学部は他の入試制度と併せて 16 名）

## 令和3年度東京都市大学オープンキャンパス参加者数（本学調べ）

イベント	開催日	参加者数(保護者等除く)
オンラインオープンキャンパス	6月20日(日)	1,495名
	8月22日(日)	2,975名
一般選抜対策オープンキャンパス	11月13日(土)	171名
	11月14日(日)	285名

1. 書類等の題名

資料 13

株式会社ナガセ NEWS RELEASE (2021年5月26日)

4月「共通テスト本番レベル模試」受験者の志望動向を分析

続く理高文低、理系人気は工学系が牽引

医歯薬系：医学部人気高も看護系は減少傾向」

2. 出典

株式会社ナガセ

3. 引用範囲

株式会社ナガセ NEWS RELEASE (2021年5月26日)

4月「共通テスト本番レベル模試」受験者の志望動向を分析

続く理高文低、理系人気は工学系が牽引

医歯薬系：医学部人気高も看護系は減少傾向 P.1及びP.2を引用

[https://www.toshin.com/news\\_release/uploadFiles/NewsReleases/8267c4ed9b4be746](https://www.toshin.com/news_release/uploadFiles/NewsReleases/8267c4ed9b4be746)

[4d9a0dcb3b46175777070b4a80c110032e2373a5609092cf20210526212049.pdf](https://www.toshin.com/news_release/uploadFiles/NewsReleases/8267c4ed9b4be7464d9a0dcb3b46175777070b4a80c110032e2373a5609092cf20210526212049.pdf)

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URLを記載

1. 書類等の題名

資料 14

AERA dot. (2021 年 11 月 19 日)

卒業後は有名企業から引く手あまた？

全国の大学で「データサイエンス学部」が増加している理由

2. 出典

株式会社朝日新聞出版

3. 引用範囲

AERA dot. (2021 年 11 月 19 日)

卒業後は有名企業から引く手あまた？

全国の大学で「データサイエンス学部」が増加している理由 P. 4 を引用

<https://dot.asahi.com/dot/2021111700024.html?page=4>

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

## 東京都市大学メディア情報学部情報システム学科 平成 29 年度～令和 3 年度 1 都 3 県別志願者数

(本学調べ)

都道府県	志願者数									
	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
神奈川県	447	44.2	545	41.4	740	35.5	643	35.2	687	37.8
東京都	266	26.3	381	29.0	650	31.1	573	31.4	595	32.8
埼玉県	32	3.2	58	4.4	94	4.5	104	5.7	108	5.9
千葉県	31	3.1	30	2.3	54	2.6	52	2.8	65	3.6
その他	235	23.2	301	22.9	550	26.3	454	24.9	361	19.9

東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）

## 設置に関する受容性調査 結果報告書

【高校生】

株式会社日本ドリコム

令和4年1月



# 目次

1. 学生確保に関する調査概要	4
(1) 調査目的	
(2) 調査期間	
(3) 調査対象・地域・方法	
(4) 有効回答数	
(5) 調査実施機関	
(6) 調査項目	
(7) 調査結果の見方	
2. 調査結果まとめ	6
3. 回答者情報	7
(1) 居住エリア	
(2) 奨学金制度の認知度	
4. 高校卒業後の進路選択	8
(1) 卒業後の希望進路	
(2) 関心がある学びの分野	
5. 東京都市大学およびデザイン・データ科学部	
デザイン・データ科学科（仮称）について	13
(1) 大学の認知度	
(2) 学部の特色について	
(3) 学部の入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望	
(4) 学部への入学希望	
(5) 入試説明会・オープンキャンパスへの参加や入学を希望しない理由	
資料1 調査票	
資料2 説明資料	

## 1. 学生確保に関する調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の新規設置に伴い、具体的な受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志望者の分析を行い、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

### (2) 調査期間

令和3年11月17日～令和3年12月28日

### (3) 調査対象・地域・方法

神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県、静岡県の高等学校および付属校に在籍する高校2年生を対象に定量調査（留め置きアンケート調査）を実施。

### (4) 有効回答数

101校 15,602名

<回答協力校（順不同）>

城北埼玉高等学校/品川女子学院高等部/春日部共栄中学高等学校/忍岡高等学校/浦和実業学園高等学校/関東第一高等学校/日本学園高等学校/我孫子二階堂高等学校/修徳高等学校/大磯高等学校/関東国際高等学校/埼玉栄高等学校/正則学園高等学校/成立学園高等学校/山脇学園高等学校/星美学園高等学校/東洋高等学校/立正大学附属立正高等学校/桐朋女子高等学校/敬愛学園高等学校/松戸南高等学校/七里ガ浜高等学校/捜真女学校高等学部/横浜隼人高等学校/小岩高等学校/藤沢翔陵高等学校/川越工業高等学校/相洋高等学校/平塚学園高等学校/杉並高等学校/旭丘高等学校/保善高等学校/山村学園高等学校/加藤学園高等学校/京華高等学校/横浜緑園高等学校/豊島学院高等学校/新城高等学校/帝京中学校・高等学校/千歳丘高等学校/新栄高等学校/城北高等学校/大泉桜高等学校/叡明高等学校/横浜高等学校/自由ヶ丘学園高等学校/元石川高等学校/東亜学園高等学校/富士東高等学校/実践女子学園高等学校/共栄学園高等学校/横浜市立金沢高等学校/藤嶺学園藤沢高等学校/神奈川総合産業高等学校/中央学院高等学校/東洋女子高等学校/横浜清風高等学校/光明学園相模原高等学校/本所高等学校/麻布大学附属高等学校/市ヶ尾高等学校/大和西高等学校/橘学苑高等学校/横須賀市立横須賀総合高等学校/松戸市立松戸高等学校/聖園女学院高等学校/鶴見大学附属高等学校/東高等学校/岩倉高等学校/城西大学附属城西高等学校/静岡サレジオ高等学校/横浜富士見丘学園高等学校/湘南学院高等学校/植草学園大学附属高等学校/三浦学苑高等学校/日本体育大学柏高等学校/井草高等学

校/川崎市立川崎総合科学高等学校/和洋国府台女子高等学校/相原高等学校/横浜南陵高等学校/伊東高等学校/飛龍高等学校/田園調布学園高等部/潤徳女子高等学校/海老名高等学校/上溝南高等学校/厚木東高等学校/国士舘高等学校/さいたま市立浦和南高等学校/京華商業高等学校/国分高等学校/関東学院高等学校/第五商業高等学校/草加高等学校/横浜氷取沢高等学校/下北沢成徳高等学校/東京都市大学附属高等学校/湘南学園高等学校/東京都市大学等々力高等学校/東京都市大学塩尻高等学校

(5) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

(6) 調査項目

- Q1 居住エリア
- Q2 奨学金制度の認知度
- Q3 卒業後の希望進路
- Q4 関心がある学びの分野
- Q5 東京都市大学の認知度
- Q6 東京都市大学およびデザイン・データ科学部  
デザイン・データ科学科（仮称）の特色
- Q7 入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望
- Q8 入学意向
- Q9 入試説明会・オープンキャンパスへの参加や入学を希望しない理由

(7) 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・ 基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示しています。
- ・ 一部の表（表側）及びグラフについて、集計をする上で「無回答」を省略しているものがあります。
- ・ 1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示しています。

## 2. 調査結果まとめ

### I. 調査概要

本調査は、東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の新規設置に伴い、入学志望者の分析を行うことを目的として実施した。神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県、静岡県および付属校合わせて101校の高校2年生（15,602名）より回答を得て、集計・分析を行った。

### II. 希望する進学先

Q3 卒業後の希望進路（複数回答可）については、回答者15,602名の内、13,278名が大学・専門職大学への進学を希望していた。

大学・専門職大学希望者	13278名
-------------	--------

### III. オープンキャンパス・入試説明会参加希望者

大学・専門職大学進学希望者の内、オープンキャンパス・入試説明会に参加したいと回答された方は2,931名であった。

オープンキャンパス・入試説明会参加希望者	2931名
----------------------	-------

### IV. 入学希望者

- (1) IIIで示した2,931名の内、東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）を受験して合格した場合入学したいと回答した方は、308名であった。

入学希望者	308名
-------	------

※Q7 入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望において、「3. どちらかといえば思わない」または「4. 思わない」と回答した生徒はQ8 入学意向を回答させていない。

- (2) Q6 東京都市大学およびデザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の特色が必ずしも入学要因のすべてになるとは限らないが、入学希望者の推定に際して、論理矛盾となる可能性もあるため、IV（1）で示した308名の内、学部の特徴について肯定的な回答（「魅力的」または「どちらかといえば魅力を感じる」）を行ったものだけに絞った集計も行った。その結果、入学希望者は287名となった。入学定員100名に対して、2.9倍の人数となった。

特色に魅力を感じると回答した 入学希望者	287名
-------------------------	------

※特色すべてに否定的な回答をした方もしくは未回答であった方21名分を差し引いた人数

### 3. 回答者情報

#### (1) 居住エリア

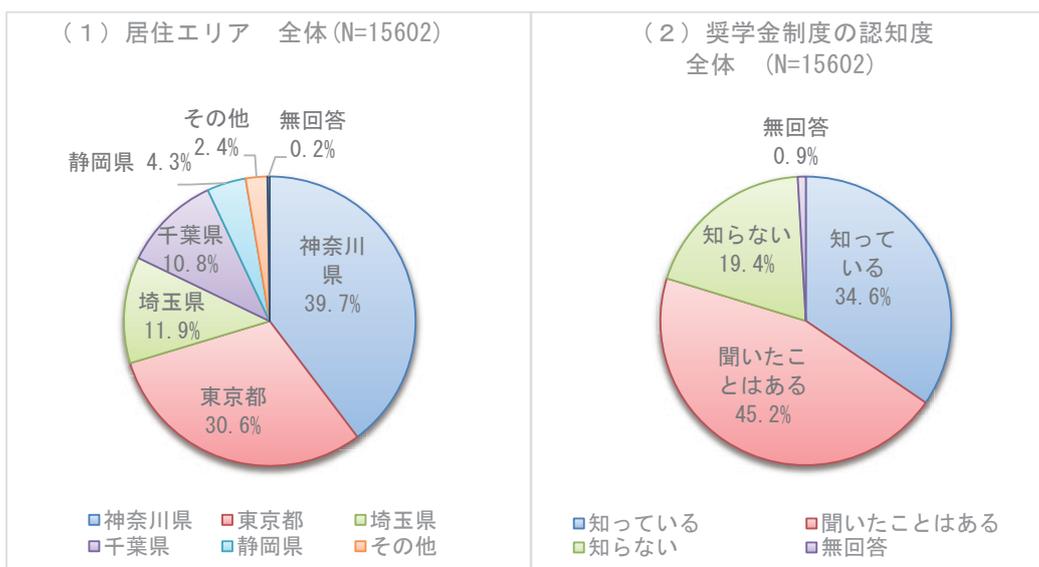
あなたの居住エリアをお答えください。

	件数 (N)	%
全体	(15602)	
神奈川県	6201	39.7
東京都	4770	30.6
埼玉県	1852	11.9
千葉県	1691	10.8
静岡県	675	4.3
その他	374	2.4
無回答	39	0.2

#### (2) 奨学金制度の認知度

進学の際、学費の全額または一部をまかなうことができる国の奨学金制度（日本学生支援機構奨学金）を知っていますか。

	件数 (N)	%
全体	(15602)	
知っている	5397	34.6
聞いたことはある	7047	45.2
知らない	3019	19.4
無回答	139	0.9



## 4. 高校卒業後の進路選択

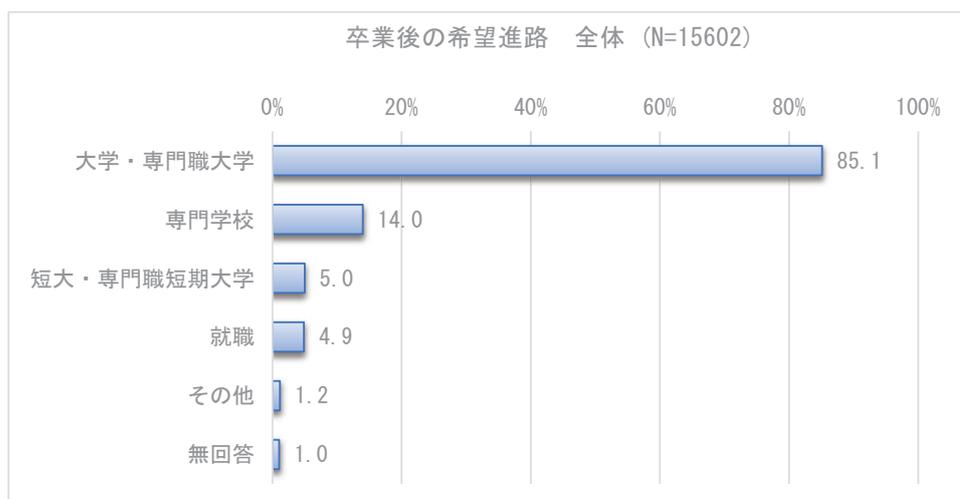
### (1) 卒業後の希望進路

卒業後の希望進路としては、「大学・専門職大学」が85.1%で最も高い。

卒業後の進路として検討している選択肢をお答えください。

【MA】	件数(N)	%
全体	(15602)	
大学・専門職大学	13278	85.1
専門学校	2183	14.0
短大・専門職短期大学	781	5.0
就職	760	4.9
その他	181	1.2
無回答	162	1.0

※その他の回答として、「未定」、「留学」などがあつた。



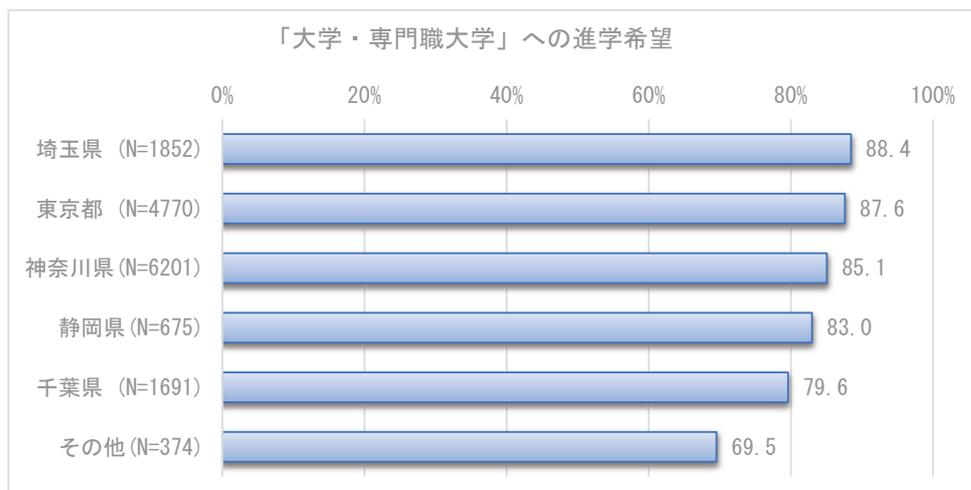
※割合が大きい順に並び替え。

●クロス集計（居住エリア別）

今回の調査では、「大学・専門職大学」への進学希望者の割合が高いエリアは、上から順に埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、千葉県となった。

単位：％

	全体 (N)	大学・ 専門職 大学	短大・ 専門職 短期大 学	専門学 校	就職	その他	無回答
神奈川県	(6201)	85.1	5.5	15.1	4.4	0.9	1.3
東京都	(4770)	87.6	3.5	10.9	4.9	1.2	0.6
埼玉県	(1852)	88.4	3.6	11.3	3.9	0.6	0.9
千葉県	(1691)	79.6	7.5	20.6	5.9	1.3	0.8
静岡県	(675)	83.0	5.3	13.2	7.1	1.0	0.9
その他	(374)	69.5	11.2	18.4	8.0	6.1	0.8



※割合が大きい順に並び替え。

## (2) 関心がある学びの分野

関心がある学びの分野としては、「経済・経営・商業系統」が17.8%で最も高い。他に10%超のものは、「工学系統」「文学・人文系統」「理学系統」「情報・メディア系統」「美術・デザイン・芸術系統」「教育系統」「看護・医療技術系統」の7つ。「経済・経営・商業系統」・「工学系統」への関心が高く、新学部を設置構想は、受験生のニーズ、関心がある学びの分野に合致していることがわかる。

もし大学等に進学するとしたらどのような学びに関心がありますか。【MA】	件数(N)	%
全体	(15602)	
経済・経営・商業系統	2780	17.8
工学系統	2060	13.2
文学・人文系統	2000	12.8
理学系統	1966	12.6
情報・メディア系統	1777	11.4
美術・デザイン・芸術系統	1676	10.7
教育系統	1604	10.3
看護・医療技術系統	1567	10.0
スポーツ・健康系統	1480	9.5
語学系統	1269	8.1
わからない	1228	7.9
法律・政治系統	1216	7.8
国際関係学系統	1094	7.0
社会学系統	885	5.7
農・獣医・畜産関係	880	5.6
薬学系統	747	4.8
保健・福祉系統	738	4.7
音楽系統	665	4.3
医学系統	637	4.1
環境学系統	523	3.4
家政・生活系統	498	3.2
歯学系統	211	1.4
無回答	154	1.0

※件数が多い順に並び替え。

●クロス集計（居住エリア別）

単位：％

	全体 (N)	経済・ 経営・ 商業系 統	工学系 統	文学・ 人文系 統	理学系 統	情報・ メディ ア系統	美術・ デザイ ン・芸 術系統	教育系 統	看護・ 医療技 術系統
神奈川県	(6201)	17.9	14.1	14.0	13.6	11.9	9.6	10.7	10.0
東京都	(4770)	20.4	12.2	12.8	12.7	11.8	11.6	9.3	8.1
埼玉県	(1852)	13.5	16.4	12.0	13.9	11.8	13.2	9.5	11.3
千葉県	(1691)	16.7	9.9	10.4	9.5	9.3	10.9	11.8	12.4
静岡県	(675)	15.6	13.2	13.5	10.8	11.9	8.7	12.4	14.8
その他	(374)	14.7	11.5	7.0	5.9	6.1	9.1	10.2	11.2

	全体 (N)	スポー ツ・健 康系統	語学系 統	わから ない	法律・ 政治系 統	国際関 係学系 統	社会学 系統	農・獣 医・畜 産関係	薬学系 統
神奈川県	(6201)	8.9	8.8	6.7	8.1	7.5	5.6	6.0	4.6
東京都	(4770)	9.4	7.9	9.3	8.9	6.8	6.4	5.1	5.1
埼玉県	(1852)	7.5	6.1	5.7	6.5	5.4	5.3	5.9	5.4
千葉県	(1691)	10.7	8.8	9.2	6.9	6.5	4.3	6.0	3.7
静岡県	(675)	14.2	8.4	8.3	4.7	9.9	7.1	6.1	5.5
その他	(374)	16.6	6.1	13.4	4.5	6.7	2.9	2.4	4.5

	全体 (N)	保健・ 福祉系 統	音楽系 統	医学系 統	環境学 系統	家政・ 生活系 統	歯学系 統	無回答
神奈川県	(6201)	4.3	4.2	3.6	3.6	3.1	1.3	0.8
東京都	(4770)	4.5	4.4	4.6	3.4	2.9	1.5	0.8
埼玉県	(1852)	4.2	3.5	4.3	3.3	3.3	1.0	0.8
千葉県	(1691)	6.9	4.8	3.1	2.7	3.8	1.1	1.2
静岡県	(675)	5.8	4.7	4.6	3.6	4.1	1.8	1.5
その他	(374)	7.0	4.5	7.0	1.6	2.7	2.9	2.4

●クロス集計（卒業後の希望進路別）

単位：％

	全体 (N)	経済・ 経営・ 商業系 統	工学系 統	文学・ 人文系 統	理学系 統	情報・ メディ ア系統	美術・ デザイ ン・芸 術系統	教育系 統	看護・ 医療技 術系統
大学・専門職大学	(13278)	19.2	14.4	14.0	14.2	11.9	9.2	10.6	10.0
専門学校	(2183)	10.2	7.7	6.5	4.5	11.2	23.5	7.8	15.8
短大・専門職短期大学	(781)	12.7	7.4	10.4	6.4	11.1	17.8	23.4	11.8
就職	(760)	18.3	15.1	9.1	7.9	12.1	19.1	6.4	5.1
その他	(181)	13.3	3.3	9.9	5.0	8.3	18.8	7.7	6.1

	全体 (N)	スポー ツ・健 康系統	語学系 統	わから ない	法律・ 政治系 統	国際関 係学系 統	社会学 系統	農・獣 医・畜 産関係	薬学系 統
大学・専門職大学	(13278)	9.6	8.5	6.1	8.5	7.6	6.3	5.6	5.3
専門学校	(2183)	10.5	7.0	13.6	3.2	4.1	2.3	6.0	2.2
短大・専門職短期大学	(781)	10.4	9.9	10.8	3.8	6.3	4.0	7.2	4.6
就職	(760)	16.1	4.9	23.0	8.6	4.3	4.6	5.3	3.7
その他	(181)	11.6	16.0	40.3	7.2	11.0	4.4	7.2	3.3

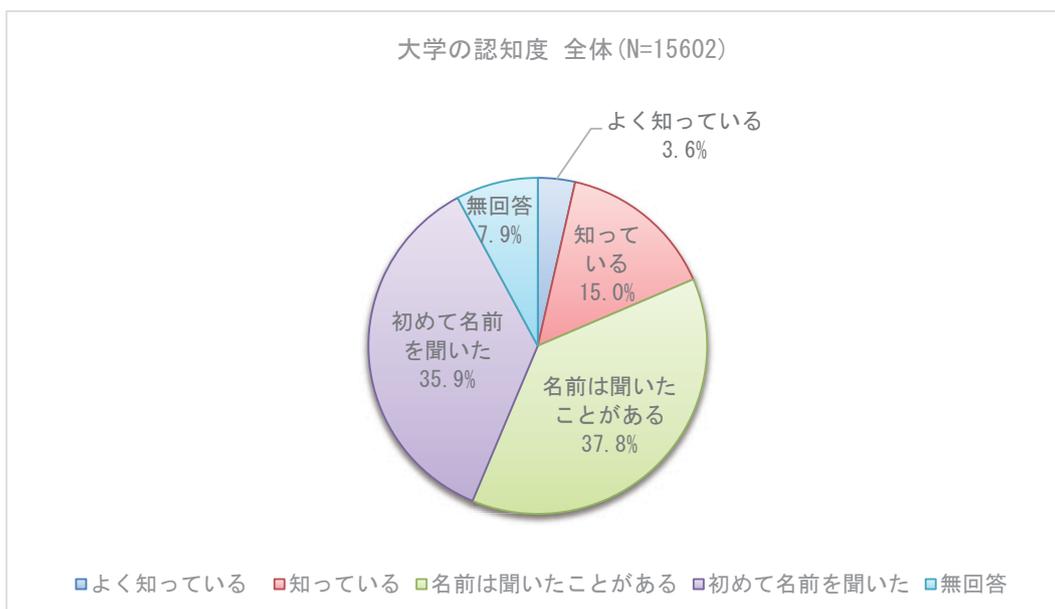
	全体 (N)	保健・ 福祉系 統	音楽系 統	医学系 統	環境学 系統	家政・ 生活系 統	歯学系 統	無回答
大学・専門職大学	(13278)	4.6	3.5	4.2	3.6	3.0	1.1	0.5
専門学校	(2183)	7.1	11.0	4.3	1.6	4.5	2.8	1.8
短大・専門職短期大学	(781)	10.0	10.0	4.1	3.5	6.9	4.9	1.3
就職	(760)	6.4	8.9	3.4	3.8	2.9	2.1	3.3
その他	(181)	3.3	11.6	5.5	2.8	3.9	2.8	6.1

## 5. 東京都市大学および東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）について

### （1）大学の認知度

「名前は聞いたことがある」が37.8%で最も高く、「よく知っている」(3.6%)「知っている」(15.0%)を含め、回答者の半数以上(56.3%)が東京都市大学の存在を認知していることがわかる。

東京都市大学を知っていますか。	件数(N)	%
全体	(15602)	
よく知っている	554	3.6
知っている	2336	15.0
名前は聞いたことがある	5893	37.8
初めて名前を聞いた	5594	35.9
無回答	1225	7.9



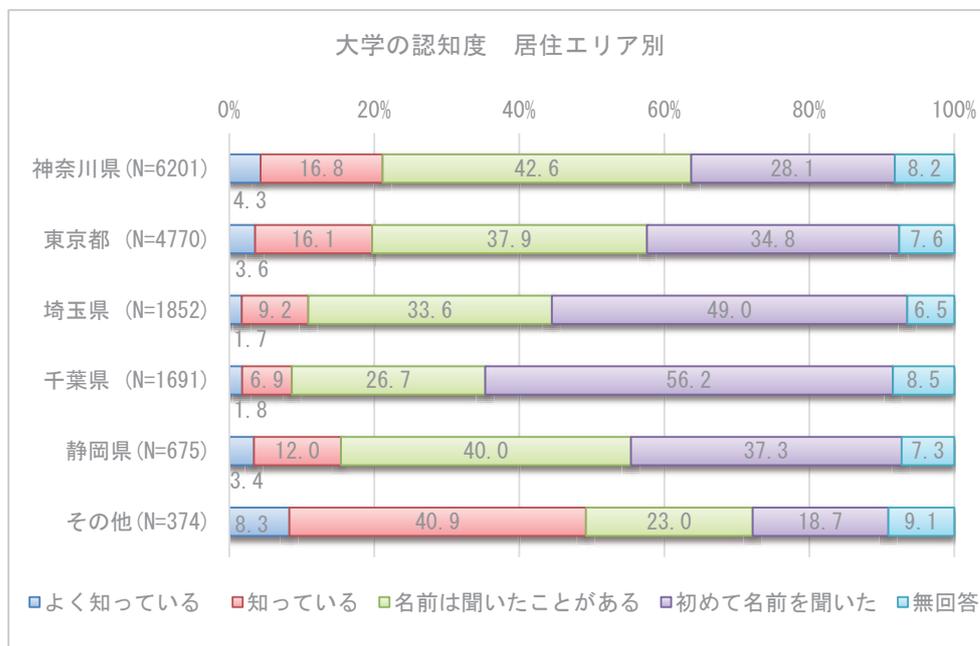
### ●クロス集計（居住エリア別）

居住エリア別にみると、認知度（「よく知っている」「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合）が最も高いのは神奈川県で63.7%、次いで東京都の57.6%、静岡県の55.4%、埼玉県の44.5%、千葉県の35.4%となっている。

なお、「その他」のエリアにおいて、「よく知っている」「知っている」の割合が高くなっているが、長野県に所在する付属校の生徒が占める割合が高いためである。

単位：%

	全体 (N)	よく知っている	知っている	名前は聞いたことがある	初めて名前を聞いた	無回答
神奈川県	(6201)	4.3	16.8	42.6	28.1	8.2
東京都	(4770)	3.6	16.1	37.9	34.8	7.6
埼玉県	(1852)	1.7	9.2	33.6	49.0	6.5
千葉県	(1691)	1.8	6.9	26.7	56.2	8.5
静岡県	(675)	3.4	12.0	40.0	37.3	7.3
その他	(374)	8.3	40.9	23.0	18.7	9.1

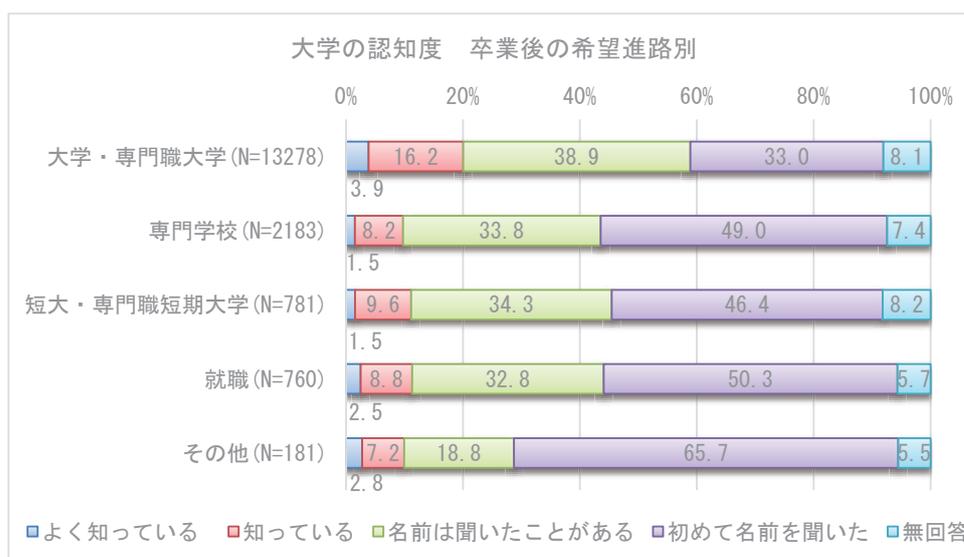


●クロス集計（卒業後の希望進路別）

卒業後の希望進路別にみると、「大学・専門職大学」への進学希望者における認知度（「よく知っている」「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合）は58.9%となった。

単位 上段：人/下段：%

	全体 (N)	よく知 ってい る	知って いる	名前は 聞いた ことが ある	初めて 名前を 聞いた	無回答
全体	(15602)	554	2336	5893	5594	1225
		3.6	15.0	37.8	35.9	7.9
大学・専門職大学	(13278)	512	2151	5159	4385	1071
		3.9	16.2	38.9	33.0	8.1
専門学校	(2183)	33	180	738	1070	162
		1.5	8.2	33.8	49.0	7.4
短大・専門職短期大学	(781)	12	75	268	362	64
		1.5	9.6	34.3	46.4	8.2
就職	(760)	19	67	249	382	43
		2.5	8.8	32.8	50.3	5.7
その他	(181)	5	13	34	119	10
		2.8	7.2	18.8	65.7	5.5

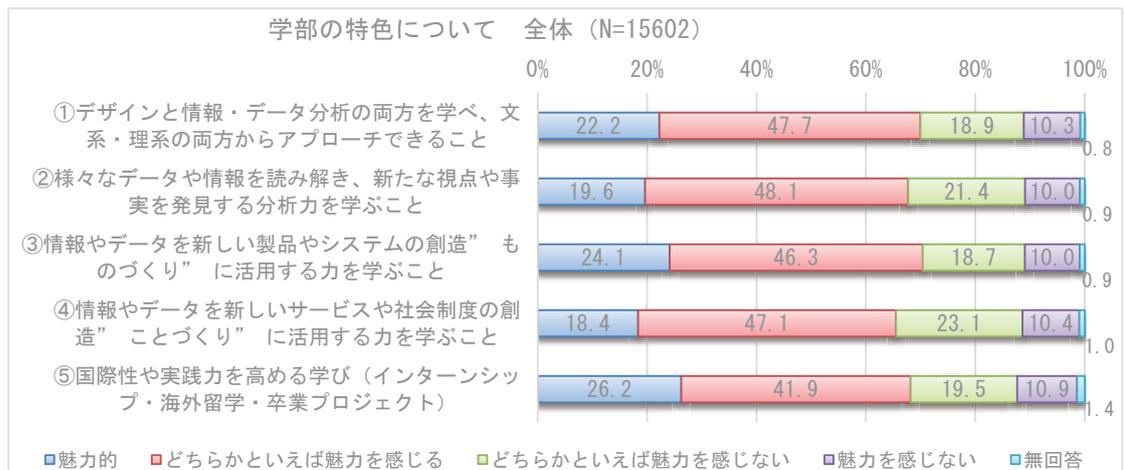


## (2) 学部の特徴について

①～⑤の全ての特色事項について肯定的な回答（「魅力的」または「どちらかといえば魅力を感じる」）の割合が65%を超えた。肯定的な回答の割合が最も高いのは「③情報やデータを新しい製品やシステムの創造”ものづくり”に活用する力を学ぶこと」。次いで、「①デザインと情報・データ分析の両方を学べ、文系・理系の両方からアプローチできること」。「魅力的」の回答に絞ると「⑤国際性や実践力を高める学び（インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト）」が最も多い結果となった。

上段単位：件/下段単位：%

東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の特色についてどの程度魅力を感じますか。	全体 (N)	魅力的	どちらかといえば魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じない	魅力を感じない	無回答
①デザインと情報・データ分析の両方を学べ、文系・理系の両方からアプローチできること	(15602)	3469 22.2	7445 47.7	2950 18.9	1613 10.3	125 0.8
②様々なデータや情報を読み解き、新たな視点や事実を発見する分析力を学ぶこと	(15602)	3062 19.6	7503 48.1	3335 21.4	1566 10.0	136 0.9
③情報やデータを新しい製品やシステムの創造”ものづくり”に活用する力を学ぶこと	(15602)	3763 24.1	7218 46.3	2914 18.7	1565 10.0	142 0.9
④情報やデータを新しいサービスや社会制度の創造”ことづくり”に活用する力を学ぶこと	(15602)	2863 18.4	7356 47.1	3608 23.1	1621 10.4	154 1.0
⑤国際性や実践力を高める学び（インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト）	(15602)	4094 26.2	6540 41.9	3041 19.5	1707 10.9	220 1.4



## ●クロス集計（居住エリア別）

[①デザインと情報・データ分析の両方を学べ、文系・理系の両方からアプローチできること]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
神奈川県	(6201)	22.7	48.8	18.7	8.8	1.0
東京都	(4770)	21.5	46.5	19.9	11.5	0.6
埼玉県	(1852)	21.7	48.8	17.4	11.4	0.6
千葉県	(1691)	21.6	45.8	20.9	11.1	0.6
静岡県	(675)	22.2	51.3	15.9	9.9	0.7
その他	(374)	30.7	40.6	14.4	13.4	0.8

[②様々なデータや情報を読み解き、新たな視点や事実を発見する分析力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
神奈川県	(6201)	19.3	49.3	21.6	8.7	1.1
東京都	(4770)	19.6	46.6	21.9	11.2	0.7
埼玉県	(1852)	21.4	48.4	19.1	10.5	0.6
千葉県	(1691)	17.0	47.8	23.5	10.8	0.8
静岡県	(675)	20.3	50.8	18.8	9.3	0.7
その他	(374)	27.0	42.0	17.1	13.1	0.8

[③情報やデータを新しい製品やシステムの創造”ものづくり” に活用する力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
神奈川県	(6201)	24.4	47.2	18.6	8.6	1.1
東京都	(4770)	23.2	45.6	19.4	11.0	0.8
埼玉県	(1852)	26.3	45.6	16.6	10.9	0.6
千葉県	(1691)	21.9	45.5	21.0	10.9	0.7
静岡県	(675)	25.5	48.6	15.0	10.2	0.7
その他	(374)	29.9	40.1	16.6	12.3	1.1

[④情報やデータを新しいサービスや社会制度の創造”ことづくり” に活用する力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
神奈川県	(6201)	18.5	47.8	23.4	9.0	1.3
東京都	(4770)	17.6	46.1	24.3	11.2	0.8
埼玉県	(1852)	19.2	48.4	20.5	11.3	0.6
千葉県	(1691)	16.9	46.4	24.2	11.7	0.8
静岡県	(675)	19.0	50.8	19.7	9.8	0.7
その他	(374)	27.5	41.2	17.6	12.8	0.8

[⑤国際性や実践力を高める学び（インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト）]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
神奈川県	(6201)	26.1	42.8	19.4	9.9	1.8
東京都	(4770)	25.6	40.5	20.7	12.0	1.3
埼玉県	(1852)	26.6	42.8	18.6	11.3	0.7
千葉県	(1691)	24.8	42.2	20.6	11.2	1.2
静岡県	(675)	30.7	43.1	15.3	10.1	0.9
その他	(374)	33.7	37.7	13.6	13.9	1.1

●クロス集計（卒業後の希望進路別）

[①デザインと情報・データ分析の両方を学べ、文系・理系の両方からアプローチできること]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
大学・専門職大学	(13278)	22.7	48.2	18.6	9.7	0.7
専門学校	(2183)	20.1	48.1	20.5	10.4	0.9
短大・専門職短期大学	(781)	21.3	49.7	20.0	8.6	0.5
就職	(760)	21.7	43.7	18.9	14.9	0.8
その他	(181)	19.3	32.0	21.5	26.0	1.1

[②様々なデータや情報を読み解き、新たな視点や事実を発見する分析力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
大学・専門職大学	(13278)	19.8	48.9	21.1	9.5	0.8
専門学校	(2183)	18.5	46.7	23.7	10.0	1.1
短大・専門職短期大学	(781)	19.1	48.8	22.5	8.8	0.8
就職	(760)	21.8	43.9	19.5	13.8	0.9
その他	(181)	16.6	33.1	23.2	26.0	1.1

[③情報やデータを新しい製品やシステムの創造”ものづくり” に活用する力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
大学・専門職大学	(13278)	24.5	46.6	18.6	9.6	0.8
専門学校	(2183)	24.0	46.7	18.9	9.4	1.1
短大・専門職短期大学	(781)	25.6	46.1	18.8	8.5	1.0
就職	(760)	25.9	44.3	15.8	13.2	0.8
その他	(181)	15.5	38.7	18.2	26.5	1.1

[④情報やデータを新しいサービスや社会制度の創造”ことづくり” に活用する力を学ぶこと]

単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
大学・専門職大学	(13278)	18.4	47.7	23.1	9.9	0.9
専門学校	(2183)	18.3	47.0	23.3	10.3	1.1
短大・専門職短期大学	(781)	19.6	47.1	23.4	9.2	0.6
就職	(760)	19.5	45.3	20.8	13.7	0.8
その他	(181)	16.6	34.3	22.1	26.0	1.1

[⑤国際性や実践力を高める学び（インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト）]

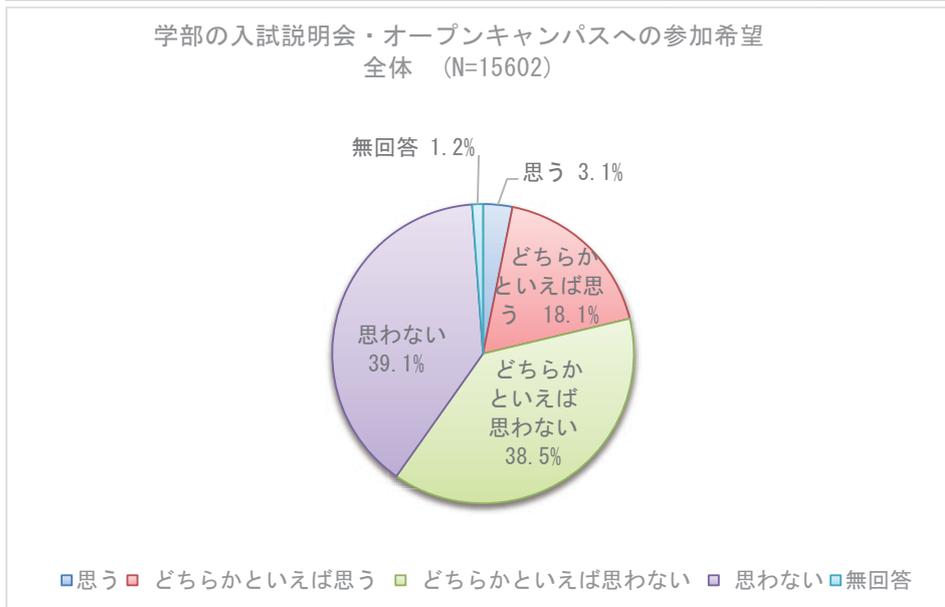
単位：%

	全体 (N)	魅力的	どちら かとい えば魅 力を感 じる	どちら かとい えば魅 力を感 じない	魅力を 感じな い	無回答
大学・専門職大学	(13278)	26.6	42.4	19.2	10.4	1.3
専門学校	(2183)	25.6	40.5	21.1	11.0	1.8
短大・専門職短期大学	(781)	25.7	44.3	18.3	10.4	1.3
就職	(760)	22.9	38.6	21.2	15.9	1.4
その他	(181)	22.7	33.7	15.5	26.0	2.2

### (3) 学部の入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望

入試説明会・オープンキャンパスへの参加について肯定的な回答（参加したいと「思う」または「どちらかといえば思う」）をした割合は21.2%（3,314名）となった。

東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の入試説明会やオープンキャンパスに参加したいと思いませんか。	件数 (N)	%
全体	(15602)	
思う	490	3.1
どちらかといえば思う	2824	18.1
どちらかといえば思わない	6006	38.5
思わない	6101	39.1
無回答	181	1.2

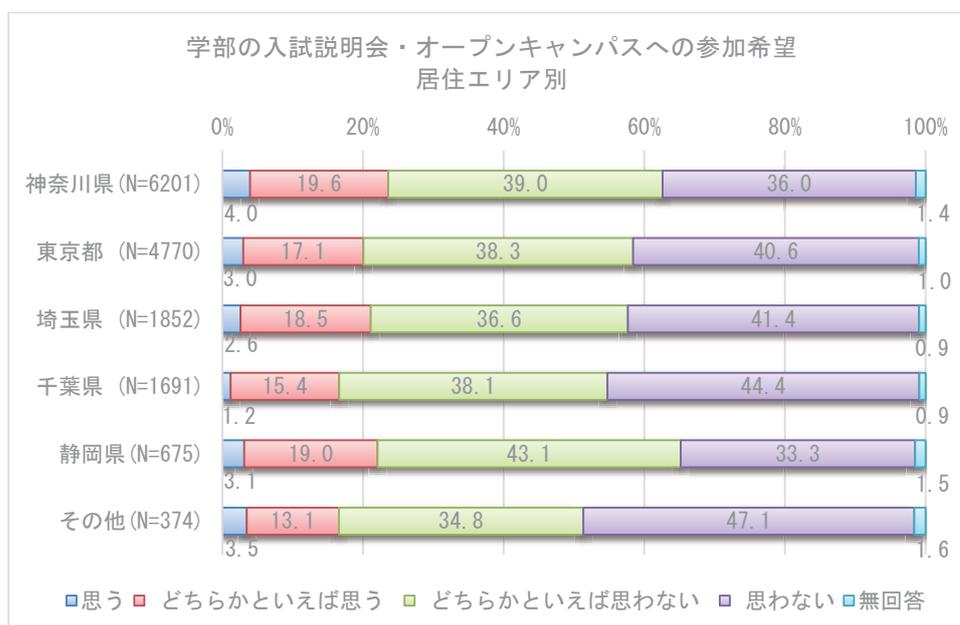


●クロス集計（居住エリア別）

居住エリア別にみると、入試説明会・オープンキャンパスへの参加について肯定的な回答（参加したいと「思う」または「どちらかといえば思う」）をした割合が最も多いのは、神奈川県（23.6%）。次いで、静岡県（22.1%）となった。

単位：%

	全体 (N)	思う	どちら かとい えば思 う	どちら かとい えば思 わない	思わな い	無回答
神奈川県	(6201)	4.0	19.6	39.0	36.0	1.4
東京都	(4770)	3.0	17.1	38.3	40.6	1.0
埼玉県	(1852)	2.6	18.5	36.6	41.4	0.9
千葉県	(1691)	1.2	15.4	38.1	44.4	0.9
静岡県	(675)	3.1	19.0	43.1	33.3	1.5
その他	(374)	3.5	13.1	34.8	47.1	1.6

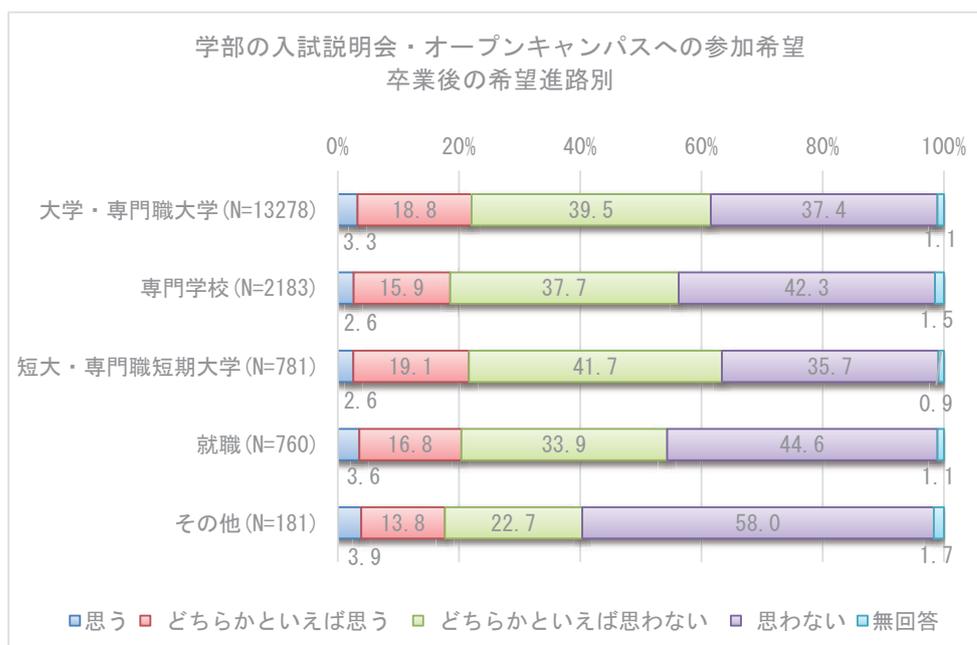


●クロス集計（卒業後の希望進路別）

卒業後の希望進路別にみると、「大学・専門職大学」進学希望者において、入試説明会・オープンキャンパスへの参加に肯定的な回答（「思う」または「どちらかといえば思う」）をしたものは、2,931名であった。

単位 上段：人/下段：%

	全体 (N)	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
大学・専門職大学	(13278)	432	2499	5241	4965	141
		3.3	18.8	39.5	37.4	1.1
専門学校	(2183)	57	348	823	923	32
		2.6	15.9	37.7	42.3	1.5
短大・専門職短期大学	(781)	20	149	326	279	7
		2.6	19.1	41.7	35.7	0.9
就職	(760)	27	128	258	339	8
		3.6	16.8	33.9	44.6	1.1
その他	(181)	7	25	41	105	3
		3.9	13.8	22.7	58.0	1.7



#### (4) 学部への入学希望

- ・大学・専門職大学への進学を希望し、且つ入試説明会・オープンキャンパスへの参加について肯定的な回答（参加したいと「思う」または「どちらかといえば思う」）をした2,931名の内、東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）を受験して合格した場合に入学したいと回答した方は、308名であった。

入学希望者（※1）	308名
-----------	------

※1：入学希望者の回答・集計について

Q7 入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望について、「どちらかといえば思わない」または「思わない」と回答した場合、調査票上、Q8 入学意向は回答をしない形になっている。また、誤って回答したものは無効回答として扱われており、入学希望者の集計には含まれていない。

- ・「5（2）学部の特色について」にて集計した特色が必ずしも入学要因のすべてになるとは限らないが、入学希望者の推定に際して、論理矛盾となる可能性もあるため、先に示した308名の内、学部の特色について肯定的な回答（「魅力的」または「どちらかといえば魅力を感じる」）を行ったものだけに絞った集計も行った。その結果、入学希望者は287名となった。入学定員100名に対して、2.9倍の人数となった。

特色に魅力を感じると回答した 入学希望者（※2）	287名
-----------------------------	------

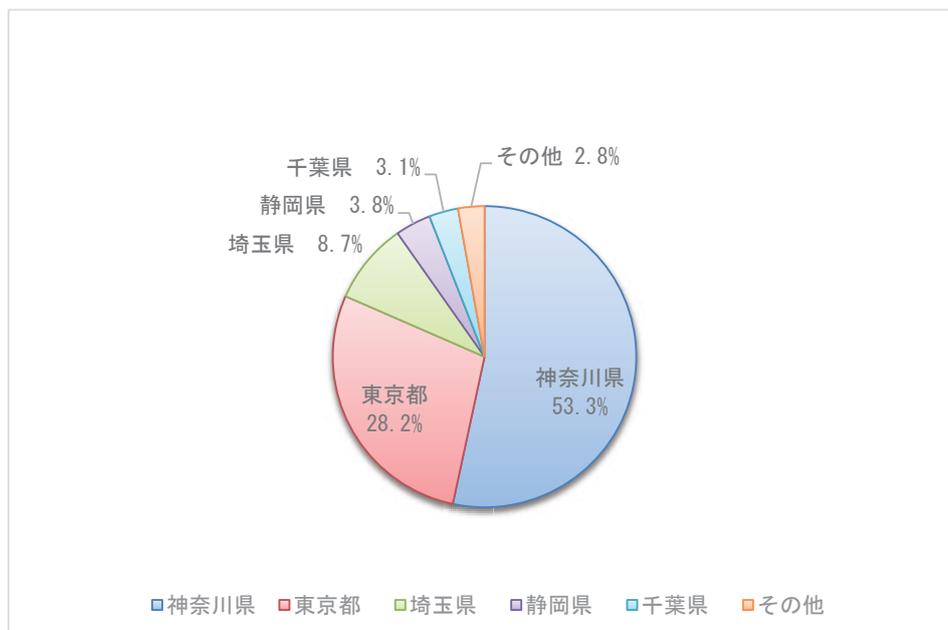
※2：特色に魅力を感じると回答した入学希望者

入学希望者308名から、特色すべてに否定的な回答をした方もしくは未回答であった方21名分を差し引いた人数

●クロス集計（居住エリア別）

特色に魅力を感じると回答した入学希望者 287 名の居住エリア別の内訳は、神奈川県が 53.3%、東京都が 28.2%、埼玉県が 8.7%、静岡県が 3.8%、千葉県が 3.1%となった。

	件数 (N)	%
全体	(287)	
神奈川県	(153)	53.3
東京都	(81)	28.2
埼玉県	(25)	8.7
静岡県	(11)	3.8
千葉県	(9)	3.1
その他	(8)	2.8



### (5) 入試説明会・オープンキャンパスへの参加や入学を希望しない理由

理由として最も多いのは「興味関心のない分野だから」で50.1%、次いで多いのは「既に第一希望の進学先があるため」で32.8%となった。また、大学や学部自体に関する理由については、学部学科の情報や学びの内容についてわからないという回答よりも、「東京都市大学についてよく知らないから」という回答が多い結果となった。

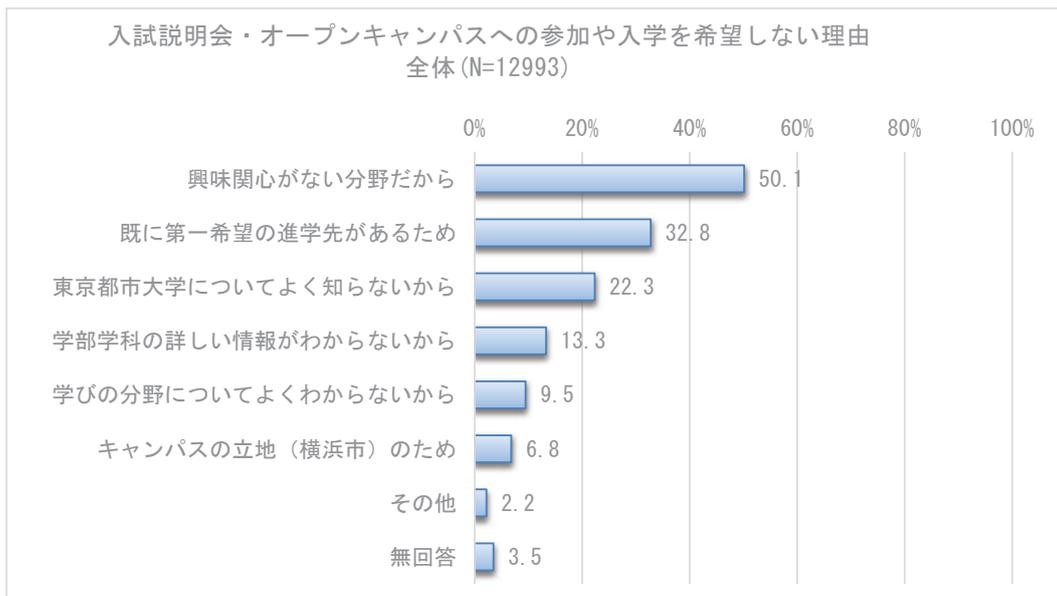
「その他」の記載内容としては、学費面の負担が大きいこと、英語に関する苦手意識があることなどが挙げられた。

その理由をご回答ください。【MA】	件数 (N)	%
全体	(12993)	
興味関心がない分野だから	6515	50.1
既に第一希望の進学先があるため	4256	32.8
東京都市大学についてよく知らないから	2903	22.3
学部学科の詳しい情報がわからないから	1727	13.3
学びの分野についてよくわからないから	1231	9.5
キャンパスの立地（横浜市）のため	885	6.8
その他	285	2.2
無回答	455	3.5

※（3）[学部学科の入試説明会・オープンキャンパスへの参加希望]で「どちらかといえば思わない」

「思わない」と回答した方、もしくは、（4）[学部学科への入学希望]で「入学したいと思わない」と回答した方に質問。

※件数が多い順に並び替え。



●クロス集計（居住エリア別）

単位：％

	全体 (N)	興味関 心がな い分野 だから	既に第 一希望 の進学 先があ るため	東京都 市大学 につい てよく 知らな いから	学部学 科の詳 しい情 報がわ からな いから	学びの 分野に ついて よくわ からな いから	キャン パスの 立地 (横浜 市)の ため	その他	無回答
神奈川県	(5026)	51.2	33.8	21.2	13.7	9.9	1.5	2.5	3.6
東京都	(4029)	49.2	32.5	23.4	14.5	9.6	10.1	2.0	3.3
埼玉県	(1538)	45.9	33.9	25.2	11.1	8.5	12.9	2.5	4.2
千葉県	(1493)	51.8	29.5	23.2	10.9	7.4	10.1	1.1	3.7
静岡県	(552)	52.4	31.0	20.5	13.8	11.6	5.4	1.3	2.7
その他	(325)	53.5	32.0	13.8	12.9	10.8	7.4	5.2	3.1

●クロス集計（卒業後の希望進路別）

単位：％

	全体 (N)	興味関 心がな い分野 だから	既に第 一希望 の進学 先があ るため	東京都 市大学 につい てよく 知らな いから	学部学 科の詳 しい情 報がわ からな いから	学びの 分野に ついて よくわ からな いから	キャン パスの 立地 (横浜 市)の ため	その他	無回 答
大学・専門職 大学	(10975)	49.6	33.3	23.1	13.9	9.9	7.0	1.6	3.4
専門学校	(1877)	55.7	29.2	22.3	12.7	10.1	6.3	2.4	3.6
短大・専門職 短期大学	(656)	53.4	24.5	26.7	16.6	12.2	7.2	2.1	3.5
就職	(636)	52.2	16.7	22.8	13.5	10.2	8.2	10.4	3.6
その他	(159)	52.8	12.6	18.2	11.9	9.4	5.0	18.9	8.2

## 東京都市大学 デザイン・データ科学部（仮称・設置構想中）に関するアンケート

東京都市大学では、2023年4月、神奈川県横浜市にデザイン・データ科学部の開設を計画しています。

このアンケート調査は、高校生の皆さんの希望進路などをお聞きし、東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の設置について検討する資料とするものです。ご回答は当該学部学科に係る統計資料にのみ使用いたします。また、この調査の実施及び集計は受託先である株式会社日本ドリコムにて行われます。

■質問の答えとなる番号に○をつけてください。

Q1 あなたの居住エリアをお答えください。

- 1 神奈川県 2 東京都 3 千葉県 4 埼玉県 5 静岡県 6 その他 ( )

Q2 進学の際、学費の全額または一部をまかなうことができる国の奨学金制度（日本学生支援機構奨学金）を知っていますか。

- 1 知っている 2 聞いたことはある 3 知らない

Q3 卒業後の進路として検討している選択肢をお答えください。（複数回答可）

- 1 大学・専門職大学 2 短大・専門職短期大学 3 専門学校 4 就職 5 その他 ( )

Q4 もし大学等に進学するとしたらどのような学びに関心がありますか。（複数回答可）

1. 文学・人文系統 2. 語学系統 3. 教育系統 4. 美術・デザイン・芸術系統 5. 音楽系統 6. 法律・政治系統 7. 経済・経営・商業系統  
8. 社会学系統 9. 国際関係学系統 10. 情報・メディア系統 11. 環境学系統 12. 理学系統 13. 工学系統  
14. 農・獣医・畜産関係 15. 医学系統 16. 歯学系統 17. 薬学系統 18. 看護・医療技術系統 19. 保健・福祉系統  
20. 家政・生活系統 21. スポーツ・健康系統 22. わからない

Q5 東京都市大学を知っていますか

- 1 よく知っている 2 知っている 3 名前は聞いたことがある 4 初めて名前を聞いた

Q7以降の質問は、一緒に配布した学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。

Q6 東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の特色についてどの程度魅力を感じますか。

- ①デザインと情報・データ分析の両方を学べ、文系・理系の両方からアプローチできること 1 2 3 4  
②様々なデータや情報を読み解き、新たな視点や事実を発見する分析力を学ぶこと 1 2 3 4  
③情報やデータを新しい製品やシステムの創造“ものづくり”に活用する力を学ぶこと 1 2 3 4  
④情報やデータを新しいサービスや社会制度の創造“ことづくり”に活用する力を学ぶこと 1 2 3 4  
⑤国際性や実践力を高める学び（インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト） 1 2 3 4

- 1 魅力的 2 どちらかといえば魅力を感じる 3 どちらかといえば魅力を感じない 4 魅力を感じない

Q7 東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の入試説明会やオープンキャンパスに参加したいと思いますか。

- 1 思う 2 どちらかといえば思う 3 どちらかといえば思わない 4 思わない

Q8 東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）を受験して合格した場合入学したいと思いますか。

- 1 入学したいと思う 2 入学を検討したい 3 入学したいと思わない

Q7で「3どちらかといえば思わない」「4思わない」、Q8で「3入学したいと思わない」を選択した方はその理由をご回答ください。（複数回答可）

- 1 学部学科の詳しい情報がわからないから 2 東京都市大学についてよく知らないから 3 キャンパスの立地（横浜市）のため  
4 学びの分野についてよくわからないから 5 既に第一希望の進学先があるため 6 興味関心がない分野だから  
7 その他 ( )

参考資料：東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）および同分野学部学科の初年度納入金

大学・学部・学科	所在地	初年度納入金
私立大学		
中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科	東京都文京区	1,838,000円
日本工業大学先進工学部データサイエンス学科	埼玉県南埼玉郡	1,617,730円
東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）	神奈川県横浜市	1,550,000円
立正大学データサイエンス学部データサイエンス学科	埼玉県熊谷市	1,515,000円
武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科	東京都江東区	1,496,600円

※上記の費用の他、別途教科書代や実習費などが必要な場合があります。

※他大学の納入金は各大学のホームページ調べ。（2022年度入学生）

※東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の納入金は予定額であり、変更となる場合があります。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。尚、当該学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更される場合があります。

# 東京都市大学 2023年、新学部設置 (構想中)

## デザイン・データ科学部

2023年 4月  
設置構想中

[横浜キャンパス]

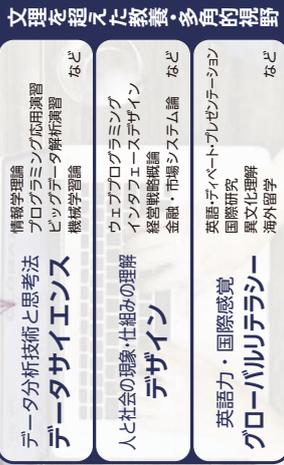
入学定員  
100名

イノベーションを創出できるグローバルな人材の育成を目的としたカリキュラム

### 人材養成と

#### 教育研究における目的

定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリーダーの滋養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインでできる実践的な専門力を持つ人材を養成する。



データ科学に  
関する知識と技術に  
裏付けられた  
批判的思考力と  
論理的思考力

社会課題を  
解決するための新たな  
体験やサービス等を  
構想・設計・構築できる  
実践的な専門力

データ科学に関する知識や技術と、「もの」「こと」を構想・設計・構築し、デザインでできる力を活かして新たな体験やサービスを創出でき、社会の発展に貢献できる人材を輩出

**東京都市大学**  
TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1  
等々力キャンパス 〒158-8586 東京都世田谷区等々力 8-9-18 (2022年4月 世田谷キャンパスに移転予定)

横浜キャンパス 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1

TEL 045-910-0104 (代表)  
https://www.tcu.ac.jp



特色に魅力を感じると回答した入学希望者と

関心がある学びの分野（複数回答可）に関するクロス集計結果（本学集計）

『東京都市大学 デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書【高校生】』（株式会社日本ドリコム、令和4年1月）におけるローデータを本学は同社より入手し、さらなるクロス集計を行った。

同報告書の「2. 調査結果まとめ」IV(2)で示された特色に魅力を感じると回答した入学希望者 287 名のうち、関心がある学びの分野（Q4）としてデザイン・データ科学部デザイン・データ科学科が適合する「工学系統」、「経済・経営・商業系統」、「情報・メディア系統」のいずれかと回答した者は、153 名であった。なお、特色に魅力を感じると回答した入学希望者と関心がある学びの分野（複数回答可）に関するクロス集計の結果は、下表のとおりであった。

特色に魅力を感じると回答した入学希望者と

関心がある学びの分野（複数回答可）に関するクロス集計

N=287

関心がある学びの分野	入学希望者数（名）	割合（％）
情報・メディア系統	77	26.8
経済・経営・商業系統	62	21.6
理学系統	61	21.3
文学・人文系統	58	20.2
工学系統	55	19.2
美術・デザイン・芸術系統	39	13.6

※10%以下の学びの分野は、省略

1. 書類等の題名

資料 18

サンデー毎日 (2021 年 8 月 15 日・22 日合併号)

『全国 250 大学 実就職率ランキング』 卒業者数 1000 人以上 より抜粋

2. 出典

毎日新聞出版株式会社

3. 引用範囲

サンデー毎日 (2021 年 8 月 15 日・22 日合併号)

『全国 250 大学 実就職率ランキング』 卒業者数 1000 人以上 P. 62 を引用

4. その他の説明

タイトル・資料番号を記載

1. 書類等の題名

資料 19

東洋経済 ONLINE (2021 年 10 月 2 日)

最新!「有名企業への就職に強い大学」トップ 200 校

4 年ぶりに一橋大学が首位、2 位東工大、3 位慶應

2. 出典

株式会社東洋経済新報社

3. 引用範囲

東洋経済 ONLINE (2021 年 10 月 2 日)

最新!「有名企業への就職に強い大学」トップ 200 校

4 年ぶりに一橋大学が首位、2 位東工大、3 位慶應

表『有名企業 400 社への実就職率が高い大学 (21 年卒、26~50 位)』を引用

<https://toyokeizai.net/articles/photo/459513?pn=3>

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

1. 書類等の題名

資料 20

ITmedia ビジネスオンライン 3分 Biz. (2020年12月3日)

社長の出身大学、日本大学が10連覇 増収増益率1位は？

2. 出典

アイティメディア株式会社

3. 引用範囲

ITmedia ビジネスオンライン 3分 Biz. (2020年12月3日)

社長の出身大学、日本大学が10連覇 増収増益率1位は？

表『社長出身大学上位100校（医科歯科系を除く）』を引用

[https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2012/03/news129\\_2.html](https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2012/03/news129_2.html)

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

## 東京都市大学情報工学部・メディア情報学部 平成 28 年度～令和 2 年度就職状況（本学調べ）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	平均
卒業生数	387	378	334	352	369	364
就職希望者	332	328	296	294	273	304.6
就職者	330	325	293	287	261	299.2
就職率	99.4%	99.1%	99.0%	97.6%	95.6%	98.1%

※学生募集停止中の学科を除いて集計した。すなわち、情報工学部情報科学部・知能情報工学科とメディア情報学部社会メディア学科・情報システム学科を集計対象とした。

## 求人数の推移

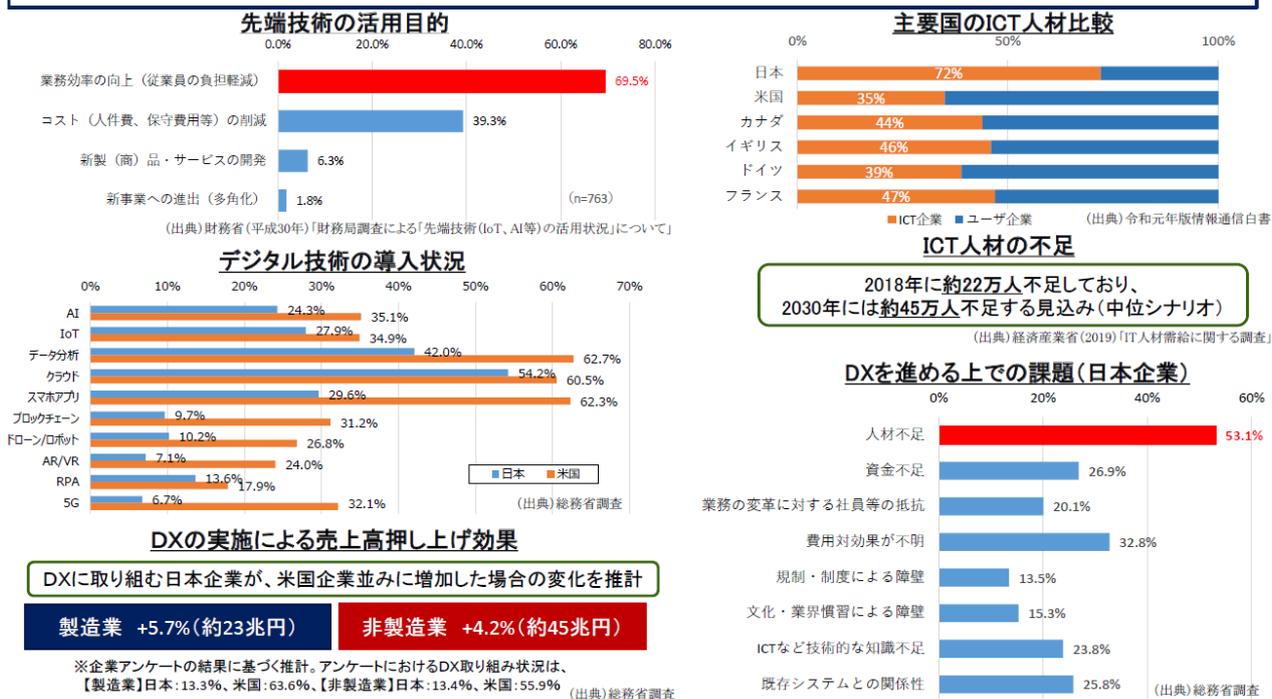
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	平均
情報科学科	13,441	14,152	14,668	14,375	13,285	13,984
知能情報工学科	13,307	14,010	14,516	14,230	13,158	13,844
社会メディア学科	13,209	13,890	14,697	16,136	15,163	14,619
情報システム学科	13,348	14,007	14,571	14,268	13,175	13,874

## 求人倍率の推移

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	平均
情報科学科	186.7	191.2	225.7	231.9	237.2	214.5
知能情報工学科	198.6	191.9	198.8	290.4	219.3	219.8
社会メディア学科	155.4	151.0	198.6	175.4	199.5	176.0
情報システム学科	123.6	157.4	173.5	156.8	162.7	154.8

## 第1章 (2) 企業活動におけるデジタル・トランスフォーメーションの現状と課題 4

- 日本企業のICT投資は業務効率を目的としたものが中心であり、事業拡大や新事業進出といったビジネスモデルの変革を伴うようなデジタル化(デジタル・トランスフォーメーション:DX)は広がっていない。
- 我が国のICT人材はICT企業に偏在しており、企業がDXを進める上で人材不足が大きな課題。



総務省 情報通信白書 令和3年版 概要 (P.4を抜粋)

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/summary/summary01.pdf>

## デザイン思考教育の推進について

◆デザイン思考を取り入れた教育の推進について積極的な取組をお願いいたします。

デザイン思考とは：

社会の課題やニーズを生活者や利用者の視点で見極めイノベーションを生み出す手法とされ、デザイン思考を取り入れた教育は、前例のない問題や未知の課題を解決するための人材育成において有益な側面があると考えられます。

＜参考＞デザイン思考を取り入れた各大学の取組事例

大学名	組織等	取組の概要
東京工業大学	デザイン・エンジニアリングコース	既存の科学・工学体系を俯瞰的に理解しながらもその枠にとらわれずに、人類が抱える様々な課題の解決に寄与し、社会で求められる新たな技術・価値・概念の創出に貢献できる能力（エンジニアリングデザイン能力）の涵養を目標としたデザイン・エンジニアリングコースを修士課程及び博士後期課程に開設。
慶應義塾大学	システムデザイン・マネジメント研究科	環境共生、社会協生、安心・安全、健康・福祉などの多様な価値の関係性も考慮してシステム全体を創造的にデザインするための知恵とスキルを教授することを目指して設立された研究科。 環境共生、安心・安全、健康・福祉といった社会のニーズを徹底的に考慮しつつ、新たな技術システム・社会システムのデザインを行い、マネジメントしていくための方法論や手法を学ぶためのカリキュラムを構築。
九州大学	芸術工学研究院	学部・研究科にまたがる教員組織である芸術工学研究院において、デザイン思考のアプローチをエンジンとした「世界的デザイン教育・研究拠点構想」に基づき、国際、地域、学内の3つの分野で、部局内、部局外を結ぶ領域横断的研究教育活動を推進。

※各大学のR元年度シラバス等を参考に文科省にて作成

37

文部科学省 令和3年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会の資料

○教務関係 大学教育改革について（P.19を抜粋）

[https://www.mext.go.jp/content/211020\\_mxt\\_daigakuc02\\_000018531-126.pdf](https://www.mext.go.jp/content/211020_mxt_daigakuc02_000018531-126.pdf)

1. 書類等の題名

資料 24

一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会 (2019年11月)

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果

2. 出典

一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

3. 引用範囲

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果 P.6 を引用

[https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research\\_2019.pdf](https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research_2019.pdf)

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

1. 書類等の題名

資料 25

一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会 (2019年11月)

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果

2. 出典

一般社団法人 データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

3. 引用範囲

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果 P. 12 を引用

[https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research\\_2019.pdf](https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research_2019.pdf)

4. その他の説明

タイトル・資料番号・URL を記載

東京都市大学 デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）

## 設置に関する受容性調査 結果報告書

### 【企業】

株式会社日本ドリコム

令和4年1月



# 目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的	
(2) 調査期間	
(3) 調査対象	
(4) 調査方法	
(5) 有効回答数	
(6) 調査実施機関	
(7) 調査項目	
(8) 調査結果の見方	
2. 調査結果まとめ	6
3. 回答者・団体属性	7
(1) 所在する都道府県	
(2) 業種	
(3) 従業員・職員数	
4. 新卒採用・人材充足状況	11
(1) 新卒者を採用する際に重視する能力	
(2) 人材の過不足状況	
(3) 直近の新卒採用状況	
(4) 直近の新卒採用人数（採用した企業・団体のみ）	
(5) 今後の新卒採用計画	
5. 東京都市大学デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科（仮称）について	19
(1) 養成する人材の社会的ニーズ	
(2) 養成する人材の魅力	
(3) 養成する人材の採用意向	
(4) 養成する人材の採用想定人数（採用希望・検討者）	
(5) 「デザイン・データ科学部（仮称）」の魅力・ニーズに肯定的な回答を行った 企業・団体に絞った場合の採用意向と採用想定人数	
(6) 意見・要望等	
資料1 調査票	
資料2 説明資料	

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の新規設置に伴う社会的ニーズの把握を目的とし、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数等を尋ねたものである。

### (2) 調査期間

令和3年11月5日～令和3年12月13日

### (3) 調査対象

当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体 1,247 件

### (4) 調査方法

インターネットにより回答を得るインターネット調査と FAX にて回答を得る FAX 調査の併用。

### (5) 有効回答数

290 件（回収率 23.3%）

### (6) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

### (7) 調査項目

Q1 所在地（都道府県）

Q2 業種

Q3 従業員数、職員数の規模

Q4 新卒採用の際に重視する能力

Q5 現在の人材の過不足状況

Q6 直近の新卒採用状況、採用人数

Q7 今後の新卒採用の計画

Q8 「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズ

Q9 「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の魅力

Q10 「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の採用意向

Q11 「デザイン・データ科学部（仮称）」における想定採用人数

Q12 意見等自由記述

#### (8) 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・ 基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示しています。
- ・ 一部のグラフについて、クロス集計をする上で「無回答」を省略しているものがあります。
- ・ 1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示しています。

## 2. 調査結果まとめ

### 1. 概要

- ・本調査は、東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の新規設置に伴う社会的・地域的なニーズの把握を目的として実施した。
- ・当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体 290 件より有効な回答を得て、集計・分析を行った。

### 2. 新卒採用・人材充足状況

- ・これらの企業・団体において 92.5%が新卒学生の採用活動を実施した。  
現状 68.7%の企業・団体が人材不足の状況にあり、53.5%の企業・団体が今後の採用計画において新卒採用を増やす意向を示している。東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）の卒業生を受け入れる市場が、現在及び将来においても十分な規模を有していることが見込まれる。
- ・新卒者に求める能力として最も回答が多かったのは「コミュニケーション能力（83.4%）」であった。

### 3. 東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称）について （養成する人材の社会的ニーズ）

- ・Q8「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズにおける肯定的な回答（「ニーズは高い」・「どちらかといえばニーズは高い」）に加え、Q9「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の魅力についても肯定的な回答（「魅力を感じる」・「どちらかといえば魅力を感じる」）をした企業・団体 249 件のうち、当該学部学科で養成する人材を「採用したい」と回答したのは 89 件の企業・団体であった。それらの企業・団体における採用想定人数の合計は 288 名であった。

	企業・団体数	採用想定人数の合計
Q8、Q9の双方において肯定的な回答を行い、且つQ10において「採用したい」と回答した企業・団体	89	288

- ・また、それらの企業・団体 89 件における 288 名の採用想定人数のうち、1都3県に所在する企業・団体数は 76 件、採用想定人数の合計は 253 名であった。1都3県の地域的な人材需要に絞った集計においても入学定員 100 名の 2.5 倍となり、社会的ニーズに加え、地域におけるニーズについても十分な需要があるものと見込まれる。

### 3. 回答者・団体属性

#### (1) 所在する都道府県

N=290

都道府県	回答数	%
東京都	186	64.1
神奈川県	29	10.0
大阪府	10	3.4
静岡県	8	2.8
埼玉県	7	2.4
新潟県	7	2.4
千葉県	6	2.1
長野県	5	1.7
群馬県	4	1.4
京都府	4	1.4
栃木県	3	1.0
愛知県	3	1.0
兵庫県	3	1.0
茨城県	2	0.7
その他	13	4.5

※その他は回答数1以下の都道府県

※回答数の多い順に並び替え

## (2) 業種

N=290

業種	回答数	%
1. 農業, 林業	1	0.3
2. 漁業	0	0.0
3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	1	0.3
4. 建設業	56	19.3
5. 製造業	82	28.3
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	4	1.4
7. 情報通信業	50	17.2
8. 運輸業, 郵便業	5	1.7
9. 卸売業・小売業	11	3.8
10. 金融業, 保険業	3	1.0
11. 不動産業, 物品賃貸業	12	4.1
12. 学術研究, 専門・技術サービス業	12	4.1
13. 宿泊業, 飲食店	2	0.7
14. 生活関連サービス業, 娯楽業	5	1.7
15. 教育学習支援業	8	2.8
16. 医療, 福祉	2	0.7
17. 複合サービス事業	4	1.4
18. サービス業 (他に分類されないもの)	26	9.0
19. 公務 (他に分類されるものを除く)	2	0.7
20. 分類不能の産業	4	1.4

## (3) 従業員・職員数

N=290

従業員数	回答数	%
～ 50 人	28	9.7
51 ～ 100 人	33	11.4
101 ～ 499 人	99	34.1
500 ～ 999 人	51	17.6
1, 000 人以上	79	27.2

※支店や支社を含めた数

●業種別×従業員・職員数

上段単位：件/下段単位：% N=290

	全体	～ 50 人	51 ～ 100 人	101 ～ 499 人	500 ～ 999 人	1, 000 人以上
全体	(290)	28	33	99	51	79
		9.7	11.4	34.1	17.6	27.2
1. 農業, 林業	(1)	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 漁業	(0)	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	(1)	0	0	1	0	0
		0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
4. 建設業	(56)	3	11	20	12	10
		5.4	19.6	35.7	21.4	17.9
5. 製造業	(82)	3	7	27	18	27
		3.7	8.5	32.9	22.0	32.9
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	(4)	0	1	0	1	2
		0.0	25.0	0.0	25.0	50.0
7. 情報通信業	(50)	4	6	21	9	10
		8.0	12.0	42.0	18.0	20.0
8. 運輸業, 郵便業	(5)	2	1	0	0	2
		40.0	20.0	0.0	0.0	40.0
9. 卸売業・小売業	(11)	2	1	4	3	1
		18.2	9.1	36.4	27.3	9.1
10. 金融業, 保険業	(3)	0	0	1	1	1
		0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
11. 不動産業, 物品賃貸業	(12)	0	2	2	1	7
		0.0	16.7	16.7	8.3	58.3
12. 学術研究, 専門・技術サービス業	(12)	2	1	5	1	3
		16.7	8.3	41.7	8.3	25.0
13. 宿泊業, 飲食店	(2)	0	0	1	0	1
		0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
14. 生活関連サービス業, 娯楽業	(5)	0	0	2	1	2
		0.0	0.0	40.0	20.0	40.0

	全体	～ 50 人	51 ～ 100 人	101 ～ 499 人	500 ～ 999 人	1, 000 人以上
15. 教育学習支援業	(8)	4	1	1	1	1
		50.0	12.5	12.5	12.5	12.5
16. 医療, 福祉	(2)	0	0	1	0	1
		0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
17. 複合サービス事業	(4)	1	0	0	1	2
		25.0	0.0	0.0	25.0	50.0
18. サービス業（他に分類されないもの）	(26)	5	2	11	2	6
		19.2	7.7	42.3	7.7	23.1
19. 公務（他に分類されるものを除く）	(2)	0	0	0	0	2
		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20. 分類不能の産業	(4)	1	0	2	0	1
		25.0	0.0	50.0	0.0	25.0

※上段が回答数、下段が業種における従業員・職員数の割合（単位：％）

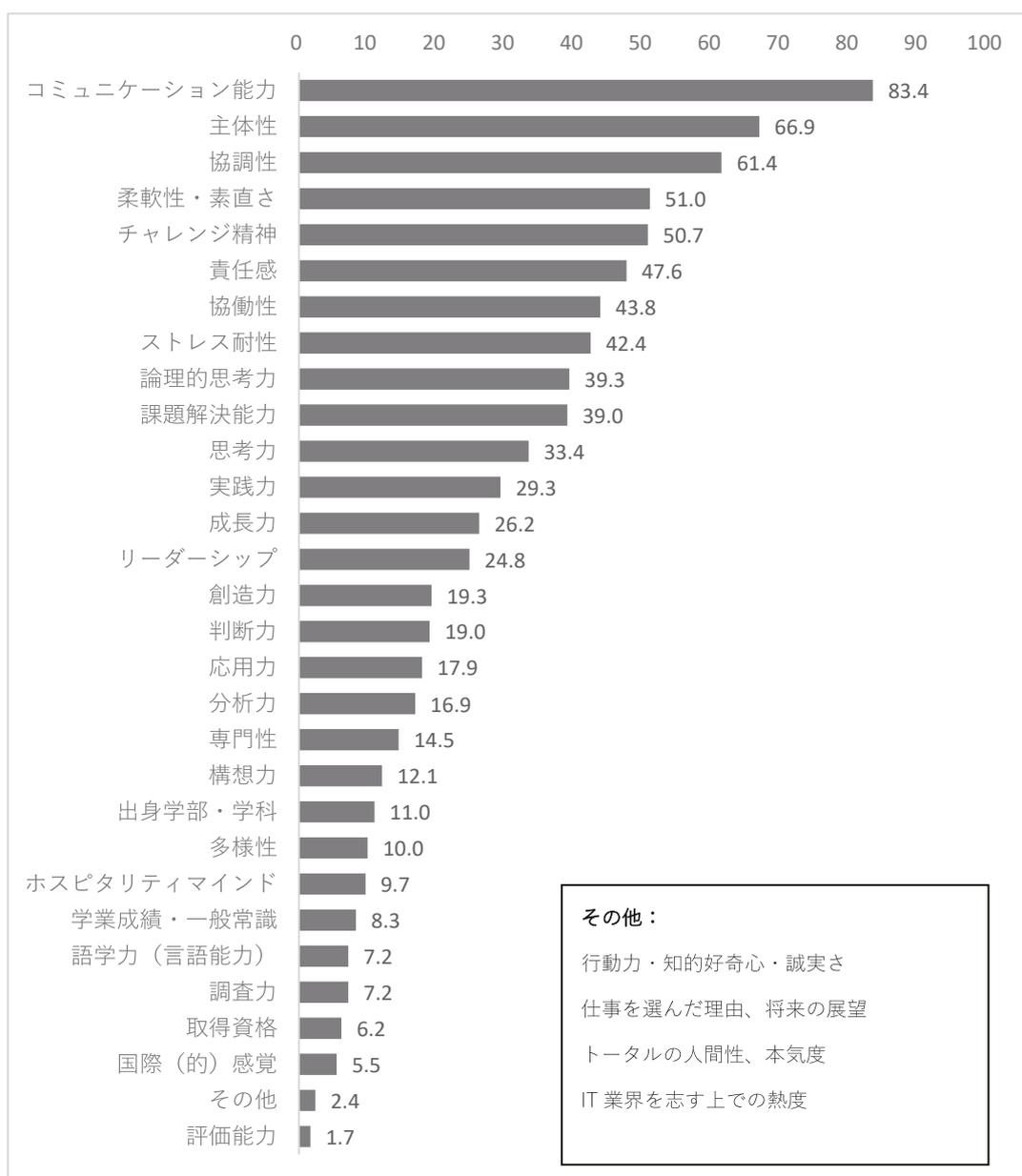
## 4. 新卒採用・人材充足状況

### (1) 新卒者を採用する際に重視する能力

「コミュニケーション能力」、「主体性」、「協調性」等の基礎的・汎用的能力が上位を占め、「語学力(言語能力)」、「取得資格」、「調査力」等の具体的な知識・技術に関する能力は相対的に下位に位置している。

Q4 新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。MA

単位：% N=290



※回答数の多い順に並び替え

## (2) 人材の過不足状況

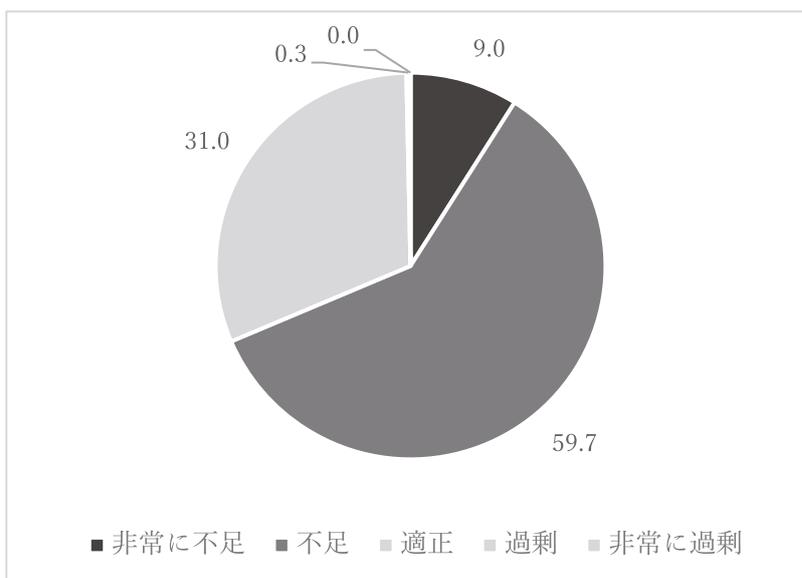
本調査の対象企業・団体においては、「非常に不足」または「不足」の回答が68.7%を占めており、人材不足の企業・団体が多い。

Q5 現在の人材の過不足状況をお答えください。

N=290

過不足の状況	%
非常に不足	9.0
不足	59.7
適正	31.0
過剰	0.3
非常に過剰	0.0

単位% N=290



### (3) 直近の新卒採用状況

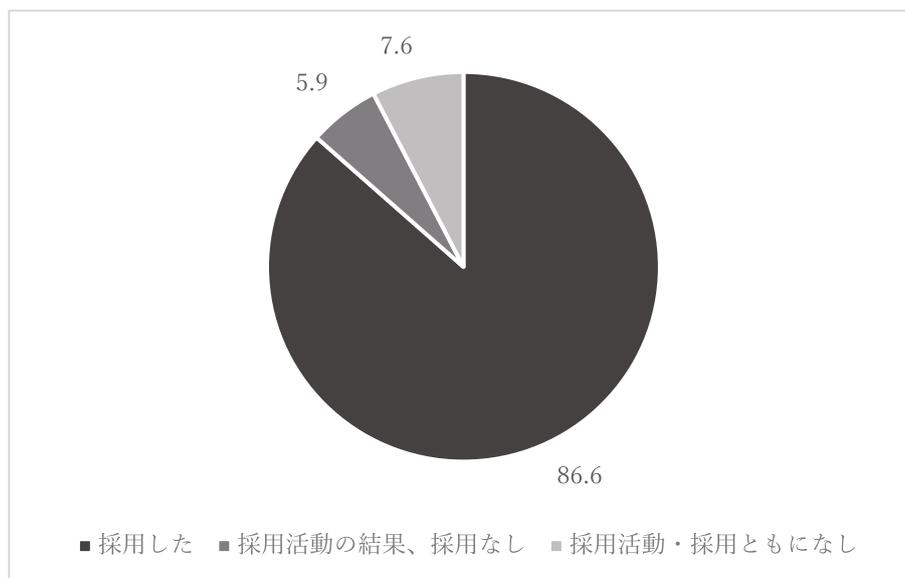
92.5%の企業・団体が採用活動を行い、86.6%の企業・団体が新卒を採用している。新卒採用を実施しなかった企業・団体はわずか7.6%であった。

Q6-1 直近(2021年4月)の新卒採用の状況についてお答えください。

N=290

採用状況	%
採用した	86.6
採用活動の結果、採用なし	5.9
採用活動・採用ともになし	7.6

単位% N=290

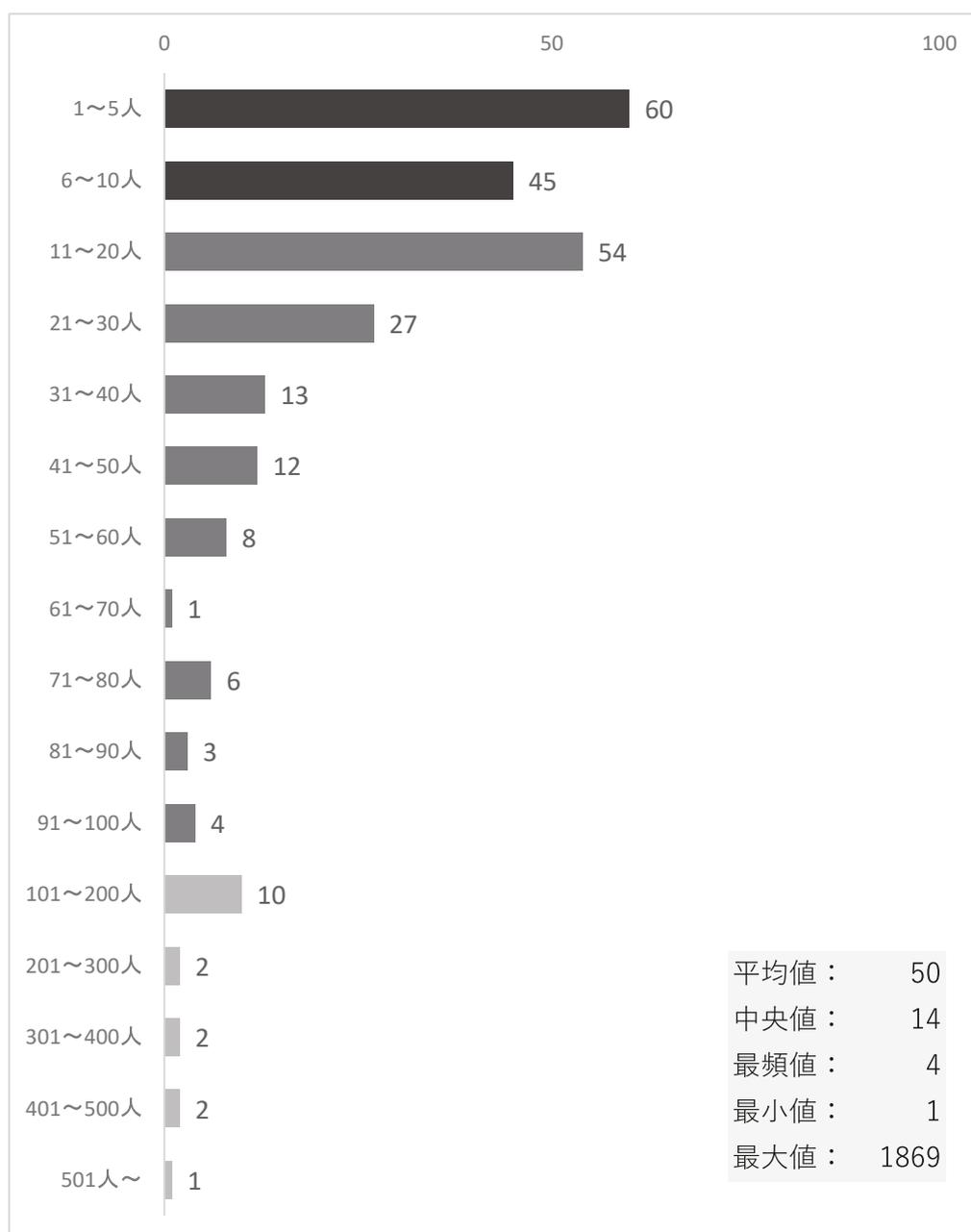


#### (4) 直近の新卒採用人数（採用した企業・団体のみ）

直近の新卒採用人数が10名以下の企業・団体は全体の42.0%に留まっており、58.0%の企業・団体が11名以上の採用を行っている。とりわけ、101名以上の採用を行った企業・団体も17件あり、直近の新卒採用状況については、当該学部学科の卒業生等を受け入れるに對して十分な市場規模があることが確認できる。

Q6-2 直近(2021年4月)の採用人数についてお答えください。

単位：件 N=250



※階級幅の違いによって色分け ■=5、■=10、■=100

### (5) 今後の新卒採用計画

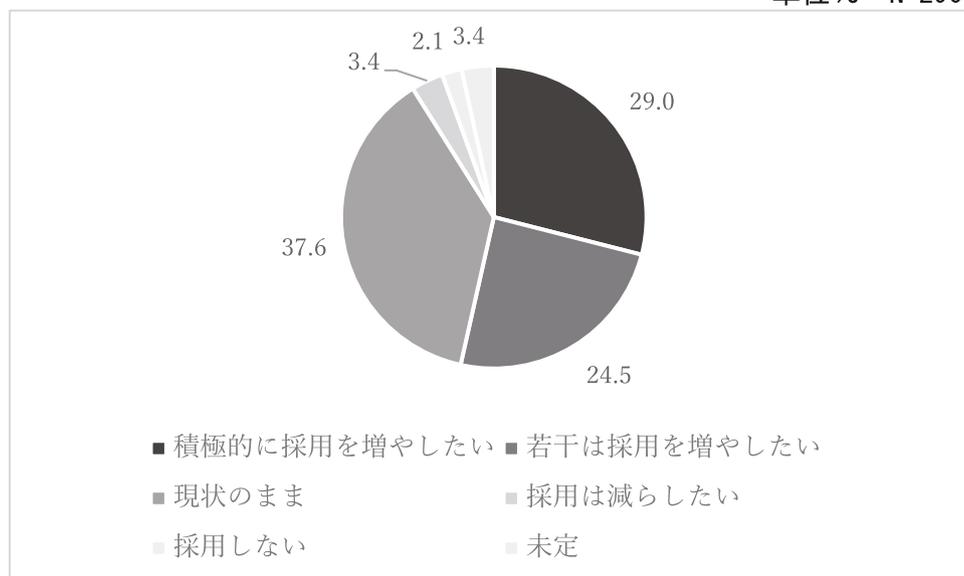
「採用は減らしたい」または「採用しない」と回答した企業・団体は5.5%に留まる一方で、「積極的に採用を増やしたい」または「若干は採用を増やしたい」と回答した企業・団体が53.5%となった。今後の新卒採用については更なる市場規模の拡大を見込むことができ、当該学部学科の卒業生を想定した将来的な市場規模においても十分な見通しを得ることができている。

Q7 今後の新卒採用の計画についてお答えください。

N=290

今後の新卒採用の計画	%
積極的に採用を増やしたい	29.0
若干は採用を増やしたい	24.5
現状のまま	37.6
採用は減らしたい	3.4
採用しない	2.1
未定	3.4

単位% N=290



補足：従業員・職員数、業種別にみた今後の採用計画

従業員・職員数別では、50人以下及び1,000人以上の業種以外はすべて「積極的に採用を増やしたい」または「若干は採用を増やしたい」の割合が50%を超えている。また、業種別にみた今後の採用計画については、「採用は減らしたい」または「採用しない」と回答した企業・団体が30%を超える業種はない。学生の多様な興味・関心に沿ったキャリア選択に対応する業種の多様性も、十分な市場規模に加えて確保されていることが確認できる。

●従業員・職員数×今後の採用計画

上段単位：件/下段単位：% N=290

	全体	積極的に採用を増やしたい	若干は採用を増やしたい	現状のまま	採用は減らしたい	採用しない	未定
	(290)	84	71	109	10	6	10
		29.0	24.5	37.6	3.4	2.1	3.4
～50人	(28)	6	6	10	0	5	1
		21.4	21.4	35.7	0.0	17.9	3.6
51～100人	(33)	11	10	9	1	1	1
		33.3	30.3	27.3	3.0	3.0	3.0
101～499人	(99)	30	28	37	4	0	0
		30.3	28.3	37.4	4.0	0.0	0.0
500～999人	(51)	16	12	20	1	0	2
		31.4	23.5	39.2	2.0	0.0	3.9
1,000人以上	(79)	21	15	33	4	0	6
		26.6	19.0	41.8	5.1	0.0	7.6

※上段が回答数、下段が従業員・職員数における採用計画の割合（単位：%）

●業種×今後の採用計画

上段単位：件/下段単位：% N=290

	全体	積極的に採用を増やしたい	若干は採用を増やしたい	現状のまま	採用は減らしたい	採用しない	未定
	(290)	84	71	109	10	6	10
		29.0	24.5	37.6	3.4	2.1	3.4
1. 農業, 林業	(1)	0	0	1	0	0	0
		0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
2. 漁業	(0)	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	(1)	1	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 建設業	(56)	23	13	18	1	0	1
		41.1	23.2	32.1	1.8	0.0	1.8
5. 製造業	(82)	22	23	29	3	0	5
		26.8	28.0	35.4	3.7	0.0	6.1
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	(4)	3	1	0	0	0	0
		75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 情報通信業	(50)	12	7	26	4	0	1
		24.0	14.0	52.0	8.0	0.0	2.0
8. 運輸業, 郵便業	(5)	0	3	2	0	0	0
		0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
9. 卸売業・小売業	(11)	2	2	7	0	0	0
		18.2	18.2	63.6	0.0	0.0	0.0
10. 金融業, 保険業	(3)	1	1	1	0	0	0
		33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
11. 不動産業, 物品賃貸業	(12)	1	5	4	1	0	1
		8.3	41.7	33.3	8.3	0.0	8.3
12. 学術研究, 専門・技術サービス業	(12)	3	3	5	1	0	0
		25.0	25.0	41.7	8.3	0.0	0.0
13. 宿泊業, 飲食店	(2)	1	0	1	0	0	0
		50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
14. 生活関連サービス業, 娯楽業	(5)	1	1	3	0	0	0
		20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0

	全体	積極的に採用を増やしたい	若干は採用を増やしたい	現状のまま	採用は減らしたい	採用しない	未定
15. 教育学習支援業	(8)	1	3	1	0	2	1
		12.5	37.5	12.5	0.0	25.0	12.5
16. 医療, 福祉	(2)	0	1	1	0	0	0
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
17. 複合サービス事業	(4)	2	0	0	0	1	1
		50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
18. サービス業（他に分類されないもの）	(26)	9	6	8	0	3	0
		34.6	23.1	30.8	0.0	11.5	0.0
19. 公務（他に分類されるものを除く）	(2)	0	1	1	0	0	0
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20. 分類不能の産業	(4)	2	1	1	0	0	0
		50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0

※上段が回答数、下段が業種における採用計画の割合（単位：％）

## 5. 東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科 (仮称) について

### (1) 養成する人材の社会的ニーズ

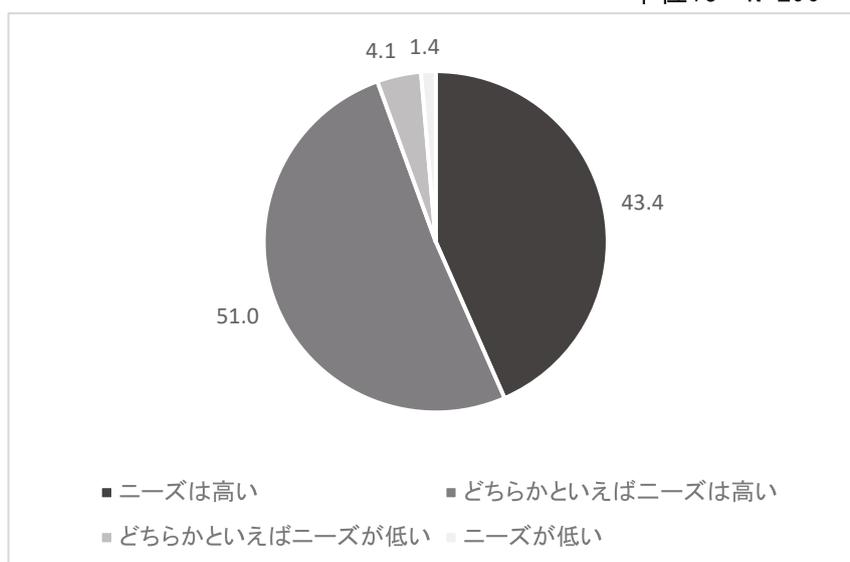
ニーズの高さに関する肯定的な回答（「ニーズは高い」または「どちらかといえばニーズは高い」）が94.4%を占めており、否定的な回答は5.5%であった。従業員数・職員数や業種別にみても、否定的な回答が50%以上だったものは業種別で見た2業種のみであり、多様な規模・業種において広く養成する人材の社会的ニーズを確認することができる。

Q8 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=290

ニーズの高さ	%
ニーズは高い	43.4
どちらかといえばニーズは高い	51.0
どちらかといえばニーズが低い	4.1
ニーズが低い	1.4

単位% N=290



●従業員・職員数×養成する人材の社会的ニーズ

上段単位：件/下段単位：％ N=290

	全体	ニーズ は高い	どちら かとい えばニ ーズは 高い	どちら かとい えばニ ーズが 低い	ニーズ が低い
	(290)	126	148	12	4
		43.4	51.0	4.1	1.4
～ 50 人	(28)	11	14	3	0
		39.3	50.0	10.7	0.0
51 ～ 100 人	(33)	10	21	2	0
		30.3	63.6	6.1	0.0
101 ～ 499 人	(99)	42	50	5	2
		42.4	50.5	5.1	2.0
500 ～ 999 人	(51)	26	24	1	0
		51.0	47.1	2.0	0.0
1, 000 人以上	(79)	37	39	1	2
		46.8	49.4	1.3	2.5

※上段が回答数、下段が従業員・職員数における養成する人材の社会的ニーズの割合（単位：％）

●業種×養成する人材の社会的ニーズ

上段単位：件/下段単位：％ N=290

	全体	ニーズ は高い	どちら かとい えばニ ーズは 高い	どちら かとい えばニ ーズが 低い	ニーズ が低い
	(290)	126	148	12	4
		43.4	51.0	4.1	1.4
1. 農業, 林業	(1)	0	1	0	0
		0.0	100.0	0.0	0.0
2. 漁業	(0)	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	(1)	0	1	0	0
		0.0	100.0	0.0	0.0
4. 建設業	(56)	11	39	5	1
		19.6	69.6	8.9	1.8
5. 製造業	(82)	35	41	3	3
		42.7	50.0	3.7	3.7
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	(4)	0	4	0	0
		0.0	100.0	0.0	0.0
7. 情報通信業	(50)	26	23	1	0
		52.0	46.0	2.0	0.0
8. 運輸業, 郵便業	(5)	4	1	0	0
		80.0	20.0	0.0	0.0
9. 卸売業・小売業	(11)	4	7	0	0
		36.4	63.6	0.0	0.0
10. 金融業, 保険業	(3)	3	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0
11. 不動産業, 物品賃貸業	(12)	8	4	0	0
		66.7	33.3	0.0	0.0
12. 学術研究, 専門・技術サービス業	(12)	8	4	0	0
		66.7	33.3	0.0	0.0
13. 宿泊業, 飲食店	(2)	1	0	1	0
		50.0	0.0	50.0	0.0

	全体	ニーズ は高い	どちら かとい えばニ ーズは 高い	どちら かとい えばニ ーズが 低い	ニーズ が低い
14. 生活関連サービス業、娯楽業	(5)	3	2	0	0
		60.0	40.0	0.0	0.0
15. 教育学習支援業	(8)	4	4	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0
16. 医療、福祉	(2)	1	1	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0
17. 複合サービス事業	(4)	1	3	0	0
		25.0	75.0	0.0	0.0
18. サービス業（他に分類されないもの）	(26)	13	12	1	0
		50.0	46.2	3.8	0.0
19. 公務（他に分類されるものを除く）	(2)	1	0	1	0
		50.0	0.0	50.0	0.0
20. 分類不能の産業	(4)	3	1	0	0
		75.0	25.0	0.0	0.0

※上段が回答数、下段が業種における養成する人材の社会的ニーズの割合（単位：％）

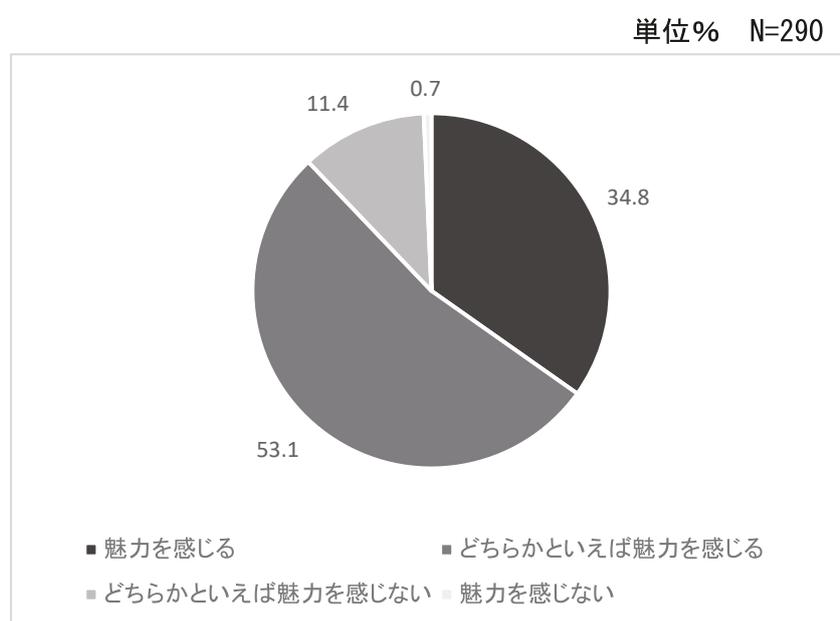
## (2) 養成する人材の魅力

事業所における当該学部学科（の養成する人材）の魅力について、肯定的な回答（「魅力を感じる」または「どちらかといえば魅力を感じる」）が87.9%を占めており、否定的な回答は12.1%であった。多くの事業所が、当該学部学科で養成する人材に魅力を感じている事がわかる。

Q9 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材は貴事業所にとって魅力を感じますか。

N=290

事業所にとっての魅力	%
魅力を感じる	34.8
どちらかといえば魅力を感じる	53.1
どちらかといえば魅力を感じない	11.4
魅力を感じない	0.7



●従業員・職員数×養成する人材の魅力

上段単位：件/下段単位：％ N=290

	全体	魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じない	魅力を感じない
	(290)	101	154	33	2
		34.8	53.1	11.4	0.7
～ 50 人	(28)	8	15	5	0
		28.6	53.6	17.9	0.0
51 ～ 100 人	(33)	10	17	6	0
		30.3	51.5	18.2	0.0
101 ～ 499 人	(99)	31	55	13	0
		31.3	55.6	13.1	0.0
500 ～ 999 人	(51)	18	28	5	0
		35.3	54.9	9.8	0.0
1, 000 人以上	(79)	34	39	4	2
		43.0	49.4	5.1	2.5

※上段が回答数、下段が従業員・職員数における各魅力度の割合（単位：％）

●業種×養成する人材の魅力

上段単位：件/下段単位：% N=290

	全体	魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じない	魅力を感じない
	(290)	101	154	33	2
		34.8	53.1	11.4	0.7
1. 農業，林業	(1)	0	0	1	0
		0.0	0.0	100.0	0.0
2. 漁業	(0)	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
3. 鉱業，採石業，砂利採取業	(1)	0	1	0	0
		0.0	100.0	0.0	0.0
4. 建設業	(56)	10	30	16	0
		17.9	53.6	28.6	0.0
5. 製造業	(82)	28	44	9	1
		34.1	53.7	11.0	1.2
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	(4)	1	3	0	0
		25.0	75.0	0.0	0.0
7. 情報通信業	(50)	25	25	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0
8. 運輸業，郵便業	(5)	3	2	0	0
		60.0	40.0	0.0	0.0
9. 卸売業・小売業	(11)	4	7	0	0
		36.4	63.6	0.0	0.0
10. 金融業，保険業	(3)	2	1	0	0
		66.7	33.3	0.0	0.0
11. 不動産業，物品賃貸業	(12)	7	4	1	0
		58.3	33.3	8.3	0.0
12. 学術研究，専門・技術サービス業	(12)	4	6	2	0
		33.3	50.0	16.7	0.0
13. 宿泊業，飲食店	(2)	2	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0

	全体	魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じる	どちらかといえば魅力を感じない	魅力を感じない
14. 生活関連サービス業、娯楽業	(5)	2	3	0	0
		40.0	60.0	0.0	0.0
15. 教育学習支援業	(8)	2	6	0	0
		25.0	75.0	0.0	0.0
16. 医療、福祉	(2)	0	1	1	0
		0.0	50.0	50.0	0.0
17. 複合サービス事業	(4)	0	4	0	0
		0.0	100.0	0.0	0.0
18. サービス業（他に分類されないもの）	(26)	9	14	3	0
		34.6	53.8	11.5	0.0
19. 公務（他に分類されるものを除く）	(2)	1	1	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0
20. 分類不能の産業	(4)	1	2	0	1
		25.0	50.0	0.0	25.0

※上段が回答数、下段が業種における各魅力度の割合（単位：％）

### (3) 養成する人材の採用意向

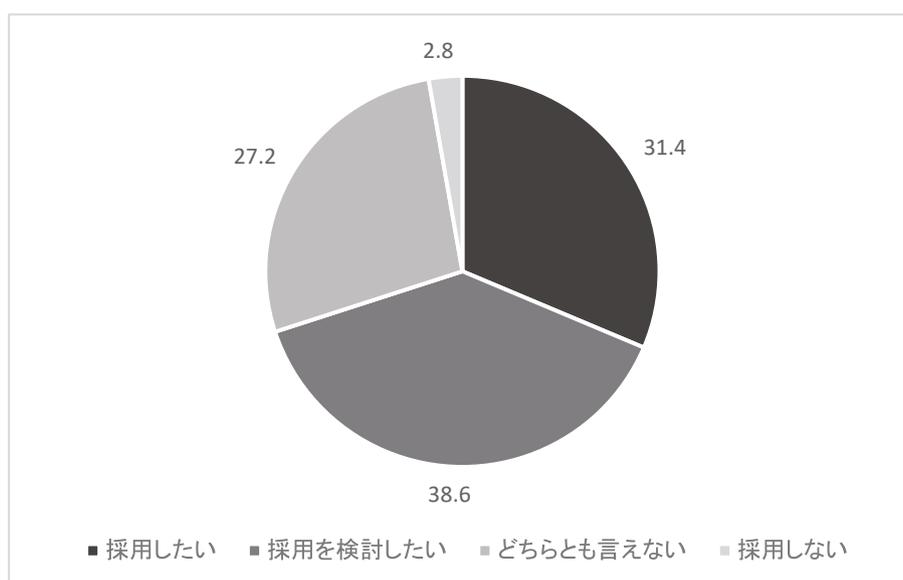
肯定的な回答（「採用したい」または「採用を検討したい」）が70.0%となった。最も肯定的な回答（「採用したい」）を選択した企業・団体は31.4%であり、3件に1件が採用意向を示している。

Q10 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の、貴事業所での採用意向をお答えください。

N=290

採用意向	%
採用したい	31.4
採用を検討したい	38.6
どちらとも言えない	27.2
採用しない	2.8

単位% N=290



●従業員・職員数×採用意向

上段単位：件/下段単位：％ N=290

	全体	採用し たい	採用を 検討し たい	どちら とも言 えない	採用し ない
	(290)	91	112	79	8
		31.4	38.6	27.2	2.8
～ 50 人	(28)	6	6	12	4
		21.4	21.4	42.9	14.3
51 ～ 100 人	(33)	8	14	10	1
		24.2	42.4	30.3	3.0
101 ～ 499 人	(99)	34	38	26	1
		34.3	38.4	26.3	1.0
500 ～ 999 人	(51)	19	26	6	0
		37.3	51.0	11.8	0.0
1, 000 人以上	(79)	24	28	25	2
		30.4	35.4	31.6	2.5

※上段が回答数、下段が従業員・職員数における採用意向の割合（単位：％）

●業種×採用意向

上段単位：件/下段単位：% N=290

	全体	採用し たい	採用を 検討し たい	どちら とも言 えない	採用し ない
	(290)	91	112	79	8
		31.4	38.6	27.2	2.8
1. 農業, 林業	(1)	0	0	1	0
		0.0	0.0	100.0	0.0
2. 漁業	(0)	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	(1)	1	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0
4. 建設業	(56)	14	22	19	1
		25.0	39.3	33.9	1.8
5. 製造業	(82)	22	33	27	0
		26.8	40.2	32.9	0.0
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	(4)	1	1	2	0
		25.0	25.0	50.0	0.0
7. 情報通信業	(50)	20	27	3	0
		40.0	54.0	6.0	0.0
8. 運輸業, 郵便業	(5)	2	3	0	0
		40.0	60.0	0.0	0.0
9. 卸売業・小売業	(11)	4	3	4	0
		36.4	27.3	36.4	0.0
10. 金融業, 保険業	(3)	0	2	1	0
		0.0	66.7	33.3	0.0
11. 不動産業, 物品賃貸業	(12)	5	4	3	0
		41.7	33.3	25.0	0.0
12. 学術研究, 専門・技術サービス業	(12)	4	5	3	0
		33.3	41.7	25.0	0.0
13. 宿泊業, 飲食店	(2)	2	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0
14. 生活関連サービス業, 娯楽業	(5)	3	1	1	0
		60.0	20.0	20.0	0.0

	全体	採用し たい	採用を 検討し たい	どちら とも言 えない	採用し ない
15. 教育学習支援業	(8)	2	2	3	1
		25.0	25.0	37.5	12.5
16. 医療, 福祉	(2)	0	0	1	1
		0.0	0.0	50.0	50.0
17. 複合サービス事業	(4)	0	1	2	1
		0.0	25.0	50.0	25.0
18. サービス業（他に分類されないもの）	(26)	11	6	6	3
		42.3	23.1	23.1	11.5
19. 公務（他に分類されるものを除く）	(2)	0	0	2	0
		0.0	0.0	100.0	0.0
20. 分類不能の産業	(4)	0	2	1	1
		0.0	50.0	25.0	25.0

※上段が回答数、下段が業種における採用意向の割合（単位：％）

#### (4) 養成する人材の採用想定人数

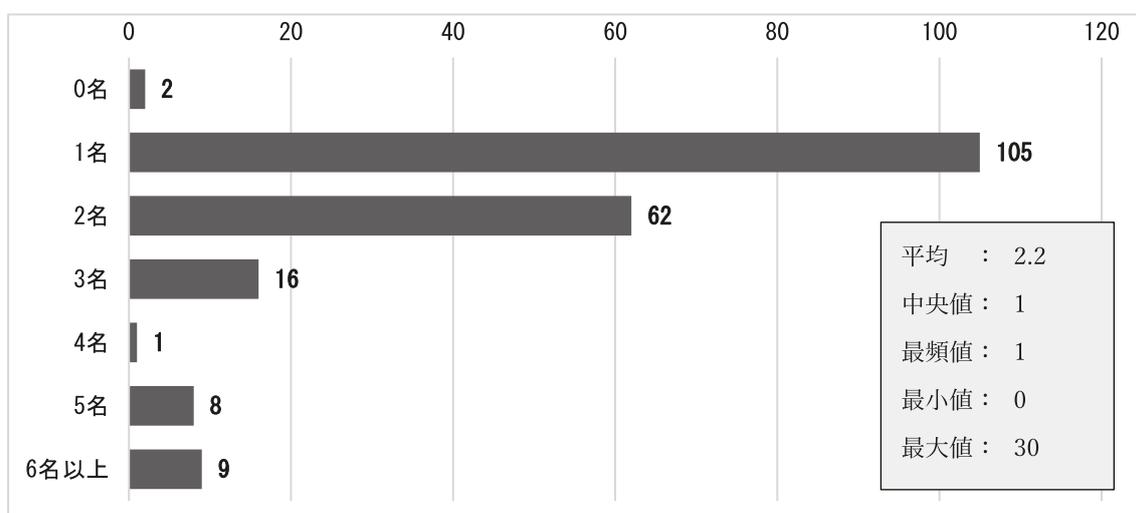
前問で「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した企業・団体 203 件に対し、採用する場合の想定人数を尋ねた結果、合計人数は 456 名であった。「採用したい」と回答した企業・団体だけでみた場合は 290 名であった。

Q11 Q10 で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で採用を想定いただける人数をご記入ください。

N=203

	企業・団体数	採用想定人数の合計
「採用したい」と回答した企業・団体	91	290
「採用を検討したい」と回答した企業・団体	112	166
合計（「採用したい」または「採用を検討したい」と回答）	203	456

単位：件 N=203



※0名は、Q10 で「採用したい」または「採用を検討したい」と回答したが具体的な採用人数の記載では0名と記載した企業・団体。

(5) 「デザイン・データ科学部（仮称）」の魅力・ニーズに肯定的な回答を行った企業・団体に絞った場合の採用意向と採用想定人数

「デザイン・データ科学部（仮称）」の魅力・ニーズに関する2つの質問項目（Q8、Q9）について、双方に肯定的な回答を行った企業・団体 249 件を母数として設定し、採用意向に関する質問項目（Q10）において「採用したい」と回答した企業・団体の集計を行った。その結果、当該学部学科で養成する人材を「採用したい」と回答した企業・団体は 89 件、採用想定人数の合計は 288 名であり、入学定員 100 名の 2.9 倍であった。

更に、所在する都道府県とのクロス集計を行ったところ、1都3県に所在する企業・団体は 76 件、採用想定人数の合計は 253 名であり、入学定員 100 名の 2.5 倍であった。

以上のことから、社会的ニーズに加え、地域におけるニーズについても十分な人材需要があるものと見込まれる。

	企業・団体数	採用想定人数の合計
Q8、Q9の双方において肯定的な回答を行い、且つQ10において「採用したい」と回答した企業・団体	89	288

※Q8、Q9 双方において肯定的な回答を行った企業・団体 249 件が母数となっている。

- ・Q8「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズにおける肯定的な回答（「ニーズは高い」・「どちらかといえばニーズは高い」）
- ・Q9「デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の魅力についての肯定的な回答（「魅力を感じる」・「どちらかといえば魅力を感じる」）

●所在する都道府県×採用想定人数

N=89

都道府県	企業・団体数	採用想定人数の合計
東京都	65	231
神奈川県	9	19
埼玉県	2	3
千葉県	0	0
その他	13	35

## (6) 意見・要望等

様々な業種、職種において、当該学部学科の養成する人材に対する期待のコメントが多い。

Q12 東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）にご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

変化に合わせて最適解を導き出せる力の育成に期待しております。
弊社も現在国際事業の展開を図っており、外国人留学生をはじめとした国際感覚豊かなグローバルな人材の確保にも取り組んでいるところでございます。まだ始まったばかりではありますが、今後ともよろしく願いいたします。
弊社への採用試験へのエントリーされた場合には、情報システム系のセクションでの採用となる可能性が高いと考えます。
弊社は開発設計部門がありますので、まさにデザインはマッチすると思います。
弊社の募集職種について必ずしも該当するものはないが興味はあります。学習した内容が違っていても興味を持っていただければ採用したいと思っております。
弊社、事業内容（地中配電工事）に、興味を持っていただいた学生さんを採用したいと思っております。何卒宜しく願い申し上げます。
弊社は人材開発の会社ですが、理科系専門ではありますが、実験系の仕事が多くあります。貴学の新しく作られる学部は、これからの人材を養成される点でとても良いと思いますし、弊社でも〇〇に直接入社される正社員としてデータに詳しい方が欲しいと思っております。そして、これからはそんな人材を採用できる事業所を開発していくべきと考えてはおります。
武蔵工業大学の頃は理系大学として高い専門性をもち高い就職率、付属高校からも高い評価を得ていたが東京都市大学と名前を変え、総合大学化したことで専門性や個性など他の大学との差別化ができていない印象を受けています。大学で与える知識だけでなく、ヒューマンスキルを高められる大学、学部になってほしいと思います。
非常に将来性のある魅力的な学部であると感じました。入学する学生が就活においてどのような業種・職種に興味を持つのか知りたいです。
当社資格の学校では、大学様へ学内講座の支援・提供を行っております。ご入用の際には、何卒ご検討をいただけますと幸いです。
当社は中小企業の建設業者なので、学生が折角勉強した事を活かしてあげることが、出来ないと思えます。チラシには刺激的なワードが並び、グローバルな活動をしている企業、中央官庁等へ就職を目指す方には魅力があると思えます。
当社は創業104年を迎え、お客様から一定のご評価を頂いたことで今が御座います。但し、歴史は長いですが今迄接点を持たせて頂いた方々のデータを有効活用できていないのが実状です。御校でデー

<p>々の収集方法から活用までを網羅する学問を学んで頂いた学生様でしたら、当社としても是非入社頂きたいものです。</p>
<p>当社はデータサイエンティスト等の採用は行っていませんが、ITリテラシーを備えた営業マンを求めています。</p>
<p>当社としては、下記1、2又は3の人材として採用したい。1. 営業職（英語力・国際感覚とプログラミングやデータ分析のできる海外営業職に合致する）2. ソフト設計職（グローバルな感覚と視野を持つソフト設計者）3. その他の職種（グローバルな感覚と情報分析力を持った人材）</p>
<p>当社が必要とする人材を確保できそうな為、期待するところです</p>
<p>当社が今後DX化に向けた取り組みをする上で、貴学の上記学部はそのニーズに合ったものだと考えております。</p>
<p>当金庫では現在、DX分野での採用を検討しており、データ分析や構築をメインとした業務で活躍できる人材を求めています。もちろん金融機関業務にも従事してもらうことはありますが、興味のある学生がおりましたら是非インターンシップなどにも今後来ていただきたいと考えております。デザイン・データ学部の社会における必要性は高いものだと思いますので、これからの学生の育成に期待しております。</p>
<p>東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）は現在でも必要とされていますが今後よりビジネスで必要とされ活躍できる学部だと感じます。当社は製造業で2023卒採用は生産技術職のみ採用予定のためご縁がないかもしれませんが2024卒以降採用予定がございましたらぜひ説明会等に参加させていただければ幸いです。宜しくお願い致します。</p>
<p>土木・建築構造物の点検・計測に関し、VR、ARを活用した教育訓練教材の開発など、今後の課題に取り組む人材を採用したいが、恒常的な業務の継続は難しい面がある（現状、協力会社などを活用）。</p>
<p>中長期計画策定の際、分析力も重要なものとなってきます。この先、弊社も力を入れていく部門ですので、是非とも採用したいと思います。</p>
<p>単独での会社説明会を開催させてほしい</p>
<p>多様性を掲げる現代において、とても高い対応力を備えた人材の育成が期待できると感じました。物流業界というまだまだ偏見がある業界の中で、こういった人材を採用できれば、新しい業界像が作れるのではと期待しております。</p>
<p>想像力や可能性に制限を持たずに活動できる人材の育成を期待しております</p>
<p>創造性豊かな人材育成を増やしてほしい</p>
<p>専門領域を様々な業界・事業領域でもいかすことができるというキャリア教育の強化もお願いしたい。</p>
<p>専門分野が多岐に渡っているのではどのような人材が輩出されるのかとても興味深いです。</p>
<p>専門性に加えグローバルな内容についても身につけるため、期待出来る人材になりうると思われる。</p>
<p>製造業なので情報システムの募集するときは、採用対象になります。</p>
<p>新学部設置構想で新たな分野での人材構築との事なので、期待しております。</p>

<p>情報技術、分析力、及び、語学とこれからの社会に必要とされるスキルを有した人材の輩出ということに魅力を感じます。</p>
<p>社会的にもデジタル化が進む中で、このような学部は非常にニーズが高いと思います。弊社でも情報系学生を求めており、今後は非学生と接触していきたいと考えております。</p>
<p>社会的にニーズがあり、かつ先進的な専門性に対して当社のニーズ・社内の機運が追い付いていないと感じています。</p>
<p>社会の変化を先読みした魅力のある学部と思います。ぜひ弊社にも御校で学習された人材を積極採用したく考えます。</p>
<p>社会に出る前の学生ですと何が課題かという点で捉えにくいと思います。（実際それぞれの企業で起きていることも違いますし）インターンを長めに経験させることで実体験に基づいたデータ分析などしてもらえると採用する側にもとても魅力を感じると思います。</p>
<p>社員は雇用せず、経営者である私一人の会社です。仕事の内容から、案件に応じてプロジェクトと組んで仕事をします。このため、貴学部が養成する人材も、プロジェクトチームの一人としてお力添えいただく形で仕事を願うこととなります。</p>
<p>実践的なデザイン思考を持った人材育成を期待しています。</p>
<p>私は、特許事務所に勤務しており、貴学にて「知的財産」という講義している貴学卒業生です。経営戦略や事業戦略において、知的財産の知識は必要不可欠なものとなりつつあります。「もの」から「こと」へ産業がシフトしていても、知的財産に関する知識は必要となります。社会人になってから知的財産について初めて触れるということがないよう、カリキュラムについて考慮頂くことを望みます。</p>
<p>産学連携により、社会全体の課題解決に直結する取り組みとなるよう、また礎を創出できるような人材育成をともに進めていくべきと思っています。</p>
<p>採用総定数が半角数字のみだったため、1名と記入しましたが、弊社にとって有望な学生であれば、もっとたくさん採用したいと考えています。</p>
<p>今後の時代に需要がある学部・学科であるとともに、弊社も不動産企業でありながらIT会社があったりなど多事業展開している企業体の為、期待をさせていただきたいと感じました。</p>
<p>今後のニーズはある学部だと思います。リーフレットのキャッチコピーをもっとわかりやすくインパクトのある文言にして、ビジュアルも追加した方がよいと思いました。</p>
<p>国際感覚を身につけた人材はとても貴重です。また、情報、工学、社会科学など幅広い教養がますます必要になると思いますので、期待しております。</p>
<p>工学に関する科目を修めた方が採用必須項目のため、採用の予定はございません。 よろしくお願いたします。</p>
<p>現在、生産技術や顧客サービス、営業活動の効率化などの面でデータサイエンティストを採用し育成していくことを重視しております。是非、当社の現状、取り組みや今後の展望など学生の皆様にお話しする機会がいただけましたら幸いです。</p>

<p>企業の従来の枠組みで考えると文系の学部と考えるが、文理どちらにも該当するイメージでよいものか。基準が打ち出されると助かります。</p>
<p>学習内容をどれだけ実務に結び付けるイメージを学生の間から持てるか、実際の業務においては数値の結果だけでは事が進まず、<math>+\alpha</math>での数値には表れない対人での調整が求められ、その点も是非学生のうちから意識をして頂きたい。</p>
<p>学習する内容は素晴らしいが、学部名がダサイのもっとしゃれた学部名にしたほうがいいと思います。</p>
<p>会社説明会開催の予定がある場合は、案内をメールにて送信してほしい。</p>
<p>一般紙的な社会性は勿論のこと、コンピュータ技術と併せてデータ分析力、思考力などに期待しています。</p>
<p>ものづくりを牽引するよりもものづくり自体に地道に取り組む学生を歓迎したいです。</p>
<p>プログラミングなどの技術的なことだけではなく、社会に必要とされるグローバルな思考能力を学べるのはとても素晴らしいことだと思います。</p>
<p>フィールドワークが出来る人材の育成を希望します。</p>
<p>どの分野でも活躍できる方の育成につながりそうだと思います</p>
<p>とても魅力的です。 コロナ禍になり対面で会えない場面が増えている中、モノの魅せ方、見え方も大切に、さまざまな角度からの伝え方が求められてになってきていると実感しています。 デザインとデータ分析に長けた人材としても、"自分の世界"に己惚れることなく、学びを糧に、他者の言葉を真摯に受け止め傾聴し、よりよいものを生み出そうと取り組む方々とぜひ出会いたいです。 この度は、貴重なアンケートの機会を、ありがとうございました。</p>
<p>テレビ番組を制作しております弊社は、様々な物事に興味を持たれている方を積極的に採用しております。学科は不問です。テレビ番組をこの手で作ってみたい方を募集しています。</p>
<p>デザイン・データ科学部を履修・終了された方が、どの様なスキルを身に付けられるのかが、はっきりとイメージできなかった為、採用を検討とはしませんでした。魅力のあるやる気のある方であれば積極的に採用活動を進めたいと考えております。</p>
<p>データ分析を生かし、その先の未来を創造する学生になってほしいです。</p>
<p>データ解析の必要性が年々増しており、中々学問で対応されている大学がない為、とても興味深く感じます。</p>
<p>データを分析しデザインして、それを活用する方法を学ぶことは、どの業界のどの職種でも必要なことです。今後に期待しています。 もちろん採用も是非お願いしたいです。</p>
<p>データに基づく学習を実施されると思うが、データばかりに頼って実際の出来事を軽視するような人材を造らないようにしてもらいたい。</p>
<p>データサイエンスは新しい分野であり、これから求められる人材だと考えます。基礎的な能力・資質を身につけた卒業生を輩出していただけることを期待しています。</p>
<p>データサイエンスとデザインに加え、国際感覚を養うことは今後の日本にとって大変重要と考えます。さらにビジネス力を加えることができれば、各企業としては大変重宝する人材となりそうです。</p>

<p>社会課題と正確に捉え、データサイエンスを利用し、新しいデザイン力で未来を変えていく人材の育成につながるよう貴校に期待しております。</p>
<p>これから必要なデータサイエンティストを育成する学科ということで期待しております</p>
<p>これからの時代にマッチした高い専門性と社会を担う人材を育成する学部と感じました。</p>
<p>グローバルで活躍する人材という意味では現時点の当社事業（原則国内）では物足りなさを感じるかもしれない。ITで東急グループに幅広く寄与したいという気持ちがある方は当社にとっては欲しい人材となり得る。</p>
<p>オープンエントリーのためお約束はできませんが、非常に興味があります。業界研究会や企業説明会等、学生様とコミュニケーションを取らせていただけるような機会がございましたら是非お声掛けをいただきましたら幸いです。</p>
<p>Web、対面どちらでも良いので、学生と係わる時間を頂戴したい。</p>
<p>IT系企業や、海外展開をしている会社にとっては、ニーズに合った人材になると思う。弊社は旧来型の技術職が中心の職場になるので、逆に学生の希望には合わないのではないかと思います。</p>
<p>我が社は、施工管理いわゆる現場監督を生業としています。自分で考え工夫しながら建物を建てる仕事です。・現場見学、会社説明、1名から対応してます。是非、〇〇を1度検索してみてください。拠点は東京本店となります。どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>「本学部が求める人物像」の特に2、3について、在学中に、大いに伸ばしていただきたいと考えます。</p>

※文章は原文ママ。但し、個人名が記載されている部分は削除。

※挨拶のみのコメントは割愛。

# FAX 送信先：03-6746-0065

株式会社日本ドリコム エデュケーショナル情報室

## 東京都市大学デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科（仮称・設置構想中） 設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査

選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお尋ねします。

Q 1. 所在する都道府県（主たる事業所・本社等）をお答えください。

（ ）都・道・府・県

Q 2. 業種について、主としてあてはまるものを1つお答えください。

1. 農業,林業
2. 漁業
3. 鉱業,採石業,砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業,郵便業
9. 卸売業・小売業
10. 金融業,保険業
11. 不動産業,物品賃貸業
12. 学術研究,専門・技術サービス業
13. 宿泊業,飲食店
14. 生活関連サービス業,娯楽業
15. 教育学習支援業
16. 医療,福祉
17. 複合サービス事業
18. サービス業(他に分類されないもの)
19. 公務(他に分類されるものを除く)
20. 分類不能の産業

Q 3. 従業員数、職員数の規模をお答えください。(支店や支社を含めた数)

1. ～50人
2. 51～100人
3. 101～499人
4. 500～999人
5. 1,000人以上

Q 4. 新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。(複数回答可)

1. 分析力
2. 構想力
3. 語学力(言語能力)
4. 論理的思考力
5. 国際(的)感覚
6. ホスピタリティマインド
7. 主体性
8. 責任感
9. ストレス耐性
10. 出身学部・学科
11. 学業成績・一般常識
12. コミュニケーション能力
13. 思考力
14. 実践力
15. 協働性
16. 課題解決能力
17. 協調性
18. リーダーシップ
19. 専門性
20. 成長力
21. 柔軟性・素直さ
22. 創造力
23. チャレンジ精神
24. 取得資格
25. 多様性
26. 調査力
27. 評価能力
28. 判断力
29. 応用力
30. その他( )

Q 5. 現在の人材の過不足状況をお答えください。

1. 非常に不足
2. 不足
3. 適正
4. 過剰
5. 非常に過剰

Q 6. 直近(2021年4月)の新卒採用の状況、採用人数についてお答えください。

1. 採用した  名
2. 採用活動の結果、採用なし
3. 採用活動・採用ともになし

Q 7. 今後の新卒採用の計画についてお答えください。

1. 積極的に採用を増やしたい
2. 若干は採用を増やしたい
3. 現状のまま
4. 採用は減らしたい
5. 採用しない
6. 未定

以下は、東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）リーフレットをご覧ください。お答えください。

## 東京都市大学デザイン・データ科学部

### 分析力と創造力、国際的対応力を備えたイノベーション人材を育成

ものづくり、ことづくりにおいて情報をフル活用し、企業や社会におけるイノベーションを牽引できる人材の育成を目指しています。具体的には次のような力を育成します。

- ・ 定量・定性両方のデータを科学的な分析によって、読み解き、洞察を得る力
- ・ データ分析に基づく洞察から、新たな製品や空間など有形な「もの」を創造する力
- ・ データ分析に基づく洞察から、新たなサービスやビジネスモデルなど無形な「こと」を創造する力
- ・ インターンシップ・海外留学・卒業プロジェクト等を通じて習得する実践力・国際的対応力

Q 8. 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

1. ニーズは高い 2. どちらかといえばニーズは高い 3. どちらかといえばニーズが低い 4. ニーズが低い

Q 9. 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材は貴事業所にとって魅力を感じますか。

1. 魅力を感じる 2. どちらかといえば魅力を感じる 3. どちらかといえば魅力を感じない 4. 魅力を感じない

※以下Q10、Q11における採用意向・人数に関する回答は、実際の採用人数をお約束いただくものではありません。現時点でのご担当部署もしくはご担当者様ご自身のお考えに最も近いものをご回答ください。

Q 10. 「東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）」が養成する人材の、貴事業所での採用意向をお答えください。

1. 採用したい 2. 採用を検討したい 3. どちらとも言えない 4. 採用しない

Q 11. Q10で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で採用を想定いただける人数をご記入ください。

●東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）

名

Q 12. 東京都市大学デザイン・データ科学部（仮称）にご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

尚、当該学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更される場合があります。

# 東京都市大学 2023年、新学部設置 (構想中)

2023年4月  
設置構想中

〔横浜キャンパス〕

## デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科

入学定員  
100名

イノベーションを創出できるグローバルな人材の育成を目的としたカリキュラム

### 人材養成と

#### 教育研究における目的

定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインでできる実践的な専門力を持つ人材を養成する。

#### 文理を超えた教養・多角的視野

データ分析技術と思考法	情報学理論 プログラミング応用演習 ビッグデータ解析演習 機械学習論 など
人と社会の現象・仕組みの理解	ウェブプログラミング インタフェースデザイン 経営戦略概論 金融・市場システム論 など
デザイン	英語・ディベート・プレゼンテーション 国際研究 異文化理解 海外留学 など
グローバルリテラシー	

データ科学に  
関する知識と技術に  
裏付けられた  
批判的思考力と  
論理的思考力

社会課題を  
解決するための新たな  
体験やサービス等を  
構想・設計・構築できる  
実践的な専門力

データ科学に関する知識や技術と、「もの」「こと」を構想・設計・構築し、デザインでできる力を活かして新たな体験やサービスを創出でき、社会の発展に貢献できる人材を輩出



2022年3月14日

東京都市大学 御中

株式会社日本ドリコム

東京都市大学 デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科（仮称）  
設置に関する受容性調査 結果報告書【企業】「2. 調査結果まとめ」の補足

標記について、下記のとおり補足いたします。

#### 記

Q8, Q9 の双方において肯定的な回答を行い、且つ Q10 において「採用したい」と回答した企業・団体 89 件には、Q7. 今後の新卒採用の計画を問う設問において「採用は減らしたい」「採用しない」と否定的な回答をした企業・団体は含まれていません。また、採用想定人数 288 名とのクロス集計の結果は、下表のとおりとなります。

#### 今後の採用計画と採用想定人数に関するクロス集計

N=288

回 答	採用想定人数（名）
1. 積極的に採用を増やしたい	163
2. 若干は採用を増やしたい	45
3. 現状のまま	78
4. 採用は減らしたい	0
5. 採用しない	0
6. 未定	2

以上

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ミキ チトシ 三木 千壽 <平成27年1月>		工学博士		東京都市大学 学長 (平成27.1~令和5.12)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平均 日数	
1	専	教授 (学部長)	セキ ヨシキ 関 良明 <令和5年4月>		博士 (情報科学)		教養特別講義 ソーシャルシステムデザイン入門 ※ サービスイノベーション 未来創造デザインプロジェクト サービスシステムデザイン演習 ビジネスシステムデザイン演習 キャプストーンプロジェクト	1前・後 1後 2前 3後 3前 3後 4後・前	2 1 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 教授 (平26.4)	5日	
2	専	教授	ハマ マサキ 葉村 真樹 <令和5年4月>		博士 (学術)		ソーシャルシステムデザイン入門 ※ 経営戦略概論 SD PBL(1) キャプストーンプロジェクト	1後 2前 1前 4後・前	1 2 1 4	1 1 1 1	東京都市大学 総合研究所 教授 (平31.4)	1日	
											ポストン・コンサルティング・ グループ合同会社 パートナー&アソシエイト・ ディレクター (令2.4)	5日	
3	専	教授	ヤマケチ(クボ) アツコ 山口(久保) 敦子 <令和5年4月>		博士 (情報学)		データサイエンスリテラシー(1) 統計学基礎 データベース SD PBL(1) ビッグデータ解析演習 ウェブデータ処理 キャプストーンプロジェクト	1前・後 2前 2後 1前 3前 3後 4後・前	1 2 2 1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	東京都市大学 教育開発機構 数理・データサイエンス 教育センター 教授 (令2.4)	5日	
4	専	教授	カイ カズミ 河合 孝純 <令和5年4月>		博士 (理学)		データサイエンス概論 統計データ解析演習 機械学習演習 ベイズ統計学 キャプストーンプロジェクト	1前 2後 2後 3前 4後・前	2 2 2 2 4	1 1 1 1 1	東京都市大学 教育開発機構 数理・データサイエンス 教育センター 教授 (令2.4)	5日	
5	専	教授	カハシ ヒロカ 高橋 弘毅 <令和5年4月>		博士 (理学)		データサイエンスリテラシー(2) プログラミング基礎演習 データサイエンス数学 プログラミング応用演習 ニューラルネットワーク キャプストーンプロジェクト	1前・後 1後 1前 2前 2前 3前 4後・前	1 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	東京都市大学 教育開発機構 数理・データサイエンス 教育センター 教授 (令2.9)	5日	
6	専	教授	イノ シュンコ 市野 順子 <令和5年4月>		博士 (工学)		量的ユーザー調査 ユーザ・エクスペリエンスデザイン入門 ※ ウェブプログラミング デザインリサーチ インタフェースデザイン インタラクションデザイン演習 キャプストーンプロジェクト	1後 1前 2後 3前 3前 3後 4後・前	2 0.7 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 教授 (平29.9)	5日	
7	専	教授	オオキ ナ 大槻 奈那 <令和5年4月>		MBA (英国)		経営分析論 ソーシャルシステムデザイン入門 ※ 金融・市場システム論 ビヘイビアル・ファイナンス リスク&クライシスマネジメント キャプストーンプロジェクト	2前 1後 2後 3前 3後 4後・前	2 1 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科 教授 (平27.9)	4日	
8	専	教授	サイトリ(ヤマモト) アヤ 斎藤(山本) 文 <令和5年4月>		博士 (工学)		データ社会論 ユーザ・エクスペリエンスデザイン入門 ※ ブランドコンセプトデザイン キャプストーンプロジェクト	1後 1前 3後 4後・前	2 0.6 2 4	1 1 1 1	東京都市大学 教育開発機構 数理・データサイエンス 教育センター 教授 (令4.4)	5日	
9	専	教授	ハシケ キミカ 蓮池 公威 <令和5年4月>		修士 (工学)		デザインプロトタイピング(1) SD PBL(1) デザインプロトタイピング(2) デザインプロダクション演習 キャプストーンプロジェクト	2前 1前 3前 3後 4後・前	2 1 2 2 4	1 1 1 1 1	富士フイルムビジネ ソリューション株式会社 グループ長 (平6.4~令3.9)	4日	

## 教 員 の 氏 名 等

(デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平均 日数
10	専	教授	ヨシカゲントウ 吉川 玄徳 <令和5年4月>		博士 (学術)		質的ユーザー調査 SD PBL(1) 企業経営分析ケーススタディ キャップストーンプロジェクト	1後	2	1	一般財団法人デロイト トマワリエルビートンク財団 代表理事 (令3.4)	3日
								1前	1	1		
11	専	准教授	カモリ ユウキ 永盛 祐介 <令和5年4月>		博士 (感性科学)		情報編集入門 ユーザーエクスペリエンスデザイン入門 ※ デザインプレゼンテーション 情報デザイン デザインリサーチ SD PBL(1) SD PBL(2) SD PBL(3) 感性デザイン演習 キャップストーンプロジェクト	1後	2	1	東京都市大学 メディア情報学部 社会メディア学科 准教授 (平30.4)	5日
								1前	0.7	1		
12	専	准教授	オオホウ ヒロキ 大久保 寛基 <令和5年4月>		博士 (工学)		ボランティア(1) ボランティア(2) インターンシップ(1) インターンシップ(2) 業務プロセス分析 ソーシャルシステムデザイン入門 ※ 総合的品質管理 オペレーションマネジメント プロジェクトマネジメント SD PBL(1) サプライチェーンデザイン演習 特別講義 COOPプログラム キャップストーンプロジェクト	1・2・3・4	1	1	東京都市大学 環境学部 環境経営システム学科 准教授 (平24.4)	5日
								1・2・3・4	1	1		
13	専	准教授	テラザリ ユキコ 寺澤 由紀子 <令和5年4月>		博士 (文学)		Intercultural Understanding(1) Intercultural Understanding(2) English III-A English III-B English Test Preparation Academic Reading Academic Presentation 海外インターンシップ	2前・後	2	1	東京都市大学 共通教育部 外国語共通教育センター 准教授 (平24.4)	5日
								2前・後	2	1		
14	専	准教授	ハカスギ 畑 和樹 <令和5年4月>		Ph.D (英国)		Global Studies(1) Global Studies(2) English II-A English II-B Academic Discussion English Test Preparation for Academic Purposes Academic Research & Writing	2前・後	2	1	東京都市大学 共通教育部 外国語共通教育センター 准教授 (平29.4)	5日
								2前・後	2	1		
15	専	准教授	オカワリ ユキ 小川 祐樹 <令和5年4月>		博士 (工学)		情報学理論 アルゴリズムとデータ構造 データマイニング 自然言語処理 キャップストーンプロジェクト	1前	2	1	立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 講師 (平27.4)	5日
								1後	2	1		
16	専	講師	サトリ ヨシヒロ 佐藤 圭浩 <令和5年4月>		博士 (工学)		コンピュータ基礎演習 機械学習論 画像・音声処理 キャップストーンプロジェクト	1前	2	1	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター 産総研特別研究員 (令4.4)	5日
								2前	2	1		
								3後	2	1	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター 産総研特別研究員 (令4.4)	5日
								4後・前	4	1		